ハロ～、ドーピング！ 主要団体の首脳に直撃!!

kamipro

紙のプロレス

MMA & PRO-WRESTLING M

enterbrain MOOK
2009
133
特別定価 940yen

「フェザー級、俺がやるしかないじゃん」

DREAMの悪夢を振り払う神様、仏様、KID様！ なロングインタビュー

山本"KID"徳郁

総力特集 **魔王とオクタゴン**

ヴァンダレイ・シウバ「秋山は1ラウンドでKOする！」

強くて凄くて、テラおもしろい！ 長島☆自演乙☆雄一郎

ワオ木さんの格闘探検隊！ 青木真也×金原弘光

川尻達也が語るカルバン、奥様、五味隆典!!

伝説の喧嘩師！ 高谷裕之

KIDパパ×谷津嘉章のレスリング上流地帯対談

車内暴行事件の真実!! ザ・グレート・サスケ

菊地成孔「秋山はアメリカなら韓国人になれる」

プロレス映画の最高傑作『レスラー』を見よ！

日本格闘技界の"夢"はこの男が創る！

こまったときの神の子頼み!!

2009 No.133 CONTENTS
kamipro
表紙写真／タイコウクニヨシ

2009年マット界はこの二人に懸かっている!?
特集 神の子と魔王

MMA+α

SATAN

PRO-WRESTLING

Columns

「ハロ～、ジャパン!!」のデイビッド・ガードナーも元気になれる全144ページ!

9年格闘技界

子と魔王

する――!!

3・8『DREAM.7』から
事実上開幕した2009年日本総合格闘技界――。
要注目人物は、なんといっても山本"KID"徳郁だ。
絶好のスタートダッシュを切ったとは言えない
DREAMフェザー級GPを牽引するのは、
KIDしかいないし、KIDにしかできない。
まさに神様、仏様、KID様なのである。
そして裏注目人物は、"魔王"秋山成勲である。
これまで日本マット界にさまざまな災害をもたらした魔王は、
海を渡り、まさかのUFC参戦をはたす。
いったい何を企み、何をもたらそうとしているのか。
2009年の総合格闘技界は、
神の子と魔王が創造する――。

©ユン・ヨギル

2009年格

神の子
が創造す

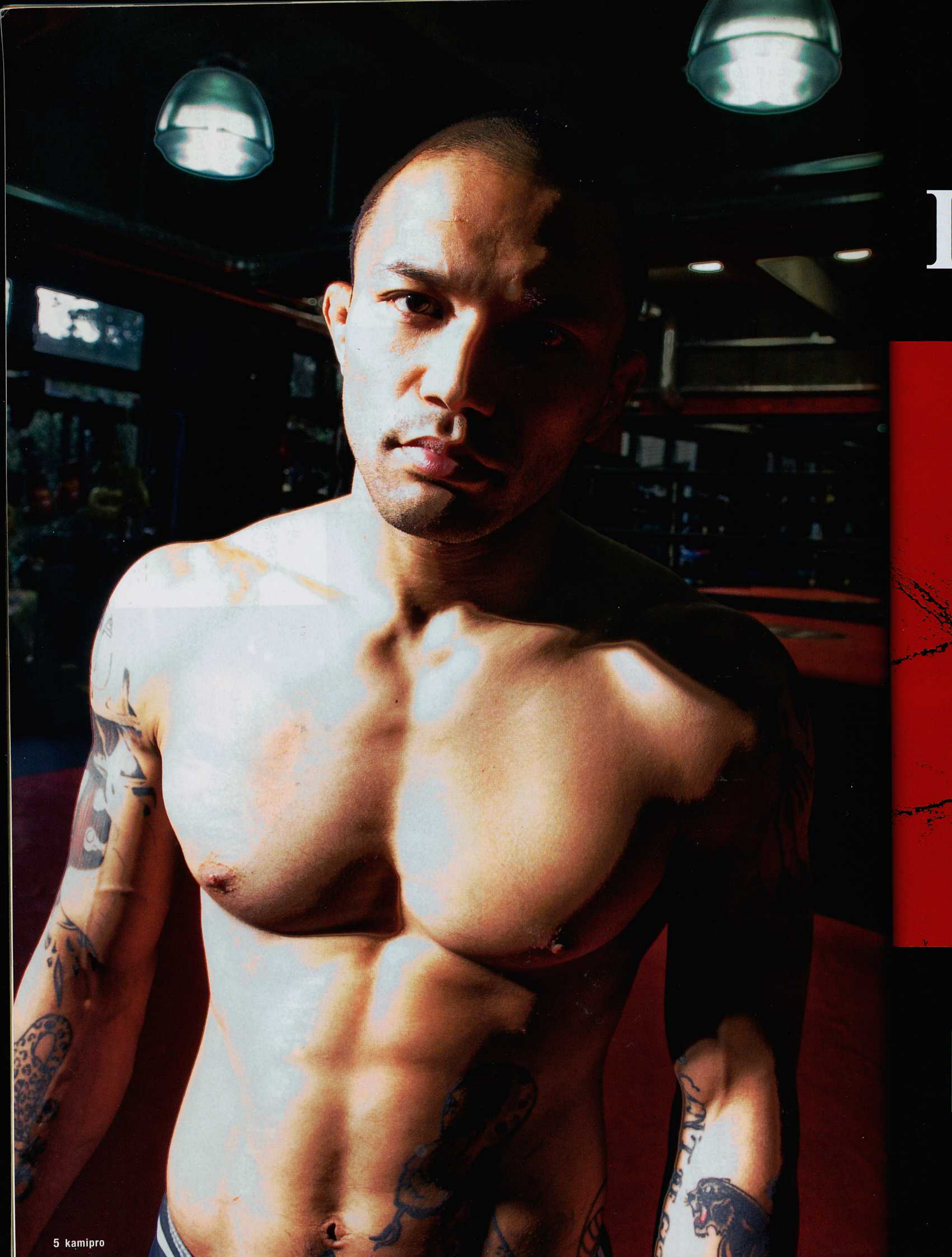
俺がいなかったら DREAMフェザー級 GPはなかったよ

KID

フェザー級GPはこの男なしでは始まらないのか

山本“KID”徳郁

ついに開幕したDREAMフェザー級GP。開幕戦である3.8さいたま大会は非常に期待されていたが、
やはりフェザー級初の大一番とあって、選手にも硬さが見られ、残念ながら爆発とはいかなかった。
やはりフェザー級を燃え上がらせるには、この男の存在が不可欠なのか。いよいよKIDの出番だ!

聞き手／堀江ガンツ　撮影／タイコウクニヨシ　試合写真／乾晋也

——KIDさん、アメリカ取材ではお世話になりました!

KID いや、こちらこそ。

——前号のKID×シウバ対談はファンに非常に評判が良かったんですよ。

KID そうなんだ。俺もシウバのジムに行けてよかったし。オクタゴンで練習できて、気持ちよかった。

——ただ、KIDさんがWECやUFCの会場に現われたことで、もしかしたらこのままアメリカに行ってしまうんじゃないか、と心配もしたんですよ。

KID いや、確かにアメリカで一回くらい試合やりたいな、ぐらいの気持ちはあるけど、UFCの会場に行ったのは、BJペンの試合を観に行きたい、ただそれだけだったんで。それがなんかこう……。

——憶測を呼んで。

KID ヘタな行動できないなって(笑)。

——では、日本マットにとどまったのは、ラスベガスからハワイまでKIDさんを追って飛び回った、谷川さんのストーカーばりの行動力が功を奏したわけじゃない、と(笑)。

KID 谷川さんからは「頑張って一緒に日本の格闘技界を盛り上げよう」って言われたんですけど、俺も日本に愛があるから、盛り上げたいし。それはもう、思ってたことなんで。

——でも、KIDさんがDREAMに出るとしても、フェザー級のトーナメントには出てこないだろうと思ってた人も多いと思うんですよ。ケガもしているし。たとえば、ロード・トゥ・KIDじゃないですけど、とりあえず夏前に復帰戦を行なって、秋頃か大晦日にフェザー級GPの優勝者とやろうとか思わなかったんですか?

KID いや、ホントはそれがやりたい。

も、いい選手いるし、おもしろい試合もあるし。盛り上がってはいると思うけど、ただ一般の人から見ると盛り上がってない

——やっぱりそうなんですか(笑)。

KID うん。1年半もケガして離れて、いきなりトーナメントに入るっていうのはキツいかなとは思うから。リスクはあるけど、勝手にそうなっちゃってたから(笑)。

——「KIDありき」のフェザー級GPという企画が、すでに固まっていた、と。

KID だから、やるしかないじゃんっていう。

——そこは、「俺がいなきゃしょうがないならやる」っていう、責任感というか。

KID そうだね。

——確かにフェザー級GPにKIDさんがいるといないのとでは、まったく意味合いが違いますからね。

KID いなかったら(フェザー級GP自体が)なかったかもね。

——ホントそうでしょうね。GPどころか、DREAMにフェザー級という階級自体が誕生してない可能性は非常に高いですね。

KID うん。だからあとは、これにキッチリ勝って、今度は60キロの階級も作ってもらいたい。

——さらに自分の体重に合う階級を結果を残すことで作り出したい、と。

KID そう。ちゃんとした俺の階級を作ってもらいたいなと思う。やっぱり俺のベストは60キロ。アメリカだったら135ポンドだから。

——向こうのバンタム級ですよね。

KID だって俺、練習終わったら62キロだよ。計量の前に1回メシ抜いて次の日計れば試合できちゃうようなノリだから。今回は63キロだから、また身体をデカくしなくちゃいけないのが面倒くさいっていうか。技術の練習じゃなくて、身体をムダ

トに参加したからには、挑戦を受けるなんて立場じゃないし、みんな一緒だから。

——あくまで一プレイヤーとして、優勝を

リスクはあるけど、やっぱり日本の格闘技界がなくなったら嫌だから

にデカくする練習しなきゃならないのがちょっとなって思いますからね。

——まあ、KIDさんとミカ・ミラーが同じ階級とは思えないですよね(笑)。

KID ホントだよね(笑)。

——ベスト体重ではなく、しかも1年半のブランクがある中で、リスクを背負ってでもGPに出場するというのは、やはり日本格闘技界への危機感があったりするわけですか?

KID そう、やっぱ……なくなっちゃたら嫌だから、それは思ってる。

——DREAMからもしテレビが離れたりしたら、ホントにその可能性すらあるわけですからね。

KID そう。だからなんとか盛り上げないと。ウチのチームで。

——KIDさんが『HERO'S』でチャンピオンになって、PRIDEも全盛期を迎えてた時代とはまったく違うわけですからね。

KID ただ、俺の中では常に格闘技界は盛り上がってると思うけど。やっぱり俺はやってる身だから、いろんな試合を観て

00パーセントまで戻してから、試合に向けた練習だから。ただ、焦っちゃったらまたやっちゃうから、落ち着いてやれること

KID それはちょっと思った。ローとか入れてたけど、パンチが足りなかったから、しょうがないかなって思い直したけど。あと、こう(横を向いたり)へんな格

篤との試合を観ていろいろわかったから。(今成戦の)作戦はもう用意してるんで

も、いい選手いるし、おもしろい試合もあるし。盛り上がってはいると思うけど、ただ一般の人から見ると盛り上がってないのかなって。俺的には常に変わらないし、楽しいけど。

――日本格闘技界は軽量級を中心に充実はしているけど、世間の人にアピールするために自分が必要というか。

KID そう。

――先日のフェザー級GPをご覧になられて、あの大会からそういった危機感とかって感じられました?

KID う〜ん、危機感はそんなでもないけど、いいメンバーだし、おもしろくなるとは思う。俺はもうやってる身だから。あのトーナメントにエントリーしてる一員なんで、ただ早く上がりたいなって。やってるヤツらがうらやましかったし、早く追いつかないといけないと思ったし。

――KIDさんが、ほかの選手たちに「追いつかないと」ですか。

KID うん。テレビとか雑誌ではロード・トゥ・KIDじゃないけど、みんなが俺を目指してるみたいになってるけど、俺はまだ試合にすら出られてないわけだから。俺の中では早くケガを治して、いま闘ってるヤツらに追いついて、また追い越さないといけないなっていうだけ。

――このあいだの試合内容とか観て、KIDさんからすると「まだ俺と闘うなんて顔じゃないよ」という部分はありませんか?

KID あんまりそういうのは気にしない。全然普通にやるだけだし。トーナメントに参加したからには、挑戦を受けるなんて立場じゃないし、みんな一緒だから。

――あくまで一プレイヤーとして、優勝を目指す、と。

KID そう。トーナメントって一日2試合とかやるの?

――次の2回戦は1試合ですけど、そのあと準決勝、決勝は同じ日にやることになりますね。

KID じゃあ、ケガしないようにしないと。無理して、また同じところケガしたら長引くから、そこだけが心配。

――いまはケガの回復具合はどれくらいなんですか?

KID 70パーセントぐらい。去年の7月にケガして「全治8カ月」って言われたんで、3月いっぱいで治るはずなんで、100パーセントまで戻してから、試合に向けた練習だから。ただ、焦っちゃったらまたやっちゃうから、落ち着いてやれることだけやって、試合に向かうつもり。

――では、GP1回戦が終わって、印象に残った試合ってありましたか?

KID ……とくに。

――とくにないですか(笑)。

KID でも、ウチの(山本)篤の試合はいい動きしてたなっていうか。参考にはなった。

――〝足関十段〟今成対策として、山本篤選手の試合が参考になった、と。

KID 足を一回も触らせなかったでしょ? ああすれば思ったとおりになるなって。

――15分間で一度も足関節技にいくシチュエーションすら作らせませんでしたよね。

KID ただ、寝技で上になっても、パンチが出せなかったのが敗因かな。足でこう(ラバーガード)やられて、上半身がぺったりくっついちゃうじゃないですか。ああなると、何もできなくなるし、観てるほうからすれば、足でこうやってるほうが攻撃してるみたいなノリだから。どうなんだろう? 微妙ですね。

――極められなくても、ああいう体勢になると、判定で不利になるんだ、ということがわかったというか。

KID そういう感じだよね。

――試合が終わった直後は「これで負けなの?」って思いました?

KID それはちょっと思った。ローとか入れてたけど、パンチが足りなかったから、しょうがないかなって思い直したけど。あと、こう(横を向いたり)へんな格好するじゃない。それで観客がワーっとなって、ローのダメージも帳消しになっちゃったっていうか。

――イメージとして山本篤選手がスタンドでも攻めあぐねているみたいな(笑)。

KID そう。なんかおもしろいことやって笑ったら有利、みたいな。そういう感じがあるから。どうなんだろう? 俺もなんかおもしろいことやらなきゃいけないのかな(笑)。

――でも「俺の前であんな横向いたら大変だよ」みたいな感じはあります?

KID まあ、べつにやってもいいけど。笑いで負けるのは嫌だなって思うだけ。

――大会のエンディングで2回戦進出決定選手が全員リングに上がったとき、KIDさんだけ上がらなかったのは、今成vs山本篤戦の判定に納得いかなかったのかと思ったんですけど。

KID いや、ウチの篤が負けたのに、俺が「じゃあ、ちょっと行ってくる」って、リングに上がってる場合じゃないから。一緒に控室にいてずっとついてたから。

――チームメイトをケアするほうが大事だ、と。

KID そっちのほうが大事。どうせ俺は2回戦から試合するんだから。あそこに上がらなくたって、俺がやるってわかってるでしょ、みたいな。そんなノリだね。

――なるほど。KID選手から見た今成選手の印象っていかがですか? たぶん今大会で一番期待されているのは、KID vs今成戦だと思うんですけど。

KID まあ、この前の試合を観て、いろ

“KIDの愛弟子”山本篤は、“足関十段”今成に一度も足を触らせず、関節技も極めさせなかったが、得意の打撃で攻めることまではできずに判定負け。しかし、この一戦でKIDは、今成のいろんなことがわかった模様。山本篤の敗戦は、KIDにつなげる“価値ある敗戦”となったのか。

やったけど、向こうのチャンピオンのミゲール・トーレスといい試合してたし。

たいな会場だったしね（笑）。あれ？ ボウリング場に来たのかなって思って一瞬外

っていかなきゃダメですよね。
KID DREAMの63キロって、もともとあったわけじゃなくて、自分たちで作ん

KID そうだよ。勘弁してよ（笑）。
──魔裟斗選手なんかもそうですけど、ジャンルを切り開いて作ってるっていうの

軽量級はね、日本人のレベルが高い アメリカと対抗戦やればいいのに

いろやっつける作戦は立ててるけど、これ言ったらマズいじゃん（笑）。

──作戦をしゃべるわけにはいきませんよね（笑）。

KID でも、いろいろ用意してるんで。

──じゃあ、今成戦をやる意思はあるわけですね。

KID もちろん。トーナメントに出るからには、勝ち上がれば誰とでも当たるし、誰が来てもやっつけなきゃいかないから。まあ（今成は）間近で観れて、ウチの篤がやっていろいろわかったことがあるんで。

──もしKID vs今成戦が実現したら、もちろん打撃vs寝技になると思うんですけど、このあいだの『DREAM・7』の解説で、KIDさんはビビアーノ（・フェルナンデス）や青木選手の試合を観ながら、さかんに「勉強になる」って言ってましたよね。

KID うん、参考になる。やっぱり、あの二人は寝技のトップでしょ。で、寝技って俺の一番の弱点みたいな感じじゃない。

──あ、ご自分で言っちゃいますか（笑）。

KID 言っちゃったけど（笑）。だから勉強になるっていうか。あの二人の寝技は普通のグラップリングじゃなくて、打撃ありのMMAの寝技だから、凄い参考になった。

──あの解説でのコメントを聞いて、「あ、KID選手はいま得意ではない寝技を避けるんじゃなくて、凄く前向きに取り組んでるんだな」って思いましたよ。

KID まあ、そう言ってもけっこう寝技もできるけどね（笑）。

──言うほど苦手じゃないぞ、と（笑）。KIDさんがビビアーノとやったときもそうですし、山本篤選手と今成選手の試合もそうですけど、普通なら極められそうな場面で、KRAZY BEEの選手は一瞬のタイミングでポイント外して脱出しますよね。

KID ギリギリね（笑）。でも守るだけじゃ向こうが有利になっちゃうから、こっちも攻められるようになるのが課題かな。

──もう一人、KIDさんとの対戦が期待されたというか、KIDさん自身が対戦を希望していたチェイス・ビービが……。

KID やられちゃった（笑）。MMA初参戦のヤツにね。

──レスリング出身のジョン・ウォーレンのヒザ蹴りを食らってしまって。あれは番狂わせでしたね。

KID でも、あの相手は強いと思う。ヒザだってたまたまじゃなくて、ちゃんとクリンチっていうか、首相撲でコントロールして入れてたから。やっぱ力が凄いと思うんで。あの中じゃ、ビビアーノとあいつが一番力強いんじゃない。

──チェイス・ビービが1回戦負けしたから言うわけじゃないですけど、正直、この階級では日本とWECはレベル的に変わらないというか、DREAMフェザー級のほうが上じゃないかって思うんですよ。

KID 軽量級はね、やっぱ日本のレベルは高いと思う。前田（吉朗）選手、負けち

『HERO'S』もフェザー級GPも俺が作ったんだから。感謝してもらわないと（笑）

やったけど、向こうのチャンピオンのミゲール・トーレスといい試合してたし。

――このあいだサンディエゴでWECを観たとき、選手のレベルもイベントのクオリティも全然、日本は負けてないじゃないかって思いませんでしたか？

KID そうだね。だから、日本vsアメリカで対抗戦やればいいのにって思う。今回、負けちゃった日本人もいたけど、負けたヤツも強いと思うし。

――アメリカって、いまや格闘技界の頂点ですけど、軽量級はまだまだこれからっていう部分がありますからね。

KID WECも試合のレベルはけっこう高かったけど、認知度はUFCのほうがあるから、盛り上がりが全然違う。

――WECも盛り上がってはいますけど、会場の熱がUFCと比べるとずいぶん落ちますよね。

KID UFCの盛り上がりは異常。ビジョンにチラッとBJとかGSPが映るだけでドーッだから。

――だから、あのムードの中でラスベガスのUFCに山本KIDが上がったら、もの凄く興奮するだろうなとは思いましたよ。

KID 超出たい！　またそういうこと言うと出たくなるからやめて。超出たい！

――すいません（笑）。でも、残念ながらUFCにはKIDさんの階級がないんですよね。だから、最高峰のUFCに上がる山本KIDは観たいけど、あんまりWECの会場では観たいと思わないんですよ。

KID WECはデカいボウリング場みたいな会場だったしね（笑）。あれ？ボウリング場に来たのかなって思って一瞬外に確かめに行くぐらいの。

――そうですよね（笑）。だからWECがまだまだ発展途上なんだから、軽量級だけは名実共に日本のリングが最高峰だって、ならなきゃダメだと思いましたね。

KID そう。だから、ゆくゆくはDREAMも135、145、155でちゃんと括って。バンタム、フェザー、ライトだけで一つの興行にして、それより上と分けたほうがいいと思う。K−1みたいに。やっぱその3階級があればね、おもしろいと思うし。強い日本人も出てくるし。

――そのためには、KIDさんだけじゃなく、軽量級の選手たちが、K−1 MAXに負けないくらいの自分たちの世界を作ってかなきゃダメですよね。

KID DREAMの63キロって、もともとあったわけじゃなくて、自分たちで作んなきゃいけないものだから。たとえば、『HERO'S』ができる前って、MMAの軽量級で大きな舞台ってまだなかったから。K−1 MAXに出た時点で、俺がMMAの軽量級を作らせようと思ったから。

――MMAファイターである自分がK−1 MAXで名を上げることで、自分が上がれるMMAの新しい舞台を作らせよう、と。

KID そしたら、『HERO'S』作ってくれたから。そして今度はDREAMのフェザー級も作ったし、とりあえずここまで計画どおりきてる。そんな俺に感謝しないと（笑）。

――確かにKIDさんなくして、『HERO'S』もDREAMのフェザー級もなかったわけですからね（笑）。

KID だから次はこのフェザー級で勝って、その下の60キロを作りたい。

――ホント、開拓者ですよね。

KID 頑張ってるよ。身を削って（笑）。だって70キロはギャンブルだったから。今回の63キロもギャンブルだし。早く60キロの階級を作らないと、俺の選手生命も短くなっちゃうから。もうちょっと現役長くやりたいからね。そのためには自分の階級でやらないと。

――自分の階級でやるために、上の階級で結果出さなきゃいけないのか、みたいな。

KID そうだよ。勘弁してよ（笑）。

――魔裟斗選手なんかもそうですけど、ジャンルを切り開いて作ってるっていうのが凄いですよね。

KID そうそう。彼がいなかったらMAXは始まってないし、MAXがなかったら俺がK−1のリングに上がることもなかったから、『HERO'S』もDREAMもなかったわけだから。ちょっとほめすぎちゃってるけど（笑）。

――魔裟斗選手がいなければ、MAXが成り立たないからこそ、毎年過酷なトーナメントに出てるわけですからね。それが真のトップというか。

KID うん。だから俺もちょっと頑張って。トーナメントはみんな強い選手だけど、そういう違いを見せようかなって。で、勝ってまた60キロの階級を作ってもらえるよう、お願いしますよ（笑）。

――わかりました。では、日本格闘技界のためにも、DREAMフェザー級GPでの活躍期待してます！

【09年3月10日／都内・KRAZY BEEにて収録】

やまもと・きっど・のりふみ■1977年3月15日、神奈川県出身。01年に修斗でプロデビュー。04年には『K-1 WORLD MAX』に出場しブレイク。同年大晦日には魔裟斗とも対戦した。05年には須藤元気、宇野薫らを破り『HERO'S』ミドル級トーナメントに優勝。DREAMフェザー級GP優勝候補の筆頭だ。163cm、62kg。

ら「この人のポ
ったただけで、凄
けるぜ」って思
負けになってや
で（笑）。初めて

AX

ンバ・
ブラグ

。モンゴルの大地
太ももとか凄い太
ンだったとも聞い
知ってたから。ミ
るってわかってた
どおりのパンチで

©サステイン

1

2001.3.2　プロ修斗
後楽園ホール

○vs塩澤正人

（2R終了 判定3-0）

これはもうガチガチだった（笑）。ガチガチで全然なんもできなかったのが悔しかった。こんときは立ち技もなんもできなくて、ただテイクダウンしかできなくて。もうレスリング魂だけだったから。パンチなんかもブンブン、子どものケンカみたいだったから（笑）。ハートだけで勝ったね。

2

2001.6.10　The CONTENDERS
Zepp Tokyo

○小室宏二

（2R終了 判定40-38）

3

2001.6.10　The CONTENDERS
Zepp Tokyo

○vs若林次郎

（延長R終了 判定2-0）

4

2001.6.10　The CONTENDERS
Zepp Tokyo

×vs バレット・ヨシダ

（1R 0分26秒 TKO）※タオル投入。

『コンテンダーズ』は組み技のルールだから、これもただレスリングやってただけ（笑）。でも一応、準決勝で若林さんから足関取りかけたんですよ。若林さんって足関の人じゃないですか。その人のアンクル取れて「俺、取っちゃってるよ！」って思ったんだけどね、足首が柔らかく、極まらなかった。グニャって曲がってるのに「なんだこれ？」って、俺ならタップしてるよみたいな。
その前の小室選手は道衣着てたんだけど、強かったね。力がハンパなかった。腕パンパンになったもん。で、悪あがきでカニばさみやったら、自分の足がバキバキっていっちゃって、結局決勝は「こりゃダメだ。やめた」って感じ（笑）。
やっぱり俺の専門はMMAだから。ここで無理したら、長期戦線離脱になっちゃうから。あと、相手のバレット（・ヨシダ）は、この頃、俺のルームメイトだったから。どうせ俺やられるし「勝って」みたいなね（笑）。

5

2001.7.6　プロ修斗　後楽園ホール

○ vs亀田雅史

（1R 4分17秒 KO）

この試合は、猫パンチみたいなのが当たった感じですね（笑）。当時はパンチのかたちもあったもんじゃなかったけど、力はあったから。当たれば人は倒れるんだなって。「けっこう俺のパンチって重いんじゃん」って思って、ちょっと自信になった。

6

2001.9.2　プロ修斗　後楽園ホール

○vs門脇英基

（1R 4分2秒 TKO）

門脇選手は当時から上のほうだったんだけど、パウンドで勝ったんだよ。やっぱグラウンドで相手にくっつかないで、身体起こしてパウンド打つのが一番自分の得意なポジションだなって、この試合で自分のかたちを見つけたね。

7

2001.9.2　Shogun　ハワイ

ーvsジョシュ・トムソン

（2R 2分0秒 無効試合）

このときは38度ちょい熱があったんだよ。飛行機の中で風邪ひいちゃって。試合中もふらふらで、そこでローブローをボーン食らったから、もうダブルパンチで「動けない」みたいな。でも、これは俺が悪かった。ローブロー食らっても、ちょっと休めばやれたと思うけど、もう体調悪すぎて試合再開できなかった。体調万全にできなかった俺のミステイクだね。このあと、これから海外に試合で行くときは、飛行機の中でマスクしようって思いました。相手のトムソンはいまストライクフォースのチャンピオンだけど、でも体調万全だったら、絶対に俺勝てたと思う。いま向こうは身体が鬼デカくなってて、とても同じ階級だったとは思えないけどね（笑）。

8

2002.5.5　プロ修斗　後楽園ホール

×vsステファン・パーリング

（1R 0分30秒 TKO）

これは額をカットしてストップされちゃったんだけど、自分では血が出てるって気づかなかった。タックルでボーン倒して、「よっしゃ、これでパウンド落として即行KOだ！」って思ったんだけど、血が噴き出してて。あそこで、あと30秒でもあったら倒せたのに、止められちゃったから「待ってくれよ！」って感じで、悔しかったね。「なんで止めるんだ！」とも思ったけど、あとで骨が見えてるってわかって「これは止められてもしょうがないな」って（笑）。

©サステイン

9

2002.9.16　プロ修斗　後楽園ホール

○vs勝田哲夫

（1R 2分45秒 TKO）

勝田戦は試合前から俺、相当怒ってた。なんか向こうが「僕が総合のレスリングを教えてあげますよ」とか言ってたんで、記者会見場では平然としてたけど、心の中ではカチーンきてましたね。「こっちは5歳からレスリングやってんだぞ！」「俺の人生レスリングだったんだぞ！」って思って、それでバチバチにやって。総合のパウンド教えてあげちゃいました（笑）。

10

2003.5.9　SuperBrawl 29
ハワイ　ブライスデルアリーナ

○vsジェフ・カラン

（3R終了 判定 3-0）

これは１ラウンドでポッキリ肋骨が折れて、もうそこからは息するのも大変だった。でも、それでも3ラウンド闘えたから、自信になったし、いい経験になった。パンチもワンツーまではいけるんだけど、そのあと追い込めない。それでもあきらめなかった。前回のハワイではローブローであきらめたけど（笑）。やっぱ俺は風邪が一番の天敵だね。

11

2003.9.5　プロ修斗
後楽園ホール

○vs ケイレブ・ミッチェル

（1R 0分40秒 TKO）

この試合はあんま覚えてないね。パンチ一発で終わっちゃった。

©サステイン

リングから修斗で総合デビュー。その後、あえて立ち技限定のK-1 MAXに乗んでブレイク。それをきっかけに『HERO'S』という地上波テレビ放送のある級の総合リングという、自らの舞台を確立するなど、常に自分の道を切り開きたKID。そんなKIDのプロでの全試合をKID本人に振り返ってもらった。

／堀江ガンツ　撮影／乾晋也

徳郁 全成績

13
2004.4.7 K-1 WORLD MAX
代々木第一体育館

○vs トニー・バレント
(1R 0分58秒 チョーク)

これはもうべつに、相手はアメリカのキックボクシングのチャンピオンとかだから、MMAで勝ってもあたりまえ。タックルで倒せばいいって感じで、そのとおりにやっただけですね。

14
2004.7.7 K-1 WORLD MAX
代々木第一体育館

○vs安廣一哉
(2R 2分40秒 腕ひしぎ十字固め)

この試合は「ミックスルール」とかいう、意味わかんないルールで。グラウンドではロープエスケープがありで。それで立ちで俺が追い込まれても、ロープエスケープなんてないからね(笑)。どんなルールだよって感じだったけどね。まあ、カウンターもらって顔腫れましたけど、とりあえずやりました。

12
2004.2.24 K-1 WORLD MAX 代々木第二体育館

○vs村浜武洋
(2R 2分38秒 KO)

初めてのMAXは、相手が優勝候補って言われてたから、やる前から「この人のポジションもらっちゃおう」って思ってた。だから、出れるって決まっただけで、凄い嬉しかったね。向こうは凄い実績あるけど、向かい合ったら「いけるぜ」って思ったし、「負けそうになったら、タックルで倒してパウンドで反則負けになってやれ」ぐらいに思ってたから(笑)。もうバダ・ハリのノリだったんで(笑)。初めてのK-1だけど、全然気後れしなかったね。

15
2004.10.13 K-1 WORLD MAX
代々木第一体育館

○vsジャダンバ・ナラントンガラグ
(1R 1分55秒 KO)

ナラントンガラグはデカかったね。モンゴルの大地を感じた(笑)。タックルいっても太ももとか凄い太かった。なんか柔道のチャンピオンだったとも聞いたし。でも、向こうの打撃の癖を知ってたから。ミドルのあと顔面ががら空きになるってわかってたから、ミドルがきたとき、狙いどおりのパンチでKOだったね。

16
2004.12.31 Dynamite!! 大阪ドーム

×vs魔裟斗
(3R終了 判定 3-0)

強かったね。せっかく最初にダウン奪ったんだけど、MMAのクセで倒れたところ、もう一発いっちゃいそうになっちゃった。もう1ラウンドやりたかったね。まあ、結果的に負けたけど、やってよかったと思う。俺がここまでいったから、『HERO'S』っていうMMAのイベントが始まったし。もうミックスルールやらなくてよくなったから(笑)。

KID本人が語る“神の子”の軌跡
山本“KID”徳

18
2005.7.6 HERO'S 代々木第一体育館
○vsイアン・シャファー
(3R 1分23秒 TKO)

イアン・シャファーはパンチが速かった。魔裟斗選手ともK-1ではほとんど引き分けみたいな試合だったし。それでも作戦がバッチリハマって勝てたね。シャファーはこっちがフック打つと、ガードしながら頭が下がるんですよ。だからフック打つふりして、アッパーにいったら、顔にゴーンって入って、目飛んでたから、よっしゃーって感じだったね。試合は押されてたけど、落ち着いてたのがよかったと思います。

17
2005.5.4 K-1 WORLD MAX 有明コロシアム
×vsマイク・ザンビディス
(3R 0分39秒 KO)

この前の魔裟斗戦でパンチ振り回しすぎて、肩壊してたんだよ。それで練習ができなかったから、自分の動きができなくて悔しかった。ちゃんと自分の腕が動くときに、もう一回トライしたいね。

20
2005.9.7 HERO'S 有明コロシアム
○vs宇野薫
(2R 4分4秒 TKO)

宇野さんにはカットでレフェリーストップ勝ちだったけど、あのパンチはちょっと上にずれたからカットになったけど、アゴに当たってたらノックアウトだったから。どっちにしろ俺の勝ちだね。宇野さんはテイクダウンがもっと凄いかと思ったけど、そんなたいしたことなかったから打撃で勝てたね。

19
2005.9.7 HERO'S 有明コロシアム
○vsホイラー・グレイシー
(2R 0分38秒 KO)

ホイラー戦は寝技にいかないようにして、パンチで倒す作戦だった。向こうはけっこうデカくて、前蹴りバンバン打ってきたんだけど、俺は打たれながらタイミング計ってたから、何発目かにフック合わせて、KOできた。あっちは俺がちっちゃいから、パンチ届かないと思ったんだろうけど、俺は背低くて足短いけど手だけは長いから。みんな届かないと思ってるところにパンチ入れられるから、倒れちゃうんだよね。グレイシーとは総合やってるからには一回はやってみたかったから、やれてよかったね。

山本"KID"徳郁全成績

21
2005.12.31 Dynamite!!
大阪ドーム
○vs須藤元気
(1R 4分39秒 KO)

この試合は全然余裕っていうか、倒し方はわかってたから。みんな向かっていくから寝技とかに引き込まれて負けてたわけじゃない。だから自分からいかなきゃいいだけだから。ジリジリ圧力だけかけて、相手が嫌になって向かってきたら、こっちは「いらっしゃい」でパンチ入れてKO。やっぱり70キロ契約だから、俺が打ち合うことは悔しいけど無理。だから、相手が隙を見せたところで一発で決める。俺の70キロでの試合はみんなそう。でも、試合内容以上にこの日は凄く盛り上がってよかったね。

22
2006.5.3　HERO'S　代々木第一体育館

◯vs宮田和幸
（1R 0分4秒 KO）

このときは「負けるかもしんない」ってじつは思ってた。倒されてガッチリ組まれて、判定で負けるんじゃないかって。で、考えたんだよ。相手の目の前にいたら、組みつかれて倒されるから、目の前にいなきゃいいじゃんって。上にいっちゃおうって。それで思いついたのが跳びヒザだったね。

23
2006.12.31　Dynamite!!
京セラドーム大阪

◯vsイストパン・マヨロシュ
（1R 3分46秒 KO）

これはグレコの金メダリスト（アテネ五輪）だったけど、総合初めてでいきなりだから、かわいそうだった。でも、ボクシングかじってるって聞いてたんで、パンチは重かったね。身体能力高くて、チェイス・ビービ倒したヤツ（ジョン・ウォーレン）みたいだけど、ビービとは逆に俺はヒザ蹴りで勝っちゃったね。

24
2007.9.17　HERO'S
横浜アリーナ

◯vsビビアーノ・フェルナンデス
（3R終了 判定 3-0）

この試合前にビビアーノがユライヤ（・フェイバー）とやった試合を観てたんだ。その試合はヒジでやられちゃってたけど、けっこう押してたから、強いなって思ってた。それで俺らのルールはヒジないから、倒すの大変だなって。ビビアーノの力の強さはハンパなかった。それをなんとかしのいで勝ててよかったよ。

25
2007.12.31　Dynamite!!
京セラドーム大阪

◯vsハニ・ヤヒーラ
（2R 3分11秒 KO）

ヤヒーラも倒されたらヤバいなって思ってたから、立ちで倒そうって。それでパンチ入れて倒せたんで、良かったなって。やっぱり俺の不得意なのが柔術系だから、ビビアーノとかヤヒーラとやったらいい経験になるし。柔術系でトップの二人とやって勝てたら、もう柔術のヤツとやっても大丈夫だなって思ってたんで。この経験があるから、DREAMのフェザー級GPでも寝技強いヤツとやっても自信もってやれるし。やってよかったね。

あの「五味発言」の真相とは？！

ミスター“勇気のチカラ”

川尻達也

DREAMもう一つの大黒柱である川尻達也が、“一歩踏みだす勇気”で婚約を発表！ おおいにテレるクラッシャーにその喜びを直撃だ！ そして今年はライト級王座に照準を絞るという川尻が、突如として五味隆典の名前を口にした理由とは？ とにもかくにも09年もこの男の動向から目を離せない！

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫

川尻　（いきなり）イヤですよ。
――は？　なんですか、いきなり（笑）。

川尻　まぁ、彼女もだいぶ待たせてたんで。
――「いつ結婚すんのよ？」みたいな？
川尻　そんな感じですね。試合よりだい

たかったんですよ。あんまり「おめでとう！」とか言われると照れちゃうというか、苦手なんで。

真也と一緒のテーブルで。
川尻　ぜぇぇぇえったいに呼ばないですよ！　ぶち壊しにされる！

川尻　（いきなり）イヤですよ。

——は？　なんですか、いきなり（笑）。

川尻　どうせ『kami-pro』のことだから、遊べるネタが一つ増えたくらいに思ってるんでしょ？

——だからなんなんですか！　……あ、もしかして結婚ネタのことを言ってます？　おめでとうございます！（笑）。

川尻　だって（結婚は）試合と関係ないじゃないですか！

——オオアリですよ！

川尻　なんで⁉

——え〜っと、詳しく説明すると原稿用紙が何枚あっても足りないので強引に先に進みますが、煽りVで婚約のことが流れるのは聞いてたんですよね？

川尻　……はい、聞いてました。全員に報告するのも大変なんで、いい機会かなって。

——ちなみにいつ頃からお付き合いされてたんですか？

川尻　5年弱ぐらいです。

——それは長いですね〜。　じゃあ苦労をともにしてきた、と。

川尻　そうですね、ボクが修斗でチャンピオンになる前からなんで。

——ほ〜、お名前は？

川尻　匿名希望ということで。

——何をされてる方ですか？

川尻　普通の会社員です。

——また、なぜこのタイミングで？

川尻　大晦日にいい勝ち方できたんで、もうそろそろ男として一歩前に出ないといけないかなって（なぜか笑いながら）。

——え、何がおかしいんですか？

川尻　"勇気のチカラ"で一歩踏み出さないと！（笑いをごまかすように）。

——あのサブタイトルは二人のために！　ニクいですねぇ（笑）。

川尻　まぁ、彼女もだいぶ待たせてたんで。

——「いつ結婚すんのよ？」みたいな？

川尻　そんな感じですね。試合よりだいぶプレッシャーをかけられました（笑）。

——お相手の方は格闘技に理解があるんですか？

川尻　そうですね。というか、格闘技自体には興味はなくて、ボクの試合ぐらいしか観ないですけど理解はしてくれてますね。いつも心配かけてますけど、仕事っていうことを理解してもらって……っていうか、試合のことは聞かないんですか⁉

——いやいや、この話が試合につながるんですよ。

川尻　（怪訝そうな表情で）マジッすか？　でも、婚約のことはあのVでサラッと流したかったんですよ。あんまり「おめでとう！」とか言われると照れちゃうというか、苦手なんで。

Tatsuya Kawajiri

かつて川尻と五味の一戦は『PRIDE 武士道 -其の九-』（2005年9月25日）で行なわれたライト級GP1回戦で実現。新旧修斗世界王者対決として互いに意識し合う両者は、戦前から舌戦を展開した。試合は真っ向勝負の打ち合いの末、最後は五味がチョークスリーパーで勝利。この一戦はその年のベストバウトとまで言われるほどの名勝負となった。五味に火をつけるのは川尻しかいない!?

——反響はどうですか？「教えてくれないなんて水くさいじゃないか」とか言われませんでした？

川尻　いや、身内にはだいたい言ってたんで。

——あれ、"深夜の視聴率王"こと青木真也はまだ紹介されてないってブーブー言ってましたよ。

川尻　（キレ気味に）なんで青木くんに紹介しなきゃいけないんですか⁉　一番紹介したくないですよ。どんな目で見られるか、何言われるかわかんないし！　あの男の性格はわかるでしょ？

——ダハハハ！　そりゃそうだ（笑）。ちなみに主導権はどちらに？

川尻　へ、主導権？

——だから家庭内の主導権ですよ。

川尻　いやー、まだ一緒に住んでないんでわかんないですね。

——あ、そうなんですか。一緒に住み始めて、嫌な部分とか出てくるって言いますよね。

川尻　そうですよ、だからこれから大変ですよ。あとは「結婚して弱くなった」って言われないように気をつけます。

——で、どこが好きなんですか？

川尻　なんスか、それ（笑）。まぁ、よくわかんないですよ。ていうか、相手は一般人なんでホント勘弁してください！

——でも結婚式が楽しみじゃないですか？　佐藤大輔に煽りVを作ってもらったり。

川尻　いやいやいや、まだ何も決まってないんで。普通に地味にやりますよ。

——ボクたちも呼んでくださいよ。青木真也と一緒のテーブルで。

川尻　ぜぇぇぇぇったいに呼ばないですよ！　ぶち壊しにされる！

——冷たいなあ（笑）。

川尻　そんなことより試合のことを聞いてください。

——しかし、昨日は婚約にふさわしい快勝でしたね。もしあれで負けてたら……。

川尻　もう笑いものじゃないですか？

——「ハロ〜、ジャパン！」並みの（笑）。

川尻　そのくらいのやっちまった感がありますねぇ。

——煽りVでは闘いたい選手の名前としてJZカルバンを挙げてましたね。本当は今回の『DREAM・7』でやるんじゃないかっていう話もチラホラ流れてましたけど。

川尻　そうですね。でも、やっぱり大晦日のK−1ルールの2ヵ月後にカルバンとやるっていうのは個人的にキツいですし、しっかりした状態でやりたいなって。まだ身体がK−1仕様から戻ってないんで、ちゃんと作り直してからですね。たぶんカルバンとなら響き合う試合ができると思います。

——そのあとにはチャンピオンのヨアキム・ハンセンと。

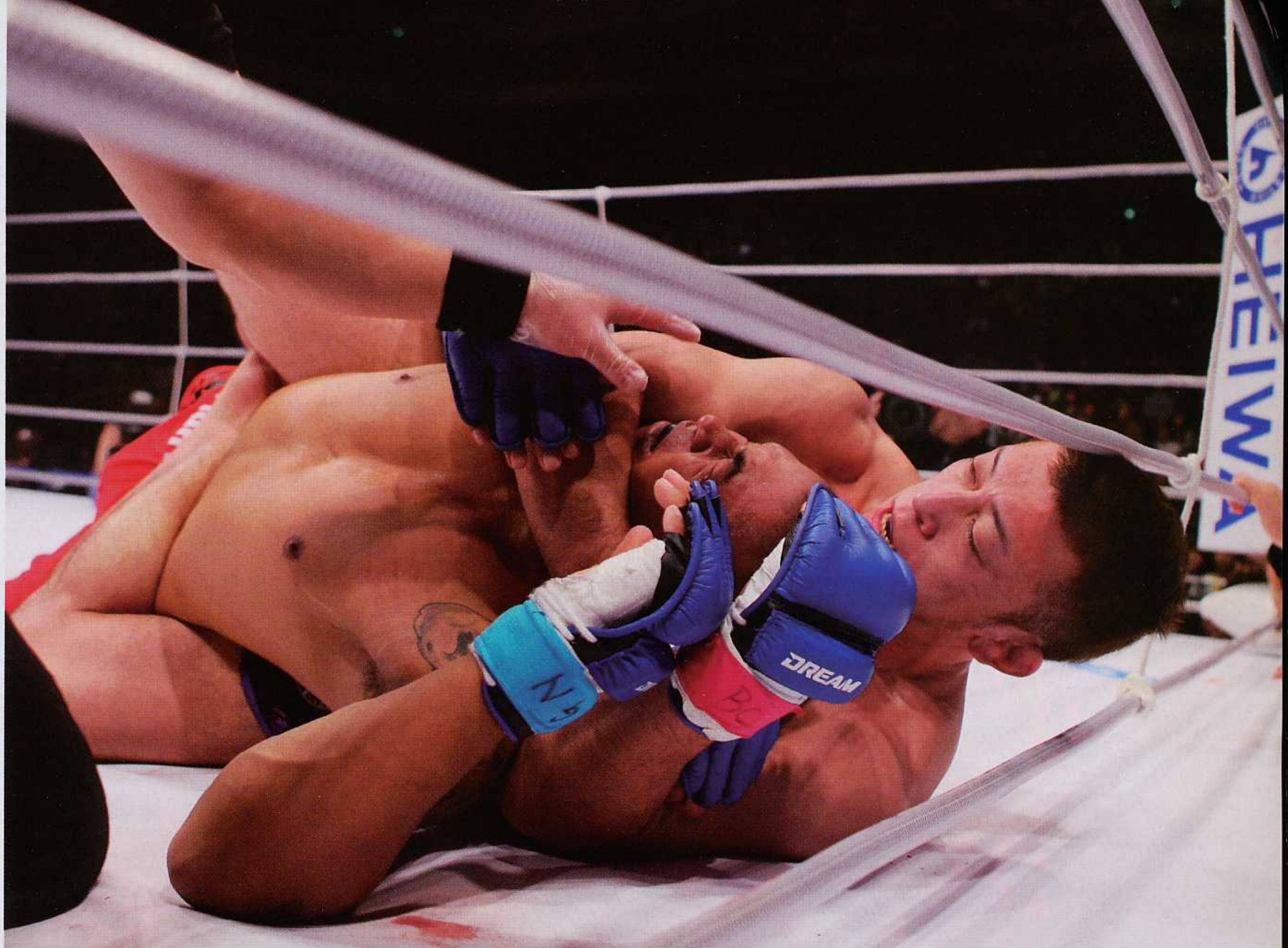
川尻　そうですね。それしかないでしょうね。

——それに加えて結婚じゃ大変ですよね。

川尻　また結婚の話ですか？　やっと格闘技の話になったと思ったのに（ブツブツ）。まあ、いろいろ大変ですけど、だからこそやりがいがあるし。

——凄い3連戦ですよ、カルバン、ハンセン、結婚と。

川尻　いや、もうやるしかないですよ！　前に進むしかないですからね。勝ち取ら

思いは心に秘めたままにしないで さらけ出して周りを巻き込みたいです

[09.3.8 DREAM.7]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
○川尻達也vsロス・エパネス×
（1R 4分3秒 チョークスリーパー）

川尻の09年初戦の相手は、BJペンからの刺客エパネス。最終的に契約体重を1.5kgオーバーとなったエパネスに対して、川尻は危なげなくスリーパーで貫禄の一本勝ち。そして試合後には観衆の前で、5月開催の『DREAM.9』でJZカルバンとのライト級タイトルマッチ次期挑戦者決定戦をアピール！

suyawajiri

ないと、幸せも何もかも。

――あと煽りVで気になったのが、五味（隆典）さんの名前も出てきたことなんですけど。

川尻 はい。あの発言は同じ時代に生まれて、同じ舞台で闘ってきた戦友に対するボクなりのエールっていうか。

――やっぱり最近の五味さんには歯がゆい部分があるんですか？

川尻 そうですね、五味くんはそんなもんじゃないだろって気持ちはありますね。ボクが言える立場じゃないですけど、ファンのみんなも観ていて歯がゆさがあるんじゃないですかね。

――「俺が相手だったら五味隆典も燃えるんじゃないか」と？

川尻 ボクとの試合のときが一番強い五味隆典だったっていうのはありますね。ボクとだったら響き合うと思いません？

――凄く思います！

川尻 ただ、五味くんは『戦極』だし、いまの状況じゃ無理ですけど、お互いが格闘技を盛り上げていけば、自然ともう一回対峙することはあるんじゃないですかね。煽りVは単純にボクからのエールです。ボクもまだまだDREAMを盛り上げないといけないですから。

――昨日は残念ながら盛り上がりに欠けちゃいましたよね。

川尻 そうですね。ガッといくところがなくて淡々としてたっていうか。

――フェザー級に関しては新しい選手が多かったっていうのもあるかもしれませんね。そういう意味では、いままでDREAMを引っぱってきた川尻さんが盛り上げないとっていう意識はありますか？

川尻 それはもちろんありますし、フェザー級の勝ち残った選手もこれで終わるつもりないでしょうし。ボクも去年のライト級の1回戦は、だいぶやっちまったんで。

――気持ちはわからないでもない、と。

川尻 はい。でも、そこからは「俺が盛り上げないと」っていう気持ちは強かったです。「次こそは」って気持ちがないと絶対ダメですよね。

――主催者側も今回のフェザー級1回戦について苦言みたいなことを言ってましたけど、川尻さんはどう思います？

川尻 みんな必死だと思いますよ、ここで変われるか変われないかは選手の気持ち次第ですよね。このリングで闘い続けたいと思うなら試合するだけじゃダメで、どれだけファンのみんなに熱を持ってもらえるかっていうのも重要だと思いますし。

――思っててもなかなか成し遂げるのは難しいですよね。

川尻 できなくても、やるしかないですよ、このリングで闘いたいなら！　それがプロだと思うので。

――川尻さんの中でそういう意識になったきっかけはありました？

川尻 エディ（・アルバレス）に負けたあとですね。『DREAM・1』、『3』、『5』って出場して、どんどん試合内容や大会自体がよくなっていきましたけど、視聴率ってそこまで変わらなかったじゃないですか？　やっぱりいい試合するだけじゃダメなんだな、もっと世間を巻き込めるような選手にならないとダメだなって思いましたね。

――それが『Dynamite!!』でK―1ルールに挑戦することだったりするわけですね。

川尻 それもそうだし、クラッシャープロジェクト（一般への総合格闘技の認知・イメージ向上を目的とした川尻のプロジェクト）とかもそうだし。

川尻 そうですね、ビックリですよ！　そんなつもりじゃないのに。本当にサラっと

川尻 なんで呼ぶんだよ！（笑）。

青木 （無視して）ボク、チ●コ出す係で！

川尻 いや、いい！

川尻 なんか結婚の話ばっかりだったなぁ、もっと格闘技の話しなくて大丈夫なんですか？

さらけ出して周りを巻き込みたいです

TatsuyaKa

メージ向上を目的とした川尻のプロジェクト）とかもそうだし。

――そういう意識を選手が持つのは日本独特なものって気もしますね。

川尻 そうですね。アメリカにはUFCのために頑張るとかいう選手はあまりいなそうですよね。なんでボクがPRIDEに上がったかっていうと、もちろん強い選手がいたっていうのもあるし、その舞台自体が魅力的だったからなんですよ。ほかにも『HERO'S』やUFCもありましたけど、やっぱりPRIDEが前から凄く好きだったから。「これからDREAMもそういうリングにしないと」って思いますね。ボクらが桜庭（和志）選手に憧れたように、いま観てるコがボクや青木くんとか石田くんに憧れてDREAMに上がりたいっていうような、魅力のあるリングにしないと……やっとマジメなインタビューになった（笑）。

――最初からマジメですよ！ で、盛り上げるという意味では、川尻さんは自分の人生もさらけ出していかなきゃいけないみたいな気持ちってあります？

川尻 自分の人生？

――たとえば去年、宇野（薫）さんに食ってかかったみたいに、自分の思いを剥き出しにして、どんどんアピールしたり。

川尻 そうですね、思いは心に秘めててもしょうがないんで、どんどん出していこうかな、と。今回の煽りVでもそうですし、どんどん言って周りを巻き込んでいきたいですね。

――あ～～～、結婚とか。

川尻 いや、それはホントもういいんじゃないですか（笑）。

――でも、さっきも婚約についてマスコミに囲まれてましたね。

川尻 そうですね、ビックリですよ！ そんなつもりじゃないのに。本当にサラっと流してくれって感じだったんですよ、ボクはただの格闘技好きな一般人なんで（笑）。

――『戦極』の光岡（映二）さんなんかは、結婚をけっこうアングルにしてるじゃないですか。「まだ結婚してません。したいと思ってるんですけど」みたいな。

川尻 ハハハハハ！ あれは……どうなんですかね。でも、逆に気になりますよね、「そのあとどうなったんだろう？」みたいに物語ができてるから。

――川尻さんもやったほうがいいんじゃないですか？ 「婚姻届を出してきました」とか、お客さんに毎回報告していくっていう。

川尻 いやいやいや、ボクはもういいです、ほっといてください！

――冷たいですねぇ。（通りかかった青木に）あ、ワオ木さん、川尻さんは結婚式に呼んでくれないそうですよ。

青木 えぇ――――っ!? ウッソ!!

川尻 なんで呼ぶんだよ！（笑）。

青木 （無視して）ボク、チ●コ出す係で！

川尻 いや、いい！

――やっぱり危険ですね（笑）。

川尻 最低ですね。

青木 俺、全裸ブリッジだって喜んでしますよ！

川尻 （無視して）なんの話でしたっけ？

――自分をさらけ出すという話ですね。ある意味、全裸になる覚悟があるかどうか、と（笑）。

川尻 そうですね、自分の思いはさらけ出そうかなって思います。私生活はさらけ出さないですけど。ボク、目立つの好きじゃないんですよ（ボソっと）。

――何を言いますか（笑）。

川尻 リングの上で目立つのは好きなんですけど、普段は人と話すのも苦手なんで。人見知りだし、対人恐怖症なんで。

――今日はいつもの川尻さんと違いますね、警戒してるというか。

川尻 かなり警戒してますね。できれば今回『kamipro』のインタビューだけは怖いから受けたくなかったんです。

――ちょっと次号で奥さんとの対談をやりたいんですけど。

川尻 なんでですか！ それ長南（亮）さんでいいじゃないですか（笑）。

――やりましょうよ！

川尻 いいですって！

――残念だなあ。では、とりとめのない話でしたけど、このへんで。

川尻 なんか結婚の話ばっかりだったなぁ、もっと格闘技の話しなくて大丈夫なんですか？

――充分したじゃないですか？

川尻 ちょっとフリで格闘技の話をしただけで、みんな結婚につなげてたじゃないですか！

――じゃあ載せないかもしれないですけど、一応今回相手だった……。

川尻 載せないんならいいじゃないですか（笑）。

――そうそう、対戦相手が体重オーバーでしたね。

川尻 ホント、落としてこいよって感じですよね。

――ダハハハ！

川尻 最初の軽量なんか3・7キロオーバーですよ？ こいつ落とす気ないな、ナメてんなって思って。

――急なオファーだったからとか言い訳してましたね。

川尻 関係ないじゃないですか、落ちないなら受けなきゃいいだけの話で。受けたってことは落とせるってことなんだから。結局、ボクが損してるだけじゃないですか。だから向こうの罰金、ボクにほしいですよ、ホント（笑）。

――そうですよね、ご祝儀ってことで。

川尻 そうですね。これから大変になるんで……結局そこですか！（笑）。

――青木さんも「負けられない。オレも結婚する！」って言ってましたよ。

川尻 しないでしょ、あの人。だってチ●コ出してるんですよ？ チ●コ出してる人、結婚できないでしょ（笑）。

――ダハハハ！ 人生の伴侶も得た川尻さんの今後の活躍を期待してます！

【09年3月9日／都内・某ホテルにて収録】

かわじり・たつや■1978年5月8日、茨城県出身。04年修斗ウェルター級王座に君臨。05年からはPRIDEで活躍。08年のDREAMライト級GPでは準決勝でエディ・アルバレスと格闘技史上に残る壮絶な殴り合いを展開。同年の『Dynamite!!』では、初のK-1ルールで武田幸三から見事KO勝利を収めた。171㎝、69.9kg。

青木　ハロ～、カミプロ!!
――お疲れさまです（笑）。まずはＭＭＡ
史上に残る珍体験のご感想からうかがい

でなんとか勝ちましたけど……。
青木　ボクには二つの見方がありますけ
どね。練習仲間というか、選手・青木真也

開練習ですもんね。あれ、確実に女性ファ
ンを減らしてますよ！
青木　なんで!?　自演乙人気に便乗した

序盤、青木がスタン
イクダウンとポジシ
躍を評価したのかマ

ウェルター級ＧＰは
マッハさんとやりたい!!

ハロ～、バカ!!

深夜の視聴率王
青木真也

いつ何時、バカきわまりない我らがワオ木さんに、今月も聞きたいことが山ほどある!!
ガードナーさん、フェザー級GP、マイケル・ジャクソン先輩、そしてウェルター級GP!　ハロ～、ジャパンなインタビューでござる。

聞き手　ジャン斉藤　撮影　菊池茂雄　試合写真　乾晋也

ボクのオリジナリティを求めたらチン○ンを出しちゃうしかないじゃん！

青木　ハロ〜、カミプロ!!

——お疲れさまです（笑）。まずはMMA史上に残る珍体験のご感想からうかがいましょう。

青木　さっそくガードナーさんのこと？　「はあ？　コイツ何をやってるんだ⁉」と思いましたね。

——ダハハハハ！　あそこで冷静に極めにいく青木さんも凄かったです。

青木　チョークを取りにいったら簡単に取れちゃったんでビックリしましたよ！　それまでガードナーさんは「ハロ〜、オレは一本取られなかったらいいんで〜す！　ハロ〜！」という感じで、ずっと〝ハロ〜ガード〟してたけど。

——一本取らせなきゃいいディフェンス、それが〝ハロ〜ガード〟（笑）。

青木　「こいつ、取らせねえ気だな。いいよ、15分間こってりやってやる！」と思ってましたから。その刹那の「ハロ〜、ジャパン!!」だったんです。

——貴重な証言、ありがとうございました（笑）。しかし、昨日はいろいろ大変な大会になっちゃいましたね。

青木　うん。嫌な予感がしていたから、大会前日の会見で言わせていただいたんですよ。「フェザー級にDREAMは任せられない!!」って。

——そういう危機感はあったんですか？

青木　ありましたよ！　「ちょっと危ないんじゃないか……」って。それはフェザー級GPの選手のコメントからも感じたし。

——盟友の今成さんもスプリットの判定でなんとか勝ちましたけど……。

青木　ボクには二つの見方がありますけどね。練習仲間というか、選手・青木真也としてはホントによかったなっていう気持ちです。とにかく勝ったことに対して、凄くよかったなあ、と。でも、DREAMの青木真也としてはいかがなものか？　と思いますよ。あれはメインイベントの内容じゃない。仲間としてはあの勝利を拾ったことが凄く嬉しいんですけどねぇ。

Shinya Aoki

この意味のなさ、やっぱりワオ木さんのほうが悪い気がする。マスコミの皆さん、『kamipro』もあなた方を支持します。なので、マジメな練習であっても取り上げてください。それにしてもイマナーはシュールすぎて目が離せない。

——正直、フェザー級はそういう試合が多かったですよね。

青木　なんか事前の盛り上がりもイマイチだったじゃないですか。

——そういえば、大会前で一番話題になったのは、青木さんと今成さんのコスプレ公開練習ですもんね。あれ、確実に女性ファンを減らしてますよ！

青木　なんで⁉　自演乙人気に便乗しただけなのに！

——自演乙のコメントまで用意して。「コスプレ7級」ってバッサリ斬られてましたけど。

青木　やっぱりマジメに公開練習をやっても、マスコミは取り上げてくれないですから。

——そのかいあって、あらゆる媒体で写真つきで報じられてましたね。怖いモノ見たさもあったというか（笑）。

青木　でも、一部のマスコミから「ああいうのをやっちゃダメだ」「意味がない!!」とか文句を言われてるらしくて。

——ワハハハハハ！　ホントですか？（笑）。

青木　笑いごとじゃないですよ！

——いやいや、だって、マスコミに取り上げられるためにバカやったわけでしょ？　それなのにそのマスコミに批判されるなんて、こんなにおもしろいことはない（笑）。

青木　ちょっとおかしいですよ。あの練習に意味がない？　あるわけないよ、そんなの!!

——ククク。

青木　「マジメにやっても取り上げてくれないじゃん！」って。そう思いませんか？　ねえ⁉（怒）。

05年8月20日、修斗のリングで実現していたマッハ戦。序盤、青木がスタンドのスピニングチョークであわやの場面を作り出し、テイクダウンとポジショニングで試合をリードしたが、ジャッジはダメージの差を評価したのかマッハを支持。再戦が実現すれば、完全決着が求められる。

——ボ、ボクに怒られても。そのマスコミの批判がどんな内容かはわからないですけど、要はあれってプロモーションじゃないですか？

青木　ですね。

——マスコミがプロモーションそのものを否定するのはいかがなものかなと思うし、その手段や方法を論じることはあって然るべきですけど、結局会見なんかは、『東スポ』なんかがどう扱うかが成功基準だったりするじゃないですか。

青木　まあ、取り上げてもらえるかどうかの結果がすべてですよね。

——だから、プロモーションのために、どこの団体や選手も一風変わったことをやってアピールするわけですね。

青木　そうなんですよ。そこはボクも毎回、悩むんですよねぇ。

——そういえば、青木さんはいつもへんな会見をやってますよね。座禅特訓とかムエタイ特訓とかキックボクサー特訓とか。

青木　キックボクサー特訓はへんな会見じゃないですよ。キックボクサーの石川

直生選手との合同練習です。
——ちゃんとした合同練習なんですか？
青木　いや、それぞれが出場する大会の宣伝ですね。
——結局プロモーションですよね。ただ、今回のコスプレ会見はDREAMのためにはなりましたけど、ボクは「大黒柱がそこまでしてチンドン屋さんをやる必要はないんじゃないの？」とは思いましたし、あとオリジナリティの問題もあるんじゃないですか。
青木　でもさ、ボクがオリジナリティを求めたら、チン○ンを出しちゃうしかないじゃん！
——それ、単なる変質者ですよ！（笑）。
青木　あとはイマナー（今成正和の愛称）みたいに放送できない言葉を言うしかなくなっちゃうじゃないですか。それはマズいじゃない？
——ちょっと待ってください。イマナーさんは、それしかしゃべれないんですか（笑）。でも青木さんは、そこで自分のイメージ云々というよりもDREAMの宣伝になればいいということなんですか？
青木　いや、これがボクのイメージですよ！（キッパリ）。
——そこで「ボクがDREAMのために身体を張ってチンドン屋さんをやってます！」って言えば丸く収まるのに！
青木　（無視して）BJペンとかGSPはコスプレできないと思いますよ。……まあ、しようとも思わないだろうし。
——やるわけがないですよ（笑）。UFCには日本式のプロモーションは必要ないですよね。
青木　そうですねぇ。
——日本の場合は、団体を背負うことが選手に求められるということですね。

連続写真で振り返る「ハロ～、ジャパン！」事件とは何か？

［09.3.8 DREAM.7］
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
○青木真也vsデイビッド・ガードナー×
（1R5分58秒、チョークスリーパー）

青木にバックを取られたガードナーさんは「ハロ～、ジャパン！」とお客にアピールする余裕を見せたが、青木はその隙を見逃さずチョーク!!　試合後、会う人会う人に「ハロ～、ジャパン！」と声をかけられたガードナーさんは、本気で落ち込んだそうだ（笑）。グッバイ、ジャパン！

青木　そうなんですよね。
——そこがフェザー級GPからはちょっと見えなかった、と。そういう意識って、青木さんはいつ頃から持つようになったんですか？
青木　カルバンと2回やったときです！
——そういえば、カルバンとの3度目の決着戦は、後楽園ホールのワンマッチ興行でやる計画もありましたね。
青木　『やれんのか！』のときもそうだけど、ムチャな話が多かったなあ……（しみじみと）。人間って、打たれると強くなるってことを学びました。
——でも、そういう試練を浴びたことは、青木さんにとっては貴重な財産になったんじゃないですか？
青木　そうでしょうね、ホントに「きっかけはフジテレビ！」ですね。
——フジテレビよ、ありがとう！（笑）。で、次戦は4月のウェルター級GPですね。
青木　そうですね。会見でも言いましたけど、マッハさんとやったら、おもしろくなると思うんですよ。今回のDREAMが不完全燃焼だったたぶん、名古屋で取り返さないと！
——ただ、大会までもう1ヵ月を切ってるんですけど、カードはおろか、GPの出場選手すら決まってないんですね。
青木　全然大丈夫です！　UFC2ヵ月前、DREAM2週間前！　非常に日本らしいです。もう慣れたもんですよ。
——でも、今回は2週間を切りそうな感じですけど。
青木　なんでもいいや。矢でも鉄砲でも持ってこいですよ！
——ウェルター級（76キロ以下級）は体重を落としてくる選手ばかりですね。今回のガードナーさんとの試合は、74キロ契約でしたけど、やりづらさはありました？
青木　ちょっと重いですね～。でも、「何がなんでも一本を狙い続ける!!」っていう気持ちは変わらないですから。そこは自分のスタイルを貫くことっすよね。
——繰り返しますけど、出場選手も定かじゃないですし、いまのところウェルター級GPのテーマって「青木真也がどこまでやれるのか？」ということくらいしか見えてこないじゃないですか？
青木　だからボクが頑張るんです！　絶対に盛り上げる。そのためにはマッハさんとやるしかないし、なんならフルチンになってもいい!!
——フルチンはけっこうです。そういえば魔王（秋山成勲）のUFC参戦が決まりましたね。
青木　ん～、ファッションなのか本気なのか、わかんないですよね。けど、いまのマスコミの風潮って、「UFCに行けば正しい！」みたいな感じじゃないですか。確かにUFCは強いヤツは強いけど、たいしたことないヤツもいっぱいいますよ。それなのに「UFCはレベルが高い！」みたいに言ってるヤツは、ちゃんと観てるんですかね？　あとおかしい部分もいっぱいあるし、そういうのを無視して「UFCは絶対に正しい!!」っ言ってるマスコミは、自分から敗戦国になってるみたいですよ。もう情けないこときわまりない。愚の骨頂！
——でも、秋山さんがそういう勝負に出るのは興味深いですよね。
青木　頑張ってほしいですけどね。うん。
——通用すると思います？
青木　正直まったくわかんない。
——宇野さんのUFC参戦のほうが気になります？
青木　宇野選手のことはマジで応援して

手に求められるということですね。

のガードナーさんとの試合は、74キロ契約

青木　宇野選手のことはマジで応援して

Shinya Ao

ますよ。宇野薫というファイターはウソじゃないと思うんですよ。宇野選手はね、真剣に応援したいし、絶対に通用すると思います。だって、簡単に負けられたらDREAMのライト級が困るじゃん？

――あ、そういう計算もありつつ（笑）。

青木　あたりまえですよ。そういうこと言っちゃうあたりがボクらしいでしょ。カットしちゃダメですよ。宇野選手に負けられたらDREAMが困ります（笑）。まあ、ボクが真剣に言いたいのは、一部のマスコミがUFCなら絶対的に正しいと思ってることですね。UFCがすべての免罪符みたいな。バカじゃないかなって。

――でも、魔王のUFC参戦についてコスプレ記者会見のときは「根性ある」って言ってたらしいですね。

青木　行くんだったら、根性はあるでしょう。「やるなあ～」と思いますよ。でも、行くだけなら誰でも行けるから。ぶっちゃけ、ボクだっていつでも行けますよ。

――そこでどういう闘いをするかが問われると？

青木　そうです。

――じゃあ、魔王のことも応援しましょうよ。

青木　ガンバレ魔王！　そうだ、『kamipro』で「ガンバレ魔王」特集をやってくださいよ。彼も『kamipro』にいじめられて大変な目に遭ってるし。

――全然イジメてないですよ。マジメな話、ウチが魔王を一番応援してきたんです。

青木　いやいや、『kamipro』が「逃げるな！」とか煽るから、きっとUFCに挑戦したんだから。

――う～ん。そう言われると、いいことをしたなって思いますね。

青木　ククク！

――いや、ホントに。だって魔王はDREAMや『戦極』より、UFCで闘ったほうが絶対におもしろいですからね。

青木　確かに。

――でも、青木さんが挑発するからUFCに行ったんだったと思いますよ。

青木　ボクがいじめたから？　じゃあ、ボク、いいことしましたね！

――偉いなあ、青木さんは。魔王のUFC参戦によって、恐慌にあえぐ韓国経済も潤うわけですからね。あ、そういえば『DREAM・8』の視聴率王！（当日の深夜1時20分から放送、平均2・4パーセント。瞬間最高は青木の4パーセント超え。

青木　……ボク、まんざらでもないよ（ニヤニヤ）。

――ダハハハハハハハ！　あんなに「格闘技に視聴率なんて関係ない!!」とか吐き捨てていたのに！

青木　だってそれ聞いてニンマリしたもん。「ボクが瞬間最高かあ……」って。

――ご満悦のところ申し訳ないですが、瞬間最高を獲ったのは、青木さんの試合が最初に放送されたからでしょ。

青木　いや、そんなんじゃないよっ！

――ムキにならないでください（笑）。青木さん、これからは「バカサバイバー」をやめて「深夜の視聴率王」という打ち出しでいきましょう！

青木　青木"真也"なだけに。やめてよ、そういうへんなイメージつけんの。

――まあ、テレビで放送してもらうことは重要ですけど、視聴率がすべてのモノサシになってたまるかって感じですよね。

青木　ですね。それで強くなれるのかっていったら違いますから。ボクはただ強くなりたいんです。もうこの調子では4月も6月も行きますよ！

――ホントにどんなマッチメイクになるんですかね？

青木　マッハさんとやるしかないでしょ。今回はお客さんが入ってなかったから、次こそは頑張らないといけない。そうなったら、ボクがマッハさんとやるしかないと思うんですよね。それに……やっぱり目立ちたいじゃん！（かわいらしく）。

――じゃあ、川尻さんみたいに結婚宣言をすればいいんじゃないですか。

青木　あ、川尻さんの奥さん、どういうわけか、いまだに紹介されないですね～。

――ああ、理由はなんとなくわかりますね。

青木　○○さんから彼女は紹介されたんですけど、なんか凄く固かったですね～。

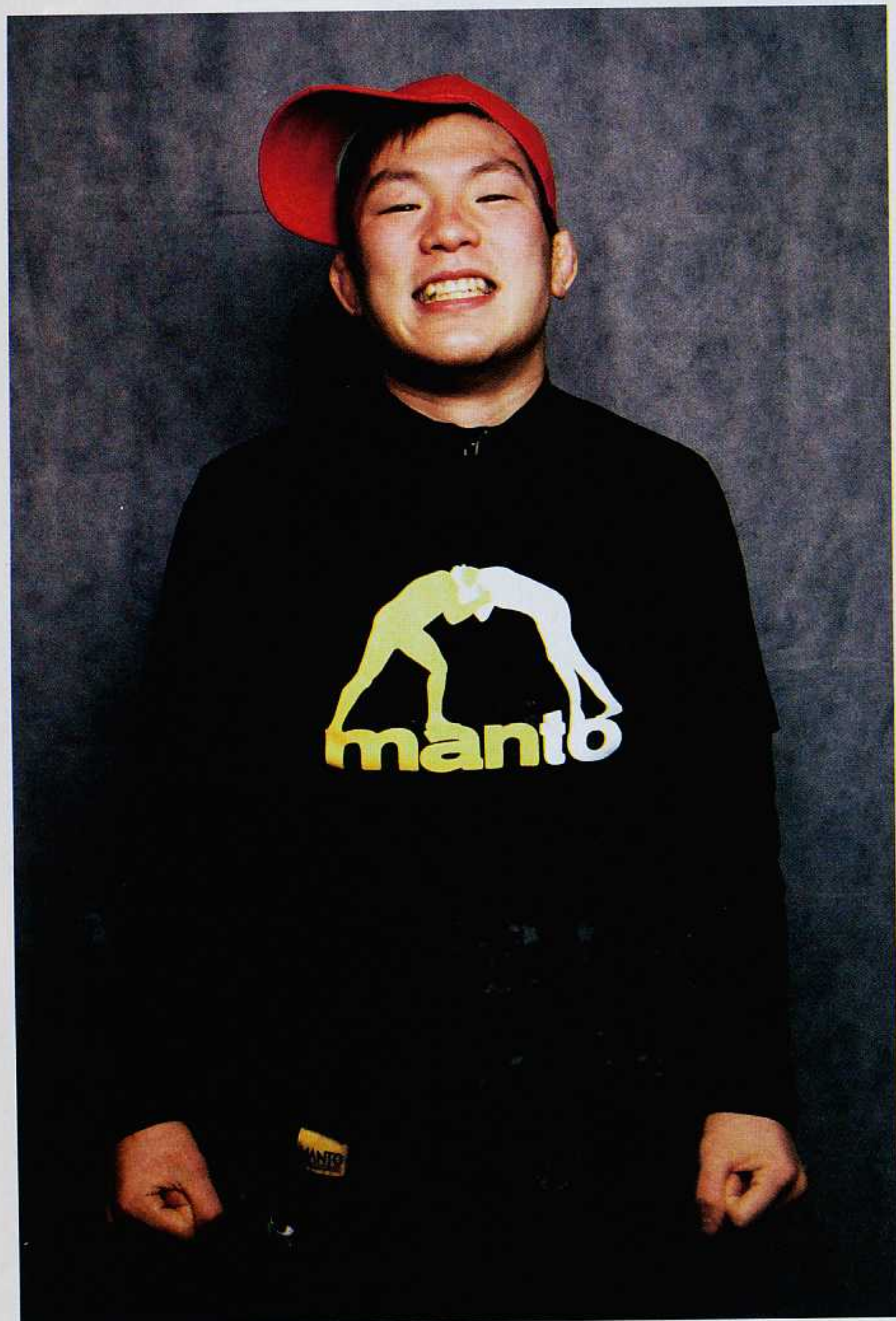
――絶対にへんなこと言ったでしょ。

青木　（まったく気にせず）青木真也も「負けてらんねえな！」って気持ちはあります。結婚してすぐに離婚してやる！

――それくらいの勢いで突っ走る、と。

青木　何事にも負けてらんないっすね。とにかくいっぱい試合してDREAMを引っぱります。名古屋の『DREAM・8』も凄い試合をやりますから、期待してください！　押忍!!

【09年3月9日／都内・某ホテルにて収録】

宇野選手のUFC参戦は応援してますよ。絶対に通用すると思います！

あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。世界屈指のグラップラーにして、いま世界から最も注目されている日本人ファイター。『kamipro.com』でブログを好評連載中！ 180cm、70kg。

足関十段あらため妖怪足極め反省!!

「早く忘れたいです」

今成正和

山本“KID”徳郁への第一関門を突破!!

“足関十段”というキャッチフレーズが、地上波向けにわかりやすさを狙ったのか“妖怪足極め”という、より不気味さを強調したキャッチフレーズになっていた今成正和。山本篤戦は判定勝利というスッキリしない決着になってしまい、本人もあまり試合内容には納得していないようだ。また寡黙で多くを語らないため、非常にインタビュアー泣かせな存在でもある。一夜明け会見直後のわずかな時間だが、なぜかかわいい腹巻きを巻いた“妖怪足極め”にインタビューを試みた。

聞き手／坂井ノブ　撮影／菊池茂夫　試合撮影／乾晋也

——昨日の勝利、おめでとうございます。会場で観てた人に聞くと微妙な判定だったという声もありましたが、僕はモニター

すいところから取っていこう、と。

——十字のかたちには二回入りましたね。

今成　逃げるのが上手でしたね。なんな

されて取れなくなるような技だったら意味ないですもんね。

——今回の今成さんの試合は打倒山本“K

元気ないなと思いました？

今成　『DREAM・7』を見るかぎりは全体的にグチャグチャっとなっちゃいまし

期待……されてるような気もしますけど、試合内容が良くなかったんで

―昨日の勝利、おめでとうございます。会場で観てた人に聞くと微妙な判定だったという声もありましたが、僕はモニターで観てたので今成さんが完封した内容だったと思います。

今成　まあ、微妙と言われれば微妙でしたねぇ。どっちも勝ってなくて、どちらかといえば……という内容でしたから。早く忘れます。

―忘れますか（笑）。ダメージは？

今成　健康です。

―一発パンチをもらって倒れた場面もありましたけど。

今成　ずっと立ってるといっぱい殴られるじゃないですか。効いて倒れたわけじゃなくて、パンチがきたら横になるという習性みたいなものですね。

―なるほど（笑）。メインイベントというのはいかがでした？

今成　勘弁してほしかったですね。

―内容も求められるし、できれば避けたかった？

今成　まあ、そうですね。光栄なことなんですけど。勝たなきゃいけない、魅せなきゃいけないと思ってたんですけど。ここで負けると何もないんで。

―じつは足を取りにいく瞬間は一回もなかったですよね。

今成　そういえばなかったですね（ニヤリ）。足だけを狙うわけじゃなくて取りやすいところから取っていこう、と。

―十字のかたちには二回入りましたね。なんなんでしょう、逃げるのが上手でしたね。

今成　逃げるのが上手ですかね？　気持ちの強さは感じました。一瞬、取れるかなと思ったんですけど、ずらすのが速いんで取れないなぁと思っちゃいましたね。

―今成さんが足関節技の達人ということで注目を浴びて、逆に相手に警戒されて極めにくくなってるんじゃないかなという気もするんですけど。

今成　ぜんぜん気にしないですよ。警戒されて取れなくなるような技だったら意味ないですもんね。

［09.3.8 DREAM.7］
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
○今成正和 vs 山本篤×
（2R終了 判定2-1）
スタンドで攻めたい山本だったが、今成はグラウンドに引き込みラバーガードから腕への攻撃でペースを握る。スタンドに戻っても人を食ったようなトリッキーな動きで決定打は許さず、判定で勝利。KIDへの第一関門は突破！　一夜明け会見で今成は闘ってみたい選手としてエイブル・カラム、ジョー・ウォーレンの名を挙げた。

―今回の今成さんの試合は打倒山本〝KID〟徳郁選手の最右翼として、山本篤選手との試合が組まれたんじゃないかと思うんですよね。

今成　う～ん、そうですね。

―KID選手は俺がフェザー級を引っぱっていくという気持ちもあるでしょうし、青木選手は常に「俺がDREAMを引っぱる」と言ってますよね。今成さんの気持ちの中にも、そういう気持ちはありますか？

今成　もちろん、そうしたいなという気持ちはあるんですけど、とりあえず結果を残していかないと何を言える立場でもないと思うんで……。

―今成さんはそういうことを口に出すタイプじゃないですよね。

今成　そうですね。

―で、今回は「妖怪足極め」というキャッチフレーズがついてましたけど、あまり口に出さないから、逆に〝何を考えてるのかわからない〟という不気味さになって、そういう言葉になってくっついてきたのかなと思うんですけど。

今成　まあ、なんでもいいんじゃないですか。

―言いたい気持ちもあるんですか？

今成　とくに言いたくないですね（笑）。本当のことは誰にも言わないようにしてます。

―なるほど（笑）。大会前には青木選手が「フェザー級の選手に任せておいて大丈夫かな？」という苦言もありましたが。

今成　まあ、元気がないってことじゃないですか？

―ほかのフェザー級の選手を見渡して元気ないなと思いました？

今成　『DREAM・7』を見るかぎりは全体的にグチャグチャっとなっちゃいましたね。

―そういう中で、今成さんにかかってくる期待の大きさは感じますか？

今成　期待……あるような気もしますけど、あまり試合内容が良くなかったんで。

―やはり、そこが引っかかりますか。ちなみに、テレビのオンエアは観ました？

今成　いや～、眠くなっちゃって（笑）。

―自分の試合なのに（笑）。ご家族はどんな反応でしたか？

今成　ちょうど、いま日本にいないんです。旅行に行っちゃってるんで、電話で伝えましたけど。「良かったね」って言ってました。

―家族の存在が励みになる部分はありますか？

今成　そうですね。励みというか、食べさせないといけないですから。ルン●ンになっちゃダメなんで。

―前はル●ペンでもいいぐらいの気持ちだったんですか？

今成　以前はなってもいいかなって思ってましたけど、いまはそういうわけにいかないんで。

―試合後はどっか行きました？

今成　普通にマック行って。

―マ、マック？

今成　そのあとにラーメン食べました。まあ、試合が終わった解放感ですかね。

―試合後のマックやラーメンの味はいかがでしたか？

今成　おいしく感じましたね。

―2回戦の試合後もおいしいマックとラーメンを食べてください！（笑）。

【09年3月9日／都内・ホテルにて収録】

喧嘩上等の世界

DREAMフェザー級GPで唯一KO快勝!!
この男にとって闘いとはなんなのか――。

高谷裕之

喧嘩番長・高谷裕之、本誌初登場！　今回、見事DREAMフェザー級1回戦突破をはたした高谷が喧嘩の世界で鳴らしてきたという伝説はもはや有名な話。そんな高谷にとって、闘いとはなんなのか。今回は、番長の棲む〝喧嘩上等の世界〟について迫ってみた！

聞き手／松下ミワ　撮影／菊池茂夫　試合写真／乾普也

――今日はフェザー級1回戦を勝ち上がった高谷選手にお話をうかがいたいと思

高谷　そうですね。

――でも、単にケンカをしたいという思

ったんですか？

高谷　わかんないっす。まあ修斗か『CAGE FORCE』か、『HERO'S』とか

すか。

――要するに、気に食わない人たちがい

る、と。

単純に闘うのが好きだったんです
僕はそういうのを求めてたんで

—今日はフェザー級1回戦を勝ち上がった高谷選手にお話をうかがいたいと思います！

高谷　よろしくお願いします。

—まず今回、DREAMの煽りVでいろいろ高谷さんの人となりが紹介されてましたが、いわゆる高谷軍団の方々のコメントが素晴らしかったですね！

高谷　ハハハハ。そうですか。ま、友だち連中がしゃべってただけですけどね。

—だって、高谷さんのカッコいいエピソードばっかりじゃないですか。なんであんなに慕われてるんですか⁉

高谷　いや、そんなの自分ではわかりません。それこそ周りの人に聞いてもらわないと。

—いや、そうなんですけど。たとえばエピソードの一つとして、「ケンカになったら一番に飛んできてくれるのが高谷さんだった」という話があったじゃないですか。それって、どういう心境で飛んでいくんですか？

高谷　単純にそういうのが好きだったんです。闘うのが。僕はそういうのを求めてたんで。だから行ってたって感じですね。

—でも、あたりまえの話ですけど、ケンカって危ないじゃないですか。負ける可能性もあるでしょうし。

高谷　ケンカのときは興奮してるから、あんまり勝つとか負けるとか考えないで行っちゃうみたいな。

—情報を聞きつけた時点でアドレナリンがブワッと出ちゃうんですか。

高谷　そうですね。

—でも、単にケンカをしたいという思いがある一方で、やっぱり相当な仲間意識があるわけですよね？

高谷　まあ、そういう仲間意識は強かったんじゃないですかね。そこは自分でも昔から一番大事にしてるものだし。

—その仲間意識でいうと、今回高谷さんがDREAMに参戦するということになったときに、相当な数の応援団が会場に駆けつけたという話を聞いたんですよ。たしかゴングが鳴る前だと思うんですけど、「殺せ～～」って怒号も聞こえましたし（笑）。

高谷　あ、そうですか？　普通、言わないんですかね？

（アッサリ）。

—ええ、普通は。で、チケットもハンパなく売れたという話を聞いたんですよね。

高谷　あ、マジっすか？

（マネージャーに向かって）今回は何枚だったの？

マネ　それは内緒です（笑）。

高谷　でも、最高記録ではないでしょ？

マネ　そうですね。

—えっ⁉　今回が最高記録じゃないんですか？

高谷　たぶん、違いますね。

—でも、かなりの枚数だって聞きましたよ。いったいなんの大会が最高記録だったんですか？

高谷　わかんないっす。まあ修斗か『CAGE FORCE』か、『HERO'S』とかじゃないんですか？

—へえ～～！　それだと、たとえば後楽園ホール規模の会場だったら、高谷さんの応援団で会場が埋まっちゃいますね。

高谷　ま、そういうときもありましたね（アッサリ）。でも、みんな俺の試合を観たら帰っちゃいますからね。

—あ、だから今回、そういう部分も考慮されて高谷さんの試合をセミファイナルにしたんじゃないかという憶測も飛んでました（笑）。

高谷　ハハハハハ。たぶんそうじゃないですか？

—凄いなあ。で、その高谷さんのエピソードといえば、いま、川尻選手や石田選手の指導をされてる山田武士トレーナーのもとで練習されてるじゃないですか。その山田トレーナーが言われてたのが、もし高谷さんと同年代で若いときに出会ってたら、どっちかはいまは生きてないんじゃないかという話をしてたみたいなんですよ（笑）。

高谷　ハハハハハ！　そうなんですか？　まあ、山田さんとはめっちゃ気が合うし、すっげえー信頼してますね。

—どんなところで気が合うんですか？

高谷　ええっと、ワルいところ（笑）。

—そこなんですか（笑）。

高谷　たとえば、山田さんとメシ食ったり、酒とか飲んだりしてるときに、向い側にヘンなヤツらがいたとするじゃないですか。

—要するに、気に食わない人たちがいる、と。

高谷　で、山田さんに「なんかアイツらムカつかないっすか？」って俺が言ったりすると、「いやいや、俺は高谷くんよりもずっと前からムカついてたよ！」とか言うんですよね（笑）。

—ワハハハハ！　どういう気の合い方なんですか！

高谷　でも、そういう感覚がめっちゃ合うんですよ。あとは、読んでる雑誌とか本とか、あとDVDとかの趣味とかも凄く合うんですよね。

—ちなみに、どういうのを読んだりしてるんですか？

高谷　本は自伝ものが多いですかね。ワルいヤツの。あとは、ワルい映画とか。俺がこっそり知ってるようなワルいDVDも不思議と知ってたりするんですよね。

—ワルのオンパレードですね（笑）。具体的には？

高谷　うーん、ギャング映画とかもカブってたし、あとは、『伝説のヤクザ』シリーズとかも観てるんですよね、山田さん。

—『伝説のヤクザ』シリーズ！

高谷　いや、好きなんですよ。俺も知ってるつもりですけど、山田さんもよく知ってますからねえ。でも、意外なところでいうと、二人とも山を登る人の本もけっこう好きだったりするんですよね。

—それはまた意外なラインですね。

高谷　べつに自分が山登りするわけじゃないんですけど、けっこうハマってるんですよ。

—たとえば、誰の本ですか？

高谷　……でも、恥ずかしいからあんまり言いたくないですね（照）。

山田武士トレーナー率いるチーム黒船で練習している高谷。山田トレーナーとはワルい部分で細部まで気が合うというからなんだか怖いが、リング上でもいい意味でのワルを炸裂させてほしい！

修斗や『HERO'S』のために闘ったことはなかった。でも……

［09.3.8 HEIWA DREAM.7　DREAMフェザー級GP1回戦］
埼玉・さいたまスーパーアリーナ

○高谷裕之 vs キム・ジョンウォン×
（2R 40秒 TKO）

総合初参戦のキム・ジョンウォン相手に、高谷はローキックで崩しにかかる。ジョンウォンがその足をつかんでテイクダウンを奪う場面もあったが、最後は高谷の右ストレートが炸裂しKO！　高谷はこの日唯一のKO勝ちを飾った。

―なんでですか？　ちょっと教えてくださいよ。

高谷　くだらないヤツだからなあ。……あ、でも、くだらなくないヤツもありますね。二人で「あれはよかったねえ！」って言ってたのが、登山家の山野井泰史さんの本ですか。

―ほう！　山野井泰史さんというと、ヒマラヤに登ってるときに遭難しかけた話は有名で、『情熱大陸』（TBS系）とかでも特集されましたよね。

高谷　なんか、そのときに手足の指が凍傷でぜんぶなくなった話とか、もちろん遭難して生き残った話とかも、読んでてスゲエおもしろかったです。

―それってやっぱり生死を懸けた闘いじゃないですか。高谷さんって、どうしてもそういう世界に引き寄せられるんですかね。

高谷　やっぱ、そういうのはスゲエなと思いますね。そういう登山とかって、ほとんどの人が死ぬじゃないですか。それをやってる人の心境とか姿勢がスゲエ尊敬できるというか。

―たとえばケンカにせよ、ときには格闘技も命の危険がないといえばウソじゃないですか。そこに自分を重ね合わせることってあるんですか？

高谷　うーん、俺と一緒というよりは、あいう人たちのほうがもっとスゲエって思いますね。あんぐらいの覚悟を持ってれば、もっと凄い試合ができるんじゃないかとかは思ったりしますよ。

―いつも試合に臨むときというのは、死ぬ覚悟までしたりするときもあるんですか？

高谷　いや、意外と僕はそうは思ってないですね。だって、格闘技って素手じゃないですか。

―はい？

高谷　素手でしょ？　格闘技は。だから、昔みたいに道具持ってやってるわけじゃないから、死なねえだろって。

―ああ、なるほど！　じゃあ、煽りVで言ってたとおりで、格闘技なんて「そういう世界に比べたら」って感じなんですね。

高谷　遺書とか書く人がいるって話もあるけど、俺から見ると「バカじゃねえの？」って思いますね。自分に酔ってんじゃねえよって（笑）。

―でも、ケンカの世界で百戦錬磨の高谷さんが格闘技をやるとなったときに、やっぱり勝負事なんで負ける場面もあるじゃないですか。そういうときってどういう心境でした？

高谷　まあ、なんで負けるんだろうってのは考えますよね。ただ、格闘技だといろんな要素があるじゃないですか。減量とか調整がうまくいかないとか。そういうのは「難しいなあ」とか、いろいろ考えるタイプかもしれないですね。やっぱり、その場のノリで始まるわけじゃないからね。

―確かにその場のノリで試合はしませんね。じゃあ、けっこうケンカはケンカ、格闘技は競技として割り切ってる感じなんですね。

高谷　まあ、自分がスポーツマンだとは思ってないですけどね。ただ、負けると悔し

―たとえば、今日の一夜明け会見で川尻選手なんかは「DREAMを盛り上げて

、千葉県
01年アル
ュー。03
、その後
Cに参戦。
でKO勝利
63kg。

高谷　ぶっちゃけないですね！（笑）。……（回想しながら）修斗のために闘ったこともなかったし、『HERO'S』のためにと

に「KOが一個あってよかったよ」って言われたのは嬉しいですね。

―でも、自分の中ではもっといけたと

高谷　まあ、自分がスポーツマンだとは思ってないですけどね。ただ、負けると悔しいですからね。

――計り知れない絶望感があると言いますからね。

高谷　ずーっと悔しいですよ。勝つまで「いまの俺は俺じゃない……」みたいな感じになりますね。勝つまで何ヵ月もの期間、違う自分みたいな感じですね。

――すっごい悩むタイプですか？

高谷　まあ、すっごい悩むんだろうけど、たぶん普通の人よりは悩んでないと思います。俺にははけ口がいっぱいあるから。それこそバイクも乗るし、DVDも観るし、本も読むし、友だちもいっぱいいるし。格闘技以外で無趣味な人だったら精神的におかしくなっちゃいそうですけどね。

――試合するときって仲間がたくさん応援に駆けつけてくれるじゃないですか。それって勇気になるけど、逆にプレッシャーになったりしませんか？

高谷　まあ、絶対に負けられないなというプレッシャーにはなるけど、そんぐらいのほうがいいのかなと思いますね。WECで試合したときなんかはそういうプレッシャーがまったくなかったりしたし、ヘタは見せられねえみたいなプレッシャーは俺にはあったほうがいいですね。

――じゃあ、自分が追いつめられるような状況のほうがパワーを発揮できるという感じなんですね。

高谷　そうですね。

――そういう場面になると自分の思いだけじゃなくて仲間の思いを背負って闘ってる部分もあると思うんですけど、今回のDREAMに関してもそうでした？

高谷　まあ、そうですね。みんなの代表で闘ってるつもりはありますね。

――たとえば、今日の一夜明け会見で川尻選手なんかは「DREAMを盛り上げていきたい」というような発言をされてましたけど、ああいう考えについてはどう思います？

高谷　ああ、単純に「あ、そういう考え方があるんだ」と、ついさっき思いました。そういう意識が僕にはちょっと足りないかなと思いますね。でも、それはあったほうがいいんじゃないかとも思います。そういう自覚があれば、よりアグレッシブな試合もできるだろうし。

――いままで『HERO'S』だったり修斗だったり、いろんなリングで闘ってきたと思うんですが、そういう思いを抱いたことありますか？

たかや・ひろゆき■1977年6月10日、千葉県出身。喧嘩番長の名を引っさげて、01年アルティメットボクシングでプロデビュー。03年修斗新人王トーナメントで優勝し、その後『HERO'S』、『CAGE FORCE』、WECに参戦。このたびDREAMフェザー級1回戦でKO勝利を飾り、堂々頂点を狙う！ 167cm、63kg。

高谷　ぶっちゃけないですね！（笑）。……（回想しながら）修斗のために闘ったこともなかったし、『HERO'S』のためにというのもなかったし。でも、やっぱりあったほうがいいですよね。っていうか、逆にないとダメなんじゃないですか？　プロだから。ファンあってのリングってのもあるだろうし。だから、あの考えは見習わなきゃなって思いました。

――ただ、そういう意味では、昨日のDREAMでは唯一のKO勝利でしたね。

高谷　まあ、そうですね。ちょっと時間かかっちゃったなというのは思いましたけど。自分の距離感がつかめなかったし、いろんな反省が僕の中ではあるんですけど。でも一応、テレビの人とか主催者の人とかに「KOが一個あってよかったよ」って言われたのは嬉しいですね。

――でも、自分の中ではもっといけたという思いもあるんじゃないですか？

高谷　ちょっと固かったですからね。手堅く闘いすぎたということもあるけど、まあ、ひさしぶりだったからしょうがないかなとも思います。逆に今回の試合で時間かけてKOにいけたから、感覚はつかめてきたかなというのはありますし。

――DREAMという舞台は初参戦でしたが、上がってみてどうでした？

高谷　まあ、去年まで金網（WEC）だったんでね。懐かしい感じはしましたね。なんか『HERO'S』みたいだなって。

――あ、『HERO'S』と近い感じでした？

高谷　僕の中では『HERO'S』と一緒でした。向こうは煽りもなけりゃ、いつの間にか入場してるような素っ気ない感じだったし。でも、そういう場慣れって意味での感覚も、今回の試合でつかめてきたと思います。だからまあ次はね。相手あってのことなんで相手がどう出るかというのもあると思うんですけど、僕自身はもっとアグレッシブな試合にしたいと思ってますよ。

――ちなみに、2回戦の相手としては誰が噛み合いそうですか？

高谷　いまんとこめっちゃ噛み合いそうな人って思いつかないんだけど……（思い浮かべながら）。他人の試合も観てないし、そこは時間をかけて考えたいかな。まあ、今回の試合をステップにして、次はもっといい試合しますよ。

――わかりました！　では次戦、高谷さんの試合と、その応援団にも期待させていただきたいと思います！

【09年3月9日／都内・某ホテルにて収録】

卒業するにはまだ早い！　新たな“性感帯”を発見せよ!!

フェザー級についていけない30代、40代に贈る

格闘技観戦

変態世代のライフスタイル指南座談会

【変態講師】
玉袋筋太郎先生

“Uの総決算”である桜庭vs田村も終わり、格闘技界はプロレスと関係ない軽量級が中心となり、
行き場がなくなりつつある“変態世代”。そんな30代、40代のために、
我らが変態リーダー玉袋筋太郎先生が変態座談会に初参戦。
変態世代のこれからのライフスタイルをおおいに語ってくれた。変態の時代はまだまだ終わらない！

構成／堀江ガンツ　試合写真／乾普也

プロレスを触ってねえフェザー級は『武士道』初期のような不安はあるよ

ガンツ 今日は変態座談会スペシャル企画といたしまして、玉袋筋太郎先生にお越しいただきました!

玉袋 いや～、いいのかね。変態座談会の仲間に入れてもらっちゃって。俺は変態座談会の大ファンだからね。

椎名 玉ちゃんは変態の大御所だから、VIP待遇ですよ(笑)。

ガンツ その大御所をお迎えしてお届けする今日のテーマはですね「変態世代に贈る格闘技観戦ライフスタイル指南」なんですよ。

椎名 なにそれ!?

ガンツ 要はですね、変態世代にとってこだわりの桜庭vs田村戦も終わり、今年はフェザー級というプロレスから遠く離れた企画がスタートして、もう格闘技をどう観ていいかわからない。卒業しちゃおうかなっていうような、30代、40代の格闘技ファンってけっこう多いと思うんですよね。

玉袋 確かにいるな、そりゃ。

ガンツ そういったファンに向けて、変態40代の代表である玉ちゃんや椎名さんに、変態世代のこれからのライフスタイルを指南していただきたいな、と(笑)。

玉袋 アラフォー変態だからね! いや、俺もちょうどいま言ったような悩みを抱えてたんだよ。もう格闘技は俺たちが観るようなもんじゃなくなっちまったのかなってね。もちろん総合格闘技が競技化していくっていうのはいいことなんだけど、やっぱりフェザー級の選手なんかはプロレスを触ってねえから、ちょっと空気の読み方とか、そういうことをわかってない人がいるんじゃないかな、と。『PRIDE武士道』の最初の頃みたいな不安があるわな、俺は。

ガンツ 確かに『武士道』の最初の頃って、変態からすると、ある種嫌悪感すら覚えるぐらいのものがありましたよね(笑)。

玉袋 そうなんだよ。どこのアンちゃんたちだっていう。それが磨かれてきてね、五味選手や川尻選手みたいにパッと昇華してくれりゃあいいなって思うんだけど。

椎名 最初に『武士道』の選手たちがPRIDEのリングに上がってきたとき、出てくる格好がまずだらしないのが許せない、みたいなのがあったよね。

玉袋 そう、ジャージにツッカケで出てくるんだよ。

ガンツ あれはやっぱり、新日本にカムバックするとき、全員スーツで蔵前に現われたUWF戦士たちを観ている我々からすると、許しがたいものがありましたよね(笑)。

椎名 古い人間だからね(笑)。

玉袋 俺なんてガキの頃はデパート行くにも正装して行くような世代なんだから。やっぱり、そこらへんのギャップがあるという気もするよね。フェザー級の選手たちもこれから磨かれていってくれりゃいいんだけど、まだしゃべり方とか雰囲気一つとってもKIDが一人勝ちしちゃってるもんな。

ガンツ 一人だけどこからどう見てもプロですよね。

玉袋 そうなんだよな、KIDは。まあ、今成もいい雰囲気出てたけど、リングに上がる選手は俺たちにとって〝見上げる星〟であってほしいんだから、そこなんだよな。

ガンツ では、DREAMフェザー級については、のちほどたっぷり語るとして、玉ちゃんは大晦日の桜庭vs田村戦が終わって、自分の中で一段落ついた感じはありますか?

玉袋 「これで最後かな」っていう感じは正直あったよ。椎名くんは?

椎名 俺は玉ちゃんに会場で言われて気づきました。

玉袋 『Dynamite!!』の会場で会ったんだよな。そんで喫茶店トークならぬ喫煙所トークして。

椎名 あのとき御大(玉ちゃん)に言われて、これで終わるんだって気持ちになって。で、試合があるたじゃないですか。自分の中でどう消化していいかわかんなかった。

玉袋 そうなんだよな。これが最終回なのか?っていうね。

椎名 で、答えを見つけられないまま年が明けているという。御大はあの試合をどう観たんですか?

玉袋 俺はね、酒にたとえたね。俺は酒飲みだから、これまで「プロレス」というおいしい酒で酒の味を覚えて、ブラジルの酒とかロシアの酒とかクロアチアの酒とか、いろいろ飲んできたわけだ。でも、神棚に置いてある『桜潔(サクラキヨシ)』っていう酒だけには手をつけなかったんだよな。

ガンツ 『桜潔』(笑)。桜庭vs田村戦ですね。

玉袋 でも俺、アル中だからさ、家の中の酒は全部飲んじゃって、カミさんに「おい、酒ねえのか?」「もうあんたに出す酒はないよ」って言われたような、そんな状況。そこで「バカヤロー、神棚にあるじゃねえか」「ダメ! それは開けちゃダメ!」「いいんだよ!」って『桜潔』をクッてやったら酒じゃなくてみりんだった。

一同 ダハハハ!

玉袋 「みりんだわ、これ!」って。『桜潔』にはいいラベルが貼ってあるんだよ。どう見ても最高級酒だよ。でも「みりんでもいっか」と。みりんを飲んで酔った感じだね、あれは。

椎名 プラシーボ(笑)。

玉袋 うん、そうなんだよな。

椎名 桜庭の田村に対する茶化しはどう見てたんですか? 仮面ライダーとか、レガースネタとか、相当エグかったと思うんだけど。

玉袋 やっぱり田村は大人だなっていうかね。よくぞあそこまでからかわれて我慢したな、みたいな。その前の煽りから「素手でやろう」って言ったり、「それはリングでやる必要ない」って言い返したり、ああいった部分もあったし。

椎名 そこまでは最高でしたよね。「真剣勝負でなんの実績もない」って言ったりね。

玉袋 あれは最高だったよ。佐藤大輔も頑張ったんだよ。共犯だよな。

ガンツ 桜庭があそこまで言うってことは、逆に考えると、先輩・田村潔司という存在がやっぱり大きかったんだろうなって想像したり。

玉袋 うん、あるかもしれねえな。一つの団体の中での同じ釜の飯を食っ

座談会出席者

椎名基樹
1968年4月11日、静岡県出身の40歳。本誌の好評長寿連載コラム『サムライ三昧』でもおなじみのフリーライター、放送作家、構成作家。真剣勝負にあくなきこだわりを持ち、90年代から修斗も見続ける格闘技系変態。

玉袋筋太郎
1967年6月22日、東京都出身の41歳。ご存知、浅草キッドの片割れ。子どもの頃から蔵前国技館に通った変態プロレスエリート。『SRS』のメインパーソナリティまで上り詰めたが、昨年惜しまれつつ番組が終了してしまった。

堀江ガンツ
1973年9月14日、栃木県出身の35歳。本誌編集部。ちっちゃな頃からプロレスファンでUWF研究家を自称。最近はUFCにハマり一部で「北米」呼ばわりされる、当変態座談会の主宰者。

た先輩後輩っていうとさ、いくら俺が○○○○○・○○さんを批判してもね、○○○○○・○さんのほうは黙ってるわけだよ。聞いてない振りをする、それだけ向こうのほうが懐が深い、みたいな。まあ、俺は桜庭じゃないけど「わかるな」っていう部分があるよ。

ガンツ ガハハハハ！ そういう同じ“軍団”内の上下関係の世界はよくわかる（笑）。

玉袋 わかる。いまのちょっと伏字にしといてほしいけど。

椎名 ○○○○○・○○って伏字にしたらわかりやすい（笑）。

玉袋 「・」でね（笑）。

ガンツ 桜庭vs田村戦っていうのは、勝敗とか試合内容以外での見どころがありすぎる試合でしたよね。

玉袋 でも贅沢言っちゃ、そこになんで統括本部長がね、あの試合を統括してないんだっていう。そういう不満もあったよ、俺は。

椎名 そうですよね。

玉袋 だから俺たちは、そういう人間臭いもんも感じながらじゃないと乗れねえんだよな。

ガンツ あまりにも子どもの頃からそういうリング上だけじゃない世界に変態世代は触れすぎてますよね。

玉袋 それはある！ だから格闘技でも単にいい試合だと物足りなくなってしまうというか。味気ないというかな。

ガンツ 逆に言うと、リング外に目がいきすぎていて、リング内のおもしろさを完全に享受できてないのかもしれませんね。

玉袋 できてないんだろうな、俺なんか技術論じゃねえからさ。そこは椎名先生は技術論から何から全部込みで観てるから大丈夫なんだろうけど。

椎名 いや、そうでもないんですけど。俺なんかは修斗を昔から観てるんで、軽量級なんかも変態的に観てますね。植松直哉がＤＪ・ｔａｉｋｉに伸されたりすると、切なすぎるとか。

玉袋 植松の歴史を知ってるからこそ、変態的に観れるわけか。それはいい見方だね。

3.8さいたま大会のオープニングで出場全選手がリングに上がったフェザー級GP勢。その雰囲気は、どこか『PRIDE武士道』スタート時に似ていた。

椎名 だから朝日昇がＴＡＩＳＨＯに負けたときとか、佐藤ルミナの試合とか、ビンビンきますよね。

ガンツ 変態の見方って、ある種、歴史で見るというか。これまでの歩みを知ってるからこそ価値がわかる、みたいなところがあるじゃないですか。椎名さんなんかは植松の歴史、朝日の歴史も知ってるからそうなるんだと思うんですよね。

椎名 そう。俺なんか植松vs朝日なんかも観ていて、そのときは植松が新世代として輝いてて。でも、ＤＪ・ｔａｉｋｉ戦ではまったく逆の立場だったからね。

ガンツ だからいま、フェザー級のおもしろさがわからないっていう人は、出ている選手たちの歴史を知らないっていうのもあると思うんですよね。

玉袋 そうなんだろうな。俺たちの勉強不足っていうのもあるかもしれねえな。

椎名 だから俺なんか、重量級から軽量級まで、いまでも凄いおもしろいんだけど、雑誌でインタビューとか読むと、格闘家より、天山ファミリーのほうがはるかにおもしろいんだよね（笑）。

玉袋 そりゃそうだよ、やっぱユセフ・トルコのインタビューにシビれるわけだよ、こっちは。

椎名 俺、スポーツが好きだから、試合を観るならプロレスより格闘技なんだけど、インタビューを読みたいのは断然プロレスラーなんだよね。そこはどうしたらいいんだろう？って思ったりするけどね。

玉袋 俺もこないだ、吉田秀彦が表紙になってた雑誌をチラッと読んだんだけど、べつに吉田の言葉は「選手」の言葉だから。選手の言葉って「チョー気持ちイイ」と同じで、変態が裏読みするほどの言葉じゃなくて誰もがわかる言葉でさ、変態には届かないっていうか。

椎名 インタビューでは天山が完勝でしょう（笑）。

玉袋 あの人が引退するかしないかってことが、そんな大きなことなのかな。それであの人が引退について語ることがおもしろいのかっていうと、やっぱりアスリートとプロレスラーの差だよね、変態に裏読みさせてくれない。

変態は格闘技でも単にいい試合じゃ物足りねえし、味気ねえんだよな

椎名 なんなんですかね、あれ。格闘家でもマッハとか、人間性はメチャクチャおもしろいんですよ。流出事件も含めて（笑）。

ガンツ レスラーに負けないトンパチですよね（笑）。

玉袋 たいしたもんだよ。あそこまでの流出、パリス・ヒルトンぐらい凄いよ。あれでイメージがまったく崩れてないのが不死身のエレキマンだね。

椎名 マッハという人間はあんなにトンパチなのに、かといってマッハのインタビューしてもおもしろくないでしょ？

ガンツ マッハはマッハでも、マッハ隼人やマッハ文朱のほうが読みたいですよね（笑）。

椎名 なんなんだろう？ 中身はおもしろいはずなんだけど。隠しごとがないからおもしろくないのかな、格闘技って。

玉袋 ホントそれは言えてるよ。『ｋａｍｉｐｒｏ』でこないだやった更級四郎さんがＵＷＦの真実を語ったインタビューなんて最高だろ。ぶっ飛んだもんな。

椎名 あれは衝撃的だよね！

玉袋 俺たちはもうプロレスに対して完全にズル剥けだと思ってたら、「まだ被ってるぞ、おまえ」って言われたような感じだからな。

椎名 しかも、あの絵を描いてる人が、ＵＷＦの陰のフィクサーだったわけでしょ。

玉袋 それ自体が『ほとんどジョーク』か、みたいなね。

ガンツ それで語られた内容がＵＷＦの史実を覆すものばかりという。

玉袋 「前田さんや佐山さんが本当に強いと思いますか？」ってさ……。俺なんかこないだ、前田日明さんの結婚披露宴に出ながら、ずっと更級四郎が頭をよぎってたからね。「更級……更級……」って、ソバ屋の更級どころじゃないよ。

椎名 あとは試合はともかく、船木がこれからどうなるんだろうっていうのは、普通の格闘家よりずっと興味がある。

玉袋 船木の今後は見どころだよな。

椎名 だって現役復帰する前に工事現場で働いてた話までされちゃったらね……。

ガンツ プロレスラーが工事現場で働くって、剛竜馬とかオリエンタルプロレスの世界だと思ってましたよね。

玉袋 ずっと「21世紀は船木の時代」って言われてたのに、実際に21世紀になったら工事現場にいたんだもんな〜。味わいぶけえよ。その船木が「10年後に必ず天下を獲ります」って言ってた謙吾ってのもいたけど、もう10年経っちまったんだよな。

ガンツ 天下にかすりもせずに10年経ちましたね（笑）。

玉袋 こうやってさ、俺たちは船木一人とっても、パッと語れちゃうん

わせが噛み合わなかった感がありますけどね。

3.8 DREAM.7 REVIEW

[09.3.8 DREAM.7　DREAMフェザー級GP1回戦]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
○前田吉朗 vs ミカ・ミラー×
（2R終了 判定3-0）

WECで王者トーレスと、ダナ・ホワイトも絶賛する激闘を展開した前田が"凱旋"。しかし、セーム・シュルトとガイ・メッツアーを合わせたようなミラーに光を消されてしまった。

[09.3.8 DREAM.7　DREAMフェザー級GP1回戦]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
○ジョー・ウォーレン vs チェイス・ビービ×
（1R終了 TKO）

KIDも対戦を希望した前WEC世界バンタム級王者ビービが、MMAデビュー戦のウォーレンにまさかのTKO負け。レスリング王者ウォーレンは一躍台風の目となりそうだ。

[09.3.8 DREAM.7　DREAMフェザー級GP1回戦]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
○エイブル・カラム vs 西浦"ウィッキー"聡生×
（2R終了 判定3-0）

トリッキーな動きでスター候補として期待されていたウィッキーだが、KOTC王者カラムの柔術テクニックに苦しめられ、持ち味を発揮できぬまま判定負けを喫してしまった。

[09.3.8 DREAM.7　DREAMフェザー級GP1回戦]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
○ビビアーノ・フェルナンデス vs 大塚隆史×
（2R終了 判定3-0）

DEEPマットで金原正徳、昇侍を破り、今大会のダークホースと目されていた大塚。しかし、KIDをも追い詰めた柔術王者ビビアーノに序盤からベースを握られ判定負け。

[09.3.8 DREAM.7　ライト級ワンマッチ]
埼玉・さいたまスーパーアリーナ
○石田光洋 vs 中村大介×
（2R終了 判定3-0）

大晦日に所英男を破り勢いに乗る中村と、大晦日に出場できなかった悔しさを溜めた石田の一戦。石田は中村に"回転体"をやらせない闘いでUスタイルを完封し、判定勝ち。

DREAMを引っぱるトップ選手としての風格すら出てきた川尻。この川尻とて『PRIDE武士道』の最初からプロのムードを醸し出していたわけではない。フェザー級選手たちも、かつての『武士道』ファイターのように化ける可能性は充分あるのだ。

玉袋　こうやってさ、俺たちは船木一人とっても、パッと語れちゃうんだよ。それはやっぱり歴史を知ってるってことだからさ、そうなるとフェザー級は歴史が浅いから語れないだけなのかもしれねえな。

ガンツ　逆にまだここがスタートだから、ここから観ていけばいいんですよね。

玉袋　それでいいんだよ。

ガンツ　ドラマとかでも、気づいたら5話までいっちゃったりしてたら、「観なくていいや」ってなりますけど、フェザー級はまだ1話が終わったばかりですから、まだ間に合うという。

玉袋　『24』観るような感じでいいんだよな。

ガンツ　DREAMフェザー級GPはメンバー的に凄くおもしろくなる可能性が充分ありますからね。

椎名　ドキドキしたね、メンバー見たときには。

ガンツ　あれは考えられる最高のメンバーですよね。

椎名　そう思うね。

ガンツ　残念ながら1回戦は組み合わせが噛み合わなかった感がありますけどね。

椎名　大会場だったからっていうのもあるのかな？

玉袋　極端に言えば、1回戦は後楽園ホールでやってもよかったかもしれねえよな。

ガンツ　やっぱり会場が悪いというより、会場内に選手をよく知ってる客の割合が低かった気がしますね。

玉袋　変態度が低かったよな。それでスカスカ感が出ちまったんだろうな。

ガンツ　熱気が薄まっちゃったというか。

玉袋　俺なんかも観てて、川尻選手がJZカルバンや五味選手の名前を出したら、PRIDEの会場だったら絶対爆発してるのに、ポツポツとしか熱狂してる変態がいねえんだよ。それがちょっと悲しかったよね。

ガンツ　五味戦をぶち上げるって、メチャクチャいいテーマですよね。

玉袋　いい展開なんだよ。五味もいまフリーター状態だもん。テーマがなくて。

ガンツ　そうですよね。いまの五味

今成を観たらノンケファンも自分の変態性に気づくんじゃねえのかな

は、力石徹戦後の『あしたのジョー』みたいになってますもんね。

玉袋　なってる。このままいくと野良ボクシングとか出ちゃうような感じだよ。いまの五味はジョーと同じで、屋台でケンカしてそうだもんな。

椎名　『あしたのジョー』は力石戦後のドロドロの展開がまた長いんですよね。マンガ読んでても全然進まないんですよ。

玉袋　でも進まないところも耐えられるよ、変態は。

椎名　うん、ジョーが好きだから耐えられますもんね。

玉袋　それで最後、真っ白になってくれたらいいんだよ。

ガンツ　そんな状況の五味にたまらなく魅力を感じるっていうのも、また変態ですよね（笑）。

玉袋　変態だよ！

椎名　五味は持ってるよね、そういう惹きつけるものを。

玉袋　五味にはあったな～。

ガンツ　その五味だって、最初に『武士道』で出てきたときは、こいつを好きになることはないなって思ってましたけどね。

玉袋　うん、思ってたよな。コンビニの前でたむろってる若者代表みたいでね。

ガンツ　金髪で色白で口紅塗ったみたいな唇が目立って、「これはない」と思ってたのが、どんどん……。

玉袋　惹きつけられたよな。

ガンツ　それはやっぱり五味物語に間に合ったというか、『武士道』の最初から観続けたからですよね。

玉袋　五味も最初は変態向きじゃなかったもんね。でも、俺たちを振り向かせてくれたよ。変態に新しい快感を教えてくれたっていうね。「あ、俺はここにもまだ性感帯があったんだ」みたいな。そこは絶対感じねえぞっていうところを、五味は新しく開拓してくれた部分はあるよ。だから、俺たちの身体にもフェザー級で感じる性感帯があるかもしれねえぞっていうね。

椎名　「この穴の奥にあったのか！」とか（笑）。

玉袋　ホントだよ。フェザー級の選手の中に、俺たちの前立腺をね、開発するようなヤツがいるかもしれねえから。それがまだ一回目だからわかんねえだけでね。

ガンツ　前田吉朗とか、今回は相手が悪くてダメでしたけど、ムードあるし。今成なんて爆発前夜の雰囲気が漂ってるじゃないですか。

玉袋　爆発寸前だよ、今成は。

ガンツ　テロリスト前夜の藤原喜明ですよね。

玉袋　そこで藤原さんにたとえちゃうのが変態なんだよな。いまのファンはノンケファンって感じだもん。それは俺たちがストレートなファンを啓蒙してくべきなのかな。変態の世界に引っぱり込まなきゃいけないんじゃないかね。

ガンツ　そしたら格闘技から生涯抜けられなくなりますよね。

玉袋　うん、抜けられないよ。いまはちょっと一段落ついちゃってるけどな。

椎名　今成とか観たら、そうなってくるんじゃない？

玉袋　そっか、じゃあいまのストレートなファンは今成を観て、自分の変態性に気づけばいいのか。新しい変態を開拓する凄くいい素材だよね。

椎名　今成が好きになっちゃったら変態になってっちゃうよ。

玉袋　なってくよ。それはそうかもしれないな。

ガンツ　あと、いまのフェザー級ってまだまだ世間に届いてないじゃないですか。だから我々変態にとったら、ノンケファンより先におもしろさを見つけるチャンスでもあるんですいよね。

玉袋　まだ全然手垢がついてねえってことだもんな。そういう手もあるな。

椎名　おもしろくなる可能性はほかの階級と比べてフェザー級は高いと思いますよ。これから体重別が進んでいったら、あの階級が日本人は一番多くなると思うから。

玉袋　そうなると近い将来、前に修斗が沸いた瞬間みたいになるんじゃない？　一瞬でブワッと沸いた。

椎名　佐藤ルミナが出てきた時代ですよね。

玉袋　ルミナとかマッハ、エンセンがいたりとかさ。あれはUWFとかプロレスとは違った沸き方をしたよね。グワーッと熱が出て、「うわっ、なんだこれ？」っていう。

椎名　あのときのときめきは凄かったですよね。ルミナがヒカルド・ボテーリョとやったりして、あれぐらい胸が躍ったことはないよ。

玉袋　あの沸き方、もう一回できる感じはするけどな、フェザー級だったら。

椎名　これからフェザー級も人間関係が見えてくるといいんだけどね。こいつとこいつは仲が悪いとか。

玉袋　うん、仲悪いのは好きだよな。

ガンツ　そういったものも含めて、物語は始まったばかりだから、ここから見つけていったら絶対におもしろくなるってことでしょうね。

玉袋　いや～、俺は危なかったな。大晦日終わってから、格闘技からはちょっと離れちゃうかもって思ってたけど、そういう見方をしていったら、変態もまだまだ続くかもしれねえって思うよ。だけど、フェザーが桜庭vs田村戦ぐらいまで熟成するっていったら、何年も待たなきゃいけねえから、「KID」っていうウィスキーを早く飲みてえな。

ガンツ　それはぜひ『足関十段』という酒と一緒に飲みたいですね（笑）。

玉袋　飲みてえ、飲みてえ。

ガンツ　それ飲んだらみんなハマッちゃうかもしれないですよ。

玉袋　あの『足関十段』は相当強い酒だからね。密造酒って感じがするんだけど、でも飲んでみたいっていう気持ちはあるな。

ガンツ　これはベロベロになる可能性ありということで。

玉袋　うん、それぐらいいい酒かもしれない。

椎名　酒が足にきそうなくらい（笑）。

玉袋　『足関』だけに千鳥足ね、うまい！　さすが作家！

ガンツ　では、これからもDREAM酒場でフェザーという軽い酒を飲み続けていきましょう！

【09年3月11日／都内・リビングバー新宿にて収録】

変態とフェザー級をつなぐ懸け橋として、また新規ファンを変態化させる装置として活躍がおおいに期待される今成。はたしてKID戦は実現するか。

ヤ、ヤベェ男が帰ってくる！

あなたの知らない山本KIDワールド

カ、カテエ……ではなく、ヤ、ヤベェ男、山本KIDが帰ってくる！　2007年の『Dynamite!!』でのハニ・ヤヒーラ戦以降、ケガなどもあって試合からは遠ざかっていた"神の子"がDREAMフェザー級GP2回戦から復活することとなった。ここからはKIDをよく知る男たちが知られざる、その素顔を大公開！　やはり"神の子"はヤバかった!!

撮影／菊池茂夫

変態性に気づくんじゃねえのかな

椎名　今成とか観たら、そうなって

感じはするけどな、フェザー級だっ

【09年3月11日／都内・リビングバー新宿にて収録】

――今回、KIDさんの復活が決まったということで、〝神の子〟の父で

谷津　だからね、テーピングのパイオニアなの。みんなやってもらってね。

だ」ってなってね。で、話は戻るけど、アメリカにいるときにテーピングを

「山本ファミリーには誰もかなわない」

「間違いない。僕もそう思う」

“神の子”復活記念

復!

代表

嘉章

対談

見てみぃ、この2ショット！『kamipro』のご意見番としてもおなじみの
谷津嘉章と“神の子”のパパとして知られる山本郁榮さんがガッチリ握手！
ミュンヘン五輪代表の郁榮さんとモントリオール五輪代表の谷津さんによる
“新五輪コンビ”がKID復活から、マット界に対する大胆な提言、
さらにはお互いの印象まで、ざっくばらんに語りまくります！　う〜、オリャ!!

聞き手／阿修羅チョロ　試合写真／乾晋也

新五輪コンビが言いたい放題!

ミュンヘン五輪代表　モントリオール五輪代表

山本郁榮×谷津

オリンピック

―今回、KIDさんの復活が決まったということで、〝神の子〟の父でありミュンヘン五輪代表の郁榮さんと、モントリオール五輪代表の谷津さんの対談を企画してみました。よろしくお願いします!

山本&谷津　よろしく!

―郁榮さん、ようやくKIDさんの復活が決まりましたね。

山本　そうだね。もう僕もね、またやる気が起きたっていう感じだね。

谷津　もうやる気マンマンなんだ(笑)。

山本　そりゃあそうですよ!

―お二人は年齢はちょっと離れていますけど、レスリングの五輪経験者という共通点があるわけですが、これまで接点というのは?

山本　彼がオリンピックに出た当時、僕はコーチだったんです。

―直接指導したりとかも?

山本　いや、谷津さんはフリースタイルで、僕はグレコ(ローマン)でしたから。

谷津　でもね、俺にとっての山本先生っていうのはコーチというよりテーピングの神様なんだよな。

―〝神の子〟の父はやはり神様でしたか!

谷津　そうだよ。山本先生っていうのは1972年からアメリカからテーピングを初めて日本に持ってきた人なんです。まだあの頃は日本にテーピングなんてなかったもんね。

山本　やってなかった。

谷津　で、そのあとにニチバンが作ったけど硬くて全然ダメなんだよね

山本　全然ダメ。それから研究してドンドン改良していったの。

谷津　だからね、テーピングのパイオニアなの。みんなやってもらってね。

―どういうきっかけでテーピングを日本に持ち帰ったんですか?

山本　1968年のメキシコオリンピックの予選で僕は負けたの。大学3年のときに。で、日本でやっててもダメだと思ってアメリカに武者修行に行ったんですよ。

谷津　それが凄いよなぁ。いまは武者修行に行くヤツもいるけど、ホント先駆けですよね。

山本　そうだね。それでアメリカに行って全米選手権で優勝したんだよね。僕は大学からレスリングを始めて4年で全日本(選手権)獲ったの。

谷津　そうですよね。いまそういう人いないからな。やっぱ、神様ですよ!(笑)。

―レスリングを始める前はバスケットをやってたんですよね。

山本　そうです。

谷津　だからKIDもそうだし、娘の美憂ちゃんとか聖子ちゃんはDNAを受け継いでるんだよ。ジャンボ鶴田なんかもバスケットをやっててレスリングに転向してオリンピックに出たけど、重量級とはレベルが全然違うからね。

山本　もう全然違うね。僕はアメリカから帰ってきてすぐに全日本(選手権)があって優勝したんだけど、記者たちが「あれは誰だ?」って(笑)。まだ3年のときにアメリカ行ったから名前を知らないの。

谷津　「こんな選手聞いたことないぞ」って(笑)。

山本　そうそう。それで新聞記者がバーッて来て、「あれが日体大の山本だ」ってなってね。で、話は戻るけど、アメリカにいるときにテーピングを勉強したんですよ。骨折や捻挫をしてもテープを巻いて試合に出たりしたからね。

谷津　でも、テーピングの効果を伝達するまで相当時間かかったでしょ。

山本　10年どころじゃないよ!

谷津　当時はみんなわかんなかったですもんね。

山本　そう。だから苦労したのよ。テーピングについて論文書いたり、本書いたり、講演、講習、ドクターの了解を得たりして、10年以上かかってようやく世界に広がった。

谷津　モントリオールオリンピックの合宿を沖縄でやったことがあるんだけど、そのときは暑くてみんなケガしたから、ほとんど全員、山本先生のテーピングのお世話になりましたから。その節はありがとうございました!(笑)。

山本　どういたしまして(笑)。

谷津　でね、山本先生のテーピングっていうのはもちろんケガにも効くんだけど、ピンチのときなんかに、「よし、行ってこい!」ってやってくれてね。テープを巻くんじゃなくて気合いを巻くんだよ。

山本　そうそう!

谷津　山本先生のマジックだから。「大丈夫だから。これでOKだから行ってこい!」って気合いも一緒に巻いてるのよ。そうすると安心感があるわけだよ。「絶対大丈夫だから!俺が巻いたんだから」ってさ。そうすると、「よし、行ってきます!」ってなるんだよね。

山本　ホントに頑張るんだよね。

谷津 テーピングで早い時期から権利とか取ってたら、ロイヤリティは凄いことになってたんじゃない？

山本 そうだよ！ 1パーセントだって凄いよ。

谷津 でも、学校の先生になるくらいの人だから欲がなかったんだよ。ビジネスよりもそれを広めて選手がもっと向上すればいいと思うような人ですからね。

山本 そのとおり。

――で、KIDさんが復活するということですけど、谷津さんは接点はあるんですか？

谷津 まあ、世代が違うけども、山梨学院大学の高田（裕司）先生のとこに行くと山本くんがいたんだけど、その頃からヤンチャだったからね（笑）。

山本 そうそう（笑）。

谷津 いろいろあって大学とモメたりもしたみたいだけど、そうなると普通はヘコんだり、自暴自棄になって「もういいや、冗談じゃねえ」って違う商売に入っちゃったりしてもおかしくないのに、そのへんは山本先生のDNAを持ってるから、違うふうに進化していったんだよね。変化というよりも進化していった感じだよな。

山本 そうだね。

谷津 で、格闘技界に入ってきたわけだけど、重量級の日本人選手はもう勝てなくなっちゃったわけでしょ。そういう意味ではK―1にしても一緒で、魔裟斗をはじめとして中軽量級がガッと上がってきたでしょ。そういう波にKIDくんもバッチリ乗ったっていう感じだよな。

山本 タイミングもよかったよね。

谷津 まだ最初の頃は経験不足っていうのもあったかもしれないけど、気合いとタイミングとガッツで、それを乗り越えちゃったんだよな。もちろん親から受け継いだ才能も大きかったと思うけども（笑）。

山本 それが一番大きい（笑）。

――KIDさんも郁栄さんと同じように高校在学中にアメリカに武者修行に行ってるんですよね。

山本 高校1年のときに行ってるからね。そこも僕に似たのかもしれない（笑）。

谷津 先生の影響は間違いなく受けてるんだろうね。レスリングはいくつから始めたんでしたっけ？

山本 5歳から。それで、ほとんど負けなしできてるから、やっぱり素質はあったと思うよ。

谷津 当然それはありますよ。

山本 やっぱりね、スポーツっていうのは必ずDNA、遺伝ってあるの。

谷津 絶対ありますよ。

山本 で、格闘技遺伝と球技とか、それはどういうところで違うかっていうとルールなのよ。ルールにピタッと合えば、それはもうその選手はトップになるわけ。

谷津 といいますと？

山本 たとえばバレーとかバスケットをね、僕みたいなチビがやっても、いくら才能があったってトップにはなれないでしょ。だからそのルールに合わないわけよ。

谷津 田伏（勇太）なんかもいますよね、ちっちゃいバスケの選手。でも結局ダメだったもんね。

山本 無理。だけど同じ階級で条件が一緒であれば絶対負けないと思って、それでレスリングを始めたの。ウチの子どもたちもみんなそう。

谷津 そうですね。レスリングってある意味ではカテゴリーが分かれてて、意外と平等なところがあるからね。

山本 そうそう。で、今回はフェザー級っていうカテゴリーが新しくできたわけでしょ。

――それこそフェザー級は一部では〝KID級〟と言われたりもしてますけど、これまでの日本の総合格闘技では軽量級はそれほど注目されていない部分もあって。

山本 でも、身体の大きい人の特性と、小さい人の特性は違うわけ。だからフェザー級の選手の特性をリングで出せればヘビー級と同じぐらいの評価を受けるよ。スピードだったり技術だったり、フェザー級にはフェザー級なりの選手の特性があるからね。

谷津 同じような特性があったら、そりゃ身体がデカくて迫力があるほうがファンは喜ぶだろうけど、どんなスポーツでも格闘技でもそうだけど、ちっちゃい階級はスピードも技術もヘビー級よりも全然上だからな。それこそ軽量級の魅力はKIDくんがこれまで証明してきたわけじゃん。ある意味、一般の人には大ざっぱなヘビー級の闘いのほうがわかりやすいんだろうけど、『kamipro』を読んでるようなマニアックなファン層は技巧派が観たいと思うんだよな。

フェザー級を確立させるには徳郁の力が絶対必要でしょ

山本 そういう意味ではフェザー級はこれから間違いなくおもしろくなると思うし、だからこそ慎重にやらないとダメだとは思う。

谷津 そのフェザー級っていうのは何キロでやるんですか？

山本 今度、徳郁が出るDREAMは63キロ。

谷津 へぇ～、そうなんだ。俺にはちょっと難しいカテゴリーだな（笑）。

――40キロ近く減量しなきゃいけませんね（笑）。

山本 でも、新しい階級を確立させるには谷津さんみたいにスター性のある者が出ないとダメなの。スター性がない選手が勝ったところで、結果的には「え、あれがチャンピオン？」ってなるから。ボクシング見てごらんなさいよ。あんなに階級があったって、亀田とか内藤（大助）以外のチャンピオンなんて全然注目されてないでしょ。

谷津 それはあるよね。そういうキャラ作りも重要な要素ですよね。その点、KIDくんは完璧だけども（笑）。

――郁榮さんから見て、谷津さんにスター性は感じてたんですか？

山本 スター性あったよ！

谷津 いやいや、俺はプロレスラーだったでしょ。プロレスラーが格闘

技に戻ってきてやるっていうのはやっぱり異例だったから。そういう意味で言ってるんだよ。スター性というよりも、目立ってただけ。年齢からいっても、プロレスラーとして挑戦するっていうことも含めて。そこを言ってんのよ。

山本 いや、充分スター性はあったけどね。

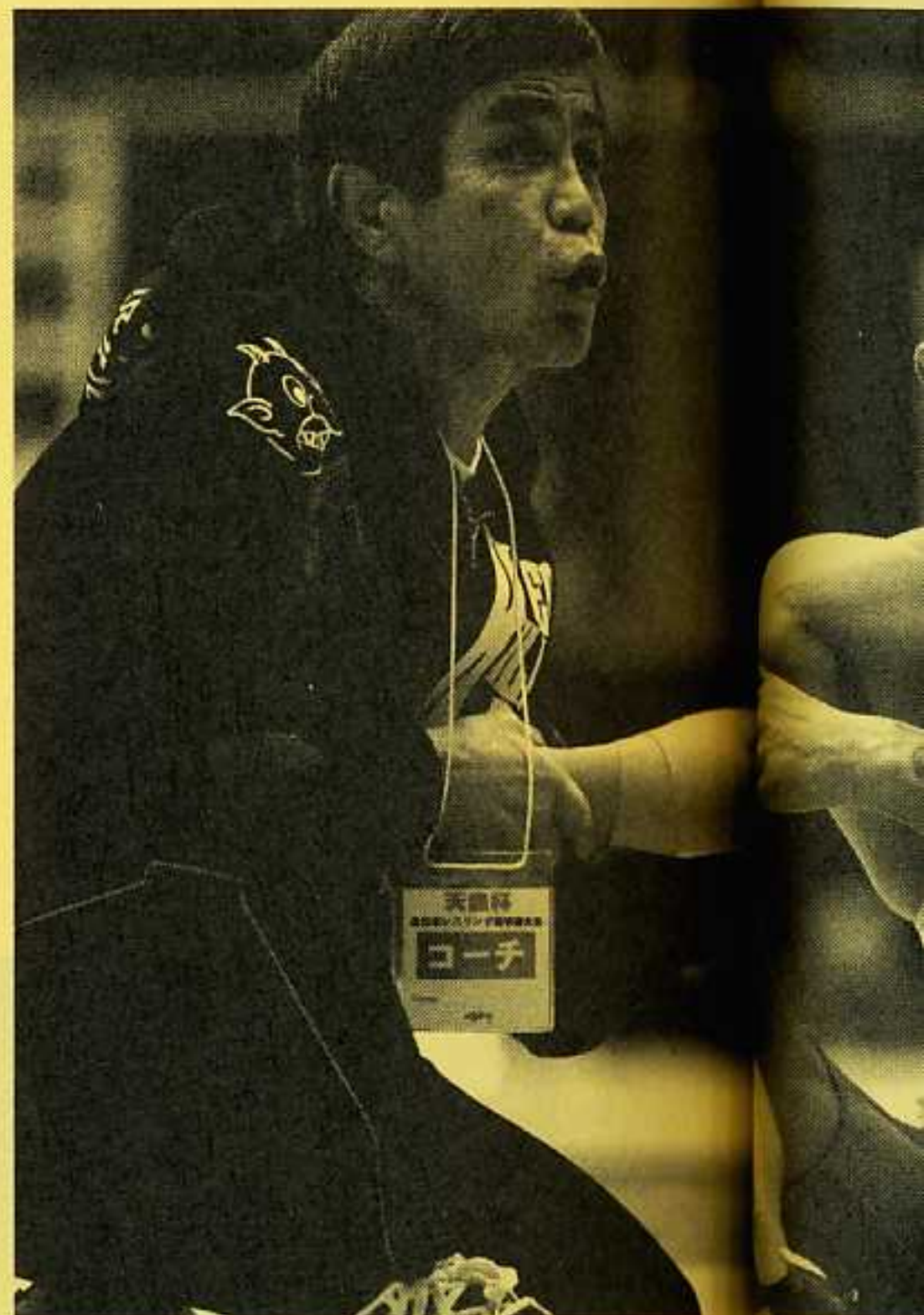
谷津 まあ、俺の話はおいといて、体格的にいっても軽量級っていうのは日本人が活躍できる可能性はまだあるじゃないですか。

山本 そうだね。

谷津 ただね、俺なんかがPRIDEに出た頃ぐらいまでは、レスリングやってたから総合にチャレンジする、ボクシングやってたから総合にチャレンジするって感じだったけど、もういまの時代はそれじゃあダメなんだよね。小さい頃から一貫してやってこないと。

山本 もう無理だね。

谷津 いまは覚えなきゃいけないことが多すぎる（笑）。打撃からレスリングから全部だもん。その点、（ヴァンダレイ・）シウバとかあのへんの連中は全部ちっちゃい頃からやってきたわけでしょ。ちょっとかなわない部分があるよな。

山本家は感覚が大陸的だから日本じゃ収まらないでしょ

06年7月、郁榮さんが果たせなかったオリンピックでのメダル獲得を目指し、レスリング再挑戦を表明したKIDは07年1月の全日本選手権に挑むも、2回戦の試合中に脱臼してしまい五輪出場は幻に。次はKIDジュニアが挑戦か?

山本 環境の違いは大きいからね。

谷津 だって、日本人がいくら頑張ってやったところでファイトマネーは同じだから、物価指数でいったらブラジルとかとは大違いでしょ。そりゃあハングリー精神でも負けますよ。

山本 そうだね。貨幣価値が全然違うんだから。

谷津 そういう意味では、日本人にとってロマンがないんだよな。一攫千金で儲かるなんて時代じゃないからね。ブラジルとかは1000万もらったらもうプールつきの豪邸が建っちゃうんだもん。

山本 大きいジムとかも簡単に作れたりするからね。

谷津 日本人なんてファイトマネーもらっても「ああ、もらったな」って感じで、1年ももちませんよ。いろんなマネージメントだったり、練習するのにも金がかかるしね。

山本 選手寿命だって短いしね。

谷津 そうでしょ。数年前までは日本でもPRIDEが盛り上がっててメガ会場を満員にしてたけど、いまはドンドン細分化されちゃって、パブリシティやメディアも小さくなっちゃって、そうすると満足なギャラも払えなくなっちゃうでしょ。

山本 そのとおり！

谷津 そうするとやっぱり、みんなアメリカに勝負しに行っちゃうわけ。

山本 みんなそうだよ。徳郁も最後はアメリカでやりたいって言ってる。

谷津 そうでしょ。そうなってくると、やっぱりかなわないよ、日本は。なんかあると、みんな上のほうで取りっこしてるんだもん。それじゃあ夢は作れない。残念ながらジャパニーズドリームはないもんな。

山本 その点、まだアメリカンドリームはあるよね。

谷津 だから、KIDくんもアメリカに行きたいって思うのも当然。それに、山本家にしてみればアメリカも遠い国じゃないからね。いろんな人のつながりもあるから、距離感なんてまったくないんだよ。英語もできるし、「みんなで移住しちゃえ！」って簡単にできちゃうんだからさ（笑）。

山本 「じゃあ来週行こうか？」ぐらいの感じだからね（笑）。

谷津 先生なんかはそういうふうに育ててきたわけ。アメリカでいいものを吸収できる柔軟性も持ってるわけだから。だって、40年も前にテーピングとか普通着目しねえよ、そんなもん！

山本 ワハハハハ！ 確かに（笑）。

谷津 逆に言うと、柔軟性があるんですよ。KIDくんや子どもたちも柔軟性がある。やっぱりそういう教育を受けてるから、感覚が大陸的だから、日本じゃ収まらないんだよな。

山本 そう、収まらない！

谷津 身体は小さいけど、そういうところがあるからさ。ホントは日本の格闘技界のことを考えたら両方をうまく渡り歩けたら一番いいんだけどね。理想としては。

山本 それがなかなかできないんだよね。どっちかを選ばなきゃいけなくなっちゃう。

——KIDさんぐらいになると日本の団体も手放したくはないでしょうからね。

山本 そうでしょ。ファンも日本で試合してほしいって思うだろうし、やっぱりフェザー級を確立させるには徳郁の力は凄く大きいでしょ。

谷津 そりゃ、そうですよ。新たなジャンルを確立させるにはスーパースターが絶対必要！

山本 ねっ。『HERO'S』を作ったのも70キロ級を確立させたのも徳郁でしょ。

——それは間違いないですね

谷津 フェザー級なんてKIDくんのために作ったようなもんでしょ。それだけ期待してるんだよ。いまはスーパーどころかスターもいないけど、KIDくんはスター性あるじゃん。トリッキーなことやったり、発言もおもしろいしさ。英語もけっこうできるんでしょ？

山本 できるよ。だって4年も行ってるんだもん、アメリカ。

谷津 だからインタビューなんかも英語でできるでしょ。

山本 もちろん。

谷津 そうなっちゃうと難しいもんで、日本を盛り上げたいっていう気持ちもありつつ、どうしてもアメリカで勝負したいっていう気持ちも出てくるんだろうな。UFCなんかの社長もKIDくんに出てもらいたいって言ってるんでしょ？

闘う魂は即席ではできない。それが徳郁とほかの選手の差（山本）

——そうですね。

谷津　ＫＩＤくんだったらＵＦＣなんかに出ても〝きっど〟活躍できるだろうしな（笑）。

山本　ワハハハハ！

——ジャンルを開拓するっていう意味では、女子レスリングが世間に認知されたのも美憂さんや聖子さんの活躍が大きかったですからね。

山本　そう。引っぱっていったんだから。

谷津　とくにお姉ちゃんのほうの力が大きかったよな。そういう意味では、それぞれみんな役目があるんだよな。生まれたときからの役目が。山本家の使命というか。

山本　あるよね。いままた聖子はオリンピック目指して練習してるし。

谷津　ＫＩＤくんもこのあいだチャレンジしたけど、オリンピックで絶対にメダルを獲るっていう使命もあるからね。オヤジの執念というか（笑）。

山本　そうだね（笑）。

谷津　いまはママさんでもオリンピック出てる人けっこういるでしょ。ヤワラちゃんもそうだし。だから全然それは問題ないよな。あとはどこまでモチベーション上げてへこたれないかだよね。

山本　そうね。山本家でいえば、聖子もそうだけど、美憂の長男坊のアーセンもオリンピック狙ってるからね。

谷津　いまいくつなんですか？

山本　いま6年生で体重が65～66キロかな。

谷津　ホントですか！　ＫＩＤくんより大きいんだ（笑）。

山本　デカいデカい。

——アーセンくんは見るからに強そうだし悪そうだし（笑）。

山本　そうそう（笑）。これがまた筋肉質でいい身体なんだよ。で、最近はずっと優勝してるからね。

谷津　このジムで練習をやってるんですか？

山本　いま小学6年だけど、中学1年からはハンガリーに留学するんですよ。レスリングで。アーセンは東京オリンピック目指してるから。

谷津　それは凄いなぁ。親御さんから離れて行くんだ？

山本　そう、一人で行くの。

谷津　そんな小さいうちから！　山本家の執念はハンパじゃないよな。ホント、ワールドワイドで（笑）。

山本　ワハハハハ！　徳郁と聖子が復帰して、孫は19歳でオリンピック出るために留学する、と（笑）。

谷津　次から次へと金太郎飴みたいにポンポン出てくるよね（笑）。

山本　いま孫が7人いるからね。それで全部レスリングやってるから。

谷津　え～っ、7人も！　こりゃかなわない（笑）。

山本　レスリング協会にも貢献してるでしょ。対マスコミにしても対世界にも。

谷津　みんなスター性持ってるから

女子レスリングというジャンルを確立させた美憂さんは06年4月にトリノ五輪アルペンスキー代表の佐々木明選手と結婚。現在はスポーツキャスターとして活躍中。ちなみに名前の由来は郁榮さんが出場した“ミュンヘン五輪”にちなんでのもの。

KIDの試合の前にはテーピングとともに気合いを巻き、誰よりも熱心にアドバイスを送っている郁榮さん。試合後には郁榮さんをはじめ山本ファミリー全員で勝利の喜びを分かち合うのはおなじみの風景だ。郁榮さんはすでに孫が7人おり、全員がレスリングをやっているとのことだが、この中から悲願のオリンピックメダリストは誕生するか？

06年にハンドボール日本代表の永島秀明選手と結婚し、07年に第一子を出産した郁榮さんの娘・聖子さんは今年1月に現役復帰を表明し、レスリングでオリンピック出場を目指し、郁榮さんの指導のもと猛練習中だ。

ね。オヤジさんもそうだしな（笑）。

山本　ワハハハハ！

谷津　グレイシーみたいなもんだな。結束力が凄いし、きっと誰もこの中に他人は入れないんだよ。

山本　無理だろうね。でも、徳郁がこれまで総合で勝ち続けてきた理由ってわかります？

谷津　そりゃあ、血筋でしょう？（笑）。

山本　それも当然あるんだけど、精神的な部分もあるんだよね。

谷津　なんですか、それ。聞かせてくださいよ。

山本　あのね、闘いっていうのは魂がないと絶対ダメなの。

谷津　もちろんそうですね。

山本　その魂はどういうかたちで身につくかっていうと、やはり心と肉体とともに、試合に勝つっていうことが大きい。技術というよりも試合に勝つことによって魂が凄く大きくできてくる。負けると、闘う魂は持てないの。だから徳郁は小さいときからいつも勝ってきた。小学校でも一回しか負けてないからね。

谷津　勝って勝って闘う魂を育てていった、と。

山本　そう。中学生のときも一回負けただけ。高校でもアメリカ留学中に最初に負けただけで、あとは全部優勝だからね。

谷津　そうなんですか。

山本　もちろん、大学になるとレベルも上がるから勝ったり負けたりだよ。それでも大学選手権とか、あるいはインカレとかは勝ってるし、全日本も優勝はできなかったけど大学4年で2位だからね。それだけのものを持ってるから、闘う気持ちと魂

が凄く大きい。試合になったって絶対ビビらないしね。

谷津　山本郁榮流の教育論だよな。

お近づきの印に今度は酒でも飲みに行きましょう！（谷津）

が凄く大きい。試合になったって絶対ビビらないしね。

谷津 まあ、ＫＩＤくんはビビりはしないよね。

山本 そうやって作り上げなきゃ魂はできないの。その魂は初めからできてるわけじゃないから。徳郁は大和魂って（タトゥーを）入れてるよね。

谷津 いっぱい入ってますよね（笑）。

山本 うん。徳郁はね、いつも殺すぐらいやるっていう感覚を持って試合に臨むわけ。

谷津 毎回そんな感じだよね。

山本 それと徳郁はいつも相打ちになるじゃない？　追っかけて打ったって相手は倒れないわけ。だから、相手が来ると同時に、「俺のほうが速い。確実に当てられる」っていう自信を持ってるから。だから逃げずに向かい打って、自分が当てられるんですよ。この闘う魂っていうのは即席ではできない。そこが徳郁とほかの選手の大きな違いなんじゃないかな。

谷津 魂は大事ですよね。英語でいうところのハートがついていかないとダメだよね。

山本 そのとおり！　そういうことを僕は5歳からずっと教えてきたんだから。

谷津 そこまでいくともう特殊教育だね。特殊学級じゃなくて特殊教育だよ（笑）。

山本 そうだよ。徳郁も美憂も聖子もそうやって育ててきたからね。

谷津 山本郁榮流の教育論だよな。山本ファミリーじゃなきゃついていけないだろうけど（笑）。

山本 間違いないね。僕もそう思う（笑）。

――郁榮さんの教育論の一つとして、小さい頃から大きなものしか与えなかったっていう話がありますよね。そのサイズに合うような人間になってほしいということで。

山本 そうなんだよ。与えるものは、すべて大きいもの与える。レストランに行っても大きくて天井の高いところ。ガンダムのオモチャでも一番大きいものを買ってあげたりね。

谷津 なんでも買ってあげるんですか？

山本 もちろん、そんなのしょっちゅうじゃないよ。試合に勝ったときにしかやらないんだから。

谷津 飴とムチですよね。子どもっていうのはちょっとしたことで喜んだりするし。やっぱり教育者って心理作戦ですよね。

山本 そのとおり。やっぱりね、ほめながら、厳しくしながらね。そうやってバランスよくやっていかないと。

谷津 人間は生きてるからね（笑）。

山本 そう。嫌なことばっかり言ったりやったりしたら伸びないよ。基本はほめる。ほめ上手だとけっこういい指導者になれるね。

谷津 甘やかすとはわけが違うんですよね。

山本 甘やかすのはダメ。厳しさがあるんだけどほめる。これが大事ですよ。僕なんかはそうやって育ててきたし、そのスタンスはこれからも変わらないね。

谷津 まだまだ山本郁榮の教育論はいくらでも続きそうな勢いだね（笑）。

山本 まだまだ、いくらでも話すよ！

谷津 もう自分の子どもだけじゃなく、孫にまで教えてるっていうんだから凄いですよ。

山本 孫が7人いるから、あと20年は教えていかないとね（笑）。

谷津 やっぱ、凄いよな、情熱が。山本ファミリーで一番優しい顔してるのに、じつは一番凄くて一番狂犬なのかもしれないな（笑）。

山本 そうかもしれない（笑）。

谷津 まあでも、グレイシーじゃないけど、郁榮さんが山本ファミリーの創始者だからね。そういう意味ではＫＩＤくんなんかよりもはるかに危険な人物であることは間違いない！

山本 ワハハハハハ！

谷津 でもマジメな話でまとめるとすれば、山本先生のおっしゃってることっていうのはスポーツを通じてるけど、すべて教育論ですよね。

山本 そうだね。

山本 スポーツで英才教育をやってるけど、それも最終的には人生の教育論というか。非常に勉強になりますよ。

山本 やっぱり人間はね、誰でも教えて育てるんだから。

谷津 それが〝教育〟ってことですよね。

山本 そう！　たまたま僕の職種は教員であって、谷津さんは実業家でありプロレスラー。

谷津 まあ、最近はあんまりプロレスはやってませんけども（笑）。

山本 でも、どんな職種であっても人を育てるんだから同じなんだよ。方法論が違うだけ。僕らは身体で教えたり、本読んで「こうだよ」って教えるだけでしょ。そっちは実践だから。

谷津 なんかいろいろと話を聞いてると、より山本郁榮に近づいた感じがするな。いままでは会っても、「おうっ！　元気？」ぐらいの感じだったけど、こうやって話を聞いたのは初めてじゃないですかね？

山本 そう。初めてだよ。

谷津 酒かなんか持ってきたらよかったな（笑）。一回行きましょうよ。お近づきの印に。

山本 いいねぇ。

谷津 話も合うと思うんですよ。

山本 なんの話題でも合うよ！

谷津 引き出しもいっぱいありますから（笑）。

山本 こっちから引き出してさ、あとはパズルのように合わせればいいんだから。

谷津 そうですよね。ＫＩＤくんや娘さんよりも合うと思う（笑）。

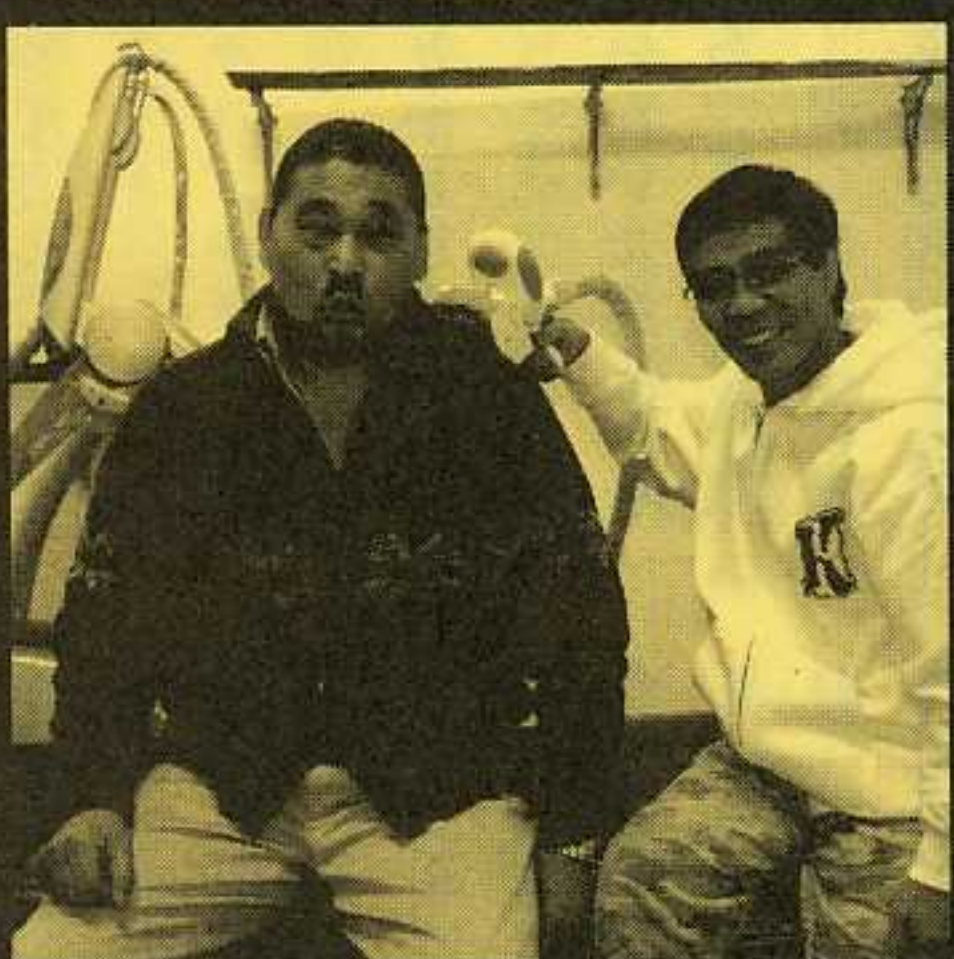
山本 じゃあ、次は朝までだな（笑）。

谷津 お手柔らかにお願いします！（笑）。

【09年3月7日／都内・『YSA』にて収録】

やつ・よしあき■1956年7月19日、群馬県出身。レスリングでモントリオール五輪出場。80年のモスクワ五輪は代表に選ばれるも日本が不参加だったため幻に。その後、鳴り物入りで新日本プロレスへに入団。新日離脱後は全日本やSWS、WJなど、さまざまなリングで活躍。現在は某有名企業関連会社の社長さんでもある。186cm、110kg。

やまもと・いくえい■1945年2月17日、愛知県出身。高校時代まではバスケットボールや剣道で活躍。大学入学後に始めたレスリングでは、全日本選手権で3度優勝、72年のミュンヘンオリンピック出場の経験を持つ。現役引退後はコーチ業はもちろん、テーピングの普及から日本体育大学の教授など、幅広いジャンルで精力的に活躍中。

KIDパパも熱血指導！ YSAに超秘密兵器を導入!!

郁榮さんが代表を務めるYSAでは、この春より郁榮さんが自信を持って開発(?)したメタボ解消マシーンが登場するぞ！女性はもちろん、メタボに悩む男性にも効果てきめんだというこのマシーン。詳細は4月1日開催のYSA一周年セレモニーで発表されるとのこと。お楽しみに！

仕事も遊びも100パーセント!?
KIDの“ヤバさ”をこの男に直撃!!

KIDさんはタダの天才ですから!

KRAZY BEEの特攻隊長

朴光哲

ぼく・こうてつ■1977年5月27日、静岡県出身。01年にアマ修斗で優勝し、プロデビューへ。04年に環太平洋ウェルター級トーナメントに優勝し、05年には『HERO'S』に参戦。エルメス・フランカやアレッシャンドリ・“フランカ”・ノゲイラを撃破した。現在はKID率いるKRAZY BEEに所属し、“天才”とともに修行中。

フェザー級GP参戦への期待が高まるKIDだが、あらためてKIDはいったい何が凄いのかを教えてほしい! そんな方のために、KID率いるKRAZY BEEに所属する朴光哲にそのヤバさを聞いてみた。やっぱり神の子は仕事も遊びも100パーセント凄かった!

聞き手／松下ミワ　試合写真／乾晋也

――さっそくですが、朴さんとKID選手の付き合いってどんな感じでスタートしたんですか？

朴　一番初めは、クラブかどっかで会った気がしますね。

――あ、試合会場とかじゃないんですね。

朴　共通の知り合いがいたんで、その人に紹介してもらって。でもまあ、当時ノリさん（KID）は修斗に出始めの頃だったから俺は知ってたんですけど、そのときは挨拶した程度でしたね。

――第一印象として、どんな感じの人でした？

朴　えーっと、まあ……。

――なんか話しにくい話題でした？

朴　いや……、『kamipro』の取材だから言葉を選ばないと何書かれるかわからないなって。

――何を言ってるんですか！　おおいなる誤解ですよ（笑）。

朴　でもまあ、ちょっと怖かったですけどね。オーラもありましたし。いまよりもちょっとトゲトゲしてる感じでした。イケイケ感は凄く伝わってきたけど、ただ優しかったのも覚えてます。

――それを機に距離が近くなっていったんですね。

朴　単純に遊ぶ場所がカブってましたから。俺もノリさんも遊ぶのは渋谷だから、そこで頻繁に会ってくうちに仲良くなりましたね。そうしてるうちに、やっぱり同じ格闘家だから一緒に練習しよう的なことになって、俺が出稽古に行くようになったんですよ。

――そのとき朴さんはK'zファクトリー所属だったんですよね？

朴　そう。ただ、俺にとってKILLER BEE（現KRAZY BEE）は環境がよかったんですよ。当時、自分に足りなかったのはレスリング力だったんですけど、ノリさんのジムには山梨（学院大）のレスリング部出身の選手がいっぱいいたんで。

――そっから拠点を移した、と。

朴　移るまではけっこう時間がかかったんですけど、ノリさんも凄くよくしてくれてたし、両方のジムに八方美人みたいになったらどっちにも申し訳ないなと思ったんで、それで移籍しましたね。

――KID選手と一緒に練習してみてどうでした？

朴　いや、衝撃的に強かったは覚えてますね。……あ、思い出した。初っぱな行ったときは、まあヤキじゃないけど、やられましたね（笑）。「パウンドの練習しようぜ」って言われるんですけど、おもいっきりガンガン打たれるんですよ。まあ「ウチで練習するってことはこういうことだよ」という態度だったと思うんですけど。

――要するに、KID流の〝歓迎の儀式〟なんですね。

朴　当時もそう捉えてました。ただ、けっこう凄かったなあ（しみじみと）。俺はそこまでなかったけど、（山本）篤は失神してましたから（笑）。

――そんなに本格的に！

朴　俺はそのとき現場にいなかったんですけど、話を聞く限りでは篤のは凄かったらしいですよ。まあでも、「ここにいたら強くなるな」って思いましたね。

――ずっと一緒に練習してる朴さん

にとって、KID選手の凄さってどういう部分に感じます？

成功するかといったら、そうじゃないんですよ。みんなノリさんが成功

すか！

朴　そのくらい特別ですよ。

ったりしないんですよ。俺らはコンディションがよくなくても遊びに行

ないですよ。あの人が「挨拶ねえな」とか、礼儀に対して文句言ったの聞

『HERO'S』70キロトーナメントもノリさんは62、63キロでしたからね

にとって、KID選手の凄さってどういう部分に感じます？

朴 うーん。何って、練習どうこうよりも、早い話がノリさんはタダの天才ですからね。

——タダの天才！ 具体的にどういう意味なんでしょう⁉

朴 だって『HERO'S』のトーナメントのときも、70キロ契約だったけど、ノリさんは62、63キロでしたからね。

——そうだったんですか⁉

朴 ぜんぜん足りなかったですね。その63も、水とか超飲んで増やしてたと思うんですよ。でも、次の日になったら70キロの選手も70キロじゃなくなるじゃないですか。だから試合のときはやっぱ外国人選手だったら10キロ以上は差があったと思うんですよ。

——うわ〜。笑っちゃいますね。

朴 だからあの人とまったく同じように練習しても勝てないし、要するにあの人はマイペースなんだけど、結局やっぱ一個アタマ飛び抜けてるんですよ。センスが違う。細かく言ったら、スピードとかパワーとかそういう話になってくるけど、それはすべてセンスですから。

——それってやっぱり山本ファミリーの血筋だと思います？

朴 ま、英才教育の成せる業ですよね。ただ、ノリさんよりレスリングで実績がある選手が総合に転向して成功するかといったら、そうじゃないんですよ。みんなノリさんが成功してるからってレスリングの選手を引っこ抜いて総合格闘家として投資してたけど、いまいち開花しないでしょ？

——まあ、KID選手級の実績を期待するのはちょっと酷ですよね。

朴 だから、確かにレスリングのバックボーンは総合をやるにはデカいんだけど、ノリさんの場合、バックボーンがレスリングじゃなくても関係ないんですよ。たとえば、バスケットとか水泳から総合格闘家に転向してても、いまみたいになってただろうなって。

——要するに、総合格闘家としての才能ということですよね。

朴 だからレスリングに強さの秘密があるんじゃないかと思ってたら、それはノリさんの場合は違いますね。

——でも、そういう才能を見せつけられると同じ格闘家として嫉妬しませんか？

朴 そこはもう割り切らないと。まあナンセンスな話になりますけど、才能だけで言ったらミルコとかシウバよりも上ですから。体格さえ恵まれてれば、ヒョードルとかよりも凄いと思いますよ。

——〝60億分の1〟を超える才能ですか！

朴 そのくらい特別ですよ。

——まあ、技術面もそうなんですけど、そういう並外れた才能の持ち主って考え方も飛び抜けてるじゃないですか。そのへんはどうですか？

朴 いろんな世界のトップ選手も普通じゃないって言いますもんね。まあ、そういう意味じゃ、何をやるにも100パーセントってのはありますね。たとえば、お酒を飲むときも100パーセントだし。

——KIDさんの100パーセント飲み会は恐ろしいですね（笑）。

朴 普通だったら夜から飲み始めたら遅くとも朝には解散するような感じじゃないですか。でも、ノリさんの場合は翌昼の12時解散ですからね。

——はー、よく身体がもちますねえ。

朴 周りはみんなウトウトしてるんですけどね。だから、たぶん50パーセントのコンディションで飲みに行ったりしないんですよ。俺らはコンディションがよくなくても遊びに行くこともあるけど、あの人はなんでもフルパワーになって行動する人だから。そこはスタミナが凄いですよ。

——そういう意味でのスタミナも。お酒の席ではどんな話で盛り上がるんですか？

朴 プライベートで格闘技の話はまったくしないですね。現場は現場、遊びは遊びで公私混同は絶対にしない。ほかのジムとかだと、ついついファイターが集まると技術的な話とかになっちゃうけど、ノリさんの場合はそこが不思議ですね。

——じゃあ、自分の格闘技人生についてしみじみと語り合うこともないんですかね。

朴 まあ、だいたいクラブなんで、音もうるさいしノリ重視ですね。でも一回だけ、あと10年ぐらいやるって聞いたような気がするなあ。けっこう最近だと思うんですけど。

——へえ〜。軽く40歳超えますね。

朴 まだまだ稼ぐって言ってましたよ。まあそういう話だと、俺も悩むときはあるけど、いつもいいアドバイスをもらってますし。あんまり考えすぎるなってことはよく言いますね。

——楽しくやろう、と。

朴 前向きにさせてくれます、確実に。たとえばネガティブな話題があったとしたら、ノリさんの場合はそのままでは終わらないですから。最終的には笑って「じゃあ、乾杯！」みたいな（笑）。

——頼れる大将なんですね。

朴 そうっすよ。でも、全然偉そうにしないし、上下関係も全然厳しくないですよ。あの人が「挨拶ねえな」とか、礼儀に対して文句言ったの聞いたことないですもん。周りが本当に尊敬してるから自然と若いコも礼儀正しくなるだけであってね。だって、内弟子と普通に彼女の話とかもしてますし。

——あ、そんな話を。朴さんも恋愛相談なんかされたりするんですか？

朴 まあ、しますよね（照）。ノリさん、結婚してるし、そういう意味では大先輩なんで。

——そうですか（笑）。朴さんは、そういうKID選手の弱い部分って見たことあります？

朴 ああ、あの人がこだわってるとすれば、そういう面を人に見せないことじゃないですか？ そこはポリシーがありますよね。自然なのか、意識してるのか。

——朴さんはどっちだと思います？

朴 そう決めてるんでしょうね。凄く近い人間にも見せないという意志を感じますよ。弱音を吐いてるのを見たことないし。去年、靭帯切ったじゃないですか。

——ちょうど出場を予定してた『DREAM・5』の直前したよね。

朴 俺も昔同じように靭帯を切ったことあって相当落ち込みましたけど、あの人はそういう姿はまったく誰にも見せなかったですね。それは他人が思ってるより凄いことですよ。

——なるほど。でも、何がそうさせてるんですかね？

朴 さあ〜。でも、そういう意志の強さもやっぱり100パーセントなんじゃないですか。

【09年3月5日／都内・KRAZY BEEにて収録】

05年に行なわれた『HERO'S』ミドル級(70キロ)トーナメントで優勝をはたしたKIDだが、まさか63キロ弱で闘ってたなんて……。軽量級でこの体重差は致命的なはずだが、やっぱり天才には常識は通用しないのだ!

――今回、格闘技ライターやグラップリング&柔術界のスーパーバイザ

希が入って大ブレイクしたんですけど、それはPRIDEにとっては桜

う手法はUFCのリアリティショーに近いんですけどね。

例もいくつかありますけど、桜庭やヒョードルやミルコみたいに絶対エ

レビはCS放送で週5回で、地上波は週イチで放送されてます。あとは

恋のダンスサイト

モーニング娘。

Produced by つんく

モーニング娘。

泣いちゃうかも

PRODUCED BY つんく♂

モー娘。がPRIDEでハロプロはUFC!?

ファンや成り立ち、コンセプトまで

こんなに似ている アイドル業界とMMA

人気アイドルグループを通してフェザー級GPを考える

アイドルファンとプロレス&格闘技ファンは何かと共通点が多いことで知られていますが、じつはファン気質以外にも、その成り立ちやコンセプトなど、ジャンル自体にも大きな共通点があるんです。そんなわけで、今回は格闘技ライターにして、最近アイドルライター仕事も始めた橋本欽也氏に、DREAM、『戦極』でスタートしたフェザー級と人気アイドルユニットの不思議な関係など"アイドルとMMA"をテーマにいろいろと語ってもらいました!

聞き手／阿修羅チョロ

PRIDEとモー娘。はブレイクも低迷もかなりかぶっている

——今回、格闘技ライターやグラップリング&柔術界のスーパーバイザーとして活躍されながら、かなりのアイドル好きとしても知られる橋本さんに、アイドル業界と日本のMMA事情というテーマで話をうかがえればと思ってるんですけど。

橋本 いろいろと共通点は多いですからね。格闘技ファンとアイドルファンもかなりかぶってるところもあるし、グラバカの山崎剛選手やブラジリアン柔術の世界王者の佐々（幸範）なんかも自分と同じくアイドリング!!!好きですから。

——そうなんですか（笑）。橋本さんがハマっているアイドリング!!!の話はのちほどうかがうとして、アイドル事情に詳しくない僕レベルの知識だと、ここ最近はモーニング娘。をはじめとしたハロープロジェクトの勢いが落ちてきているっていうことぐらいしか知らないんですけど。

橋本 かつての隆盛はないですね。MMAとの共通点で言えば、モー娘。っていうのは、よくPRIDEなんかにたとえられることがあって、コンサートとかも、さいたまスーパーアリーナが聖地だったっていうのもPRIDEと一緒だし、ブレイクしたのもPRIDEと同じぐらいの時期ですからね。

——時期的にはちょうど一緒ぐらいですよね。

橋本 モー娘。は99年9月に後藤真希が入って大ブレイクしたんですけど、それはPRIDEにとっては桜庭（和志）がブレイクしたのと同じぐらいのタイミングで。あとはやっぱり、PRIDEとモー娘。がブレイクしたのにはテレビの力も大きかったと思うし、スキャンダルで低迷していくというのも時期的にかぶってるって言えるかもしれないし（笑）。

——そこも一緒ですか（笑）。

橋本 ただ、モー娘。がブレイクしたのはテレビ東京の『ASAYAN』でのオーディションだったり、その後の成長過程を毎週ドキュメンタリーみたいに流したからで、そうやってキャラとかを認知させていくっていう手法はUFCのリアリティショーに近いんですけどね。

——UFCにおける『TUF』のような感じでドンドン知名度を上げていったわけですね。

橋本 そうですね。それを観てファンとかは感情移入して、「なっち、頑張れ！」「ごっちん、頑張れ！」みたいになって応援していった、と。そういうのが相乗効果となってブレイクしたんですよ。

——それから数年してPRIDEはなくなってしまいましたけど、モー娘。も以前のような人気はなくなってきている、と。

橋本 そうですね。モー娘。だけでは求心力がなくなってきて、ハロプロは『武士道』みたいにいろんなユニットを試行錯誤しながらやっていくようになった、と。もちろん『武士道』での五味隆典みたいにブレイクした例もいくつかありますけど、桜庭やヒョードルやミルコみたいに絶対エースっていうのがなかなか生まれなくなってきたんですよ。もちろん、時代的な背景もあるんでしょうけど。

——現状のアイドル事情をMMA業界にたとえるなら、どういう状況なんでしょうか？

橋本 それこそ、アイドル業界も3月から始まるDREAMと『戦極』のフェザー級GPみたいに、単体でのスター選手はなかなかいないので、知名度はまだまだの選手を集めてユニットで売るしかない、みたいな状態ですね。

——単体よりもユニットで勝負だと。

橋本 まあ、それ自体はモー娘。もそうだし、古くはおニャン子クラブやチェキッ娘とかと同じ手法なんですけど。で、その中で俺も一押しのアイドリング!!!と、あとはAKB48（エーケービー・フォーティエイト）という二大グループが人気がありますね。

——アイドル事情に詳しくない人にもわかるようにアイドリング!!!というのはどういうユニットか説明してもらえますか？

橋本 アイドリング!!!っていうのは「フジテレビが最も力を入れている番組」「フジテレビが総力を挙げてプッシュしてるアイドル」という触れ込みの番組ありきのグループですね。テレビはCS放送で週5回で、地上波は週イチで放送されてます。あとは映像配信のオンデマンドでも観ることができますね。けっこう成り立ちは複雑なんですけど、フジテレビにデジタルコンテンツ部っていうのがあって、そこが大きく関わってるアイドルグループなんですよ。

——フジテレビ発のアイドルグループですか。

橋本 そうです。アイドル育成番組として始まった企画で、スタートしたときは新聞にでかでかと一面広告が出たんですよ。「フジテレビは本気です。本気でアイドルを育成します」って。それでオーディションをして集まったのが始まりです。

——モー娘。のように最初は素人集団だったんですか？

橋本 中には売れないアイドルグループにいた人とか、大阪とか活躍してたローカルアイドルもいますけど、基本的には素人に近い人たちばっかりです。でも、ド素人というわけではなく、どっかの事務所に所属してた娘たちが集まってできたグループで。それこそZSTだったり、DEEPで活躍してた選手が今回のフェザー級GPで集まったみたいな感じですよ。

——なんとなく理解できました。

橋本 フェザー級GPとかもアマチュア上がりは出れないじゃないですか。ZSTだったり、修斗だったり、いろんなところで活躍してた選手がほとんどで。そういう意味では、メジャー団体をハロプロとすれば、それ以外のプロモーションを経験してる人たちが集まって始まった、みたいな感じですね。

はしもと・きんや■1973年1月9日、東京都出身。格闘技関連の原稿から各種大会のサポート、指導や外国人選手のブッキングから翻訳なども行なう、自称・柔術&グラップリングのスーパーバイザー。その一方、趣味が高じて始めたアイドルライター業が最近は楽しくてしょうがないらしい。アイドル三昧の日常も垣間見れるブログはコチラ→ http://www.kakutoh.com/pc/blog/hashimotokinya/

—スタートの段階では魔裟斗であったり、山本KIDのような飛び抜けたスター選手はいないわけですね。

橋本 全然いなかったですね。けど、その中から結果的に魔裟斗やKID……まではいかないけど、エースは生まれてるわけですよ。

—ちなみにアイドリング!!!のエースはなんという方なんですか?

橋本 エース、というか一番ファンが多いのは客観的に見て横山ルリカで間違いないでしょうね。それに次ぐ人気を誇るのは純粋ベトナム人のフォンチー、それにGカップの巨乳を誇る谷澤恵里香ですね。あとまいぷる(遠藤舞)にとんちゃん(外岡えりか)も根強いファンがいる。2期生の中では戦隊モノに出演してるすぅちゃん(森田涼花)が人気急上昇中です。

—ま、まいぷるにすぅちゃんですか(笑)。AKB48っていうのはどういう成り立ちなんですか?

橋本 AKB48は、秋元康が作った毎日会いに行けるアイドルです。グループ名のとおり、メンバーは基本的に48人前後います。

—48人も!

橋本 秋葉原にAKBシアターっていうのがあって、そこで毎日公演をやっている、と。ちなみにその劇場はドン・キホーテの上にあるんですけどね(笑)。

—そこは『戦極』チックですね(笑)。

橋本 で、AKBができた2005年は、まだモー娘。にもパワーがあったんですけど、いまはいろんな意味で逆転してますね。アイドリング!!!よりもCDのセールスとかは上ですから。

—〝打倒モー娘。〟ぐらいの勢いで結成されたユニットなんですか。

橋本 完全にそうです。モーニング娘。というかハロープロジェクトはつんく♂プロデュースですけど、AKBっていうのは秋元康プロデュースですから。で、ここでまたアイドリング!!!の話に戻ると、アイドリング!!!はフジテレビの番組から生まれたんですけど、いままでのフジテレビでやってた『オールナイトフジ』や『夕やけニャンニャン』も、あとはチェキッ娘なんかも全部、秋元康が絡んでたんですよ。

—秋元康といえば、かつてはジャパン女子プロレスのアドバイザーをやったりとかもしてましたね。

橋本 やってましたねぇ(笑)。でも、アイドリング!!!っていうのは、それまで連綿と引き継がれてきた秋元康プロデュースじゃなくて、門澤(清太)さんというフジテレビの番組プロデューサーが手がけてるんですよ。で、

どっちが『戦極』で どっちがDREAM!? 二大人気アイドルグループ紹介

AKB48とは?

秋元康完全プロデュースで05年に誕生した女性アイドルグループ。秋葉原にある専用劇場「AKB48シアター」で、ほぼ毎日公演を行なっていることもあり、コンセプトは「会いに行けるアイドル」。グループ名はホームグラウンドのアキバ(AKiBa)と「office48」社長の芝幸太郎氏の芝(=48)から名付けられた。メンバーは一期生のチームA、二期生のチームK、三期生のチームB、チーム研究生などチーム分けされているのが特徴の一つ。

アイドリング!!!とAKBはMMAではできないことを始めたんです

AKBはフジテレビじゃなくて、日本テレビで毎週深夜ですけど『AKIBINGO!』って番組を持ってるんです。

—へぇ〜、そうなんですか。

橋本 そういうライバル関係でもあるんですけど、アイドリング!!!とAKBは、日本のMMA界ではできないようなことをやり始めたんですよ。

—えっ、それはどういうことですか?

橋本 秋本康が手がけたAKBとアイドリング!!!が合体して〝AKBアイドリング!!!〟っていうユニットを作ったんですよ。

—DREAMと『戦極』が合体したような感じですか?

橋本 簡単に言うとそうです。ちょっと前で言ったら、『HERO'S』とPRIDEが合体してDREAMになったみたいな。

—DREAMと『戦極』の合体は政治的なモノもあって実現は難しいでしょうけど、アイドル業界では実現しているんですね?

橋本 そうなんですよ。「えっ、ヴァルキリーとジュエルスが一緒にやるの?」みたいな感じで(笑)。

—橋本さんも関わってるジョシカクにたとえるとそんな感じですね(笑)。なぜ、アイドル業界はそれが実現できたんですか?

橋本 詳しくはわからないですけど、いろいろと理由はあるみたいですね。以前、プロデューサーの門澤さんが話していたのは、ここ数年、『紅白歌合戦』にはモーニング娘。がずっと出てたわけですよ。『紅白』っていったら日本の国民的な番組ですけど、毎年のように出ていたモー娘。が去年は出なかったんですよ。で、07年の『紅白』にはモー娘。と並んでAKBも出てるんです。

—AKBは『紅白』に出てるんですね。

橋本 でも、ぶっちゃけ、いまは格闘技業界と同じようにアイドル業界も元気がないわけです。そういうのもあって秋元康を中心に「アイドルの火を消してはいけない」ってことで、いま頑張ってるアイドリング!!!とAKBを合体させて〝打倒モー娘。〟のような感じでやっていこうという理由からなんですよ。

—その合体についてファンはどういったリアクションを?

橋本 やっぱり、アイドリング!!!のファンからしたら「なんだよ、AKBって。一緒にするんじゃねえよ!」みたいなのがあると思うんですよ。

—DREAMができたときも、拒否反応を示したPRIDEファンはかなりいましたからね。

橋本 正直、アイドリング!!!とAKBじゃ、知名度ではAKBがちょっと上だっていうのをわかってるから、「何くそ」っていうのがあるんですよ。もちろんAKBのファンでもおもし

こんなに似ている アイドル業界とMMA

パフュームはたとえるなら修斗みたいな感じですかね

ろくないって思ってる人もいると思いますけどね。

——その合体によって、アイドル業界的には起爆剤になりそうな雰囲気なんですか?

橋本 ファンの気持ちの複雑さを置いといて、世間一般からしたらそうでしょうね。だって、AKBとアイドリング!!!の違いなんてほとんどの人はわかんないでしょ。それこそDREAMと『戦極』の違いだってそうだろうし。でも一緒にやれば「なんか凄そうだね」とか「一粒で二度おいしい」みたいな感じがするじゃないですか。

——確かに(笑)。

橋本 いまモー娘。というかハロプロが落ちてきてる中で、これまでライバルとして交わってなかったアイドリング!!!とAKBが交わった、と。それにはいろんな大人の事情もあったと思うんですよ。

——いろいろとあるでしょうね。

橋本 アイドリング!!!だって、尾木プロだのホリプロだのいろんな事務所から参加してるわけですよ。それはAKBも一緒で。けど、ハロープロジェクトっていうのはアップフロントエージェンシーっていう一つの事務所がやってるわけで。要はUFCをやってるズッファみたいなもんですよ。

——ハロプロはズッファ!(笑)。

橋本 だから、力を合わせて巨大帝国UFCを倒しにいくってことですよ! もういがみ合ってる場合じゃないってことで、『戦極』とDREAMが合体して打倒UFCで動き出したんですよ。ダナ・ホワイトふざけるな、と!

——そういうことでしたか(笑)。

橋本 いまのMMAってUFCの一人勝ちみたいな状態になってますけど、それに対して、アンチテーゼじゃないけど、「日本にもこんなのがあるんだぞ!」と。「日本も盛り上げていこうぜ!」って頑張ってるのがAKBアイドリング!!!なわけですよ!

——でも、AKBやアイドリング!!!の中でもUFC参戦を狙ってる人もいるんじゃないですか?

橋本 そんなもん認めないよ! ……まあでも、世代的にはUFCというかモー娘。に憧れた子たちばかりなんで、中にはいるでしょうね。

——それこそPRIDEを観て、自分もあそこに上がりたいと思った人たちが多いでしょうし。

橋本 そういう意味では、アイドリング!!!はその名のとおりアイドルになるための慣らし運転、準備期間中なわけですよ。

——アイドルプラス「ing」ってことなんですね。

橋本 そうなんです。だから、みんなアイドリング!!!の中にいて満足はしてないと思うし、ここで知名度を上げて次のステップに行こうっていうのは当然の話で。それこそフェザー級GPに出るような選手もそこに参加できたのに満足しないで魔裟斗やKIDになるような意識を持たないとダメでしょう!

——それはそうですよね。

橋本 いまのMMA業界はUFCが抜けてますけど、アメリカだって一時期はアフリクションだ、ストライクフォースだ、ボードッグだっていっぱいあったけど、ボコボコ潰れたりしてるところもあるじゃないですか? それってハロプロから出てきたカントリー娘。だの美勇伝とかいろんなユニットが解散したりしてるのと一緒で。そう考えるとハロプロっていうのはUFCっていうか、そのまんまアメリカのMMA事情なんじゃないですかね。

——またスケールが大きくなりましたね(笑)。アイドリング!!!とAKB以外にも、最近のアイドル事情で言うと、パフュームなんかもかなり人気がありますよね。日本武道館でのライブも成功させたみたいですし。

橋本 確かに人気はありますけど、俺はパフュームはアイドルだとは思わないんですよ。どっちかというと、いまはアーティストっていう意識が強いだろうし。たとえるなら修斗みたいな感じで「ウチは実力主義なんでアイドルと一緒にしないで」みたいな(笑)。

——なんとなくわかります(笑)。

橋本 アイドルの定義って人それぞれなんで難しいけど、俺個人としては、ファンと触れ合うというか、握手会とかやってるのがアイドルかなっていうのはあって。俺的には森高(千里)が出てきたのがアイドルの分岐点だと思うんですよ。

——確かに、森高さんが出てきたぐらいからグラドルとかバラドルとかアイドルも細分化されてきたようなイメージはありますよね。

橋本 いまは、樽ドルとか、鉄道アイドルの鉄ドルや歴史アイドルの歴ドルまでいますからね。もう格闘技界の細分化どころの話じゃないですから(笑)。

——鉄ドルに歴ドルですか!

橋本 パフュームも「私たちはアイドルです」って言ったらアイドルだと思うんですけど、それがアーティストを自称し始めたり、それこそアイドルのグラビア雑誌に出なくなった時点で、ちょっとアイドルとは認められないというか。世間の風潮的にはアーティストのほうがアイドルよりも上に見られがちだけど、俺はそんなことないと思うし。胸を張って「アイドルです!」って言ってほしいですよ。

——自分の職業に自信を持て、と。

橋本 ホントそうですよ。アイドリング!!!の曲で「職業：アイドル。」というのがあるぐらいですからね。格闘家と一緒で賞味期限は短いけど、アイドルも誇るべき仕事だと思うし。でも将来のことを聞かれるとだいたいが「女優になりたい」って言うんですよ。格闘家だって「ムービースターになりたい」って言う人が多いじゃないですか。

——多いですよね。実際に引退後に役者に転向する人も多いですし。

橋本 出世魚じゃないけど、昔はアイドルって言ってたけど、「これからはアーティストです」なんて言って。後藤真希だって、いまはアイドルな

アイドリング!!!とは?

橋本氏も大プッシュのアイドリング!!!は本文中でも触れられているとおり、06年10月にフジテレビ721のテレビ番組から誕生した女性アイドルグループ。最近では3月18日をもって加藤沙耶香、江渡万里彩、滝口ミラ、ミシェル未来の4名の卒業が発表され、現在は12人で活動中。各メンバーには「○号」とクジ引きで決められた号数がつけられているのが特徴の一つ。こちらのDVDを1名様にプレゼントします。143ページ参照!

アイドリング!!! in 石垣島
~アイドルっぽくないuRaの部分も見せちゃうング!!!~

こんなに似ている☆アイドル業界とMMA

んて言わないじゃないですか？　安室（奈美恵）ちゃんだってそうだし。「俺はスーパーモンキーズ時代を忘れねえぞ」って話ですよ！

――ガハハハハ！

橋本　あと“アイドル”っていうジャンルはおニャン子クラブが出てきて死んだってよく言われたりするじゃないですか。

――それはどういった意味ですか？

橋本　おニャン子ってアイドルの売り出し方を変えた部分があって。それこそ今回のフェザー級ＧＰみたいに、単体よりも多人数勢で売り出してブレイクしたわけじゃないですか。

――多人数の中から誰か飛び出してくるのを狙ったというか。

橋本　そうですよね。それと素人を使うっていうのも当時は斬新だったじゃないですか。その延長がモー娘。で。時代とともに単体アイドルとして売り出すのは難しくなってきて、テレビの中で育てられていくような数十年前のアイドルという形態はだいぶ前に終わってるわけですよ。

――それは言えますよね。

橋本　モー娘。だって、やっていくうちにゴマキだったり、なっち（安倍なつみ）だったりがブレイクしたけど、最初は単体で勝負できる人はいなかった。でも束ねることによってパワーが出る、と。それはフェザー級だって一緒だと思いますよ。

――主催者側もそこを期待している部分は大きいでしょうね。

橋本　全盛期の頃のＰＲＩＤＥなんて、誰vs誰を観に行くんじゃなくて「ＰＲＩＤＥが観たい」って感じがあったじゃないですか。そんな感じで「フェザー級はハズレがない」ってなる可能性だってなくはないと思うし。

――フェザー級はまだ未知数ですけど、カードは知らなくても「ＰＲＩＤＥが観たい」っていうＰＲＩＤＥファンが確実にいましたよね。

橋本　アイドリング!!!ファンだってそうですよ。もちろん、お気に入りのコはいますけど、たとえば、そのコが違う仕事の都合で今日の握手会には参加しませんって知ってても行くわけですよ。

――それでも行きますか！（笑）。

橋本　全然行きますよ！　そういう感覚ってアイドル好きにはありますから。それは格闘技ファンも共通してるところはあると思いますけど。

――ちなみにアイドリング!!!とＡＫＢの両方好きだっていうファンもいるんですか？

橋本　もちろんいますよ。そういう人たちは、格闘技好きと一緒で、“アイドル”が好きなんです。よくいるのが、日曜日は10時からソフマップで誰々ちゃんを観て、14時から誰々ちゃんを観て、最後はどこどこで何々ちゃんに会ってこようとかハシゴするようなファンもいますからね。それもけっこうな数が。

――パワーがありますねぇ。

橋本　だから、無理矢理まとめると、フェザー級ＧＰもＫＩＤなんかは客寄せパンダでいいと思うんですよ。ＫＩＤ目当てで観に行った人たちが、ＫＩＤの相手でもいいし、前座に出た人たちでもいいですけど、なんらかのインパクトを残せばファンは食いつきますから。それこそ日本のフェザー級なんてレベルは絶対に重い階級より高いし、スピードだってありますから。

――それは言えますよね。

橋本　ある意味、アイドリング!!!やＡＫＢのスタート時点なんかよりメンバー一人一人の実力は保証されてますからね。

――各プロモーションのトップだったり、チャンピオンクラスが出てるわけですからね。

橋本　ですよね。だから、フェザー級の強いけど知名度の低い選手たちが「俺たち、こんだけいい試合やってんだぜ！」っていう自己主張を見せられれば、負けたとしても出た価値はあるし、存在意義はあるし、充分ブレイクする可能性だってあると思うんですよ。

――可能性はありますよね。

橋本　それはアイドルも一緒で、最初はその他大勢でも、そこで自己主張ができれば必ず観てくれる人はいますから。アイドリング!!!もＡＫＢもそうだけど、ただいるだけのコは消えていくわけですよ。

――その座を狙っている人はたくさんいるでしょうし。

橋本　アイドルも格闘家も下を見たら死ぬほどいますから。秋葉原の路上で歌ってるようなヤツだってアイドルって言ったらアイドルですし、自称ストリートファイターとかだって格闘家としてバンバン試合に出てるじゃないですか。

――そういう大会もありますしね（笑）。最後にアイドルとフェザー級の共通の魅力が何かあれば教えてください！

橋本　これはフェザー級の選手に限らないけど、いまはアイドルも格闘家も身近感というかお手軽感があるんですよ。

――身近感にお手軽感？

橋本　だって、道場とか通えば直接指導とかも受けられるし、フェザー級は体格的にも身近感があるじゃないですか。アイドルだって一昔前は手の届かない存在だったのが、いまは握手会とかバンバンやってるし、ＡＫＢなんてハグ会とかやってるコもいますから。

――えっ、アイドルとハグできるんですか？（笑）。

橋本　そうなんですよ。プロレスラーとかもそうだけど昔はデカいとかルックスが怖いとか非日常感の魅力があったけど、いまは時代的に言ってもアイドルも格闘家も降りてきてますから。そのへんが一番の魅力だと思いますね。

――なるほど。いろいろと勉強になりました！

【09年3月3日／都内某所にて収録】

いまの時代、アイドルも格闘家も魅力は親近感やお手軽感！

どうなってるの？　アイドル誌の現状

80年代前半のアイドル誌と言えば『明星』（集英社。現・『Myojo』）と『平凡』（平凡出版。現・マガジンハウス。休刊）、80年代後半は『BOMB』（学習研究所）と『Dunk』（集英社。休刊）が有名である。現在のアイドル誌事情を聞いてみると、「男性向けのアイドル誌っていったら、いまでも『BOMB』が一番じゃないですか。あとは『スコラ』とか、テレビ雑誌の皮を被ったアイドルグラビア誌の『BLT』とかありますけど、アイドル誌もマット界と一緒で、『Dunk』とか『Momoco』、『ORE』とか、ここ10年ちょっとで休刊になったものが多いですね（橋本）」。う～ん、厳しい。お互い頑張りましょう!

魅力は親近感やお手軽感！

イドル〟が好きなんです。よくいるのが、日曜日は10時からソフマップで

ますから。アイドリング!!!もAKBもそうだけど、ただいるだけのコは

りました！

【09年3月3日／都内某所にて収録】

kamipro books

秋山成勲は、
悪質な反則野郎である。
チュ・ソンフンは、
悲劇の元・在日韓国人である。
どちらの姿も正しく、
そして正しくない。

魔王――。

日本からでは見えない真実。
韓国からではわからない事象の裏側。
韓国現地取材、証言構成によって、
〝ヌルヌル事件〟桜庭和志戦から
衝撃のUFC参戦まで――。
本書は魔王・秋山成勲の素顔に迫る
書き下ろしノンフィクションである――!!

全国書店にて4月2日(木)発売

魔王

秋山成勲

二つの祖国を持つ男

田中太陽 著

B6変型判 260ページ 定価=1,680円(本体1,600円+税)

魔王とオクタゴン

書き下ろしノンフィクションである――!!

秋山成勲UFC参戦!!
黒の選択を読み解け!

まさか! “魔王”秋山成勲のUFC参戦が決定した。
今夏にもオクタゴンデビューが予定されているが、その選択の裏側には
何があったのだろうか?　そしてマイケル・ジャクソンの復活とは
なんの関連性が?(何もなし)。総力特集で“黒”の魅力に迫る!

日本では無理だった……だが、

秋山は、アメリカなら“韓国人”になれる!!

音楽家にして文筆家

菊地成孔

ヌルヌル事件以降、秋山を日韓問題などと照らし合わせながら独自の視点から語ってきた“論客”菊地氏。今回、菊地氏がかねてから提言していた「秋山のUFC参戦」が突如実現!! 菊地氏はこの衝撃ニュースをどう捉えたのか、緊急直撃!!

聞き手／ジャン斉藤　大会撮影／乾晋也　会見撮影／平工幸雄

――今回は、秋山のUFC参戦に関してうかがいたいんですが、最初にニュースを聞いたときはどう思われました？

菊地　ワタシは『kami-pro』誌上を含め、そちこちで以前から「秋山はUFCに行ってほしい」と発言してきたんですね。しかも「できれば韓国籍で」と。

――ええ。おっしゃってましたね。

菊地　秋山は「韓国人になりたくて仕方ない日本人」ですから。だから、今回のニュースを聞いて「やったー」という気持ちでしたね。「韓国人としてオクタゴンに上がってほしい、上がるべきだ」というのは本気で思ってましたから。

――おもしろおかしく言ってたわけじゃない、と。

菊地　ただワタシ、コレよく経験するケースなんですが、ワタシがこういうことを言うと、言った瞬間はかねがね「ははは、おもしろいねえ」とか「アホか」とか「聞きたくもない」と言われまして（笑）。まあ、多くの方にとって積極的に考えたくもない話なのだな、と。ですから今回の痛快さはひとしおですね。

――実際、秋山も韓国代表みたいな気持ちは絶対にあると思うんですよ。

菊地　でも、UFCの選手紹介で〝KOREA〟とは出ないですよね？

――おそらく〝JAPAN〟でしょうね。

菊地　〝KOREA〟って出たら、もの凄く興奮して立ち上がってしまうと思います。日本でワタシだけだと思いますが（笑）。

――ただ、それすらも「やりかねないな」という部分もあるんです。

菊地　そんなんなったらPRIDEがなくなって以来、最も ヤバいニュースじゃないですか。

――そこは「韓国人として」じゃないとダ

メですか？

菊地　そうですね。でも日本人としてで

なる、と。

菊地　ええ。秋山はミドル級ですよね。ダ

ばならないんだ」って感じで。

菊地　もっとスポーツライクにやりたい

メリカンスクールに戻ったことになり、これまたバッチリですが秋山がアメリカ

秋山が韓国籍でUFCに出たなら日韓米の20世紀的バランスは崩れる

メですか?

菊地　そうですね。でも日本人としてでも全然いいですよ。ただ、ワタシはなぜか「秋山は一回だけPRIDEに上がった経験がある」と錯覚してたので(笑)。それだったら〝KOREA〟は無理だろうな、と思っていて。

——UFCオーナーのズッファ社はPRIDEの映像の権利も持ってますから、「PRIDEにいた日本人選手」と紹介されるのではないか、と。

菊地　でも、PRIDEに上がってないなら「韓国からのニューカマー」「韓国の大スター」と言われる可能性はゼロじゃないですね。とにかく感慨深いです。世紀の転換というか、20世紀が終わり21世紀がきて幾星霜ですけど。やっぱり前の年代って引きずるじゃないですか。93年くらいまで80年代だったりしてさあ。

——いきなり、パカッと変わるわけではないですね。

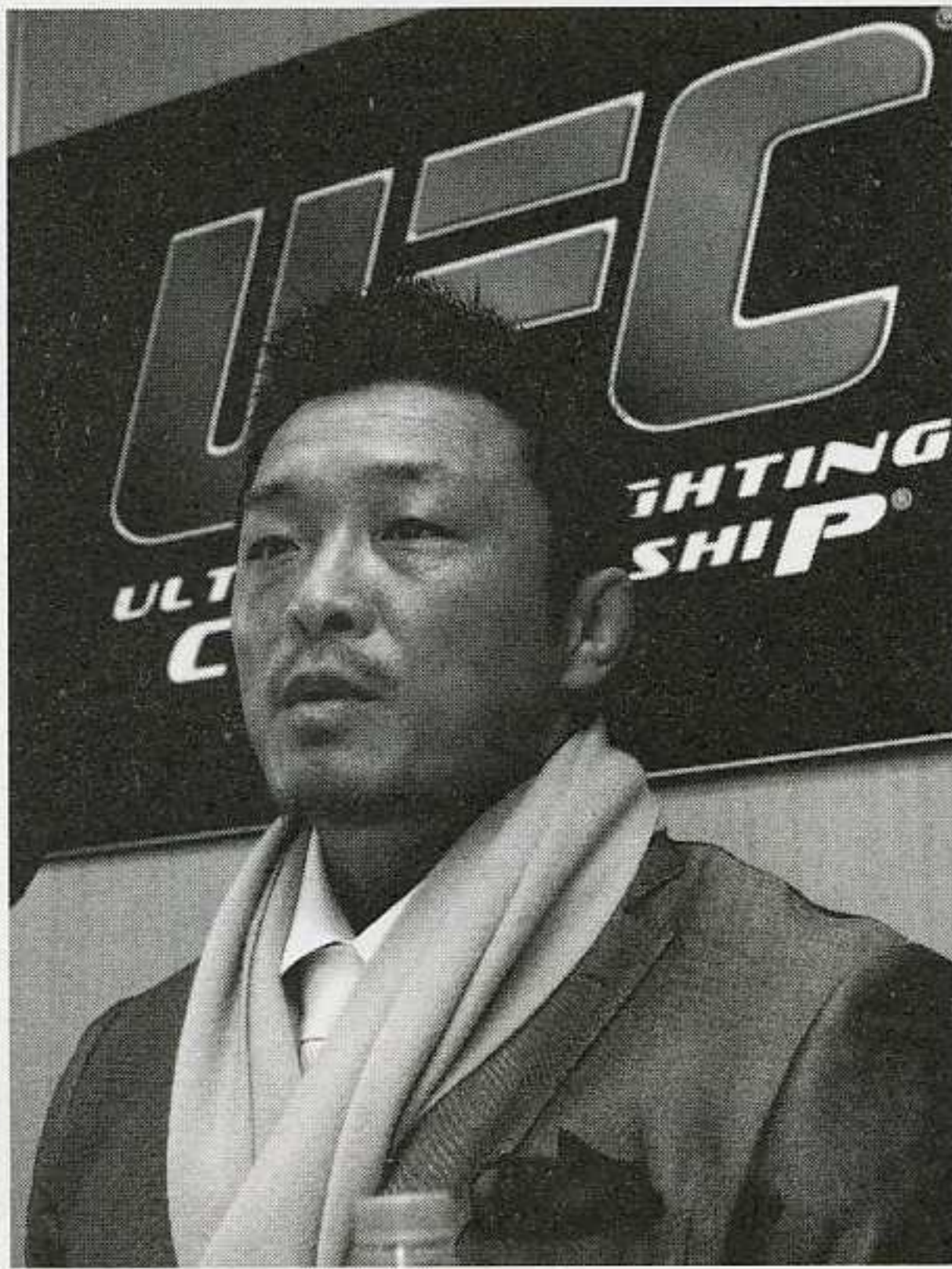
菊地　去年や一昨年ぐらいまで、「まだ20世紀」だったと思うんです。ワタシは「今年あたりから21世紀になるな」と思ってまして、秋山が〝KOREA〟としてUFCに出たら、あまりに鮮やかにそのことを示すことになりますよね。つまり格闘技興行ビジネスも含めた、日韓米三国のパワーバランスですが。仮に力道山をスタート地点とする、朝鮮戦争やらなんやらみんな含めたこの20世紀的なバランスが崩れますね。

——そのきっかけが秋山のUFC参戦になる、と。

菊地　ええ。秋山はミドル級ですよね。ダンヘンやヴァンダレイもいる階級で、チャンプはアンデウソン・シウバでしょ、これひょっとしたら勝ちますよ。

——王者間違いなしですか。

菊地　そこまで考えてもいいんじゃないですかね、景気よく。秋山はいま33歳、宇野(薫)と同い年ですけど。あ、宇野もUFCに行くんですよね? どうなんでしょう、それって。やはり「DREAMでは肩身が狭かった」ということなんでしょうか。

——おそらく「イジられたくない」って部分はあったでしょうね。もっと言えば「自分をさらけ出したくない」というか。だから、宇野さんは去年の石田(光洋)戦は相当プレッシャーだったと思うんですよね。「なんで因縁を引きずったまま闘わなければならないんだ」って感じで。

韓国でのUFC参戦会見で、「(韓国の)太極旗と(日本の)日章旗をつけて試合するつもり」「日韓両方の名前を使いたい」と発言した秋山。"魔王"の本当の狙いは?

菊地　もっとスポーツライクにやりたいわけですね。

——ええ。本人はプロレス好きを公言しているんですけど。

菊地　プロレスの外装だけが好きな感じね。「僕、こう見えてもプロレス好きなんですよ」という格闘技の選手にありがちな(笑)。まあ宇野には宇野の、秋山には秋山の「イジられたくなさ」があるんだろうけど。いずれにせよ「『HERO'S』と元PRIDEが大同団結」で「夢のDREAMカンパニー」と言ったところで、DREAMはPRIDE残党が運営してるかぎり本家と外様のヒエラルキーが存在するということですね。

——そこはファンもわかってますね。

菊地　そんな中、元『HERO'S』勢がこぞってUFCに行くのは健康的ですよ。あくまでワタシ個人はですが、しがみつき全般をよしとしません。「PRIDE残党によるPRIDEへのしがみつき」も気持ちはわかるがやめたほうがいい。とはいえ、そんなみみっちい感じも人間の属性ですし、それによって『HERO'S』勢は、集団転校生みたいな感じになったというか。

——所(英男)くんは、なじもうなじもうと頑張っている感じで。で、山本KIDは「いまだに登校してこない」みたいな(笑)。

菊地　基本、不登校ですよね。(笑)。

——学校に来たら「毎日、青木(真也)が騒がしくてしょうがない」「不良の川尻(達也)にはケンカを売られるし」っていう感じで(笑)。

菊地　宇野がUFCに行くのはどうしても出戻ったようなイメージになりますから、そのたとえで言えばもともといたアメリカンスクールに戻ったことになり、これまたバッチリですが秋山がアメリカンスクールにいきなり行くのは最高ですよね。日本人は出てきたニュースにじっくり距離をとって反応するから、いまは静観して秋山の初戦終わりでああだこうだ言うと思うんです。でも、秋山がDREAMでおかしな状態になってる段階から「UFCが一番いい」と言っていた身としては、もうこの段階で……(両手でオッケーのポーズ)。

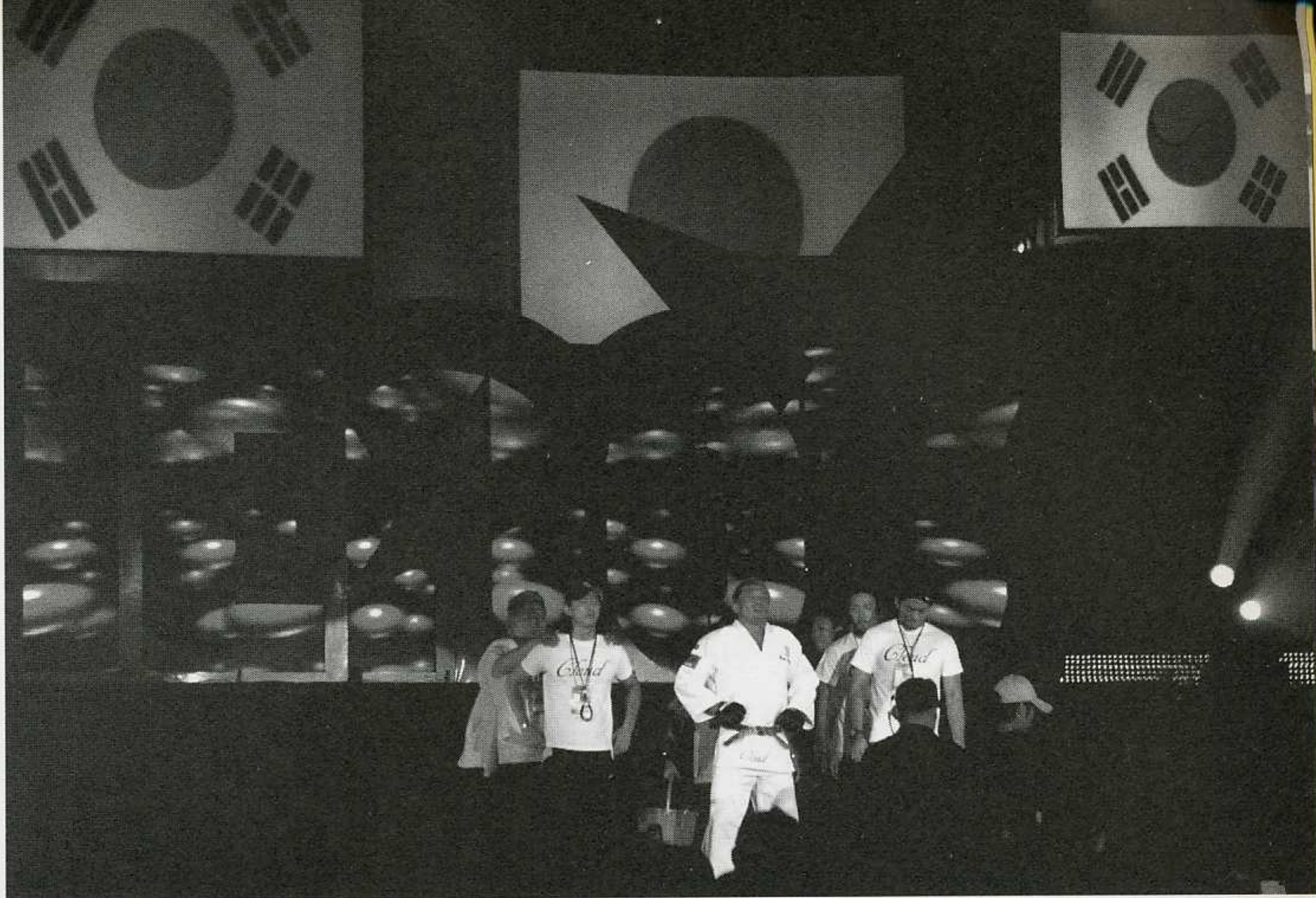
——このチョイスだけで上出来。

菊地　初戦がどうであれ、すでにこの発表段階で一勝あげているわけです。まあ、これは「秋山は日本では韓国人になれなかったが、アメリカでは韓国人になれるかもしれない」という物語ですから。なんて言ったらいいのか、とにかく21世紀です(笑)。

——秋山の行動は21世紀的ですか(笑)。

菊地　日韓米と言いましたが、その例のオバマ体制によるアメリカがあるわけですが、いまから言うことはあくまで見立てですから、こうした問題にデリケートな方はその点よろしくお願いしますが、秋山は日本人ですけど象徴的な意味でも表層的な意味でもカラード(有色人種)だったと思います。

——主流とは違う、異端的な意味でのカラードですか。

菊地　はい。肌を焼く人々の心性一般について分析するのはあまりに対象がデカすぎますが。とにかく秋山は日本人なのに、日本社会にずっと違和感があります。ヌルヌル事件以前から柔道を経て、いつの間にかプロ格闘家になってたあたりからそれが払拭できない、吉田(秀彦)とはまったく違う、ずっと続く違和感があっ

た。どうして違和感があるのか？　どんな違和感なのか？　それがはっきりしないという違和感までくっついてきた。いまそれをいま振り返ると「秋山はカラードだったんだ」ということで説明がつくと思います。非常に複雑ですが、在日韓国人が日本におけるカラードだ、とかいった話ではないですよ。「秋山の振る舞いと扱われ方は、アメリカ社会におけるカラードのそれだったのではないか？」という見立てです。

——アメリカ社会におけるカラードのような民族的違和感があった、と。

菊地　秋山は日本人だから、アメリカに行きゃあ普通にカラードなんだけれどもね（笑）。話が入り組みますがとにかくそう設定するとヌルヌル事件の「どんなことをしても勝つ」とか「恥を知れ」と言われても「恥はおまえらの社会文化だ、知ったことか」といった態度とか、マイケル・ジャクソン発言も含め、かねがね腑に落ちるんです。今回の渡米に関しても、やっぱりこれからのアメリカはカラードの社会だと言われますしね。

——オバマの登場で変革されそうですね。

菊地　秋山が「日本人の中のカラード」として不思議な違和感があったとき、まだオバマは大統領にも立候補もしていなかった。しかしオバマが立候補し、大統領に就任する過程で秋山はカラードとしての立場をドンドン確立して日本にはいられなくなって、ついにアメリカに行くわけです。この見立てでいくと、ねえ。

——他民族国家がベースのアメリカでこそ秋山は生きるんじゃないか、と。

菊地　単にリアリティレベルで言えばDREAMが外様を作って行き場がない中、とくにアクの強い秋山がUFCを選ぶというのは何もおかしくない。さらにリアリティレベルで考えを進めれば、UFCに行けば日本のファンの不必要な悪感情も避けられるというメリットもあります。秋山が国内にいても、マジョリティの旧PRIDEファン残党みたいな人がヒステリックに叩くって構図はいかんともしがたい。でも、アメリカ経由で秋山の情報が一度濾過（ろか）されて日本に入れれば「秋山が勝った、負けた」っていう単純なレベルで楽しめる。秋山観賞がよりクリーンでシンプルになります。洗浄よね、いわゆるロンダリングです。

——「マイケル・ジャクソン」と言ってるくらいですから。アメリカは似合いそうですし。

菊地　マイケルは先日ロンドンで、復活を宣言したばかりですし。ワタシのファンタジーの中ではですが、これはあきらかに秋山のUFC出場を受けての発表ですけど（笑）。その勢いを借りて、秋山がチャンプになったら相当凄いですね。日本人がチャンプになる以上に、韓国人がチャンプになるという意味で、いままで日韓米が築いてきた第二次世界大戦以降のクラッチは外れるでしょう。なんか、いつになく熱っぽいようになってますが、じつはワタシは恥ずかしながら、現在ちゃんと観ている団体はUFCとTHE OUTSIDERだけなんです（笑）。

——ワハハハハ！

菊地　DREAMも取材用PPVを見せてもらうぐらいですから。THE OUTSIDERは毎回、自費観戦してるんで。UFCとTHE OUTSIDERだけです。そんなんで『kamipro』でしゃべってていいのかと思いますが（笑）。

——大丈夫です（笑）。ただ、秋山がこのままDREAMとか『戦極』に行くより全然おもしろいな、と。

菊地　やっぱり秋山が日本にいるかぎりはマスでは何も語れないんですよ。ネットばっかりになっちゃう。

——確かに秋山には口をつぐみたいようなムードはありますね。

菊地　ただ、海外にいる秋山をWOWOW経由で語るぶんには口が堅くならないと思うんですね。これもファンタジックな見立てになっちゃいますが、いま日本の連続ドラマを韓国に一回流してからネットで観れるサイトがありますよね？

——PANDORA・TVとかの韓国の動画サイトですね。日本のドラマが翌日にはアップされてたりして。

菊地　ネットでは、みんな日本のドラマを韓国経由で観てますよね。インターネットが国際法と国内法との適用範囲をく

アメリカ経由で情報が濾過されれば秋山をもっと単純なレベルで楽しめる

日本人であり、在日韓国人4世であり、韓国に憧れる男という超異質な存在感の秋山だが、アメリカという世界有数の他民族国家のフィルターを通して、どこまで変質するのか?

ードのそれだったのではないか?」とい

ぐり抜けているという状況を利用して。んでまあ、韓国字幕がついてるんですね。

―基本は韓国向けですから。

菊地 あれは端的に21世紀の光景ですよね。日本のドラマを一律、再放送じゃなく、韓国のサイトで韓国字幕で日本人が観るわけですから。で、そこに秋山ですよ(笑)。

―ワハハハハ! 結びつけますね。

菊地 問題があれば一回外へ出したものを違う国経由で戻せばいいわけです。さっきも言いましたが、要するにロンダリングです。あの韓国の動画サイトを取り締まろうにも現行法ではお手上げなんですが、そこも秋山なんだよね(笑)。結局、動画サイトで一番、一般性が高かったのは『YouTube』でもニコニコ動画でもなく、「日本のドラマを韓国経由かつ韓国の字幕つきで観ることだ」と。

―そこに秋山がダブってくる、と。

菊地 はい。しつこいようですが見立てですよ(笑)。UFCはWOWOWで観れば日本語の解説がつきますけど海外の動画サイトで観たら、試合解説は英語になりますよね。「秋山は日本人なのか? 韓国人なのか?」って問題をはらんだまま英語で観るわけです。こんな奇妙な既視感を与えてくれる人はいないですよ。こういう豊潤な感じは青木(真也)には無理ですから。無理でいいんだけど(笑)。

―あと、UFCは試合後にインタビューがありますが、秋山は何語でしゃべるんでしょうね。英語はしゃべれないハズ

就任する過程で秋山はカラードとしての

だから、通訳を介すとしても何人の通訳を連れてくるのか?

菊地 そこは最大の注目じゃないですか。第一声が日本語か? 韓国語か? ではエライ違いですから。

―そこで、秋山の狙いが全部わかりますよね。

菊地 初期設定も全部決まるわけですね。ドキドキしますよ(笑)。

―しかし、ここ2年ほど秋山を題材に誌面を作って、「叩くほうも守るほうも矢がつきたかな」と思ったんですが。また新しい見方が生まれましたね。

これが韓国最大の動画共有サイト、PANDORA.TVだ! 08年には英語、中国語、日本語のサポートも開始。著作権の締めつけが厳しい日本のサイトを尻目に日本のドラマやアニメが韓国語字幕つきで続々アップされている。

UFCの試合後に何語でしゃべるのか? そこで秋山の初期設定は全部決まる

秋山をもっと単純なレベルで楽しめる

菊地 ホントに秋山は21世紀っぽいです。我々はこう、日に日にパラダイムがシフトしているのを実感しながら今日を生きているわけですが。

―アメリカでは車産業もメチャクチャですし、ハリウッドさえインド資本に吸収されそうですから。

菊地 オバマ就任だけをとっかかりに、「21世紀は世界的にカラードの時代だ」というのも、あまりに短絡的にすぎますけれども。「そういった流れになる」と言われるタイミングで、秋山がアメリカに行き、マイケル・ジャクソンが世界中に行く、というのはロマンティックすぎる見立てですけど相当おもしろいですね。

―そういう見方ができるのは、非常に贅沢ですね。

菊地 反復じゃなく、反復に似せた逆転という側面もありますから。たとえば、20世紀の偉大なレスラーであった長州力のこれまでのことを考えれば、秋山が当然のように180度逆サイドに向いていることが浮き彫りになりますよね。

―逆に韓国人であることを強く打ち出しそうですね。

菊地 在日韓国人4世なのにアメリカで韓国人になる、と。そのときの我々の神経の逆なでられ方は凄まじいものがあると思うんです(笑)。でも秋山的には韓国が大爆発すればいいわけですから。

―ええ。韓国受けするようなことは絶対にやると思いますね。

菊地 で、チャンプになって「いまのUFCミドル級チャンプは、秋山という名の韓国人だ」となったら、我々は何を どう考えていいかわかんない(笑)。いろんなパラダイムがシフトしまくっちゃって。

―価値観や常識がグチャグチャになりますね。

菊地 そんなことが起きたら、秋山への怒りを通り越して、「俺もシッカリしなきゃな」みたいな感じになると思うんですよね(笑)。

―自分を見つめ直すきっかけにもなりますか。あとUFCでは選手にニックネームをつけるんですけどなんになるのかなって。国籍を〝JAPAN〟にするなら、いっそニックネームを〝KOREA〟にしてほしいですけど。

菊地 ニックネームが〝KOREA〟で、名前が〝AKIYAMA〟で、国籍が〝JAPAN〟。これはもう、日本初のカラード文化の誕生ですよ。マイケル・ジャクソンの復帰と併わせて目が離せません。日本人がイヤなもんは観たくない、イヤなことは考えたくない、イヤなもんはひたすらイヤがるだけ、といった状態から逃れないかぎり、二人のマイケルにまくられると思います。

【09年3月2日/都内・菊地氏の事務所にて収録】

きくち・なるよし■1963年6月14日生まれ。音楽家、文筆家。ジャズ・ミュージシャン活動の一方、音楽、料理、ファッション等の著作多数。格闘技批評に『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍』(白夜文庫)。

あのヌルヌル事件から2年——

"怪物"を育て上げたトレーナーの告白

チーム黒船船長

山田武士

あの06年大晦日の一件以来、秋山のチーフトレーナーを降りている山田武士氏。世界最高峰の舞台に挑む秋山に対して、マット界きっての名伯楽はいま何を思うのか？ 誰よりも秋山のファイターとしての素質を評価する山田氏が、この2年を振り返りながらその心境を激語り！

聞き手／鈴木佑　試合撮影／乾晋也

山田　今日は秋山のこと聞きたいんだっけ？

——はい！　やはりヌルヌル事件まで秋山選手のトレーナーだった山田さんに、ここはぜひお話をと思いまして。まず、今回の一報はどのように知りました？

山田　本人から普通に聞いたんですよ。参戦発表があるとか噂になってたから、俺から「何、出んの？」ってメールしたら「出ます」って。

——あ、わりとアッサリした感じで。

山田　まぁ、いまは普段から付き合いはあるからね。こないだのDEEPの門馬（秀貴）くんの試合のときも一緒にセコンドついたし、秋山が外岡（真徳）選手と試合したときも俺は一緒だったし。ここ最近の練習は見てないにしろ、秋山本人やお互いがサポートしてる選手の試合当日とかはけっこうずっと一緒にいますよ。それこそ一緒に家から車で移動して会場入りしたりね。

——練習は別にして交流はある、と。今回のUFC参戦を聞いて率直にどう思いました？

山田　いや、おもしろいんじゃないですか？　俺はかたくなに言い続けてるけど、日本人選手として彼は持ってるポテンシャルがケタ外れだからね。こっちが全然教えてない蹴りとかも自然にできちゃったりするし。UFCで通用するかどうか以前に、弾けるような闘い方をする選手だから「この男は金網でやったらどうなるんだろう？」っていう興味はつきないよね。

——単純にルール面をはじめ、闘う環境が変わるわけですが？

山田　リングから金網になるけど、俺は広ければ広いほどあの男はやりやすいと思

うよ。技術的なことでいえば、よりフットワークが使えるわけだし。秋山はバックス

シングが専門なわけだし、秋山には「もし一緒にやりたくなったら声かけてよ」と

山田　困るどころじゃないよ（笑）。とにかく俺の人生の中でもあの2年前の出来

フに勝ったりしてるときには何も言われなかったんですよ。でも、結局あの事件が

秋山本人が俺を必要としているなら いつでも一緒にやる用意はできているよ

うよ。技術的なことでいえば、よりフットワークが使えるわけだし。秋山はバックステップもうまいから、相手が彼を捕まえるのは相当に厳しいんじゃない？　あの動物みたいな反射神経の男が、どんな動きすんのかなって。単純にスケールのデカい闘いをしてくれそうな気がするね。

――むしろ金網のほうが真価が発揮されるんじゃないか、と。

山田　俺はそう思ってるけどね。たとえばスタンドのヒジ打ちのテクニックをすぐに身につけるのは、けっこう難しいと思うのよ。でもテイクダウンしてからのヒジとかは、こっちから「ヒジだよ！」とか言わなくてもナチュラルにできると思う。

――金網ってリングに比べて圧迫感があるとか言われますけど、最初はそれで気持ちが揺らぐとかは？

山田　いやいやいや、揺らがないですよ、あの男は（笑）。デカい舞台になればなるほどイッちゃうタイプだと思う。

――イッちゃいますか（笑）。あの大晦日の事件以降も、山田さんは何度か秋山選手から指導をお願いされてたんですよね？

山田　そうだね。デニス・カーンとやったときは、一緒に韓国に行ってほしいって話もありましたよ。でも、あの事件をきっかけに、俺もボクシング協会にトレーナーとしてのライセンスを剥奪されちゃったりもしたしさ。

――え～!?　それは仕事柄、相当困ったんじゃ？

山田　困るどころじゃないよ（笑）。とにかく俺の人生の中でもあの2年前の出来事っていうのは良い面も悪い面も含めてデカかったよね……（シミジミと）。まぁ、ボクシング界としてもあそこまで騒ぎになると放っておけないってことでしょ。たぶんいろんなアンチ秋山の人間がコミッションに電話したんだろうし。ボクシング界にはボクシング以外の団体に上がっちゃいけないっていうルールがあるんだけど、基本的に（メルヴィン・）マヌーフに勝ったりしてるときには何も言われなかったんですよ。でも、結局あの事件が波紋を呼んで看過できなくなったっていうか。で、半年くらいして多少ほとぼりも冷めた頃にライセンスは復活したんだけど、デニス戦はちょうどその時期にあったんだよね。だから、またすぐにセコンドについてくれって言われても、俺も一人で生きてるわけじゃないし、それはちょっとっていうのは正直あったね。

――ライセンスが復活したのは秋山選手の指導は今後しないということで？

山田　そうだね。これ、いまとなっては笑い話なんだけど、デニス戦のときに俺にソックリな人がセコンドにいたらしいのよ。「山田は秋山を見ないって言ってたクセに韓国に行ってるじゃねえか！」みたいな（笑）。で、それが『格通』の読者投稿欄にも載って、またクレームがボクシング協会の大橋会長までいっちゃったんだよね。こっちも事情聴取みたいなことされたんだけど、俺は「パスポートとか全部見せますよ」って言って。結局、協会はビデオ検証までしてやっと俺じゃないことが確認できたっていう（笑）。

――それまたとんだとばっちりで（笑）。でも、そのくらいデリケートな問題だった、と。

山田　まぁ、秋山にはUFC参戦が決定してから「また何かあったらいろいろ相談させてください」みたいなことは言われましたよ。UFCの80キロ台ってバケモノばっかだよね。打撃の選手とか寝技の選手とかそういうくくりもなくて、まさに〝総合〟のファイターっていうか。でも、その中でもやっぱりアメリカはボクシング王国だから、打撃の進化って凄まじいと思うんですよ。そもそも俺はボクシングが専門なわけだし、秋山には「もし一緒にやりたくなったら声かけてよ」とは伝えてますよ。

――え、それは山田さんとしてはもう指導再開の態勢は整ってるってことですか？

山田　整ってるっていうか、秋山本人が俺を必要としてるんだったらって感じかな。まぁ、いまは彼をケアしてる人たちがいるわけだし、俺が見てた頃とは環境も変わってるだろうから、それはタイミングではあるけどね。

――そういう意識になったのはいつぐらいからですか？

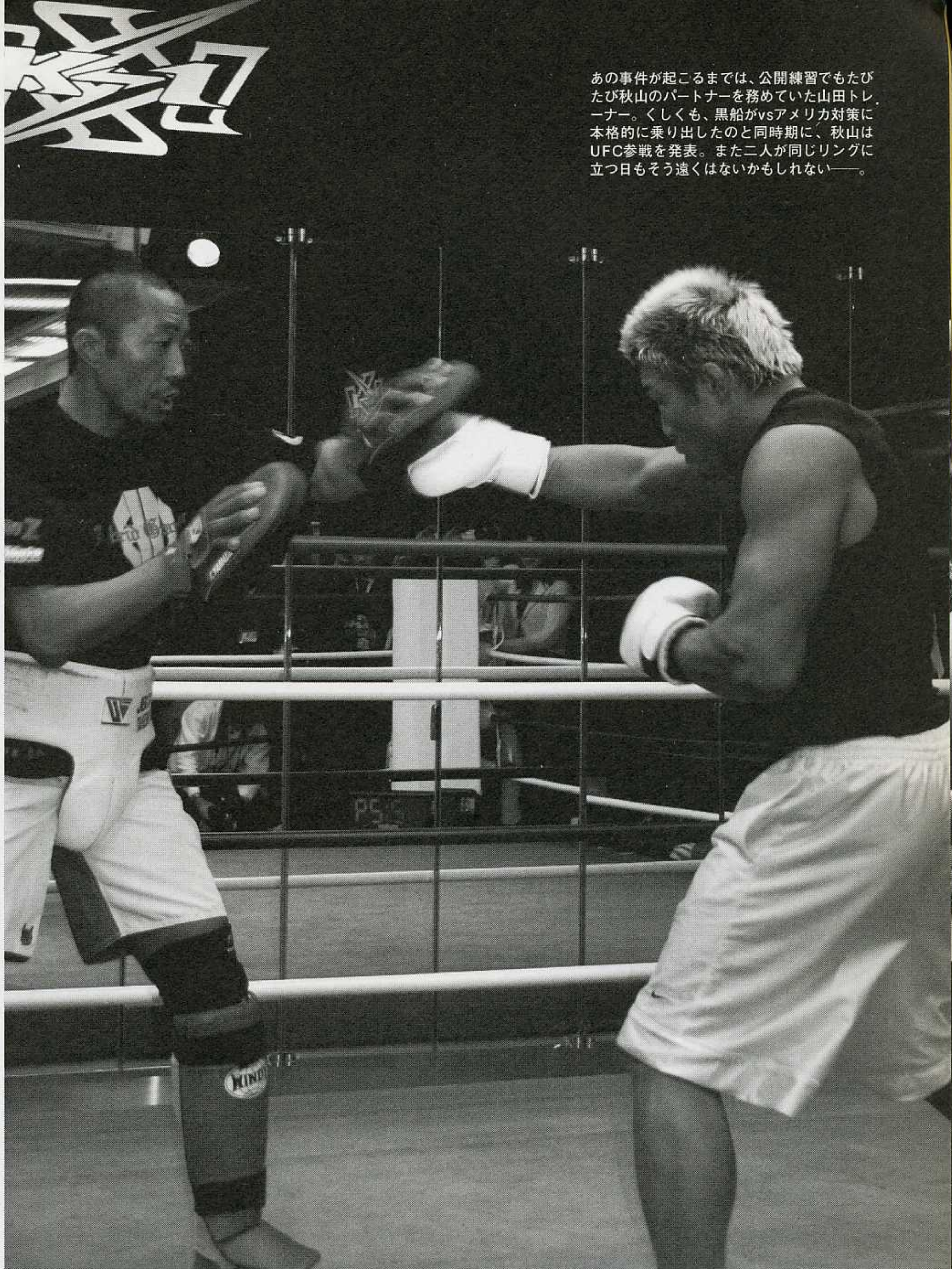
山田　外岡戦くらいの頃かな。あのときも俺は練習は見てなかったけど一緒に入場もしてるしね。もう、ヌルヌル事件の禊だって済んでるだろうと思うし。

――なるほど。あの事件のあと、山田さんは「秋山のことを話すのは最後にしたい」とまで言ってた時期もありましたよね。これまでにいろんな葛藤もあったと思うんですけど。

山田　う～ん、あのときはとにかく世間的に主犯格にされたのは俺だったからね……（シミジミと）。いろんな雑誌やネット上で騒がれることで、ライセンスが戻ってこないんじゃないかっていうのもあったし、たとえ戻ってきたとしても、さっき言ったデニス戦のときみたいに協会にバンバン電話がかかってきたりとかもあったしさ。あのときはクレームの報告を受けて2週間経ってから「ビデオで一時停止して山田じゃないってことがわかった」って連絡がきたんだけど、待ってるあいだも気持ちよくなかったし。なんか、2007年はあの騒動だけで終わっちゃったってくらいのピリピリ感だったね。で

秋山の右後方に見えるのが、おそらく文中に出てくる山田トレーナーと間違われた人物。確かに似ている……けれどホンモノのほうがもう少し強面です！（失礼）。

あの事件に対して俺も秋山も禊が済んだっていうのは感じるね

あの事件が起こるまでは、公開練習でもたびたび秋山のパートナーを務めていた山田トレーナー。くしくも、黒船がvsアメリカ対策に本格的に乗り出したのと同時期に、秋山はUFC参戦を発表。また二人が同じリングに立つ日もそう遠くはないかもしれない——。

も時間も経って、徐々に俺ら二人の取り巻く環境も変わってきたっていうかさ。

——そのあいだ、秋山選手には練習は見ないまでもアドバイスを送ったりは？

山田 いや、技術的なことは一切ないね（キッパリ）。そこらへんはケジメじゃないけど一線は引いてた。彼も彼でそういうのはあったと思うし。まぁ、試合のときに必ずバンデージを巻いてあげてたくらいかな。

——あ、バンデージは山田さんが巻いてたんですか⁉

山田 そんな驚くことかいな（笑）。柴田戦のときも外岡戦のときも巻きましたよ。なんか、バンデージを巻くってときに秋山がどうしていいかわからない感じだったから、「めんどくせえ、俺が巻いてやるよ」って。まぁ、俺が巻くってなったら周りが大変だったけどね。「こいつ、何か詰めるんじゃないか？」って、みんな見にくるじゃん（笑）。

——メリケンサックだなんだって疑惑もありましたもんね（笑）。

山田 んなもん詰めるか！ アホかっちゅうの（笑）。まぁ、いまは、あの事件に対していろんな意味でお互いに禊が済んだっていうのは感じますよ。これからまた俺たちが交わるかは秋山次第かな。俺次第っていうのはあんまりないですよ。

——やっぱり山田さんがセコンドだった06年あたりの秋山選手の快進撃は凄かったと思うんですよね。

山田 『HERO'S』のミドル級トーナメントのときは神がかってたよね。（ケスタティス・）スミルノヴァスを右ハイでブッ飛ばして、（メルヴィン・）マヌーフから十字取って。この男は肉体や精神の疲労感とか感じるのかなって思うぐらい、あの日の秋山は凄かった。

——これまでいろんな選手を指導してきた中でも、見たことないタイプですか？

山田 うん、日本の宝だね（笑）。

——ズバリ、山田さんとしては素材として秋山選手を指導したい？

山田 そりゃしたいよ！（即答）。やっぱりトレーナーの血が騒ぐよね、いいもの持ってる選手だから。ただ、去年の外岡選手と柴田選手のときはやっぱりちょっと荒さが目立ったかな。

——まさにその2戦が行なわれた去年、『kamipro』では秋山選手に〝お茶濁し〟という表現を使ってきたんですね。要は実力があるのに格下の対戦相手を選んでるといったところや、周囲からプロテクトされてる部分が否めないというか。そういうのを山田さんは感じませんでしたか？

山田 う〜ん……（熟考）。ただ、三崎選手との試合は受けたじゃない？ あのときは『やれんのか！』っていう敵地に秋山は乗り込んだわけだけど、あのブーイングの中でリングに上がる度胸のあるファイターっている？ もし本当に秋山がいろんな試合を断るような男だったらあれを断るよね。あの少し前にデニスに勝って「秋山、強い！」ってインパクト残したのに、続けざまにあのリスキーな試合を受けるっていうのは、並大抵の神経じゃできないと思う。しかも大阪でやるならまだしも、埼玉に行ったわけだから。確かに去年は選んでるところはあったのかもしれないけど、そういうことを考えるとそこまで責められることかなぁとは思うけどね。

——なるほど。

山田 俺、あの三崎選手との試合が格闘技ってジャンルの一つのピークだったと思うんだよね。もう会場の盛り上がりが

戦争みたいだったじゃん？ あれからすると、いまは格闘技バブルが弾けてる部分はあると思うけど、その頂点にいあわせた秋山っていうのは凄いと思うし（笑）。もちろん、あれ以降もいい試合はいっぱいあるけど、入場のブーイングから最後に4点で顔面蹴られるまでの終わり方、完全決着がついてないところまでドラマを感じさせたっていうかさ……この次が柴田戦？

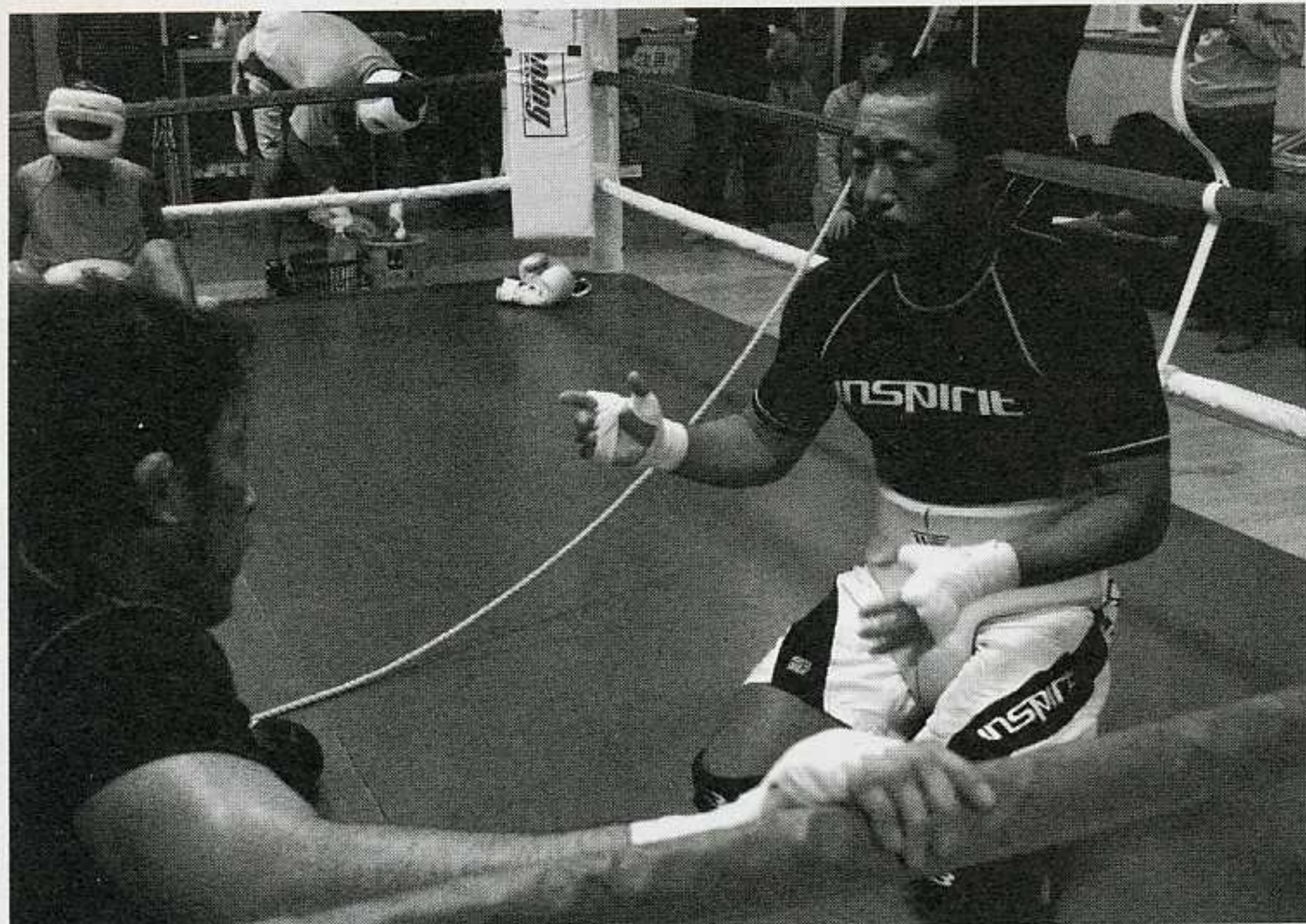
――そうですね。秋山選手は怪我もあったんですけど、ミドル級トーナメントを回避して。さらに格下との対戦を続ける一方で、韓国では芸能活動。また、ヌルヌル事件のことも根底にあってか、ファンの中に〝お茶濁し感〟が蓄積して、それがブーイングとしてかたちになったところはあるのかなって思うんですよ。

山田　たぶん、お茶を濁してたって感覚は本人はないんじゃないかな。俺もべつにそんなふうには思わないし。試合のオファーも対戦相手に必然性を見出せなかったのかもしれないしね。「いまそれ？」みたいな唐突さとかさ。たとえば、トーナメントで負けた相手とやってたとしても、秋山は浮いちゃってたと思うんだよね。それとは別で、もしかしたら自分の適正体重じゃないオファーもあったのかもしれないし。（ジェロム・レ・）バンナとやって痛い目見てるから、そのへんは本人もこの1年通していろいろ考えたんじゃないの？

――でも、外岡、ハリトーノフと一日2連戦を直訴したりするんだから、不思議というか、なんというか（笑）。あの、秋山選手の最終的な目標ってなんだと思います？ そういうお話はしたことありますか？

山田　いや〜、想像もつかないね。それは本人に聞かないとさっぱりわからない。

――もちろんUFCに挑むってことで、ファイターとして強さを追求してる部分もあると思うんですけど、たとえば芸能活動にも色気を見せたりとか。韓国では超のつくほど人気者みたいですし。

秋山には佐藤大輔さんの煽りVを超えるモンスターになってほしいね（笑）

やまだ・たけし■1973年、2月7日、埼玉県出身。「JBスポーツ」代表。同所にて「チーム黒船」船長として合同練習を主宰。川尻達也や石田光洋、高谷裕之らを指導している。ちなみにトレーナーとして最初に手がけたのは、現在田村潔司のセコンドを務めている立嶋篤史。

禊が済んだっていうのは感じるね

山田　ほんとにそんな凄いの？

――まぁ、なんてったってマイケル・ジャクソンですから（笑）。

山田　そうそう、歌はうまいよね！ 前に韓流好きの知り合いが「秋山さんってCD出したんですね」って電話してきたんだけど、俺はまさかあの秋山だと思わないから「誰だ？ 秋山って」って（笑）。で、「あの秋山さんですよ、柔道の」っていうから、マジかよと思って聴いてみたらコレがまたチョーいい歌でさ！

――ダハハハハ！ 甘い声に魅了されましたか。

山田　俺、即行で本人に電話したもん、「何よ、コレ？」って（笑）。秋山も「なんで知ってるんですか？ まだ日本で発売してませんよ」って言ってたけど。でも、たとえばボクシングの内藤大助もいまはいろんなテレビ番組にひっぱりダコだけど、じゃあボクシングやってないのかと言われれば、そんなことはもちろんないわけだしね。秋山だって芸能活動を韓国でしたからってまったく練習してないかと言われればそんな男じゃないと思うし。

――確かに身体つきとかみればわかりますね。

山田　フィジカルに関してはオンオフがない男だし。常にコンディションは整えてる男だから、練習しないで歌ってるっていうことはないと思うしね。いろんな秋山へのバッシングにしろ、どこかアンチが叩きどころを探してる感じはしますよ。まぁ、本人はなんとも思わないだろうけど（笑）。

――肝が据わっている、と。

山田　だって『HERO'S』のトーナメントの決勝のときも俺のほうがテンパってたんだから。当時のマヌーフは神がかり的というか、ちょっと異常な強さだったってこともあって、勝つ戦略が見つからなくてさ。でも、当の本人はヒョウヒョウとしてたもんね。俺はよく彼を〝天然〟って言うんだけど、それは何事にも動じないっていう意味なんだよね。あの事件以降、いろんなものに巻き込まれて相当叩かれたと思うんだけど、そこで全然揺らがないのは凄いなとほんとに思うよ。

――UFCでも飲まれることはなさそうですね。

山田　俺もセコンドでWECやストライクフォースに行って実感してるけど、アメリカって凄い差別の国だからさ。でもあの男はブーイングに対しても全然へっちゃらだと思う。もはやウチらみたいな一般人とは感覚が違うよね。

――得体がしれないっていうか。

山田　それがいいんじゃない？ それが魅力だって思うよ、そばにいた俺もそう思うし。ほっとけないっていうかさ。やっぱりUFCで彼がオクタゴンに入ってどんなものを見せるのかっていうのはドキドキするよ。

――山田さんとしては秋山選手にUFCでどんな活躍を望みますか？

山田　いや、もう目の前の敵を蹴散らしてほしいよね！ たぶん「秋山、負けろ！」って気持ちでWOWOWに加入するヤツとかいると思うんだよ。そういうのを秋山にはガハハと笑い飛ばしてほしい。もう日本のスケールじゃない計り知れない男だと思うんもん。さらに大化けして、佐藤大輔さんの煽りVを超えるモンスターになってほしいね（笑）。

――日本から世界のモンスターに（笑）。今日はありがとうございました！

【09年2月27日／都内・「JBスポーツ」にて収録】

日本にTime to Say Goodbye!
マイケル・ジャクソン、本場アメリカ上陸!

魔王 黒い選択 座談会

“お茶濁し”の向こう側はオクタゴンだった!
FEGとの契約終了に伴ない、去就が注目されていた秋山のUFC参戦が電撃決定!
“黒い駆け引き”の末の選択……そこに隠されたものとはいったいなんなのか?
どこまでも得体の知れない魔王・秋山の決断の裏側を徹底追求!!

構成/スズキィ　試合写真/乾晋也

秋山成勲UFC参戦会見、発言全文!!

3月3日(火)都内・三菱ビル

【秋山成勲の挨拶】

「私、秋山成勲は、アメリカのUFCに参戦することを決めました。自分の中でUFCというのは野球でいうメジャーリーグであると思います。それだけ挑戦する価値のある大きな大会ですし、なおかつ夢のある試合ができる大きな舞台だと思います。結果は正直、どうなるかわかりません。けど、挑戦する気持ちを忘れずドンドン前に進んでいきたいという昔からの自分の意思もあります。格闘技をしているみんな、格闘技を目指す人、社会で頑張っている人に、少しでも勇気を与えられれば、というのが僕の役目だと認識しています。最終的にはいろんなかたちで格闘技を世に広めたい、日本の格闘技界を最終的に盛り上げたいという気持ちで頑張っていきたいと思いますので、応援よろしくお願いします」

【質疑応答】

――UFCを意識し始めた時期、参戦を決意した時期はいつか?

秋山「まず、去年の11月に私のFEGとの契約が切れてまして、そこから一度ゆっくり自分のことを見直そうと。これからの人生もそうですし、格闘技人生もそうですし、見直してから。UFCを意識したのは、もっと前から……もちろんそういう格闘技団体があるとは知ってて、そこに上がるということはほとんど考えてなかったんですけど、契約が切れて12月に入ってから、そういう気持ちが少しずつ芽生え、一度UFCを観戦したのもきっかけの一つではありますが、プラス12月ぐらいからいろいろなことを考えて、1月の頭にしっかりと、『もう最終的には行こう』と決めました」

――格闘技を広めたいと言ったが、日本ではWOWOWの中継だけで、地上派の中継はないが?

秋山「正直、格闘家が格闘家だけで格闘技を広めようというのは難しい部分があると思います。いまの日本の現状もそうですけど、また自分がUFCに行くことによって、日本の人に『アイツ、辞めたんちゃうか』と思われることも多々あると思います。けれども、そういった部分をできるだけ払拭するように、いろんなことに挑戦して、それがイコール格闘技を広めることになればと思いますし、いろんなメディアにもドンドン出てもいきたいですし、いろんなことに挑戦することによって、最終的に格闘技が広まればという気持ちでやっておりますので。『それがすぐに何かかたちになるのか』と質問されると困りますが、そういうつもりでやっていますので、もちろんマネージメントのことについてもドンドン積極的に取り組んでいきたいと思っております」

――UFCとの交渉開始時期はいつか?
またいつ話がまとまったのか?

斉藤　なんと！　我らが魔王・秋山のUFC参戦が決定しました。今回は正直そんなに高まらなかったじゃないですか。

X　交渉してるっていう話はなんとなく。今回はUFC側と秋山側の思

座談会出席者

UFCは秋山というアジア戦略に使える有用なコマを獲得した(X)

斉藤　なんと！　我らが魔王・秋山のUFC参戦が決定しました。今回は事情通のミスターXさんをお招きして、秋山のアメリカ上陸について今後の展望も含めて語っていきたいと思います。

X　え〜、例によって、名前は伏せさせていただきます。

ガンツ　しかし、今回の発表は一言「あっぱれ！」でしょ。というか、初めて秋山の行動で乗れるというか（笑）。

斉藤　重度の格闘技・プロレス音痴になってるターザン山本！ですら、大興奮ですからね。

X　あ、山本さんも驚いているんだ。じゃあ、大事件だ（笑）。

斉藤　ええ。秋山に関するコラムで「UFC」を「UWF」と間違えて書くほどの大興奮ですよ！

ガンツ　ガハハハハ！　それ、ボケてるだけでしょ!!

斉藤　「その点、UWFの金網の世界はクールでドライ」「勝負論としてのスケール感は絶対にUWFが上。半分、日本は終わったよ」という、なんだか妙に奥が深いテキストになってて。終わってるのはターザン本人なんですけどねぇ。

ガンツ　ターザンは半分どころか完全に終わってるから（笑）。

斉藤　まあ、大晦日の『Dynamite!!』も盛り上がりましたけど、魔裟斗や山本〝KID〟郁徳や秋山が出ないこともあって、大会前の期待感は正直そんなに高まらなかったじゃないですか。

X　王飛車角がないイベントだったっていうかね。

斉藤　やっぱり興行っていうのは事前の盛り上がりがあって、大会自体がおもしろくて、そしてなおかつあとで語れるっていうようなものがないと。そういう意味で秋山は本当にいいプロモーションをしましたね。

ガンツ　秋山にとっても現状考えうるベストな選択じゃないの。このまま『戦極』に上がってもおもしろくないんじゃないかっていうのはあったから。

斉藤　Xさんは秋山がUFCに上がるっていう話は聞いてました？

X　交渉してるっていう話はなんとなく。今回はUFC側と秋山側の思惑が一致したってことだよね。一昨年からUFCは東京、韓国、フィリピンのトライアングルでアジアサーキットを打ちたいって話はあって、そのアジア戦略の一つとしてデニス・カーンを押さえた。で、今回は秋山っていう、日本でも韓国でも使える凄く有用なコマを得たなって感じがするね。

斉藤　要は『ハッスル』における〝ご当地モンスター〟を揃えてる、と。UFCは前々から秋山には興味を持ってましたからね。なにしろUFCからウチの編集部に「秋山の連絡先を教えてくれ」、代わりにマッチメイカーのジョー・シルバのインタビューをさせてやるから」っていう相談まであったくらいですからね（笑）。

X　しかし、6試合契約っていうのは破格だよ。ほかの選手は3〜4試合だから。

ガンツ　UFCも当然、選手によって契約内容っていうのは全然違うんですよ。日本のプロ野球でも個人個人でオプションの契約が全然違うでしょ？

X　外国人選手に多いよね、マンションをつけるとか、運転手つきとか。

ガンツ　だからUFCも選手それぞれでの契約形態で。もちろんズッファ側にかなり有利な契約ではあるんだけど、トップ選手になればある程度の融通は利くだろうし。よく言われるのが、「UFCに出たら、もう対戦相手は選べない」っていうのがあるでしょ？　大半の選手はそうなんだろうけど、PPVでセミ、メインを張るような選手になると、当然ある程度のカードは選べるらしいんですよね。だから「このカードは噂されていたが合意に達しなかった」とかがある。もちろんそれは「これをやって、次に勝ったらこれをやろう」っていう長期的な話し合いが主催者側とあるんだろうし。

X　ちゃんと山が作られてるわけだ。

ガンツ　だから、いかに勝ち続けてよりよい契約を奪っていくのか、もしくは最初からUFCがオプションもつけて呼んでるのかっていうことですよね。

X　メジャーリーグでも、向こうから諸手を挙げて「歓迎します！」って感じで引き入れるゴジラ松井のような選手もいれば、なんとかトライアウトを受けて契約にこぎ着けて「あ、いまあいつアメリカでやってたんだ」って言われる選手もいるわけでしょ。

ヌルヌル事件の処分明けの初戦で強豪デニスと対戦した秋山。“制裁マッチ”ともささやかれた一戦だったが、まるでその声を嘲笑うかのように秋山は衝撃のKO勝ち! その後の勝利パフォーマンスで「全然反省してないよ!」という声も巻き起こすなど、常に話題の中心となるのはさすがだ。

座談会出席者

ミスターX
格闘技界きっての事情通ライター。キックボクシングの経験もあるため技術論はお手のものだが、酒グセがよろしくないのがたまにキズ。今回はわけあって匿名で参加。

堀江ガンツ
本誌編集部。ちっちゃな頃から熱狂的プロレスファンでならし、『週プロ』の『プレッシャー』会員という恥ずかしい過去を持つ。変態座談会主催者。

[司会]ジャン斉藤
本誌編集長。〝雀鬼〟桜井章一の内弟子を経て『kamipro』編集部へ。永久電機などアントニオ猪木の怪しげな事業の調査をライフワークとする。

ネージメントのことについてもドンドン積極的に取り組んでいきたいと思っております」

——UFCとの交渉開始時期はいつか？　またいつ話がまとまったのか？

秋山「お話をいただいたのは1月に入ってからすぐですね。それから、やっぱり英語と日本語のあいだで訳したりとかで時間はかかったんですけど、本当につい最近ですね。ダナ（・ホワイト）が正式発表する直前です、決まったのは」

——参戦が決まって周囲の反応は？

秋山「まず、やっぱり、自分の身近に岡見（勇信）選手とか、UFCを経験した宇野（薫）選手であったりとか、そういった部分で少しの情報交換はして。どういったところなのか、僕も全然わからないので話はしました」

——K—1やDREAM関係者にはUFC参戦は報告したのか？

秋山「ちょうど僕が連絡する前に連絡がありまして、自分が折り返したところ、『おめでとう』ということで、『大変だと思うけど、頑張ってくれ』と言っていただいたので、本当に自分もいままでお世話になりましたし、自分を育ててくれたのは、FEGだと本当に思っておりますので、『もし自分が大きくなって帰ってくることがあれば、また日本でも活躍したいなという気持ちもある』とは伝えましたね」

——日本での4年間はどういう時間だったか？

秋山「自分にとってまずマイナスなことは何一つないと自分では思っております。いろんな経験をしましたが、それもこれもいまの自分がここにあることは、いままでいろんなことがあったからこそだと思ってます。プラス、やっぱりこれから（UFC行きは）自分の中で夢に変わるんだなということは凄く感じた部分でもあったので、ワクワクもしますけど、不安もたくさんあります」

——具体的な参戦時期は？

秋山「UFC自体、月に一回、一月半に一回のペースでたぶんやってると思うんですけど、そのペースでいけば、7月、8月ぐらいだと思います。しっかりした日程は、まだUFCとそこまで具体的に話をしてないので、自分は『それぐらいだと大丈夫』という意向は伝えました」

——試合はミドル級で？

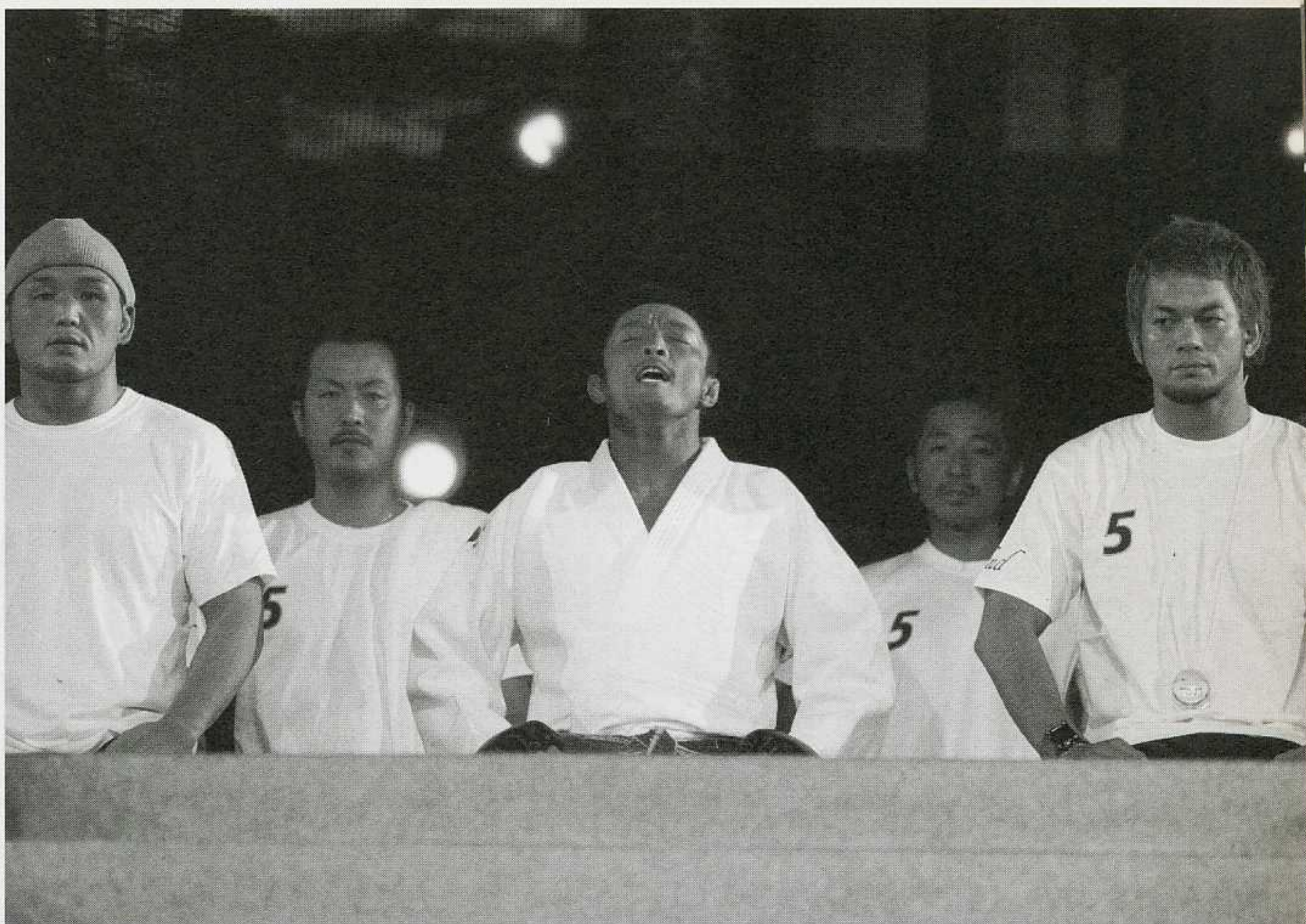
秋山「はい」

——UFCとは何試合契約か？

秋山「6試合です」

——契約試合数が普通よりも長いが、破格の待遇か？

秋山「日本でもそうなんですけど、やっぱりアメリカって契約社会なので、キッチリしてるなと凄く感じましたし、6試合であれば……まあ、自分の身体と相談しながらだと思いますけれども、できるだけ多く試合をすることによって自分がどうなるかもわかりませんけれども、それはそれで妥当なんじゃないかと思ってます」

——日本や韓国でUFCの試合をしたい気持ちは？

秋山といえばブーイングもなんのその、入場で『Time to Say Goodbye!』をBGMに深々と礼をするのが恒例。はたしてこのパフォーマンスはUFCでも観られることはできるのだろうか? ぜひ日本同様にDJ GOZMAばりに実行していただきたいものである。

斉藤　秋山本人はメジャーリーグになぞられて「総合格闘技のパイオニア、野茂英雄になる」とか言ってましたしね。べつに秋山が日本人初のUFCファイターじゃないし、誰がどう見ても伊良部（秀輝）でしかないと思うんですけど（笑）。

X　どこのスナックで暴れるんだろう（笑）。

ガンツ　UFCからすれば、秋山獲得はアジア戦略の一環なんだろうね。UFCにとって日本はいまいち突破口が見つからないような状況というか。だから、アメリカ人が「日本ってよくわかんないな、突破口になりそうなものちょっとやっとくか？」って感じなんじゃないかな。

X　UFCが日本でやるってなると、日本の団体は「じゃあ、誰と手を組むの？」って発想になるわけですよ。実際にUFCは噂レベルで選手には声をかけてるみたいだけど、団体には「一緒にやりましょう！」っていう活動はしていないみたいだから。

ガンツ　市場的にそこまで本気になっていないっていうのもあるかもしれない。近い将来できたらいいなぐらいで。

斉藤　ちなみに『スポーツニッポン』によれば、秋山のファイトマネーは日本では6試合で1億2000万円って報じられてましたね。

X　でも、野球選手並みにそれ「（推定）」ってつくんでしょ？

ガンツ　だから、その額はにわかに信じがたい部分もあるけど、その額は韓国で放映されているUFCの放映権料を秋山のファイトマネーとして使ったという話がありますね。韓国の儲けで秋山に金を使うことによって、もっと大きな金を生みましょう！っていう。

魔王選択 黒い座談会

X　なるほど、先行投資だ。放映権料収入以上のものをこの先に見据えている、と。

斉藤　凄いな〜。まあ、韓国において秋山は相当な武器になりますもんね。

ガンツ　韓国市場でいえば、秋山はデニス・カーンにも勝ってるわけだし。

X　韓国で再戦もありえるんじゃないの？

ガンツ　秋山のUFCデビュー戦はデニス・カーンを倒したアラン・ベルチャーなんていう噂も出たりしたんで、いずれにしてもそのストーリーの中でのカードですよね。

斉藤　完全に韓国シフトだ。

ガンツ　たとえば、まだ向こうで知名度がない秋山がアメリカ人とかブラジル人とやっても、アメリカ人にも韓国人にもそこまでウケない。それなら、韓国で一番ウケるカードをやるっていう。

X　秋山の初戦って8月大会に予定されてるんでしょ？　俺は日本でやるって聞いたけど。

ガンツ　いや、「それはない」って聞きましたけどね。現実的に8月はアメリカ国内でやるのは決まっていて、それに日本の会場を押さえたっていう情報も聞こえてこないし。

斉藤　さっきも話に出ましたけど、日本でやるとしたら受け皿っていうのが必要になってきますよね。そうすると『戦極』か、慧舟會なのかなって感じもしますけど。

X　でも二つとも、いまのところは考えられないんじゃないかなぁ。

斉藤　じつは『戦極』は前々から噂はありましたよね。『戦極』って英語にするとアルティメット・ファイト的な意味合いになるし、UFCを和訳しただけだっていう。

ガンツ　というか、そもそもあの名前が採用されたのはそういう理由らしいですからね（笑）。

X　ホントかよ!?　それ、訴訟を起こされたら負けるんじゃない？（笑）。

ガンツ　それはともかく、UFCが日本に来るとしたら、興行収益よりも重要になってくるのはテレビ放送だよね。でも、そのテレビの動きが全然見えてこない。一時期は日本テレビが有力視されてたんだけどね。

斉藤　メディア関連の動きでいうと、秋山とケイダッシュの川村（龍夫）さんの動きも噂は聞きますよね。伝説の『LEGEND』での川村さんのボスぶりにシビレたボクとしては、ま

秋山「あります。もちろんアジアに進出したいというダナの気持ちも絶対にあると思います。その中で日本・韓国っていうことも視野に入れたうえでの自分の獲得なのかなと、一瞬そういうことも正直、感じました。けれどもそれは抜きにしても、UFCという素晴らしい団体を日本、もしくは韓国に広めることによって、やっぱり観てくれる人が一人でも多く増えることが僕の役目だと思っておりますので、充分にそれはやりたいと思ってますし、何か活動があればドンドン積極的に参加したいと思っております」

——マッチメイクは完全に向こうからきたカードを受けるのか？

秋山「んー、具体的にはちょっとわからないです。たぶん、何人か出てくるんじゃないですか？　僕もわからないですね、そこは。完全に出されたものを受けるのか、ちょっとまだわかりません」

——最初からトップレベルとやるのか、それとも段階を踏んで最終的にアンデウソン・シウバに挑戦するのか、どちらか？

秋山「僕の認識の中では、全員が全員強いと思うので、弱い選手を段階に分けてというのはないように思うんですが、もちろんチャンピオンが一番強いとはいまは思っておりますし、その下の選手でもドングリの背比べ……っていうか、ハイレベルなドングリの背比べだと思ってますし、そこに自分がどこまで食い込めるかわかりませんが、自分の実力がいまどれだけあるのかというのも正直わからない部分があって。そこは逆に未知な世界だと自分でも思ってます。だから、わかりません」

——6試合契約だが、年数としては2年か？

秋山「はい」

——UFCを見て日本の大会よりレベルが高いと思うか？

秋山「選手によっていろいろスキル、可能性、実力のある選手とか、日本にも世界で闘えるトップのファイターはいますが、闘い方とか、あと全体的な雰囲気とか、全部見ても高い部分はあると思います」

——自分はどのぐらいに位置していると思うか？

秋山「んー、そうですね。全員が全員、どういう選手がいるのか、自分の中で把握していませんので、どこの位置にいるのかわかりませんが、謙遜するわけじゃないですけど、一番下だと思ってやらないと勝てないと思うんですね。だからその気持ちで行きたいと思います」

——アメリカで練習することは考えているか？

秋山「そういうことも考えております」

——UFCに行くときに自分のスタイルは変えるのか？

秋山「もちろん、自分のスタイルを貫き通すことは、それはそれで素晴らしいことだと思いますが、自分の中でいろんな世界で生き延びるためには、常に変化しなければならない、（そういう）人間が生き残ると思ってます。そういった意味では、アメリカに行けばアメリカの色に染まりながら、自分の魂をしっかり持ってドンドン前に進むことが、一番強くな

秋山の読み違いは日本と韓国の温度差を理解していないこと（斉藤）

たマット界に戻ってきてほしいです！

ガンツ　秋山が昨年末から芸能活動の面でケイダッシュの協力を得るってことらしいけど。

斉藤　そういうことがあって、今年の年末はフジテレビでケイダッシュグループ系のイベントと、TBSの戦争になるんじゃないか、みたいな噂も流れてましたけど。

X　いやあ、フジテレビで格闘技イベントを流すってことはないでしょう。

ガンツ　それもあって、フジテレビに売り込んだのは秋山が出場する格闘技イベントじゃなくて、秋山とSHIHOの結婚披露宴の中継だっていう未確認情報もありますけどね（笑）。

斉藤　ただ、ある一般週刊誌の記者が言うには、残念なことに川村さんはもう絶対に格闘技興行はやらないと言うんですよねぇ。でも、そういう噂は絶えないのは、石井慧を抱えてるからなんでしょうけど。

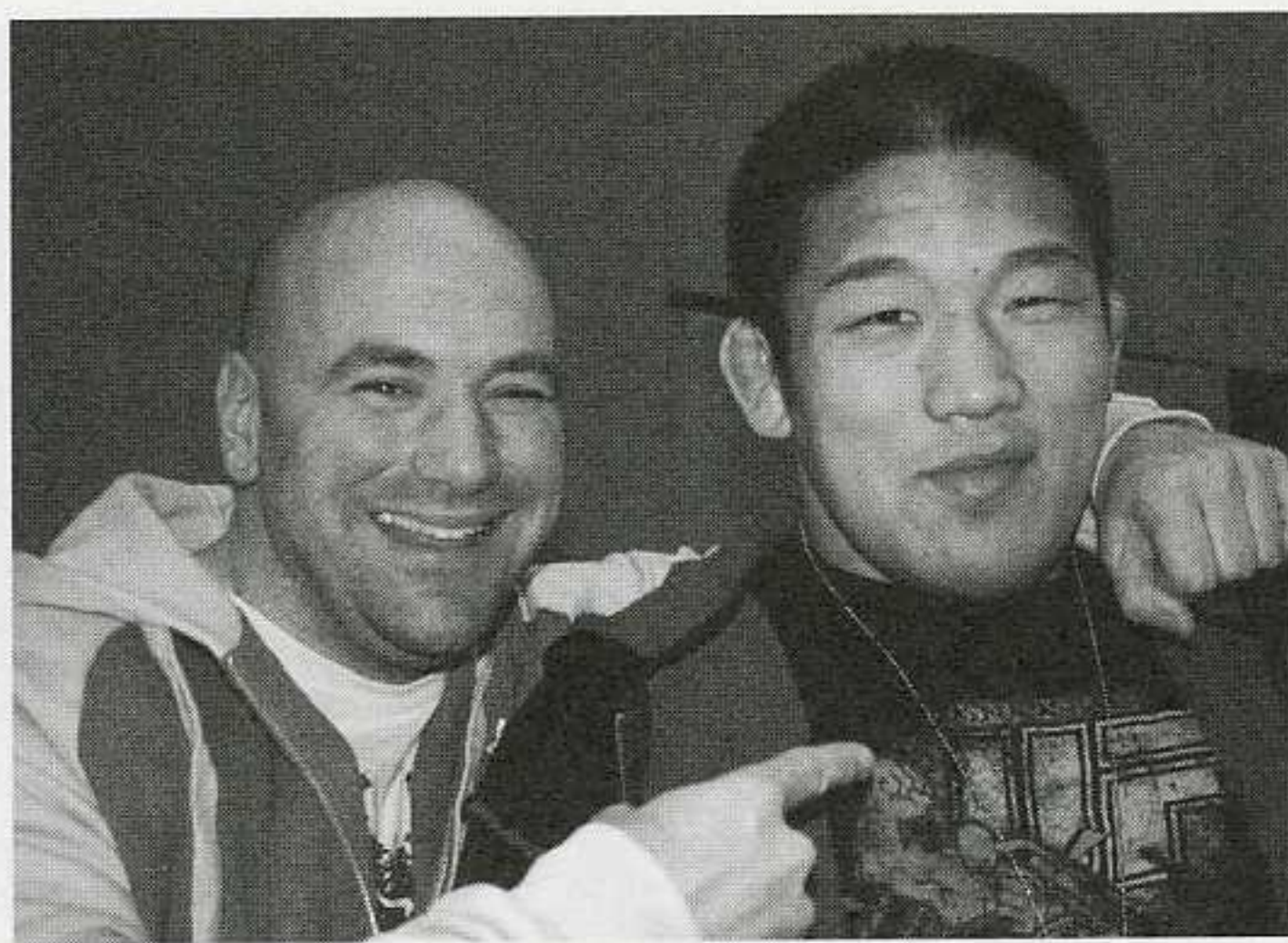
X　石井がいるのは強いね。

斉藤　石井はUFC行くんですかね？

X　すべて状況判断だろうね。でも、石井ってアフィリクションのTシャツを着たりしてたでしょ？　なんかあるのかな？

ガンツ　あ、あれはヒョードルのマネージャーにたくさんもらったからボクがあげたんですよ。とくに深い意味はないと思います（笑）。

X　思わせぶりだなあ。石井にとっても、秋山先輩がUFCに参戦するっていうのは寝耳に水だっただろうけど。今回、秋山UFC参戦を世の中で一番驚いたのは石井かもしれない。

斉藤　今回の秋山参戦のインパクトで、宇野くんと石井はちょっと損しましたね。

石井慧はUFC参戦表明後に大会を視察、ダナとも会談を持ったものの、まだ正式契約には至っていない模様。まるでそのスキを突くように発表された今回の秋山UFC参戦。まさか、かつてともに練習していた柔道の先輩に話題も持っていかれるとは思いもよらなかった？

X　それでちょっと考えたのが、去年の秋山のお茶濁しは単純にうまみのない相手とやりたくなかったのか、それとも今回のこういう行動をとるための布石だったのか、どっちだったんだろうっていう。

斉藤　秋山は11月末にFEGと契約が切れたときに、より好条件で更新したかったんでしょうけど、思うようにFEGもTBSも乗ってこなかった。だから11月までの段階では、秋山本人は日本でやっていきたかったんだろうなとは思いますけどね。

X　ただ、DREAMで秋山にやる気はまったく感じられなかったよね。

斉藤　それは韓国では「マイケル・ジャクソン」なのに、日本では思うようにヒーローになれなかったことに起因してますよね。

X　いまだにブーイングだもんね。

斉藤　まあ、それはしょうがないですよね。ヌルヌル事件があって、三崎戦のノーコンテストがあって、ミドル級GP謎の欠場、そしてお茶濁し2連戦でしょ？　それでもヒーローであることを望んだ秋山とファンのあいだに、どうしたって大きなズレは生じますよ。

X　彼も韓国だと自分の願いを80パーセントぐらいはかなえられる土壌を作ったわけだけど、日本だときっと1パーセントもないわけだしね。

斉藤　基本的に一般世間からすると、秋山っていまだに〝ヌルヌル野郎〟のイメージしかないんですよ、ビックリするくらい。だから秋山の読み違いがあるとすれば、日本と韓国の温度差を理解してなかったということですよね。それでも日本市場への色気が秋山に見えるのはおもしろいですけどね。自伝を出したりとか。

X　どっちかっていうと早すぎた自伝だよね。スポーツ選手の自伝って、引退試合の前後に出すっていうのがベストなんだけどね。もしくは引退して数年経ってから出したり。

ガンツ　秋山の盟友・清原（和博）もそうですよね。

X　それをこの時期に出すっていうのは、秋山にとって第一章が終わりだからってことなのかな。「第1ステージが終了したので、とりあえずここまでの前編をどうぞ」っていう。

斉藤　いろいろとぶっちゃけたらおもしろいですね。「桜庭戦は確信犯でクリームを塗ってました！」とか「桜庭さんはボクとの再戦から逃げた！」とか。そうそう、秋山がDREAMでやる気が見えなかったっていうのは、結局は桜庭と対戦ができなかったってことだと思うんですよ。

X　タブーだったんだろうねぇ。桜庭側はさすがにあんなことをされたら「ノー」ってことでしょう。

斉藤　タブーもタブーでしたよね。ほかの媒体がどうかは知らないし、秋山サイドかFEGサイドの都合かはわからないですけど、秋山のインタビュー取材って、ヌルヌル事件の話題はNGだったんですよね。

ガンツ　それじゃあ、取材する意味はないよね。

斉藤　だからウチはやらなかったし、そのうちにやれなくなっちゃった（笑）。で、秋山は柴田（勝頼）戦のあとに、対戦したい相手として田村（潔司）の名前を唐突に出したじゃないですか。「なんでこのタイミングで田村なの？」っていうのも不可解で。

ガンツ　あれも田村が拳を怪我して

カの色に染まりながら、自分の魂をしっかり持ってドンドン前に進むことが、一番強くなれるし、一番楽しく行けるんじゃないかと思っております」

――石井慧選手とは連絡をとっているのか？

秋山「最近はほとんど連絡はとってなくて新聞とか、そういう部分でしか石井を見ることはなくなってしまったんですけど、彼自身どこにいくか、まだ決まってないんですよね？　だからどこに行くのかしっかりと決めて、それに向けてしっかりとした練習をしてもらえれば僕も安心できるし、正直安心したいなと、先輩としてはそう思います」

――身体の大きな選手のいるアメリカで闘うときに、ウェルター級で闘うことは考えなかったのか？

秋山「正直、ありました。いまの日本の選手もみんな見ても全員が全員、減量してますし、いまのチャンピオンもでかいですしね。10キロぐらいから落としているというのも噂で聞いたことがありますので、体力的に全然劣る部分は絶対あるとは思ったので、どうしてもウェルターのほうが、自分的に合うんじゃないかなということも頭によぎりましたけど、正直減量ができるかなという不安のほうが大きくて。いまからだいたい10キロぐらい減量しなきゃいけないんですが、いままでそういう減量ってしたことがなくて。なおかつ、その体重っていうのは自分の大学生とか、大学に入ったぐらいの体重だったので、どうかなっていう不安のほうが大きくて。一発目にそれを持ってきて潰れてしまうのが怖いなと。だったら自分でしっかり動ける体重で挑戦したほうが、自分でも納得いくんじゃないかなと思いました」

【写真撮影後の囲み取材】

――現地観戦は何回したか？

秋山「去年一回だけです。また今年に入ってもう一度行ってみたいと思ってます」

――生で観た印象や感想は？

秋山「柔道時代に海外ではいろんなところで試合させてもらって、日本と海外とで応援の仕方であったりとか、会場の雰囲気であったりとか、違うなというのは昔から知ってまして。海外で試合をするのは柔道時代から凄く好きで、その雰囲気がまた格闘技であるんだなということで、また嬉しくはなりましたね」

――UFCに決まる前に、ほかの団体からオファーや自分から打診したことはあるのか？

秋山「いろんな団体があるんですけど、自分から話をしたことはないですね。たとえば『戦極』の國保（尊弘）さんであったりとか、メディアを通じて目にしたときとかはありましたけど。確かに『戦極』では、自分のこのあいだの『吉田（秀彦）先輩とやりたい』であったりとか、まだ三崎（和雄）選手ともちゃんとした試合もやっていないというところで視野には入れておりましたけれども、それよりも一度海外に出ることのほうが僕の中では大きな意味があるんじゃないかと思いました」

て試合ができないことを知ってて言ってるんだよね。

X　それに秋山は、実現させたくないことに関しては荒唐無稽というか、莫大なファイトマネーを要求して「この条件だったら」っていうような駆け引きはやるみたいだよ。

斉藤　年末の青木戦なんかそうだったみたいですね。だから吉田（秀彦）戦のアピールも、あれはできないってわかってて言ってると思うんですよ。本当にやりたかったら根回しするでしょ。事前通知なしにブチ上げたら『戦極』サイドが硬くなるのは目に見えてるわけなんだから。

ガンツ　「一日2試合でハリトーノフとやってもいい」なんていう発言と一切変わらないね（笑）。

斉藤　そんな〝黒い駆け引き〟を展開してきた秋山だからこそ、UFCに行くっていうのが驚きですよね。

ガンツ　要は日本のリングだと『HERO'S』でチャンピオンになって、桜庭も倒した。そこまでは完璧だったんだけど、ヌルヌルが発覚してしまった。そうすると、それ以外のことがもうないっていうか。

斉藤　日本にいる以上は、ずっと十字架を背負わなきゃならないっていうのはあるかもしれないですね。

ガンツ　ましてやDREAMのミドル級トーナメントは自分が主役じゃないし、負けて『HERO'S』の優勝がチャラになるよりも、いまのポジションを保ってたほうがいいだろうなっていうことだろうね。今回に関してはいは「秋山成勲」っていうビジネス全体を見たときに、一番いい選択がUFCだったっていうことでしょう。

一丁ギャンブルしてみる価値があるっていうか。だから秋山は価値ある勝負はするけど、価値がない勝負はしないんだよね。

斉藤　そう考えたら青木戦なんて受けるわけないですね。

ガンツ　あのタイミングで青木とリスクの高い試合をするっていうのは価値ある勝負じゃないんだろうね。

斉藤　そこはクレバーですよね。

ガンツ　クレバーだし、実際に秋山は全然弱い選手じゃないから。相当強いと思う。秋山本人も自分の実力に自信があるだろうし。

斉藤　その実力を日本で発揮してほしかったんですけどねぇ。じつはファンが秋山を嫌っていたのって、ヌルヌル事件を起こしたからじゃないんですよね。なかなか利害が一致してなかったからなんです。あの事件を犯したあとでもリングに立つ秋山を観たい人は多かった。それは「この男はどこまで強いんだろう?」「誰が

秋山はDREAMの旗揚げ戦で、ミドル級GP出場予定選手として桜庭とともにリング上から挨拶。しかし、結局は怪我を理由に参戦辞退。このあたりから魔王の"黒い駆け引き"が展開されていった。はたして秋山と桜庭がまた同じリングに立つことはあるのだろうか?

柴田勝頼戦では地元にもかかわらず大ブーイングを浴びるも、秋山は魔王モード全開で不敵な笑み。ちなみにこの大会の煽りVでマイケル・ジャクソン発言が飛び出した。さらに本人いわく「日本でいえば、勝新太郎みたいな感じ」だとか……魔王秋山、やはり得体が知れない!

秋山に立ち向かっていくんだろう?」という物語が観たかったのに、それにまったく応えてくれなかったから嫌われてたっていうか。そういう意味では今回のUFC参戦はファンとの利害が一致しますよね。

ガンツ　何度も言ってるけど、秋山ってもの凄いヒールで嫌われ者だけど、UFCで成功したら一気に逆転してアンチヒーローみたいになると思うけどね。

X　構造的には巨人の桑田真澄みたいな感じだ。そういう意味では日本から世界の秋山になるわけで、ヌルヌルも一部では知られてるけど、UFCのPPVを観てるアメリカの一般層にまでは届いてないわけだよね。

斉藤　そういう新しく秋山を知るファンはヒーローとして迎え入れるけれども、日本市場だと先に感情的なものがきちゃうから、けっこう難しいですよね。秋山にはそれさえもはねのける〝黒〟の力は観たいんですけど。だから秋山がUFCで活躍したら韓国はフィーバーでしょうけど、そのときに生まれる日本とのギャップっていうのは楽しみですよね。

X　楽しみだね。韓国に行ってそれを体感したいぐらい（笑）。

斉藤　秋山はどこまでいっても韓国気分なんですよ。去年の『DREAM・5』直前のイベントで、秋山が「闘いたい選手は?」って聞かれたときに、「朝青龍とか亀田興毅とか、悪いのを懲らしめたいですね」って平気で言ってるくらいですから。一番悪いのはおまえだよっていう（笑）。

X　そういう部分がわからないよね（笑）。そこを第三者に考えさせるっていうのはある種の才能ですよ。どこまで能天気なのか、どこまで周囲の空気をいい意味でも悪い意味でも読まないのかっていう。

ガンツ　オクタゴンにも平然と入っていくような気がしますね。

X　まったくビビらないでしょう。「おお、騒いどるやんけ」ぐらいで。

ガンツ　「やっぱ、ええのう」って（笑）。

X　秋山にはUFCでも、勝つためには手段を選ばないっていう方向にいってほしいね。

斉藤　あたりまえのように身体にクリームを塗って出てきてほしいですよ（笑）。

X　昔、リングスオランダの選手って3日前に来日して、身体にワセリンを塗ってシャワーで落として、また塗ってシャワーで落としてっていうことを繰り返して肌に染み込ませて、試合中の汗で出すっていうのをやってたっていうのは聞くよね。

―FEGとの契約が切れて海外を目指そうと思ったのか?

秋山「もちろん、FEGとの契約も再度することも視野に入れて、自分が一度フラットになって考えてみたいというところもありましたので、もちろん、そこにも選択肢はありましたね」

―UFC側から韓国やアジア大会の柱として考えているという話はあったのか?

秋山「そこは正直、英語なのでわからないんですけど（笑）、これからアジアに進出したいというのは、昔そういうことがありましたけど、もう一度やろうとは絶対思っていると思いますし、韓国でやるにしてもデニス・カーンが行って、僕が行ってとなれば韓国の盛り上がりもまた変わってくると思うんで、そういうことも視野に入れてるんじゃない。まあ、あくまで憶測ですけど、そう思っております」

―ヒジとか、ケージ用の練習はしているのか?

秋山「（和術）慧舟會で練習させてもらったときに。あそこはそういう（練習をしている）選手ばっかりなんで、教えてもらうことがまた一つ増えたなと。練習に行くのが楽しみですね」

―岡見選手から何かアドバイスは?

秋山「決まってからほとんど話はしてなくて、岡見くんは『UFCに秋山さんが来てくれたら嬉しいな』とは言ってくれてて。宇野くんとは話もしましたし、宇野くんはUFCに行くんでしたっけ? 宇野くんも一度経験したということで、どういった感じなのかと、ちょっと話もしました」

―岡見選手は同じ階級の選手だが意識はしますか?

秋山「UFCからすると僕は初めてで、向こうは大先輩なんで。歳は全然下ですけど、実力もそうですし、まだまだ僕が敵う相手じゃないなというのは僕が見てもそう思いますし、だからこそ練習のやりがいもありますし、刺激を受けて得るものもたくさんあるので、また違った意味で岡見くんを見ることができて嬉しいなと思います」

―対戦がオファーされたら受けるか?

秋山「最終的にそうなれば、はい」

―4.18『UFC97』の大会は観戦するのか?

秋山「はい」

―実際にUFCに参戦するとなると、見方も変わると思うか?

秋山「違いますね。もっと細かく、いろんなことを見ていくでしょうね。選手の動きとかもそうですし、会場の雰囲気とか全体に、いろんな部分を見ていくと思います」

―観戦以外に練習もアメリカでするのか?

秋山「いまのところはないですけど、練習してもいいですし、練習している人たちを見に行ったりもしたいと思います」

―練習してみたい選手はいるか?

秋山「そうですね。やっぱり、（ジョルジュ・）サンピエールとか、BJ（ペン）とかもそうですけど、軽いクラスでやってるヤツらの動きを

UFCで成功したら秋山は一気にアンチヒーローになると思う(ガンツ)

魔王 黒い選択 座談会

ガンツ　毛穴に入れるってヤツですね。

X　秋山はそういうスキルを持ってるでしょ、パターン1として(笑)。

斉藤　秋山って負け戦はしない人ですもんね。

X　しない。あれは勝負師ですよ。それを考えたら、去年のDREAMっていうのは彼にとって負け戦だったのかな。世間へのインパクトってことを考えたらまったくやる意味のない試合だっただろうし。

ガンツ　だからホントに読み違えちゃったんでしょうね。だって地元の大阪でやれば、本人は声援があると思ってたんですから。

斉藤　あの『DREAM・5』のオープニングのときに、秋山のイラストがビジョンに出た瞬間に凄いブーイングが起きたじゃないですか? そのときにバックステージの秋山が、「えっ!?」って驚いたらしいんですよ。

X　本人はブーイングが起きないと思ってたんだ!(笑)。いやあ～、ホントに類まれなる存在だと思いますよ。

斉藤　あ、事情通のMさんからの電話だ。もしもし、いま魔王のことをしゃべってるんですけど……ふんふん、へえ～～～!!(しばらく電話で話し込む)。

X　なんかわかった?

斉藤　未確認情報ですけど、秋山のファイトマネーは、普通のファイターのデビュー戦並みの金額ですね。

X　ただ、そのぶんUFCに仲介した韓国のテレビ局が負担するようなんですけど、どうもその話があやしくなってきてるとか、きてないとか。

X　へえ～!

斉藤　しかも税金でけっこう持っていかれるから、テレビ局のバックアップなしでは、たとえば「年間3試合をやってもDREAMの1試合ぶんにもならないんじゃないか?」というのが事情通Mさんの見解です。

X　秋山、ピンチじゃん。

斉藤　で、Mさんによると秋山の最大の狙いは、日本や韓国にUFCをプロモートすることらしいんですよ。

ガンツ　魔王主催のUFC!!(笑)。

斉藤　でも、それも難しいんじゃないかって。UFCが相当ふっかけるだろうから。3～5億円ぐらい。

ガンツ　言いかねないよね、その金額は。

斉藤　そういえば、秋山が韓国での自主興行をFEGに持ちかけたという噂もあったじゃないですか。どこまで本気かわかりませんが。

X　それは無理難題を突きつけてるうちの一つだと思うな。

ガンツ　去年11月のDREAM韓国大会がなくなっちゃったのはそれが原因らしいからね。

X　最後の最後まで、やるかどうかわからなかったっていう。結局は条件が合わなかったんでしょ。

斉藤　あれは秋山次第だったんですか?

ガンツ　だろうね。けっこうほかのカードも決まってたのに、流れちゃったっていう。しかも2週間ぐらい前までやるかもしれないとか秋山本人は言ってたらしいからね。

X　田村潔司以上の思わせぶりだなあ。やっぱり勝負師なんだろうね。いまはその時期じゃないっていう。

斉藤　相手の足下を見るというか。UFCに対してもまだおとなしくしてるけども、チャンピオンにでもなって少しでも立場的に有利になったら……。

X　きっと凄いことになりますよ!ダナ・ホワイトの向こうを張ってどんな無理難題を突きつけるか。

ガンツ　M-1のワジム代表ばりに「韓国にアリーナを作れ」とか言いだしたり(笑)。

X　そして秋山の韓国側関係者がクレイジー・コリアン呼ばわりされる、と(笑)。

ガンツ　まぁ、秋山がようやくやる気になって、あらゆる話題を提供してくれそうだね。やっぱりあんなおもしろい人いないから。

X　いないよね、よくも悪くも清濁併わせ呑んでいるし。

斉藤　ボクが2008年MVPに魔王を推した理由も、秋山成勲を通して格闘技のみならず、人間という生き物がわかるからなんですよ。

ガンツ　いまどき珍しい昭和の格闘家って感じもするしね。

斉藤　だいたい、いまどきファイター兼プロモーターの野望を抱く選手なんて、いないじゃないですか?(笑)。

X　いないねぇ。つまり、秋山は21世紀のアントニオ猪木だよね、まさに。猪木さんもそう思ってるんじゃないかな。

ガンツ　単なる競技者じゃないですもんね、『四角いジャングル』の住人だよ(笑)。

X　夢とロマンと裏切りと(笑)。負の要素を持ってるっていうのがいいんですよ。

ガンツ　やっぱ昭和だね。東映のスターだよ(笑)。

斉藤　「リング上だけの俺を観てくれ」って言うのは魔裟斗だけで充分なんですよ。秋山がどんな黒い手段をもってアメリカを震撼させてくれるか、おおいに期待しましょう!

【09年3月4日/『kamipro』編集部にて収録】

日本でのブーイングとは裏腹に、"本拠地"韓国ではマイケル・ジャクソンとして、モデル活動にCM出演、さらにはCD発売と絶大な人気を誇る秋山。日本と韓国での人気のギャップ――この理解しがたい複雑な"二面構造"こそが、魔王を魔王たらしめる最大の要因なのだ。

ンピエールとか、BJ(ペン)とかもそうですけど、軽いクラスでやってるヤツらの動きをみたいですね。重いクラスじゃなくて」

――闘ってみたい選手は?

秋山「行くからには最終的にチャンピオンとやってみたいですけど、いま岡見くんが頑張っているので、岡見くんがもしチャンピオンになったら、それに挑戦したりとか、そういうかたちも、僕の中では夢があっていいと思います」

――ヴァンダレイ・シウバも階級を落としてくるが?

秋山「あー、そうですよね。そうなったら、やりたいですね」

――キャリアの最後にアメリカで結果を残したいのか?

秋山「アメリカで結果を残して、日本でも格闘技がちょっとでも盛り上がるかどうか、わからないですけど、違ったものを日本に戻ってくることができれば。6試合であれば全然いいと思ってます。多いとは決して思ってません」

――11月以降の練習は?

秋山「普段どおり、変わることなく練習はしてました。『もしかしたらUFC行くかも』みたいな感じで、ヒジ(を使った練習を)やったりとかはしてましたけど、本当に興味のある程度で、あとは普段どおりにウェートトレーニングしたりとか、そういう感じでやってましたね」

――次の渡米は?

秋山「次の大会のときに行こうと思ってますね。観戦させてくれるときです」

――自伝を出版するが、それ以外に格闘技をアピールする計画はあるか?

秋山「まず、本を出すことで、いままでいろんなことを感じてきたこととか、格闘技で経験したことを全部出したつもりなんですけど、そこから何が広がるか……、たとえば、単純にテレビに出たりとか、韓国に行って韓国の人たちにもっとUFCのことを知ってもらったりとか、日本の人にもっと知ってもらうために、民放がつくことはないかもしれませんけど、WOWOWに加入する人が一人でも増えてもいいと思いますし、まだスケジュールははっきりと出てないんですけど、そういった意味で何かしたいなと。まずは自伝からですね」

――明日は韓国で会見だが、何をアピールしたいか?

秋山「韓国の人も一生懸命、僕のことを応援してくれる人は多いので、また『挑戦しに行きます』という報告をしたいと思います」

――日本のファンにメッセージを。

秋山「挑戦する心を忘れず、ドンドン前に進みたいと思います。いまも不況ですけども、そういう気持ちを持って行けば景気も回復するでしょうし、そして自分たち格闘家にとっても何か景気のいいことが起こるんじゃないかなと思って、まず僕はアメリカに行って闘います」

WANDERLEI SILVA

THE AXE MURDERER

“サクの盟友”がUFCで“魔王”を迎撃宣言!!

アキヤマを1ラウンドでKOしてやる!

“魔王”秋山成勲がついにUFCと正式契約。今夏よりミドル級戦線に参戦することとなったが、UFCのミドル級といえば、ヴァンダレイ・シウバも階級を下げて加わってくる階級。桜庭和志のライバルであり、盟友でもあるシウバは、秋山のUFC参戦についてどう感じているのか。早速、シウバに電話インタビューを試みた。

聞き手／石井史彦　撮影／乾晋也　構成／堀江ガンツ

ルールを守るのは最低限の義務だよ
それが守れないヤツに闘う資格はない

WANDERLEI SILVA THE AXE MURDERER

――シウバ選手、日本の『kami-pro』ですが、いま電話でインタビューよろしいでしょうか？

シウバ　OK！　いま車で移動中なんだけど、なんでも聞いてくれていいよ。

――運転中でしたか。すいません。

シウバ　問題ないよ。さあ、インタビューを始めよう！

――よろしくお願いします。まず、ミドル級転向第一戦が、ドイツで行なわれる6・13『UFC99』でのリッチ・フランクリン戦が噂されていますが、どうなりそうですか？

シウバ　おそらく、そのとおりになるよ。昨日まで『UFC99』のプロモーションでドイツに行ってきて、昨夜ラスベガスに帰ってきたところだからね。

――もうプロモーションもスタートしてるんですね。ドイツでの盛り上がりはいかがでしたか？

シウバ　UFC初のドイツ大会ということもあって、現地のファンの盛り上がりは予想以上に凄まじかったよ。会場もPRIDEの"ホーム"だったさいたまスーパーアリーナと同じくらいビッグだし、6月13日が待ち遠しいよ。

――対戦相手となるリッチ・フランクリンにはどんな印象を持っていますか？

シウバ　とてもアグレッシブな素晴らしいコンプリートファイターだね。俺のミドル級転向第一戦の相手として申し分ないし、前チャンピオンと闘えることを光栄に思っているよ。とにかく、素晴らしいファイトになることは間違いないさ。

――リッチ戦は185ポンドのミドル級ではなく、リッチの希望で195ポンドになるとも言われていますが、どうなりそうですか？

シウバ　キミの言うとおり今回は195ポンドの契約。確かにリッチからの希望だとUFCからは聞いているよ。

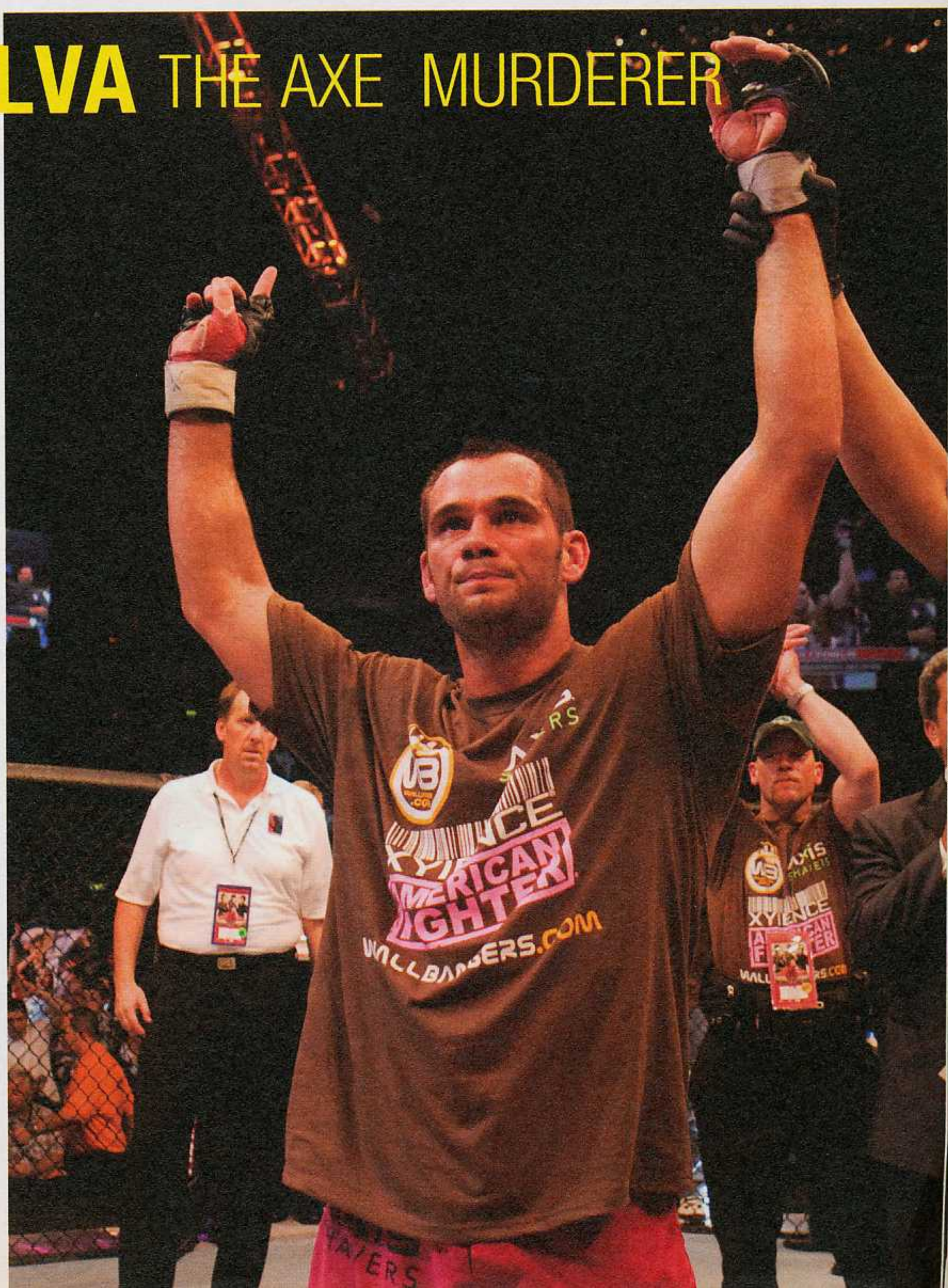
――シウバ選手的には195ポンドでも問題ないわけですか？

シウバ　俺は自分の試合については、ダナ（・ホワイト）に任せているからね。リッチは素晴らしい選手だし、俺は組まれた試合に全力で挑むだけさ。

――ミドル級で闘いたい相手はほかにいますか？

シウバ　さっきも言ったとおり、対戦相手はすべてUFCに任せているから、ファンが望んで、ダナが俺と闘わせたいという相手なら誰でもいいよ。ただ、近いうちにミドル級のチャンピオンベルトを腰に巻きたいので、なるべくトップコンテンダーと闘って、年内にはタイトルマッチを実現させたいね。

――シウバ選手の盟友であるデミアン・マイアがミドル級で素晴らしい活躍をしていますが、タイトル戦線で彼との対戦が組まれたら、その試合は受けますか？

シウバ　いや、デミアンは友人というだけでなく、自分のチームメイトでもあるから、彼と試合をすることはないし、オファーがあったとしても受けないよ。

――もしデミアンが先にタイトルを獲ってしまって、そのタイトル戦だとしても受けませんか？

シウバ　受けないね。俺もデミアンもミドル級のタイトルを目指すことは一緒だけど、同門対決はありえないよ。もし彼が先にチャンピオンになったら、長く防衛できるようにサポートするだけさ。逆に俺が先にチャンピオンになったら、デミアンもそうするだろうしね。

――わかりました。

シウバ　俺はデミアンと日本のオカミ（岡見勇信）の試合が観たいね。二人とも素晴らしいグラップラーだから、おもしろい試合が期待できると思うし、どちらもタイトル挑戦を目指している者同士に闘いだからエキサイティングな試合になるだろう

シウバのミドル級転向第一戦の相手として予定されているリッチ・フランクリン。UFCには03年から出場し、UFC世界ミドル級王座にも君臨。UFCで岡見勇信に唯一、土をつけた強豪だ。シウバにとっても厳しい相手であることは間違いない。

からね。

シウバ　素晴らしいニュースだね！　ア

それが守れないヤツに闘う資格はない

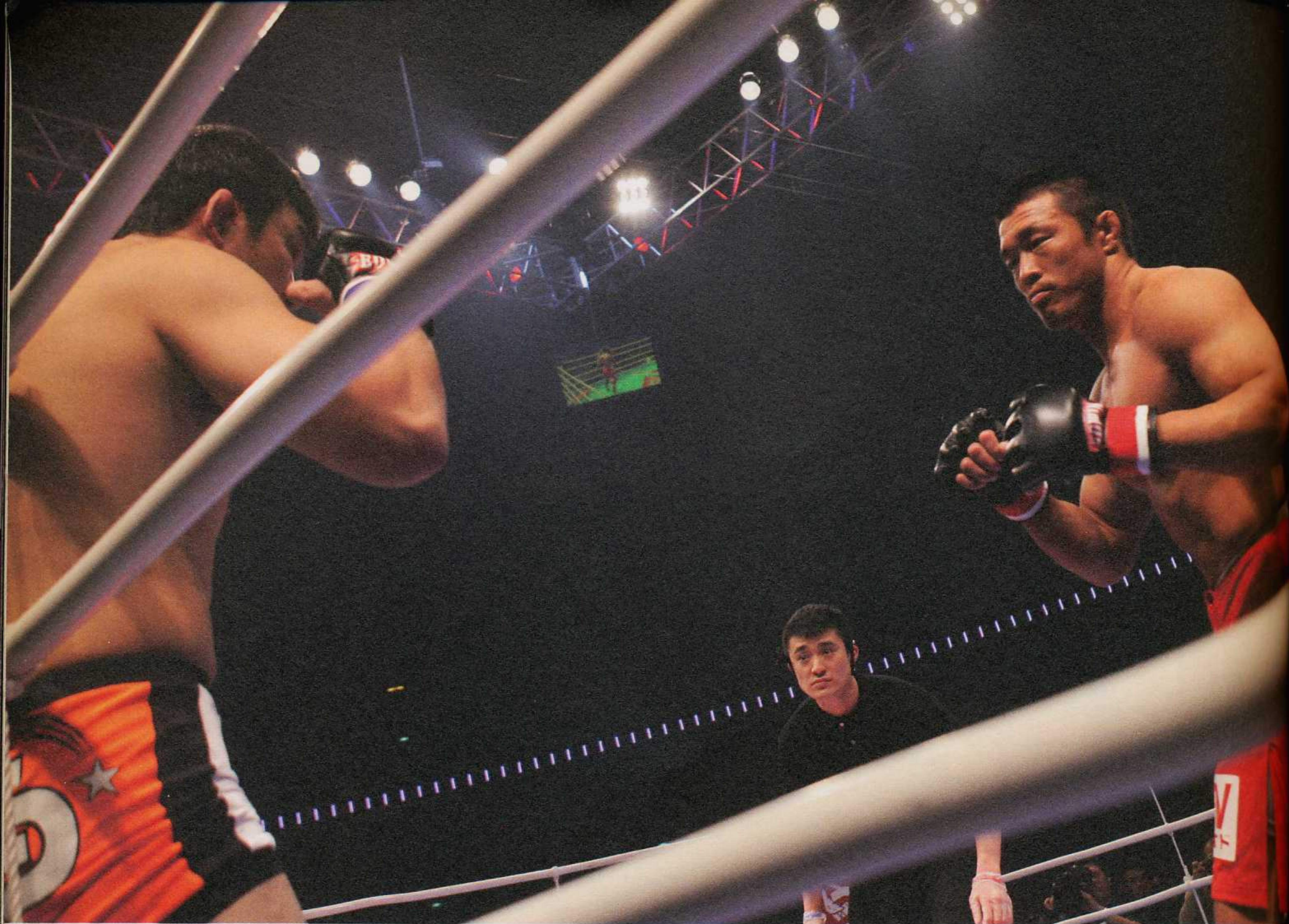
からね。

——岡見選手がUFCミドル級のタイトルに挑戦できないのはなぜだと思いますか？

シウバ　ビッグネームとの対戦がまだないことや、強くて負けないファイターではあるけど、常にノックアウトや一本勝ちを狙っていないように感じるからじゃないかな。同じグラップラーでも、オカミはデミアンと違って、グラウンドでホールドしていることが多いからね。

——やはり試合内容が関係してるんでしょうね。

シウバ　でも、デミアンはグラウンドで動くから、オカミもそれに対抗すれば、必ずおもしろい試合になると思うよ。二人ともトップの実力を持っているしね。

——ミドル級の日本人といえば、秋山成勲選手のUFC参戦が決定しましたけど、どう思いますか？

かつて桜庭戦では、必ずうしろに重心を置いて距離をとって闘っていたシウバ。これは桜庭のタックルと寝技を警戒してのスタイルだったが、"魔王"秋山も、もしクリームを塗布していなかったら、スタンドでプレッシャーをかけられたかどうか……。

シウバ　素晴らしいニュースだね！　アキヤマのようなトップファイターが参戦してくるのは、UFCにとってもいいことだし。アキヤマ自身にとっても、自分の実力を世界に証明する場ができたんだから、やりがいがあるだろう。

——秋山選手の試合にはどんな印象がありますか？

シウバ　彼はトップレベルの柔道家だから、グラウンド技術が優れているのはもちろん、スタンドアップの打撃でもパワーがあってタフなファイターというイメージがあるね。

——秋山選手はUFCでもトップ戦線で通用すると思いますか？

シウバ　間違いなくトップ戦線に絡んでくるだろうね。彼のパワフルな打撃は、UFCでも大きな武器になるだろう。あとはオクタゴンに慣れればいいだけさ。

——じつは秋山選手は、UFC参戦発表会見で「ヴァンダレイ・シウバとも闘いたい」と言ってるんですよ。

シウバ　それはいいアイデアだね。俺もアキヤマと対戦したいよ。ただ、オレと闘ったらアキヤマは1ラウンドでノックアウトされることになるけどね。

——1ラウンドKOを予告しますか！

シウバ　彼のパンチもパワフルだが、俺のほうがもっとパワフルだからね。いずれにしても、凄い試合になることは間違いないな。

——秋山選手はかつて、桜庭和志選手との試合で身体中にクリームを塗る反則を犯し、大きなスキャンダルになりました。この件についてどう思いますか？

シウバ　論外だね（キッパリ）。俺たちがやっているファイトは、ルールに則ったスポーツなんだ。ルールを守らなければ、そ

らエキサイティングな試合になるだろう

UFC日本大会があればぜひ出場したい。相手がアキヤマなら最高だ

れこそストリートファイトと変わらない野蛮な残酷ショーとなってしまう。だからこそ、そのルールを守るのはファイターとして当然の義務だし、それが守れないヤツはオクタゴンに上がる資格はないよ。アキヤマがどういうつもりでクリームを塗ったのかはわからないけど、故意でないことを願いたいね。

――もし桜庭vs秋山戦で秋山選手が身体中にクリームを塗っていなかったら、試合はまったく違ったものになっていたと思いますか？

シウバ　それはわからない。でも、アキヤマはルールを守ってなかったんだから少しは違った試合展開になってかもしれないね。サクラバとは3度試合をして、シュートボクセ時代には一緒に練習もしたけど、彼のタックルは本当に素晴らしいものなんだ。それがすべって使い物にならなくなったら、サクラバにとったら大きな武器を失なうようなものだろう。そういった意味では、内容はどうしても変わってくるだろうな。

――日本のファンの中には、シウバ選手に桜庭選手の"敵討ち"をしてほしいと思ってるファンも多いんですよ。

シウバ　本当かい？　日本のファンがそんなふうに思ってくれているのなら嬉しいし、その期待には応えたいね。俺はべつにアキヤマを憎んでいるわけじゃないし、彼は素晴らしい能力を持ったファイターだと思うけど、サクラバはライバルであると同時に友だちだし、日本のファンが喜んでくれるなら、俺は全力でアキヤマを倒す。さっきも言ったとおり、1ラウンドKO勝ちを約束するよ。

――ヴァンダレイ・シウバvs秋山成勲というカードがが日本で実現したら、最高なんですけどね。

シウバ　俺もそれを望んでいるよ。また日本のファンの前で試合をしたいといつも思っているし、実際、ダナにも「UFC日本大会をやるときは、ぜひ俺を出場させてくれ」と言ってあるしね。その対戦相手がアキヤマだったら、最高にエキサイティングなイベントになることは間違いないよ。

WANDERLEI SILVA THE AXE MURDERER

Wanderlei Silva■1976年7月3日、ブラジル出身。2000年からPRIDEに出場し、桜庭和志との3度の激闘でブレイク。"PRIDEミドル級絶対王者"と呼ばれる。07年からUFCに参戦。アグレッシブなファイトでアメリカでも人気を集める。180cm、93kg。

――先日UFCでもGSPのワセリン騒動により、ワセリン禁止論争なんかも出ていますが、シウバ選手はワセリンを塗ることに対して、どのような考えを持っていますか？

シウバ　現行のUFCルールのとおり、顔に塗るのはいいことだと思う。もしワセリンが禁止になったら、流血試合がもの凄く増えるだろうし、ヒジでカットさせようとするファイターが増えて、競技体系自体が変わってしまう可能性もある。だから、俺はワセリンには賛成なんだけど、顔以外に塗るのは絶対にダメだよ。

――わかりました。では最後に、シウバ選手の今後のプランとして、リアリティショー『ジ・アルティメット・ファイター（TUF）』のコーチを希望していると聞きましたが、本当ですか？

シウバ　ああ、本当だよ。じつはすでに、その件についてダナとも話し合っているんだ。来年には実現できたらということでね。俺がコーチになったら、自分のチームに地元アメリカ人だけじゃなく、日本人とブラジル人を少なくとも一人ずつ入れたいね。

――もうそんな具体的なことまで考えていますか。どうして『TUF』のコーチになろうと思ったんですか？

シウバ　自分のファイトスタイルや試合に対しての考え方や経験をこれからトップに上り詰めていくファイターに継承したいんだ。それに自分がより成長するためにも要求される経験だからね。

――シウバコーチが実現したら、どんなコーチになろうと思っていますか？

シウバ　とてもシリアスなコーチさ。軍隊よりも厳しく、俺に冗談を言う生徒なんて許さないよ（笑）。

――では、秋山戦実現とともに、鬼コーチ・ヴァンダレイ誕生にも期待してます！

シウバ　ありがとう。日本のファンにもよろしく伝えてくれ！

【09年3月6日／電話取材にて収録】

UFC 今後のスケジュール

UFC97
4月18日(土)カナダ・モントリオール、ベルセンター
UFC世界ミドル級タイトルマッチ
アンデウソン・シウバvsターレス・レイチ
マウリシオ・ショーグンvsチャック・リデル
長南亮vsT.J.グラント

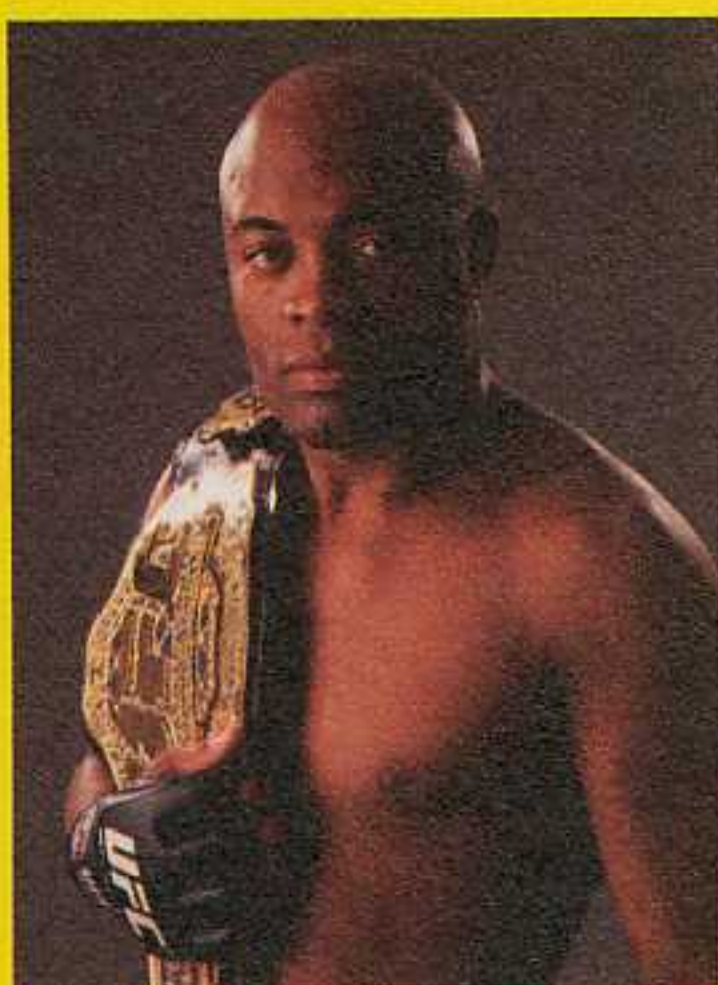
UFC98
5月23日(土)米国ネバダ州ラスベガス、MGMグランドガーデンアリーナ
UFC世界ライトヘビー級タイトルマッチ
ラシャド・エバンスvsリョート・マチダ(予定)
マット・ヒューズvsマット・セラ
岡見勇信vsダン・ミラー
吉田善行vsブランドン・ウルフ

UFC99
6月13日(土)ドイツ・ケルン、LANXESSアリーナ
ヴァンダレイ・シウバvsリッチ・フランクリン

秋山を待ち受けるのはコイツらだ!!

UFCミドル級 トップファイター名鑑

UFCでは"神の階級"ウェルター級や有名選手が集結するライトヘビー級の評価が高いが、ヴァンダレイ・シウバも転向を視野に入れているミドル級も世界の強豪がウヨウヨ! 秋山を待ち構えるのはコイツらだ!

写真／Josh Hedges（UFC） 乾晋也

ANDERSON SILVA

アンデウソン・シウバ

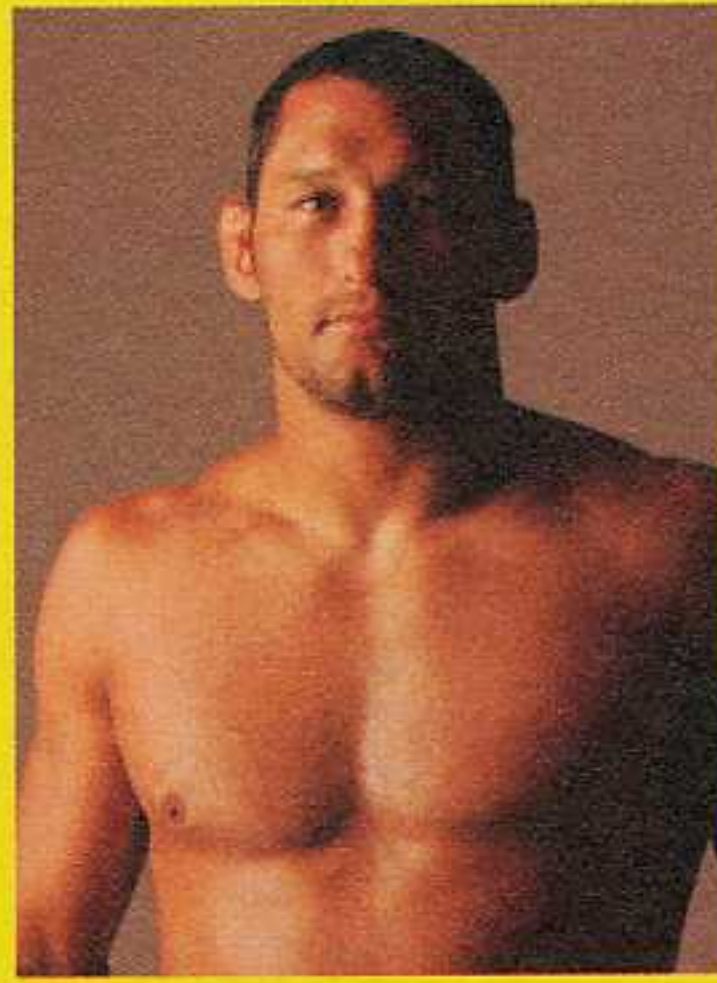
188cm／84kg［ブラジル・パラナ州出身］

PRIDE時代には高瀬大樹や長南亮に不覚を取ったものの、その後、海外の大会で経験を積んで覚醒。UFCでは『UFC64』で王者リッチ・フランクリンにヒザ蹴りでKO勝ちして第5代王者となって以来、4度の防衛戦ですべてKOか一本で圧勝し、2年半にわたり王座に君臨。すべての技術で高いレベルを誇るアンデウソンは、ダナ・ホワイトや多くの格闘家からヒョードルを凌ぐ"パウンド・フォー・パウンド"と称される"絶対王者"。

YUSHIN OKAMI

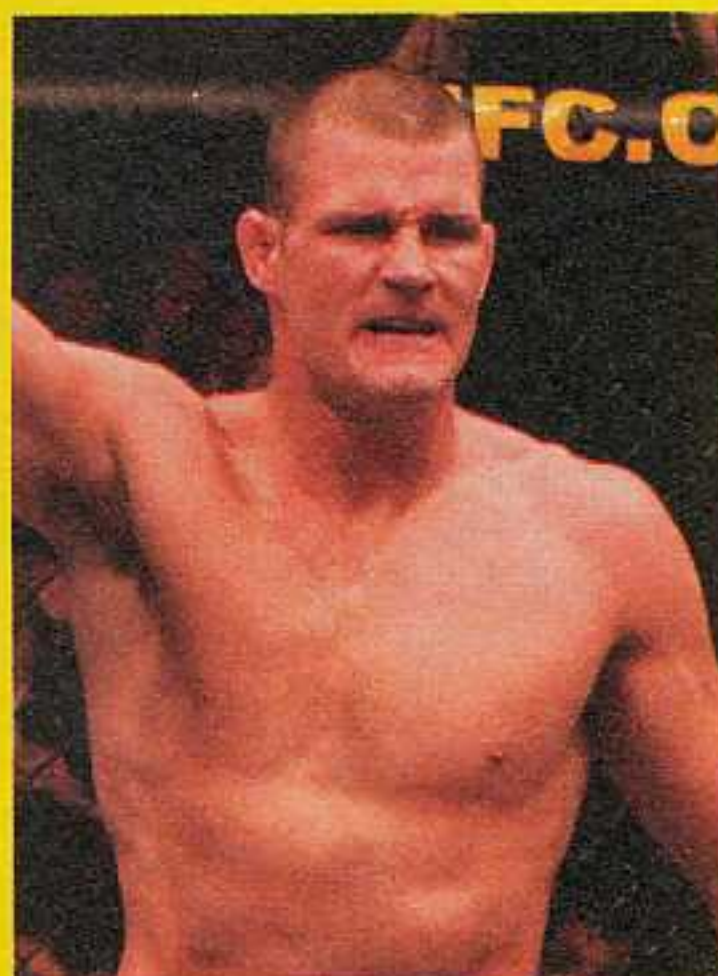
岡見勇信

187cm／84kg［日本・神奈川県出身］

UFCで苦戦する日本人ファイターが多い中、岡見は06年8月の『UFC62』に参戦して以来、7勝1敗と抜群の安定感を誇る。タイトルマッチの挑戦権を賭けた『UFC72』でリッチ・フランクリンに僅差の判定負けしてからタイトル挑戦のチャンスは与えられていないものの、アジア人としては最もベルトに近い位置にいる。5.23『UFC98』ではダン・ミラー（元IFLミドル級王者）戦も決定。キッチリ勝ってタイトル挑戦をアピールしたいところ。

DAN HENDERSON

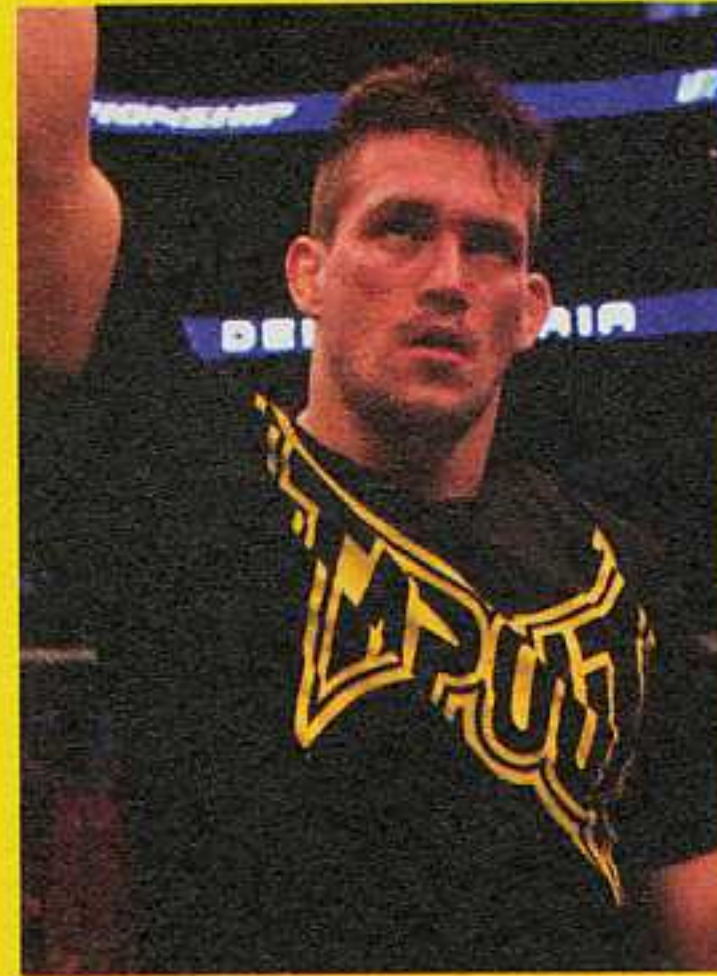
ダン・ヘンダーソン

180cm／84kg［米国・カリフォルニア州出身］

PRIDEウェルター級＆ミドル級王者のヘンダーソンは、07年9月にUFCに復帰し、PRIDEとUFCのベルト統一戦として『UFC75』でライトヘビー級王者ランペイジ、『UFC82』ではミドル級王者のアンデウソンと対戦。いずれも敗れてPRIDEの二本のベルトを失なったものの、その後連勝してUFCの人気リアリティショー『TUF』のコーチ役の座をゲット。今年の4月から"UFCの顔"として毎週テレビに出演するヘンダーソンは、オクタゴンでも重要人物の一人。

MICHAEL BISPING

マイケル・ビスピン

188cm／84kg［イギリス・ランカシャー州出身］

『TUF』シーズン3のライトヘビー級優勝者。『UFC78』で現ライトヘビー級王者ラシャド・エバンスに1-2の判定負けを喫してミドル級に転向したが、UFC本戦でも6勝1敗といかんなく実力を発揮している。『TUF』のシーズン9ではヘンダーソンとともにコーチ役を務める。UFCのビッグマッチ"『TUF』コーチ対決"はメモリアル大会『UFC100』で行なわれることが内定しているが、勝てばタイトルへの挑戦も可能な位置につけている。

THALES LEITES

ターレス・レイチ

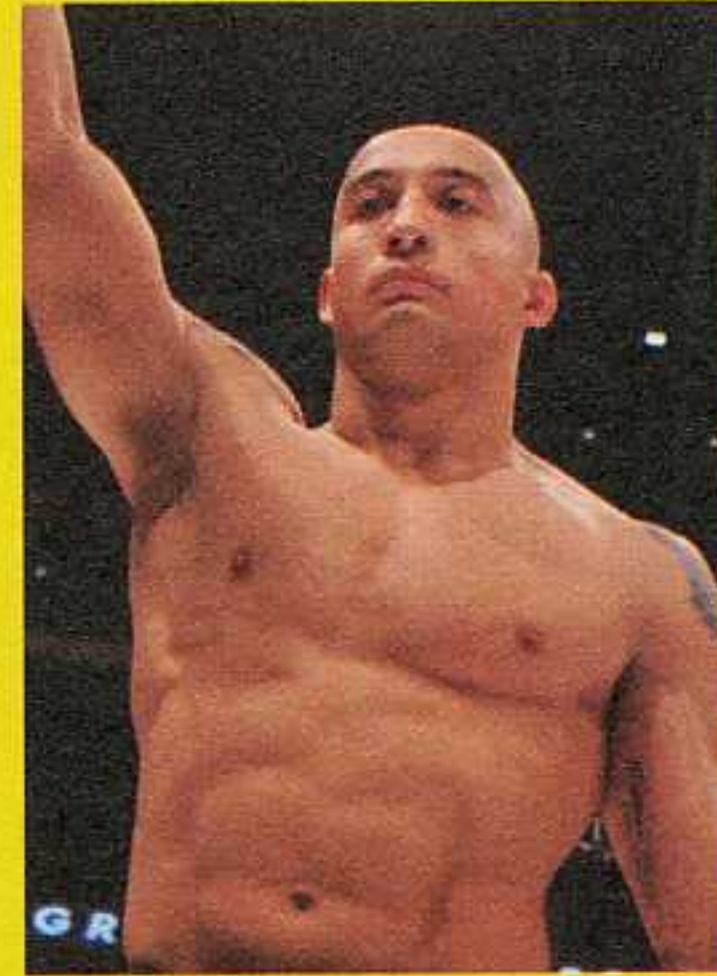
185cm／84kg［ブラジル・リオデジャネイロ市出身］

名門ノヴァ・ウニオンの所属の柔術黒帯ファイター。絞め技を得意としており、相手に絡みついて絞め落とすことから"スクーリ（大蛇）"の異名を持つ。UFC参戦前にはグスタボ・シムやペレからもタップを奪っており、高い一本勝ち率を誇る。UFCでは初戦こそマルティン・カンプマンに判定負けしたものの、現在は5連勝中と波に乗っており、4.18『UFC97』では王者アンデウソン・シウバのタイトルへの挑戦も決定している。

DEMIAN MAIA

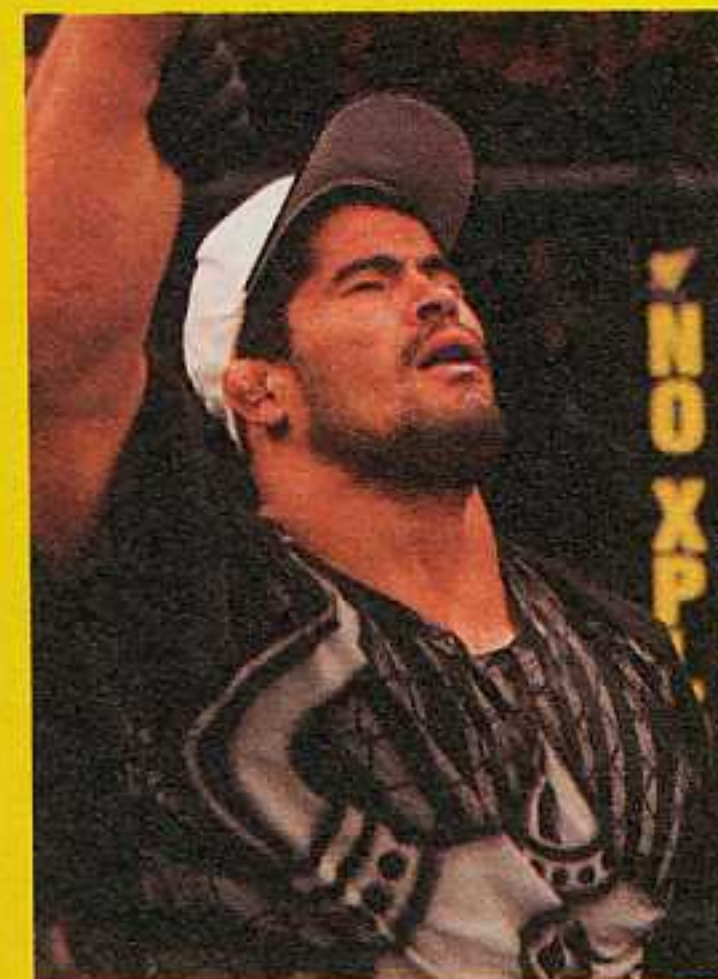
デミアン・マイア

184cm／84kg［ブラジル・サンパウロ州出身］

柔術のムンジアル、コパドムンドやアブダビコンバットなど、さまざまなグラップリングの大会で優勝を総ナメにしている"柔術セレブ"。グラップリングとともにMMAも並行しており、戦績は10戦全勝で判定は一試合だけと、無類の極めの強さを持つ。UFCでも『UFC77』でデビューしてから5試合連続一本勝ちしており、いまミドル級で最も勢いのある選手。現在はヴァンダレイ・シウバと練習しており、打撃の習得にも余念がない。

DENIS KANG

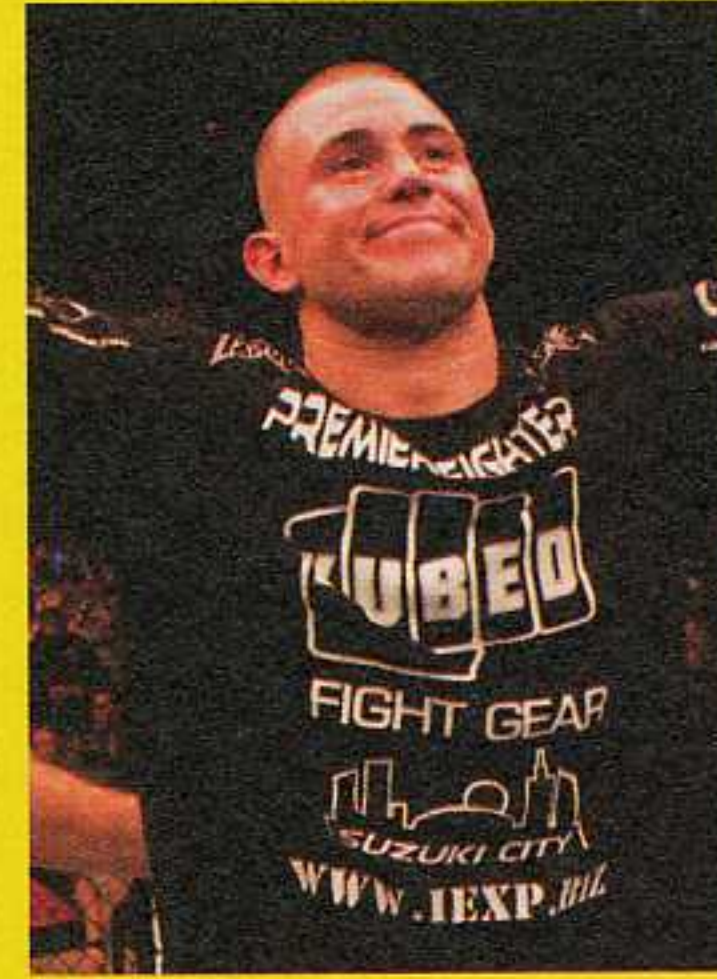
デニス・カーン

180cm／84kg［フランス・サンピエール島・ミクロン島出身］

オクタゴンデビューとなった『UFC93』ではアラン・ベルチャーにフロントチョークで不覚をとったが、『PRIDEウェルター級GP2006』で準優勝した実績を持つデニス・カーンはUFCでも中心選手になる可能性を秘めている。秋山成勲とは『HERO'S KOREA』で対戦して敗れているが、両者とも韓国で人気があることからUFCで再戦する可能性は高い。秋山の来場が予定されている『UFC97』ではシャビエル・フォウパ・ポカムとの対戦も決定している。

ROUSIMAR "TOQUINHO" PALHARES

ホジマー・"トキーニョ"・ハルハレス

173cm／84kg［ブラジル・ミナスジェライス州出身］

幼少時代は家庭が貧しく交通費も払えなかったためメジャーな柔術大会に出場できず実績はないものの、その実力はムリーロ・ブスタマンチが「ブラジリアン・トップチームの新エース」と太鼓判を押す。UFCでもいきなり一本賞を獲得して派手にデビューを飾る。『UFC88』ではダン・ヘンダーソンの老獪な試合運びの前に判定負けしたが、その後は難敵ジェレミー・ホーンに勝利するなど、着実に金網での闘いに適応している。

ALAN BELCHER

アラン・ベルチャー

188cm／84kg［米国・アーカンソー州出身］

秋山のUFCデビュー戦が噂される7.11に開催予定の『UFC100』で対戦候補に挙がっているのが、このアラン・ベルチャーだ。MMA戦績は14勝5敗で、打撃でのKO勝利が多く、絞め技や足関節でも一本を取れるオールラウンダー。UFCでは『戦極』ミドル級王者ジョルジ・サンチアゴをKOし、今年1月の『UFC93』では秋山と因縁のあるデニス・カーンをフロントチョークで一本を奪うなど、勢いのある選手。秋山の実力測定をするにはもってこいの相手だ。

UFCを最もよく知る日本人のロングインタビュー

現役日本人メジャーリーガー

岡見勇信

YUSHIN OKAMI

秋山成勲の参戦が発表され、ますます注目が集まるUFC。いまや世界最高峰とも言われ、
多くのファイターがその頂点を目指すUFCで、ただ淡々と勝ち続ける男が岡見勇信である。
あのアンデウソンやヴァンダレイと同じ風景を見ている岡見に、
『kamipro』が初の単独インタビューを敢行。現役メジャーリーガーの本質を探る!

聞き手／ジャン斉藤　撮影／Josh Hedges（UFC）、梅木麗子

——岡見さんの練習仲間である石井（慧

kamiproは
チャンピオンになるまで俺を取り上げるな!!

——岡見さんの練習仲間である石井（慧）さんや秋山（成勲）さんがUFCに参戦することになって、俄然UFCに注目が集まっています。

岡見　凄くありがたいことですよね。石井くんがUFCの名前を出してくれて、いままで知らなかった方々がちょっとでもUFCに興味を持ってくれるなら凄く嬉しいことだし、秋山さんも発言力がある方なので、ボクとしては本当に嬉しいことだと思ってます。

——彼らの特別扱いに嫉妬されたりしませんか？

岡見　いやいや、思わないですよ（笑）。やっぱりあの二人は実績を持ってる選手なので。石井くんは柔道で金メダルを獲っていて、それはもう凄まじいことですから。

——でも、アメリカでの実績や知名度だったら岡見さんのほうが……。

岡見　（さえぎって）いやあ、ボクはいいんですよ（笑）。まあ、海外ではUFC自体が凄まじい人気なので、ボクの中では別世界という認識なんですよ。お客さんがボクに声をかけてくれたりすることも。

——それって夢の世界に紛れ込んでいる感覚ですか？

岡見　まあ、そうですね。だからそれは選手として凄くありがたいことだし、それをまた日本でもっていうのは……、そんなことまで考えていないです。

——『ｋａｍｉｐｒｏ』でUFCの企画があると、いつも話を聞きにいくのは長南さんと郷野さんなんですよ。非常に申し訳ないんですけど（笑）。

岡見　いやあ、ボク、『ｋａｍｉｐｒｏ』色がまったくないですから（笑）。でもボク、『ｋａｍｉｐｒｏ』の携帯サイトに入って

るんですよ。
—ホントですか、ありがとうございます！（笑）。で、郷野さんなんかは派手な入場をしたり、英会話教室に通ったりしてますが、岡見さんは？
岡見　海外には試合のときに行くくらいで、英会話教室にも通ってないです。英語を話せたほうが絶対にいいとは思ってるんですけどね。
—どのくらい英語を話せるんですか？
岡見　う〜ん、中1ぐらい。
—たしか英語の授業って中1から始まってますよね（笑）。
岡見　中2かな（笑）。そのへんは感覚でやっているんですよね。公の場で流暢に英語での会話ができないけど、英語が話せないのを苦にしていないというか……。ただ、今度の試合でいい勝ち方をしてインタビューをされたら、英語で何かを言おうとは思ってるんですけど（笑）　そうですね……どうせ英語を覚えるんだったら現地に行って覚えたい。
—長期の渡米計画はないんですか？
岡見　今年は行きたいなと思っているんですけど。
—いまよく「練習環境で日本はアメリカに劣っている」とか言われるじゃないですか。英会話にしても、ムリーロ・ブスタマンチはチャンピオンになったけど、英語がしゃべれないから冷遇されたりして。
岡見　そうか……。
—岡見さんは何一つやってないみたいですね。
岡見　何一つやってないですね〜（笑）。
—いいんですか？（笑）。
岡見　いやあ、よくないとは思うんですけどね。ただまあ、練習に関しては日本でもできるんですよ。ある程度は自分の納得できる練習ができているし。でも、いろいろな技術や刺激を受けにアメリカには行かなきゃいけないなあと思っているけど、なかなかね……。
—もしかして、試合同様に腰が重いほうですか？
岡見　ええ。もの凄く腰が重いんです

UFC8戦7勝の実力を見よ！

[06.08.26 UFC62]
○ vs アラン・ベルチャー
(3R終了 判定3-0)
UFC初参戦となったのがこのアラン・ベルチャー戦。テイクダウンからパウンドという展開で初戦を判定勝利で飾った。岡見のUFCの歴史はここからスタートした。

[06.10.14 UFC64]
○ vs カリブ・スターンズ
(3R 1分40秒 TKO)
2ヵ月弱のスパンでUFC2戦目に挑んだ岡見。相手は『TUF-3』のスター候補生でもあったスターンズとなったが、アッパーでこれを撃破。快勝を挙げた。

もの凄く腰が重たいんですよ　そこがね、ボクの一番ダメなところ

よ。
—「アメリカで練習？　……面倒くさいなあ」っていう。
岡見　それがね、ボクの一番ダメなところなんですよ。だからすぐポストに郵便物が溜まる。「やろう、やろう」と思ってはいるんですけど。
—「やろう、やろう」と決意を込めることじゃないですよ、ポストを開けることって（笑）。
岡見　そういうところがダメですね。やるときは早いけど、その腰を上げるまでがボクのダメなところですね。
—今日の取材も18時30分の待ち合わせなのに、到着したのは19時ですもんね。
岡見　今日はちょっと事情があって。
—取材が面倒くさいとかじゃなくて。
岡見　決してそういうことじゃないです！（笑）。
—そんな感じだと、たぶん海外には行かないですよね？
岡見　痛いところ突きますねぇ。
—おそらく行かないですよね？（笑）。
岡見　おそらく行かない（笑）。まいったなあ。行きたいとは思っているんですけど。
—ダハハハハ。で、今回、岡見さんを取材するにあたって、過去のインタビューをいろいろ読ませてもらったんですけど。あまり欲が見られないというか、いたって謙虚ですよね。
岡見　アハハハハッ！　そうですか？　謙虚ですかね。
—岡見さんぐらいの実績があったら、先ほど発言力という言葉が出ましたけど、多少は偉そうなことを言ってもおかしくないのかなあ、なんて思ったんですけど。
岡見　そのほうがおもしろいですか？
—おもしろいかどうかはともかく、最近の選手なんて2〜3連勝すると、もう天狗になったりするじゃないですか。
岡見　なんていうのかなあ……。たとえば試合でいえば、いまはなんとか勝っていますけど、どの階級でも強い人っていっぱいいる。自分に自信は持っているけど、アンデウソンを見ていて「これは強いなあ！」って感じますよね。もしもボクが天狗になるとしたら、そこらへんを叩きのめしたときじゃないかなあ。
—そのときに初めて天狗になる。
岡見　そのときになるんじゃないかな（笑）。いままで、素晴らしい選手たちと闘って勝ってきたことは凄く自信になっているんですけど、やっぱりもっと上はいます。そういう選手たちと闘って勝たなきゃいけないっていうのがありますね。
—天狗になっているヒマはないということですか。
岡見　そうですね。そんなヒマはないです。強い選手がどんどん出てきますから。
—日本だと、人気が出た途端に、たとえば着るものが変わったりとかするじゃないですか。
岡見　あ、まるでボクがダサイみたいじゃないですか（笑）。
—いやいや、そういうことじゃなくて

(笑)、もの凄く変化がわかりやすいんですよ。でも岡見さんはアメリカで活躍してるからこそ、ボクらからじゃ見えない"変化"があるのかなあなんて思ったんですね。

岡見 確かにあまり変わってないですね。車とかほしいなと思うけど、車の免許がないんですよ、これがまた。

――そこも腰が重いんですか(笑)。

岡見 そうなんです。「取ろう、取ろう」とは思ってるんですけどね。

――時計に興味はあったりしないんですか?

岡見 時計もそこまで興味がない。いまは自分に投資って感じで、トレーニングに費やしていますね。

――たとえば秋山さんはファッションにお金をかけてるし、愛車も凄いじゃないですか。

岡見 はい。そこも含めてすべて秋山さんですよね。

――つまり"秋山成勲"というキャラクターを作っていることですよね。

岡見 はい。そこはプロとして凄いと思います。

――岡見さんは"岡見勇信"というキャラクターをどのように考えてらっしゃるんですか?

岡見 いまはプロとして見せるというよりは、自分を強くすることに懸けてるというか。もちろん、プロの部分で考えていかなきゃいけないと思うけど、これからどんどん強敵と闘うので、まずはそこをクリアしないと意味がないと思うんですよ。

――ちょっと話はさかのぼるんですけども、プロデビューした当時、岡見さんは何をもって成功だと考えていましたか?

岡見 それは難しいですね……。その時期その時期でいろいろ変わってきます。最初の頃はやっぱり「格闘技だけで生活したい」とか。いまは自分が理想としている選手に勝つ力をつけることが成功につながっていくかなあと思っていますけど。

――なるほど。MMAっていわゆる完全な競技ではないじゃないですか。

岡見 ですね。

――何連勝したからチャンピオンに挑戦できるとか、そういう決まりはないわけじゃないですか。

岡見 はい。

――格闘技だけで食っていくことにしても、勝ち続けたところでそれを成しえるとは限らない。ということは当時、理解していましたか?

岡見 当時は、あまりわかっていなかった。どうしても、目の前のことに精一杯だった。

――そこで苛立ちが生まれることはなかったんですか?

岡見 どうなんだろう? 日本のメジャーと呼ばれる団体になかなか出られなかったりして、苛立ちというか、「どうすればいいんだろう?」という不安は凄くありました。

――それは練習して強くなって試合に勝ってるだけではダメなんじゃないかな、ということですね。

岡見 もちろん、当時の自分に魅力がなかったというのもあるんだろうし。だからこそ、そういった面でもっといい試合をして、もっともっと強くならなきゃいけないんだなっていうふうに思っていました。それで一つのチャンスでももらえれば、その試合に懸けるしかないなって考えていました。

――その当時「この試合だけは今後の格闘技人生を考えるうえで絶対に落とせない」という覚悟で臨んだ試合はありますか?

岡見 けっこうありますよ。もちろん毎試合、そういう覚悟はありますけど。究極に近いレベルで思ったのは長谷川(秀彦

[06.12.30 UFC66]
◯ vs ローリー・シンガー
(3R 4分03秒 ギブアップ)
UFC3戦目は、これまた「TUF・3」出演ファイターのローリー・シンガー。しかし、岡見はこれを得意のパウンドで制し、日本人初のUFC3連勝を挙げた。

[07.04.07 UFC69]
◯ vs マイク・スウィック
(3R終了 判定3-0)
UFC5連勝中の波に乗る人気ファイター、マイク・スウィックを寝技で制し、判定勝利。後半、スタミナ切れが心配される場面もあったが、終始試合を制した岡見に軍配。

[07.06.16 UFC72]
× vs リッチ・フランクリン
(3R終了 判定0-3)
岡見が初めてメインイベンターを務めたのが元UFCミドル級王者リッチ・フランクリンとの対戦だ。終盤は挽回したものの、1、2ラウンドの打撃戦で攻められ、初の敗戦に。

現在、岡見と同じミドル級の頂点にいるのがこのアンデウソン。岡見がアンデウソンを倒した日は、kamipro表紙が決定する日でもある!?

選手とメインでやった試合。あとは石川（英司）選手や竹内（出）選手の試合かな。負けたらもう終わるだろうなって。

―「もう終わる」といいますと？

岡見 なんだろうな。「そこまでの俺だな」みたいな。そういうふうに思っていました。

―岡見さんの歴史を振り返っていくなかで、ボクが唯一、異質な出来事だと感じたのは、長南さんとの舌戦なんですよ。試合じゃない争いですし、実際に闘いませんでしたけど、「これは落とせなかっただろうな」って。

岡見 アハハハハ！ その話題にきますか。

―あの舌戦を簡単に説明すると、『武士道』のウェルター級なんてたいしたことないという感じの発言を岡見さんが『ゴング格闘技』でされて。で、長南さんが反発した、と。

岡見 いま思うと、冷静ではなかったです（笑）。その頃、国内でいろいろと新しいイベントができてきて、盛り上がっていましたよね。だからこそ自分に不安感があって。そのときボクは海外でアンデウソン・シウバとの試合が決まってたんですけど、なんだろう……。いろいろな不安からそういう発言しちゃったのかな。それからちょっと調子こいてたかも……。

―ということは、普段の岡見さんのなかでは冷静じゃない自分を抑えながら、格闘技に打ち込んでるってことではありますよね。

岡見 そうですね。欲はありますけど、だいたいいつも冷静なんですけど。

―あのときだけは冷静じゃなかった、と。何か期するものはあったし、プロとして突き動かされるタイミングだったかもしれない。

［08.12.27 UFC92］
○ vs ディーン・リスター
（3R終了 判定3-0）
ケガでオクタゴンを離れていた岡見が復活! PRIDEにも登場した寝技師のディーン・リスターに危なげない内容で判定勝ち。これでタイトルマッチはいよいよ秒読み段階か!?

［08.03.01 UFC82］
○ vs エヴァン・タナー
（2R 3分00秒 KO）
ひさびさのKO勝利となったのが、元UFCミドル級王者でベテランのエヴァン・タナー戦。首相撲からの顔面へのヒザ蹴りで2ラウンド中盤にエヴァンを粉砕!

［07.10.20 UFC77］
○ vs ジェイソン・マクドナルド
（3R終了 判定3-0）
1敗を喫したあとの試合となったが、スタンドでの打撃戦、グラウンドでのパウンドなど、判定までもつれ込んだものの、内容的には圧勝。あっという間に復活してしまうから凄い!

ボクがUFCにいる意味というのはベルトを獲れるか獲れないかだけ

岡見 なんですかね……。あのとき、悪気はないのですが意図なく発言しちゃっているんですよ。

―でも、それによって長南さんとの試合が成立するのであれば、興行として必要なことでしたよね。

岡見 もちろん。そういうふうに納得しました。あのときは長南さんと同じ階級だったし、試合をする可能性があったので、そうなれば盛り上がるな、と。それはプロとして、意図してのことではなかったけど、結果的にはよかったかなって。

―そのあと、そういった手段を用いようと思った場面はありました？

岡見 そういうことは大事だなとは思いましたけど、なかなかそういう機会もなかったので、どうしていいのかもわからなかったし。こういうのも時にはいいかなって。

―でも、いまの岡見さんはUFCがホームじゃないですか。

岡見 はい。

―岡見さんは英語もしゃべれないし、UFCでのキャラクター的にもその手段は用いようがないところはありますよね。

岡見 そうですね。与えられた強い選手と闘って、どんどん自分の糧にしていくだけっていう。最終的にはチャンピオンしか見えていない。ベルトを獲れるか、獲れないかだけの話なんですよね、ボクがUFCにいる意味というのは。日本人として獲れるか獲れないか、意義はそこだけなんですよ（キッパリ）。

―岡見勇信の存在意義は「ベルトが獲れるかどうか」。それは凄いハードルですねぇ。

岡見 ボクは秋山さんや石井くんみたいに発言権力がないですから。

―その存在意義の条件って、シンプルに言うと勝ち続けるってことですよね？ それを背負うのは並大抵の選手は無理ですよ（笑）。秋山さんだって、そこだけ背負って闘うことはできない。

岡見 いやいや（笑）。

―それに人種の壁みたいなものもあるじゃないですか？

岡見 それはまあ、どこの国もあることですから。最初はブーイングとかありましたけど、いまは勝てば拍手で迎えてくれるし、お客さんもいい感じで接してくれるので、そこはいいなと思うけど。

―いま人種の壁はないとおっしゃいましたけども、タイトルマッチへの道のりは長いような印象を受けるんですけども。

岡見 いや、「当然の結果だな」とまだ思っています。一回オファーをいただきましたが、ケガのせいで断ったのは自分だし。でも、あの状態だとホントに試合ができなかったので、それは仕方がないです。開き直りじゃないけど、もっと進化してアンデウソンとやる道を作ったと思っていますね。それはそれでボクは凄く意義を感じているんですけれど。いまのミドル級は強いヤツがいっぱいいるんで。ボクが闘った選手よりも強い選手たちがいるわけ

金網向きとかリング向きとかあるけど 結局は強い選手が勝つんです

で、彼らに勝ってこそだと思うんです。最終的にはアンデウソン・シウバがいるわけだし。アンデウソン・シウバに勝ったら………、それはもう存分に評価してほしい!!

――ワハハハハ!

岡見　それはもう存分に『ｋａｍｉｐｒｏ』さんが取り上げてください（笑）。それで取材に来なかったら、ボクはちょっと怒りますよ?

――了解しました（笑）。

岡見　そこで来なかったら、ボクはちょっと怒る。そのときは横綱（曙）も怒ると思う!（笑）。

――「『ｋａｍｉｐｒｏ』さんは、なんでオカミさんを取り上げないの?」と再び怒られてしまう（笑）。

岡見　いまはまだいいです。取り上げなくて大丈夫です（笑）。

――そう考えると、岡見さんって孤独な闘いをしてますよね。

岡見　トップの選手たちもいまは団子状態だと思う。ミドル級はミドル級で凄く揃ってきて、ホントの意味での闘いはこれからだと思うんですよね。

――あ、「これから」ですか。

岡見　はい。トップの人たちが集まってきて闘っていく。だから「これから」がホントの意味でＵＦＣの闘いになるんじゃないかなって覚悟はしてるけど。

――その覚悟は、いまの岡見さんだからできるものではありますね。

岡見　そこまでカッコイイもんじゃないけど、ホントに大変な闘いになると思います。

――ヴァンダレイ・シウバもミドル級に落としてきますし。

岡見　そうですね。ああいう選手たちと闘ってこそだと思うんですよ。だから、そこで勝ったら評価してください。

――ＵＦＣに上がってるだけで評価してくれるな、と。

岡見　まだいいんです（笑）。

――同階級なのでライバルにもなるんですけど、秋山選手はそのミドル級で通用すると思いますか?

岡見　ボクはね、通用すると思うんです。偉そうなふうにとらないでくださいね。金網向きとかリング向きとかあると思うけど、結局は強い選手が勝つんです。基本的に秋山さんは強い。もちろん、闘ってみないとどうなるかはわからないけど。ただ、ＵＦＣに出て何もできないってことはまずないと思うし、フィジカル面だとか、打撃、レスリング、寝技、細かな部分で言ってもＵＦＣのレベルに達してると思います。だから練習するとボクもいい刺激をもらっています。

YUSHIN OKAMI

おかみ・ゆうしん■1981年7月21日、神奈川県出身。02年2月のプロデビュー後はパンクラス、DOG、PRIDE武士道、『HERO'S』、MARSなど、さまざまな舞台で活躍。現在はUFCに参戦し、7勝1敗の好成績。これからは"本当の闘い"へと飛び込み、王者アンデウソンとのタイトルマッチを待つばかりである。188cm、84kg。ブログアドレスは→http://blog.olga.to/okami/

――なにしろ秋山選手って精神的にタフじゃないですか。

岡見　タフですね。プライベートはあまり接していないけど、「おもしろい人だなあ」って。

――岡見さんとどっちがおもしろいんですか?

岡見　……微妙。いやあ、難しいなあ。たぶん秋山さんのほうがおもしろいっすよ。何をもっておもしろいかわからないけど（笑）。

――秋山さんはＵＦＣでもアピールがうまそうですよね。

岡見　秋山さんはうまいですよね。自分をプロデュースする力っていうのは、ボクに足りないところですよね。

――そこは真剣に考えたことはあります?

岡見　真剣に考えていますね、やっぱり（笑）。考えているけど、あんなことやっちゃうんだよな!（サムライポーズをしながら。どんなポーズかは各自調査しよう!）。

――でも、そういうのって「継続は力なり」だと思いますよ。

岡見　そう! そう思っていたんですけどね……。

――あ、違うんですか。

岡見　さすがに周りからの「やめろ!!」コールが凄まじいので。

――でも、それは引っかかってるってことですから。

岡見　そこまで気にしてはいないけど、さすがにこれだけ言われるとどうなのかなって。

――そこで引いちゃダメですよ。

岡見　ホントですか。

――引くと「ホラ見たことか」って感じで、つけ込まれるじゃないですか。

岡見　……いや、『ｋａｍｉｐｒｏ』は信じられないからなあ（笑）。

――まあ、けっこう無責任に言ってますけど。

岡見　フフフ!

――ちなみにお休みの日はどういうスケジュールなんですか?

岡見　日曜日が休みです。コンビニとビデオ屋に行くぐらいかなあ。

――遠出はしないんですか?

岡見　車があったらできるんですけどね。電車だと遠出しようとは思わないです。ホントに、免許は取ろう取ろうと思っているんですよ。でもこの前、いろいろ相談している人に「免許、取ろうと思っているんです」って言ったんですよ。そしたら、「それはあとでいい。チャンピオンになるまで免許は取るな! やること先にやれ!」って。

――そんなにたいそうなことでもない気がしますけど（笑）。「チャンピオンになったら結婚しろ!」とかだったらまだわかりますけど。

岡見　アハハハハ! そうなんですよ。でも「まだいい」って言われたから、「そっか、チャンピオンになるまでいいや」と思って。『ｋａｍｉｐｒｏ』もチャンピオンになったらまた取り上げてください。

――いや、車の免許を取ったらにしておきます（笑）。

【09年3月4日／都内・RJWにて収録】

すよね。
――よく日本のリングに上がってた

ことなんですね。それは周りの人間、
要はチームに大きくかかっているん

1パスになるんです。自分の中では
研ぎ澄まされていく感覚なんですけ

00分の1いかないんですからね。
――でも、イチローはちょっと例外

通に取材してきましたけど、じつは
我々は郷野さんに関する重大な情報

UFCでの成功に太鼓判!?

「秋山の経済力はUFC参戦には大きな武器ですよ!」

UFC体感ファイターにして名解説者

郷野聡寛

秋山はUFCで通用するのか――。
そのお題を、本誌の"UFCご意見番"郷野聡寛に聞いてみた。
すると、秋山の経済力が成功を下支えするというのだ。
その理由とはいったいなんなのか? さらに郷野本人の重要情報についても直撃!

聞き手/松下ミワ　撮影/乾普也

――じつは今日、タイミングよく秋山成勲選手がUFC参戦の会見を行なったんですよ。

郷野 あ、会見どこでやったんですか? やっぱ帝国ホテルなんかでやっちゃってんの!?

――いやいや、都内のオフィスビルでやっちゃってるらしいですよ。

郷野 なんだ。てっきりEXILEの14人会見みたいにおもいっきり豪勢にやったのかと思いましたよ。

――どういう期待なんですか(笑)。郷野さんから見て、秋山選手のUFC参戦はどう思われます?

郷野 ぜんぜん通用すると思いますけどね(キッパリ)。俺もUFCに上がってみて思ったんですけど、やっぱ打撃が強くて倒れないっていうのが一番最初にアドバンテージを握れるスタイルだと思うんですよ。しかも、秋山って相手が前に出てきた距離と同じ距離だけ下がるのがうまいんですよねぇ。いいバックギアがついてますよ。俺の場合はけっこうおもいっきり下がっちゃって、相手が来たら完全に一回間合いを切っちゃうことが多いんだけど、秋山は相手が出てきたぶんだけ下がるから、必要最小限の動きで相手を間合いに入らせないんですよ。

――自分の距離をうまく作れるし、しかも倒されないで打撃もできる。

郷野 一発の破壊力もありますからね。デニス・カーン戦もそうだったでしょ? 最初の文字どおりの"出鼻をくじく"ジャブでカーンの鼻を折ったじゃないですか。そういう攻撃一つ一つの固さ、破壊力もあるでしょ? だから、通用しても俺は驚かないで

その風評がよかろうが悪かろうが
秋山はプロを感じさせる選手ですよ

すよね。

——よく日本のリングに上がってた選手がUFCで苦戦するのは、金網での闘いの難しさとヒジでの攻撃が認められてる部分だと思うんですよ。

郷野 ヒジはねえ、そこはやってみないとわからないと思いますよ。でも、これまでの試合ぶりからすると適応能力も高そうじゃないですか。

——でも秋山選手といえども、闘う場が違うことでのプレッシャーはありますよね。

郷野 どうだろうなあ。でも俺はプレッシャーは感じないで上がったんですけどね。でも、上がってから「あ、やっぱ違う」って思いましたから。

——ただオクタゴン対策でいうと、秋山選手はオクタゴンを設置した秋山道場を作るらしいんですよねえ。

郷野 ……え、どこに!?

——都内に作るらしいです。

郷野 ヘエ〜〜〜!! やっっっっぱスゲエなあ！（感心して）。

——また、凄いリアクションですね。

郷野 だって、都内にですよ！ はー……。でもそういう環境を作るということは選手にとって凄く大事なんですよねえ。

——と、いいますと？

郷野 要は、それって向こうの環境に近いものをこっちに作るということじゃないですか。そこですよ。あともう一つ重要なのは、向こうに行ったときにこっちと同じような環境を作ることなんですね。それは周りの人間、要はチームに大きくかかっているんだけど。そういうストレスのない環境ができるできないって、突き詰めると、経済力の違いなんですよ！

——お金ですか……。

郷野 俺はね、それは凄くデカいと思ってるんですよ。しかも、「秋山は破格の契約だ」というふうにまた〝格闘技界ナンバーワン雑誌〟の『kamipro』が書いてたりするじゃないですか。

——そんなことを書いてましたか。

郷野 サイトで見ましたよ。でも、俺や長南もそうだけど、通常UFCからは選手一人にセコンド一人しか旅費や滞在費は出ないんですけど、それじゃ試合に臨むいい環境も作れないから、あとは自分で自腹切って連れていくしかない。その点、秋山は格闘技の収入以上の収入を韓国で稼いでるというじゃないですか。これも『kamipro』情報ですよ。

——どんだけ『kamipro』読んでるんですか（笑）。

郷野 そういった点でね、秋山は本当にどの外国人選手よりもいい環境を作ることができると思うからアドバンテージ……というか、ディスアドバンテージを減らせますよね。

——環境整備ってそんなに重要なんですね。

郷野 すんごい重要！ 試合が近づくにつれて、選手ってホントにナーバスになるんです。自分の中では研ぎ澄まされていく感覚なんですけど、ほんの小さなことでも気になるしストレスになっちゃうんですよ。それを極力減らせれば精神的なエネルギーを無駄に消費しなくてすみますから、より試合に集中できる。その環境を作れる経済力っていうのはやっぱり大きな武器ですよ！

——じゃあ、秋山さんの歌手活動などは……。

郷野 （さえぎって）俺はいいと思うけどなあ。（三崎）和雄とやる前から、秋山という選手に対しては俺の中では評価が凄い高いんですよね。その風評がよかろうが悪かろうが、プロを感じさせる選手じゃないですか。基本的に格闘技の選手といえば、野球選手なんかと比べると、隣のあんちゃんみたいな感じでしょ？ たとえば、俺。そんな手の届かない感はないじゃないですか。

——そんなこと聞かれても困ります（笑）。

郷野 じゃあ、いま話題沸騰のWBC。イチロー、城島、岩村ね。そうしたメンツと比べて、郷野………近い！ なんすか、この近さ!!

——ワハハハ！ それは被害妄想がすぎるでしょ！

郷野 だって、イチローなんて年俸17億ですよ？ これは本当にデビュー戦でサブミッション・オブ・ザ・ナイトとかもらっても、イチローの100分の1いかないんですからね。

——でも、イチローはちょっと例外すぎますけどねえ。

郷野 ま、それぐらい野球選手に比べたら身近に感じられてしまいがちな格闘技選手の中で、やっぱりね、選手以外の価値も高くて、いつも高そうな服や装飾品を身に着けていて、しかも韓国のマイコー・ジャクスン（キレイな英語の発音で）ときたら、ますます距離が計り知れないじゃないですか。日本の大スターだというほうがよっぽど距離が測れますよ。

——確かに幻想が高まりますね。

郷野 さらに言うと、付き合ってる女も極上らしいじゃないですか。

——それも含まれるんですか（笑）。ただ、プロ格闘家としての秋山選手については、去年は残念だったなという感じがあるんですよねえ。UFCって本当に対戦相手は選べないんですか？

郷野 基本的に俺はそうでしたけど、「破格の契約」と書いてあったからわからないですよ。

——そこも謎に包まれてますか。

郷野 またねえ、その謎がさらに距離を測りづらくさせるという……。

——だからUFCで〝秋山スタイル〟がどこまで通用するのかなというのも一つの見どころですよね。

郷野 対戦相手に関しては厳しい相手しかいないですからね。まあ、これまで〝お茶濁し試合〟とか言われてましたけど、これからは強い相手とやることになると思うんで、「どうなるんだ!?」って注目を集めるところもスターたるゆえんじゃないですか？

——確かに。ところで、ここまで普通に取材してきましたけど、じつは我々は郷野さんに関する重大な情報を得てるんですよ。発売日にはもう発表されてるかもしれませんが、今後、郷野聡寛の闘いは日本のリングで観られるんじゃないかという。

郷野聡寛

郷野 そうきましたか……。えー、ズバリ言って郷野聡寛、現在就職活動中です！ 最近、世界的にもさまざまな雇用問題、そして失業率の上昇が叫ばれてますけど、俺はその数字に貢献してますよ。

——つまりUFCとはいったん契約が切れた、と。でも、ある意味選択肢が広がって楽しみじゃないですか？

郷野 まあ、でもやっぱりUFCで頑張りたかったなあというのがありますけどね。メジャーリーグみたいに3Aとか2Aとか下部組織があれば、いったん落とされてはい上がるなんてことも可能なワケなんですけど、UFCは〝40人枠〟から外れたらすぐクビですからね。ただ、俺のヒーローはメジャーから日本に帰ってきて、さんざん日本を盛り上げて引退しましたからね。

——と、いいますと……？

郷野 新庄剛志ですよ！ あの3年前の北の大地の盛り上がりをお忘れですか!?

——なるほど。じゃあ、郷野さんにはぜひそのヒーローになって日本を盛り上げてほしいですけどね。

郷野 そう言ってくれると嬉しいですよ。ま、これからいろいろ考えたいと思ってます。

——了解しました。郷野さんの今後にも期待しております！

【09年3月3日／電話取材にて収録】

UFC参戦は騒ぎ立てるほどじゃない!

「秋山選手のことは我関せずとしか言いようがないですね」

UFCで生き残り続けるピラニアファイター

長南 亮

PRIDE消滅を機に、07年11月からUFCに闘いの舞台を移した長南。
世界の強豪を向こうに回し、厳しい競争の中に身を置いているピラニアファイターは、
今回の秋山UFC参戦フィーバーをどのように感じているのか?
ただ強さのみを武骨なまでに追い求める男が本音全開で語った!

聞き手／鈴木佑　試合写真／乾晋也、Josh Hedges（UFC）

――今回は秋山選手について、長南さんにお話を聞きたいと思います!

長南　よろしくお願いします。でも俺、秋山選手とはまったく面識ないんですよ。今回の参戦についてもネットで正式発表されてから知ったくらいなんで。

――あ、そうなんですか。では、より客観的に率直なご意見をうかがえればと（笑）。ちなみに共通のお知り合いとかは?

長南　小見川（道大）さんですかね、柔道時代につながりがあったみたいで。やっぱり選手同士は、練習とかで接点がなければ知り合いになる機会もないですし。

――なるほど。いま、多くの日本人ファイターがUFCの会場に姿を見せてますけど、そのことについて長南さんはどう思います?

長南　う〜ん……まぁ、上から目線とかそういうつもりはないですけど、「ちょろちょろ観にきて興味あるならこっちでやってみれば」とは思いますね。

――そして秋山選手は実際に参戦が決定したわけですが、いちファイターとしてはどのように見てますか?

長南　やっぱり三崎和雄戦やデニス・カーン戦は印象に残ってますよ。秋山選手は見た目からしてフィジカルが強そうですし、パワーがあるなって思いますね。どっちかっていうと、グラップラーじゃなくストライカーってイメージです。柔道出身の人は体幹が強いから、ちゃんとしたフォームで覚えればパンチが凄い威力になるんですよ。瀧本（誠）さんもパンチは強いですし。

――ここ最近の秋山選手は対戦相手を選んでいるというか、いわゆる〝お

長南　秋山選手が日本で対戦してきた選手って、なんでもまんべんなく

もします。

――そのあたりは秋山選手も金網対

寛）さんはPRIDE武士道という同じリングで切磋琢磨してきたし、闘

ベビーフェイスだったから騒ぎにな

った、と。

特別に秋山選手がズバ抜けたものを持っているという意識はないです

ーーここ最近の秋山選手は対戦相手を選んでいるというか、いわゆる"お茶濁し"的なイメージが見受けられたんですが、UFCは一部の選手を除いて相手を選べないって言われてますよね。

長南　基本的にはそうだと思いますよ。でも、いきなり試合がPPV枠で放送されるとなれば、デビュー戦といえども強い選手と組まれたりするんじゃないですかね。一概にはなんとも言えないですけど。

ーー長南さんのウェルター級も"神の階級"と呼ばれるくらい群雄割拠ですが、秋山選手のミドル級もアンデウソン・シウバをはじめ、ダン・ヘンダーソンと強豪揃いで。

長南　ヴァンダレイ（・シウバ）も階級を落としてくるみたいですしね。あとはリッチ・フランクリンだったり、デミアン・マイアとか。最近はネイサン・マーコートも勢いがあっておもしろいと思います。ミドル級ってアメリカ人やブラジル人のパワーがだんだん強くなってくる階級なんですよ、体重ある選手が一気に落として臨む階級っていうか。身長があってリーチのある選手も多いですし。まぁ、秋山選手だったらパワー負けはしないと思いますけど、体格の面できつい部分はあるかもしれないですね。

ーーファイトスタイル的にはどうですか？

長南　秋山選手が日本で対戦してきた選手って、なんでもまんべんなくできるっていうよりも、スタンドかグラウンドのどっちかに偏ったファイターが多かったと思うんですよね。たとえば正道会館の外岡（真徳）選手とか。秋山選手は打撃が得意な相手は寝技で仕留めて、逆に寝技タイプは打撃で捻り倒すっていう闘い方でしたけど、トータルファイターが多いUFCの中でどう闘っていくのか興味がありますね。

ーーいままでにないタイプの選手に対応できるか、と。

長南　打・投・極に加えて、さらにそれをつなぐ部分も要求されてきますし。客観的に見て秋山選手は寝技のスキルが未知数ですね。たとえばアンダーポジションからの攻めとか、単純に試合で観たことない部分も多いですし。

ーー確かに秋山選手の下からの攻めは記憶にないですね。ズバリ、秋山選手は金網には適応すると思いますか？

長南　どうなんですかね。秋山選手は相手にプレッシャーをかけていくタイプだと思うんですが、リングみたいにコーナーがないとテイクダウンするにも追い詰めにくい部分があるんじゃないですかね。そもそもタックルで入っていく選手ではないですし。どっちかっていったら金網よりリングのほうが合ってるような気もします。

ーーそのあたりは秋山選手も金網対策万全というか、都内に金網のある道場を準備中みたいで。

長南　え、そうなんですか？（驚いた感じで）。まぁ、いいことなんじゃないですかね、お金があってそういうことができるのはうらやましいです（笑）。自分で環境を作るっていうのは重要ですから。でも、俺としては練習において金網はそんなに必要なものではないと思いますけどね。むしろ金網だと練習でけっこうケガしやすいんですよ、なにげに背中にアザとかできて痛めたりして。アメリカでやってきた実感としては、壁があれば充分だと思います。マスコミは金網があれば対策バッチリって取り上げるでしょうけど。

ーーまさにそのように考えておりました（笑）。あと、秋山選手はハワイのBJペンのところにも練習に行くそうで。

長南　そこでどんなテクニックを吸収するかっていうテーマが問題ですよね。最先端の技術を持っているペンが、金網での闘い方を教えてくれるのであれば凄くいいことだと思いますけど。

ーーこれから同じUFCで闘う日本人ファイターとして、秋山選手にシンパシーを感じる部分はありますか？

長南　うーん……たとえば、郷野（聡寛）さんはPRIDE武士道という同じリングで切磋琢磨してきたし、岡見は過去に専門誌で言い合ったりもしましたけど、いまは普通につながりがありますからね。でも、さっきも言ったように秋山選手はまったく交流がないので、一緒に頑張ろうとかいうのもおかしな話っていうか（笑）。ある部分で秋山選手に興味は持ってますけど、個人的にそういうファイターはたくさんいるので、あくまでもその中のいち選手って感じですね。特別に秋山選手がズバ抜けたものを持っているっていう意識は全然ないですよ。同じ日本で闘ってた選手なんで勝ってほしいとは思いますけど、ぶっちゃけ負けたら負けたで俺には関係ないですし（笑）。

ーー他人のことは気にしてられない、と（笑）。けっこう今回の秋山選手のUFC参戦は注目を集めてると思うんですけどね。

長南　そうなんですか？　まぁ、本当に我関せずって感じですよ。俺はあのヌルヌル事件のときも関係ないって思ってましたし。

ーーあの騒動については率直にどう思いました？

長南　いや、やっぱ相手が桜庭（和志）さんだったっていうのがまずかったんだと思いますよ。ああいう保湿クリームなんてアメリカじゃ日常で普通につけてる人も多いですし、よっぽどひどくなければUFCもそこまで規制してないですからね。この前のGSPのワセリン騒ぎみたいに、試合直前にあたかも滑らせるために塗っていたようなのは別として。

ーーあれは桜庭さんという絶対的なベビーフェイスだったから騒ぎになった、と。

長南　そうだと思います。俺の記憶ではPRIDEでも、べったりとワセリンを足に塗ってる選手とかいましたしね。だからその程度の問題かなって。

ーーあれだけ大騒ぎされるようなものではなかった、と。

長南　まぁ、あとの対処で最初に秋山選手が何もやってないみたいなことを言ったのはまずかったと思いますけどね。でも、べつに俺は三崎選手みたいにマイクで説教するような気持ちはないですし（笑）。秋山選手もそれなりの罰を受けたと思うので、そこをいつまでも引っぱるのもどうかなって。

ーーその騒動以外にも秋山選手はCDを出したりCMに出たりと、その一挙手一投足が常に話題を呼んでますが（笑）。

長南　単純に自分にはできない部分だなって感じですね（笑）。あんまり気にもならないですし、自分とは生き方とまでは言わないまでもジャンルが違うというか。

ーージャンルが違う（笑）。

長南　ただ、UFCに参戦するという部分は俺とクロスするところなんでそういう意味では興味ありますけど、逆に言えばそういう意味でしか興味はないっていうか。とにかくいまはUFCで生き残るために自分のことで精一杯なんで、秋山選手に関しては普通に日本のいち選手がUFCと契約したってくらいの認識ですね。

【09年2月27日／電話インタビューにて収録】

長南亮

kamipro books 驚ガク！ 衝ゲキ!! kamipro booksシリーズ！ 死闘インタビューの歴史的目撃者になれ!!

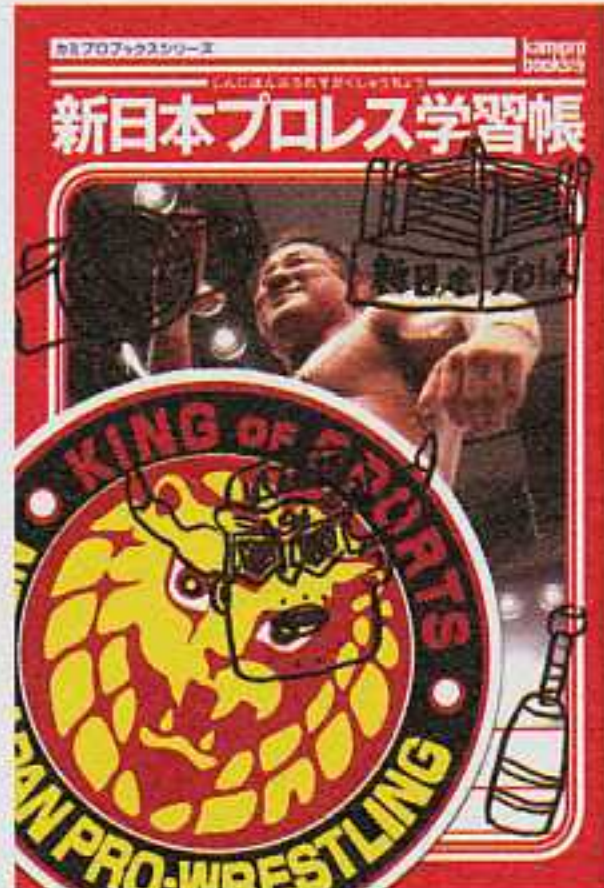
PRIDE機密ファイル 封印された30の計画

ついにその秘密のベールを解禁!!
PRIDE幻の超極秘プロジェクト!!

★髙田vsヒクソンの前座に前田日明登場!?★長州力、橋本真也、船木誠勝の参戦計画★ホイスvsケアー消滅の計画★PRIDEが小錦獲得に動いた!?★"皇帝"ヒョードルを二度破った男 ほか

その消滅から早1年あまり――世界最高峰のリングに封印された30の計画を発掘！ さらに青木真也、三崎和雄ら6大インタビューも同時収録！

B6変型判 292ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

新日本プロレス学習帳

"業界の盟主"の魅力を
凝縮したインタビュー12連発！

★鈴木みのる&獣神サンダー・ライガー★小林邦昭★平田淳嗣★金本浩二★山本小鉄★新倉史祐★田中秀和★中西学★天山広吉&金原弘光★マサ斎藤★永田裕志★中邑真輔

『kamipro』誌上に掲載された新日育ちのレスラー&関係者のインタビューが一冊に！ これを読めば老舗団体の過去・現在・未来がまるわかり！

B6変型判 320ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

八百長★野郎

ミスター高橋本から7年……
"呪いなき"時代のプロレス再入門書!!

★マッスル坂井★大槻ケンヂ★菊地成孔★森達也★杉作J太郎★ミスター高橋★菊地孝★高木三四郎★ハチミツ二郎★鶴見亜門★プロレス業界初"台本"全文掲載！

カミングアウト当事者から元ファンの知識人まで総動員してプロレスを再考！ "プロレスの向こう側、『マッスル』"の世界に迫る！

B6変型判 296ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

生前追悼 ターザン山本！

え、ターザンが死んだ!?
90年代プロレスを徹底検証！

★浅草キッド★いしかわじゅん★堀辺正史★更級四郎★松本晴夫★杉山頴男★谷川貞治★山口日昇★金沢克彦★市瀬英俊★小島和宏★菊地成孔★Oka-Chang★原タコヤキ君★椎名基樹 ほか

『週刊プロレス』編集長として辣腕を振るった山本さんの人生を通して、90年代プロレスブーム、はたまたプロレスという生き様を振り返る！

B6変型判 304ページ
定価=1,470円（本体1,400円+税）

プロレス狂の詩 夕焼地獄流離篇

プロレス狂がシビれる
凄玉たちのインタビュー集！

★ジェラルド・ゴルドー★後藤達俊★小畑千代★ザ・グレート・サスケ×韮澤潤一郎★中島らも★大槻ケンヂ★シーザー武志★ダニー・ホッジ★高山善廣×金原弘光★真樹日佐夫×三池崇史

メインストリームからはみ出さずにはいられなかったファイターや、リング内外の裏表を凝視してきた関係者へのインタビューがテンコ盛り！

B6変型判 304ページ
定価=1,890円（本体1,800円+税）

U.W.F.変態新書

ダメな大人たちへ捧げる
"変態"とUWFの晩餐！

★UWF★前田日明★船木誠勝★髙田延彦★桜庭和志★ターザン山本！★キン肉マン★PRIDE★プロレス★変態とは何か？（菊地成孔スペシャルインタビュー）★変態解説

プロレス界の一大潮流となったUWF。そのUWFに人生を学び、人生を狂わされた変態的プロレスファンたちが、UWF神話を語り倒す！

B6変型判 296ページ
定価=1,680円（本隊1,600円+税）

吉田豪のセメント!! スーパースター列伝 パート1

吉田豪インタビュー11連発!!
インタビュー本の最濃傑作！

★ストロング小林★阿修羅原★康芳夫★倉持隆夫★サムソン・クツワダ★猪木快守★イーデス・ハンソン★田中健一★小川宏★鶴見五郎★田代まさし

プロインタビュアーの吉田豪が、『紙のプロレスRADICAL』誌上で聞き手を務めたロングインタビューの一部を完全徹底再録!!

B6変型判 344ページ
定価=1,890円（本体1,800円+税）

底なし沼 活字プロレスの哲人 井上義啓 一周忌追善本

井上義啓とは底が丸見えの
底なし沼である――!!

★『週刊ファイト』&『SRS・DX』激筆再録★『猪木は死ぬか』、『不在証明あるいは猪木へのレクイエム』★新間寿★夢枕獏★ターザン山本&吉田豪★『kamipro』ラスト喫茶店トーク ほか

"活字プロレスの父"井上義啓氏の一周忌追悼本!! 氏を偲ぶインタビューや、人生最後の旅模様を振り返るエピソードも収録！

B6変型判 312ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

紙の破壊王 ぼくらが愛した橋本真也 爆勝証言集

破壊王の三回忌追善本!!
泣けて笑えるエピソード満載!!

★破壊王ファミリー★天山広吉★西村修★山田千景（獣神サンダー・ライガー夫人）★馳浩★藤波辰爾★田中秀和★ケビン・ランデルマン★三浦大輔（横浜ベイスターズ投手）★折鶴兄弟 ほか

破壊王の原点である新日関係者が語ったエピソードが盛りだくさん！ みのもけんじ書き下ろし『紙のプロレス・スターウォーズ』も収録！

B6変型判 304ページ
定価=1,890円（本体1,800円+税）

殺し 活字プロレスの哲人 井上義啓 追悼本

"殺し"文句が心を打つ！
井上義啓 追悼本!!

★喫茶店トーク傑作選★井上小説傑作選★I語録★井上義啓とは何か？／アントニオ猪木／水道橋博士／金沢克彦／松島弥生（井上義啓・姪）★『kamipro』未公開"喫茶店トーク"ほか

多くの"プロレス者"に影響を与えた"I編集長"の追悼本!! プロレスという"底が丸見えの底なし沼"に浸かり続けた男の凄みを感じろ!!

B6変型判 304ページ
定価=1,680円（本体1,600円+税）

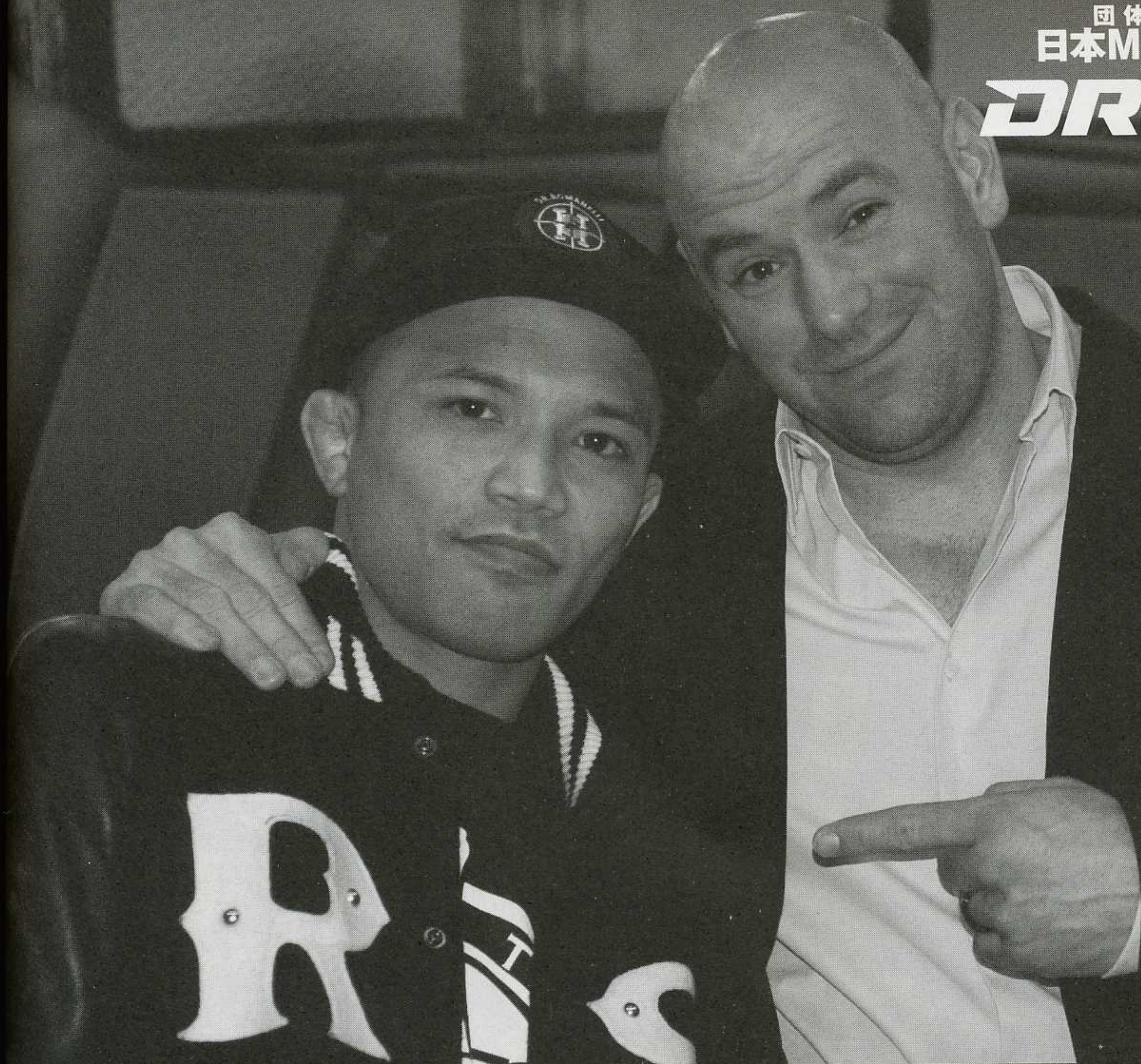
eb! enterbrain 株式会社エンターブレイン 〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1 TEL.0570-060-555（代表）［通信販売のお問い合わせ先］http://www.enterbrain.co.jp/

秋山成勲 UFC ドーピング 2009年マット界の行方を首脳陣に直撃!!

DEEP

GCM

戦極

FEG

もう、ボクがUFCを買っちゃおっかな〜

FEG代表
谷川貞治

首脳陣インタビューのトップバッターは我らがサダハルンバ。ドーピング検査、人材流出に加えて、サダハルンバの“宿敵”秋山成勲のUFC参戦発表、そしてフェザー級GPについて直撃した。日本マット界はいったいどうなる!?

聞き手／ジャン斉藤　試合写真／乾晋也

谷川　前号のボクの記事は反響あったでしょ？（自信満々に）。

——ええ、ありました。「ＵＦＣはつまらないなあ〜」っていう嫌がらせの記事ですよね。

谷川　うふふふ。素直な感想だけどね。

——というわけで、本日は「ＤＲＥＡＭもつまらないなあ〜」という自己批判をしていただきます。

谷川　んあ〜！　な、な、何言ってんのお!?　昨日はめちゃめちゃおもしろかったじゃん！（鼻をヒクヒクさせながら）。

——いったいどんな嫌味なんですか、それ（笑）。

谷川　……あのねえ、こういうときはベタぼめしないとダメなんですよ！

——ワハハハハ！　よく主催者がイベントの感想やカード発表時にむやみやたらに自画自賛するのは、スポンサーや関係者に向かってそう言わざるをえないのかな、なんて思っちゃうんですけど。

谷川　もちろんそれもあります（キッパリ）。

——なんて正直なんでしょうか（笑）。

谷川　まあ、そういう気の使い方をしなきゃいけないこともあるんだけど、ボクの場合、逆にいい大会のほうを悪く言いますからね。だから、昨日の大会に関しては胸を張って「見たか！」って言わないと。そこで主催者が落ち込んでたらダメ！　それに、なんだかんだ言ってフェザー級には確実にポテンシャルはありますよ。だから、ただ一つ言えるのは、まだちゃんと啓蒙ができてなかったってことだよね。

要するにフェザー級の選手のお手本はダイナマイト・キッドなんですよ！

——それはファンにしても、選手にしても。

谷川　たとえば選手でいうと、要するにボクがK−1 MAXで60キロの階級を始めようとしたときってキック界はワクワクしたけど、実際にやってみたらうまくいかなかったのよ。

——事前の期待感もなかったですし、なんかパッとしませんでしたね。

谷川　そのときに60キロ級の選手たちに言ったのは、「70キロよりスピードがないと絶対に伝わらないから、それだったら使えないよ。敵は70キロだからね」ってことなんです。それは70キロの魔裟斗くんたちにも言ったことで、「ヘビー級に勝つことがMAXの壁だから」って。でも、昨日のフェザー級の選手は「川尻選手や青木選手より速くて凄くないといけない」とか、そこまで考えてなかったでしょ。

——トーナメントでしたし、勝ち上がることが最優先事項だったんでしょうね。

谷川　だから、昨日の大会でボクがいい選手だなって思ったのはジョー・ウォーレンぐらいだったもんね。でさ、階級の魅力でいうと、ボクが一番最初にフェザー級の魅力を感じたのは、KID vsビビアーノ（07・9・17『HERO'S』）なんですよ。つまり、あの試合は何をやってるのかさっぱりわからないくらいスピード感があったじゃない。だから、今回もああいう試合を期待してたんだけど、メインの（山本）篤くんも今成選手もみんな凄くディフェンシブだったでしょ。だから、どっちが勝ったとも言えない試合が続いたと思うんだよね。

——極端に言いきっちゃうと、「全員判定負け！」という感じでの印象で。

谷川　で、KIDくんに関して言うと、KIDくんがなぜあんなに小さくて素晴らしいかといえば、彼はホントに動く発光体みたいな光を放ってるんですよ。たとえば、ボクの子どもの頃の不良ってさ、デカいヤツはケンカが強くても優しいイメージがあったんだよね。でも、ちっちゃいヤツって気が強くて何をするかわかんない感じがあったじゃない。

——身体が小さいぶん「ナメられてたまるか！」という反骨精神があるんでしょうね。

谷川　でも、昨日は「身体が小さいからナメられてたまるか！」という意識じゃなくて、「ボクらは小さいけど、こういう舞台に普通に上がれちゃった」みたいな印象だったでしょ。その点、KIDくんなんかは街で目撃されたときに「KID、小さいじゃん」って言われるのがイヤだっていう意識がどっかにあるもんね。それは高谷くんとかウィッキーとか大塚くんにもその要素があると思うんだけど、ああいう人たちが本当に「ナメんなよ！」ってオーラを出さないと光らないですよ。要するにね、ダイナマイト・キッドをお手本にしてほしいってことだよね！

——フェザー級のイメージはダイナマイト・キッド！　いますぐ観賞会を開きましょう！（笑）。

谷川　ホントだよ。小林邦昭さんみたいにタイガーのマスクを剥ぐくらいじゃないと！　そんな気迫でやらないとお客さんには伝わらない。みんなそのポテンシャルがあるのに、もったいないですよ。

サダハルンバが「フェザー級の理想型」と掲げるのが、このKIDvsビビアーノ。次回フェザー級GP2回戦こそは、この軽量級の魅力を爆発させてほしいぞ!

——ただ、競技的な視点から見れば、そういった価値観を選手に押しつけるのはどうかって話もありますよね。

谷川　いや、ボクはプロとしてあたりまえのことだと思うよ。逆にそういうのが嫌だったらほかのリングで勝負してくださいって言うしかないよね。それに、DREAMがゴールだと思われたら困りますよ。要するに「強さ」は最低条件で、さらなるプラスアルファとしてどう自分を見せていくのかがプロとして求められるわけじゃない。

——極端に言うと、この階級は始まったばかりで温まっていないから、これまでの実績や強さだけをもって評価はできないし、通用しないということですね。

谷川　それはK−1の60キロもそうだし、今度新しく始まるK−1女子もそうですよ。それが基準になるんなら、その選手はとっくにブレイクしているはずでしょ。だからKIDくんが「どこのどいつか知らないヤツとはやりたくない」って言うのは、そういうことだと思うよ。いまのような意識で試合に臨んでも、KIDくんにとっては〝知らないヤツ〟のままだから振り向いてくれないですよ。逆に、みんながKIDくんとやりたいというのは、やっぱりKIDくんにはキラッと光る輝きがあるからだと思うからね。

——そこをどう軌道修正していくか。話は変わるんですけど、今回は各団体の首脳にいくつか同じテーマの質問をさせていただいてるんですよ。まず一つめ。谷川さんは薬物問題の実体についてはどうお考えですか？

谷川　ドーピングに関してはですね、細かいことを言ったらキリがないというか。ズバリ、日本における解決方法は、ジャッジなりドクターが団体に所属しないということです。そうしないとなんの問題も解決しないし、何かあったとしても主催者のせいになるからねぇ。

——マット界の悪事は、なんでも谷川さんとTBSのせいにしておけば問題ないですもんね（笑）。

谷川　んあ〜！　いまの関係性だと、判定やドーピングとか、秋山くんみたいな事件が起こったときに、どうしても「FEGは何をやってんだ！」って話になっちゃうんだよね。確かに主催者に責任はあるんだけど、第三者機関を設置することによってすべての問題がクリアになると思うし、なによりファンは第三者機関じゃないと納得しないでしょ？　もっと極端なことを言うと、『戦極』もパンクラスも修斗もケージフォースもDREAMも、多少ルールは違えど同じ審判団が業務を請け負ってくれるのが一番理想的だよね。

——基本的にどの団体も同じ顔ぶれですし。現状の話ですけど、FEG主催の大会で尿検査はやってるんですか？

谷川　もちろんやってます。でも、現状の尿検査だけではあんまり細かいところまで調べることはできないだろうね。

——判定もそうですけど、表向きは主催者が立ち入ることはできないんですよね？

谷川　……「表向き」って嫌味な言葉だなあ。表も裏も介入できないよ！

秋山くんが一番わかってないのは、ボクらの追い詰め方が愛情だってこと

PRIDEがアメリカ初進出をはたした『PRIDE.32』ラスベガス大会で、見事なオーバーアクションで会場を盛り上げた日本のレフェリー陣だが、コミッション管轄の下では、こういった演出も通用しなくなる弊害も生まれるから難しい。

たぶん、それはほかの団体さんもボクらと同じスタンスなんだろうけど、どんな細かいことを言ったところで完全なる第三者機関にしないと、ファンにはなんの説得力は生まれないと思う。アメリカはそこが完全に分かれているから容赦ないんだよ。たとえば主催者からすれば「こんなところで試合を止めるのか……」って思うような場面でも、アメリカなんかはアッサリ止めたりしてるもん。

——谷川さんはそんなアメリカの流儀で問題ないんですか？

谷川　う〜〜〜ん。これも凄い話なんだけどさ、アメリカはコミッションからいろんな団体にジャッジ団が派遣されてるから、UFCとK―1の審判が一緒なんですよ。しかももともとはボクシングの審判だから、ジャッジの基準が「手数」なんだよ!?

——いいのか、そんなんで（笑）。あと「上のポジションを取ったら勝ち！」って感じもありますね。

谷川　それはUFCの特色の一つでもあるんだけど、それぞれの団体のカラーを汲んでもらったうえで、すべてをそのコミッションに任せるという方向にするのがいいと思いますけどね。

——それって現実的なんですか？

谷川　できないことはないと思うけどなあ。まあ、アメリカの場合を考えるとその弊害はあると思うんだけどね。逆に向こうは角田さんとかはダメなんですよ。「カクタの技量は勝敗を左右する可能性がある」って言われてるらしくて。

——あ、アメリカにまで悪名が轟いてますか（笑）。

谷川　角田さんだけじゃなくて、日本の審判ってそういうふうに言われるんだよね。だからある意味、レフェリングがうますぎるというか。

——そこは悩ましいですよねぇ。

谷川　そうなんだよねぇ。たとえば、ヨアキム・ハンセンvsエディ・アルバレスみたいな名勝負はアメリカでは生まれないだろうね。それは途中で止めちゃうから。日本のレフェリーは「まだこのあとの攻防があるな」「コイツだったらこういう展開をしてくる」ということをある程度読めるじゃない。でも、アメリカだったらまだまだできるのに「はい、おしまい」って止めちゃうんですよ。そういう日本のレフェリーの技量がアメリカのアスレチックコミッションは鼻についたりするらしいんだよね。

——試合を盛り上げようなんて考えは、コミッションには必要ないわけですからね。それでも、ドーピングに関してもルールに関しても、細かいところはもう第三機関に任せたい、と。

谷川　任せたい。立場を明確にしたいし、ボクはそこには触れたくないですね。そうしないと細かい議論はできないですね。

——わかりました。で、いま出たUFCの話なんですが、先日、秋山選手のUFC参戦が決定しました。今日は、谷川さんがどんな嫌味を言うのか楽しみにして来たんですね。

谷川　んあ〜。ここもベタぼめしとこうかなあ〜。

——ワハハハハ！　フェザー級と一緒ですか。

谷川　まあ、ボクのリアルな感想は「そこまで追い詰められたんだな」ってことですね。で、もう一つは「秋山くんだから、なんか目論見があるんだろうな」ということかな。でも、その目論見はそんなにうまくいかないと思うよ。

——しかし、魔王はそこまで追い詰められたんですねぇ。

谷川　でも秋山くんが一番わかってないのは、その追い詰め方は愛情だということなんですよね。

——それは「強いヤツと闘ったほうがおもしろいし、盛り上がったのに」という愛情ですか？

谷川　それも含めて、すべてボクらの愛です！　ただ、秋山くんの韓国での会見で「相手を選ぶんだったら、

検索ヒット数は秋山に圧勝！ K-1女子部門発足へ！

な、な、なんとサダハルンバがK-1女子部門設立を宣言！　3月20日開催のK-1アジアMAXに、韓国で絶大な人気を誇る女子格闘家イム・スジョンを出場させたのだ。このイム・スジョンについてサダハルンバは「ネットの検索件数が秋山くんより圧倒的に多いみたいです」と説明し、実際に韓国では“格闘技界のキム・ヨナ（フィギュアスケート選手）”と呼ばれているそう。また、年内には「K－1」とは別の名前で女子だけのイベントを開催したいと話しており、「業界っぽくてカッコいいプロデューサーを立ててやりたい」と、なんとも素敵なコメントを放つサダハルンバ！ K-1初の試みとなるが、はたしてどう展開していくのか!?

ボクは日本のリングに残ってます」っ

——ステーションカジノの件は、裏側

ね。

目指すと、そのあいだに日本のマー

谷川さんがオーナーになってるかも

ボクは日本のリングに残ってます」って言ってたのは笑ったけどね（笑）。

——魔王からすれば、そこが谷川さんの愛情だと思ってるふしがあります。もっとわかりやすく言うと、ズバリ、ナメられてます（笑）。

谷川 んあ〜！ まあ、秋山くんはけっこう甘く見てるから、実際にやってみればいろいろとわかることだし、それも経験したほうがいいと思いますよ。

——魔王の野望はいろいろ耳にしますね。

谷川 結局、秋山くんは韓国および日本で有名になりたいってことじゃないですか。ボクが秋山くんに言いたいことは、自分でいろいろやって経験したほうがいいということと、ボクらやファンがそこまで追い込んだとは思うけど、秋山くんに気がついてほしいのは、それは愛情だということ。愛や理解のない人に振り回されちゃダメですよ。

——ただ、こうなると当然、ほかの選手もUFCを目指して人材が流出するんじゃないかなという危機感がありますよね。そこは主催者としていかがですか？

谷川 人材流出の根本を解決するには、ボクがUFCを買うしかないね！

——ダハハハハ！ 確かにそれで解決しますね（笑）。

谷川 ふふふふ。親会社のステーションカジノも大変みたいだしねぇ。

日本人がUFCに出るメリットは凄く少ない。ほぼナシと言ってもいい

——ステーションカジノの件は、裏側ではけっこう凄い話が飛び交ってますね。

谷川 前にも言ったけど、いまは様子を見る時期だと思うよ。いまのアメリカって、ホントに何が起こるかわからないから。それはさておき、確かに人材流出は一時的にはあるかもしれないけど、日本人がUFCに出るメリットは凄く少ないからね。ほぼナシと言ってもいいし。

——また、言いきりましたね。

谷川 メジャーリーグのように大金がもらえたり、大きな話題になるんだったらまた違うけど、全然違うでしょ？ 秋山くんだって、最初は日本よりファイトマネーが低いはずだよ。やっぱりボクからすれば競技の違うムエタイっていう感じなんだよね。

——と、いいますと？

谷川 UFCは最強のイメージがあるし、そこで自分がどれだけ通用するのか試したいというのはあっぱれな心意気だと思う。でも、前に立嶋（篤史）くんとか前田（憲作）くんが打倒ムエタイを掲げていたときに、ボクもムエタイを何度も観に行ったことがあるんだけど、「確かにおもしろいけど、ここに何があるんだろう？」って感じだったから。だって、ファイトマネーなんか5000円くらいなんだよ。

——たったの⁉ ホントに名誉しかないんですね。

谷川 ムエタイに挑戦することも偉いけど、それよりもなんで日本のキックボクシングをもう一回ゴールデンタイムで放送できるように頑張らないんだろうって思ったし、その視点をずらしたところがK-1だったと思うしさ。だから、みんながそこを目指すと、そのあいだに日本のマーケットはなくなっちゃうってことですよ。そのとき誰が日本のマット界を守ったのかはみんな見てるからね。いや、ホントに。日本で脈々と流れてる力道山、猪木、馬場、UWF、PRIDEを礎にしたものをきちんと守らないと。この先、K-1は残るかもしれないけど、総合ってホントに危ないと思うから。だからKIDくんは最後の最後でそこに気がついたんだと思う。UFCに関して言うと、儲かってるって部分はまあ評価しますけどね。

——でも、1ヵ月後にはもしかしたら谷川さんがオーナーになってるかもしれないんですよね？（笑）。

谷川 うん。なりたいなあ〜。まあ、今年はウチも含めて決していい状況じゃないから、やっぱり再編成というのはあるだろうね。とくにポイントはUFCですよ。だからグッチャグッチャになっちゃう可能性もあるし。でも、UFCのオーナーになったそのときは、胸を張って金網をやめてリングにしたいなあ〜。だって観づらいんだもん。

——……アメリカのメディアは、真に受けて怒るだろうなあ。

【09年3月9日／都内・FEG赤坂分室にて収録】

©ユン・ヨギル

UFC参戦に続き、3月中旬にモデルのSHIHOとの入籍を自身のブログで発表した秋山。常に話題を振りまく秋山だが、UFCで闘っていくことで、日本や韓国での名声をどう広げていくのか⁉

『K-1 WORLD GP 2009 in YOKOHAMA』

神奈川県・横浜アリーナ
3月28日（土）開始17:00予定

対戦カード

［K-1ヘビー級王者決定トーナメント］
メルヴィン・マヌーフ vs ハリッド・"ディ・ファイスト"
ルスラン vs カラエフ vs グーカン・サキ
［リザーブマッチ］
タイロン・スポーン vs 前田慶次郎
［ワンマッチ］
レミー・ボンヤスキー vs アリスター・オーフレイム
バダ・ハリ vs エロール・ジマーマン
ジェロム・レ・バンナ vs エヴェルトン・テイシェイラ
澤屋敷純一 vs グラウベ・フェイトーザ

チケット料金

SRS席 25,000円／SS席 15,000円／S席 10,000円／A席 5,000円
（全席指定・税込）

お問い合わせ

チケットに関するお問い合わせ
株式会社キョードー東京 TEL. 03-3498-9999
大会に関するお問い合わせ
（株）FEG TEL. 03-3796-5060

『K-1 WORLD MAX 2009』

福岡県・マリンメッセ福岡
4月21日（火）開始18:00予定

決定対戦カード

［FINAL16］
佐藤嘉洋 vs ドラゴ
ブアカーオ・ポー.プラムック vs アンドレ・ジダ
長島☆自演乙☆雄一郎 vs アルバート・クラウス
［オープニング・ファイト］
TATSUJI vs 龍二

チケット料金

SRS席 23,000円／S席 13,000円／A席 6,000円
（全席指定・税込）

お問い合わせ

チケットに関するお問い合わせ
株式会社キョードー西日本 TEL. 092-714-0159
大会に関するお問い合わせ
（株）FEG TEL. 03-3796-5060

団体首脳が語る
日本MMA界の展望

戦極
SENGOKU

戦極ではドーピングの使用は許さない。見て見ぬふりはしません

戦極広報

國保尊弘

いつ何時でも“リアル”を標榜している『戦極』。この号の発売時にはすでに終了しているが『戦極』ではDREAM同様、3月からフェザー級GPを開催。ここ最近はトライアウトの実施や、修斗と提携するなど独自の路線を突き進む『戦極』の國保尊弘広報がドーピング問題など日本MMA界の現状を語ります!

聞き手／阿修羅チョロ　試合写真／乾晋也

——今回は日本の主要MMA団体の代表に、UFCをはじめとした海外への人材流出やドーピング問題などを中心にお話をうかがわせていただければと思っています。

國保　わかりました。

——その前に確認しておきたいんですが、『戦極』を主催するワールドビクトリーロードは木下工務店の木下直哉さんが代表を務められていましたけど、最近は國保さんが会見や取材などに応じることがほとんどじゃないですか?

國保　そうですね。

——現在、ワールドビクトリーロードの代表は國保さんという認識でいいのでしょうか?

國保　いや、僕は代表ではないですよ。ほかの媒体でも語ったのですが、木下工務店さんでは老人ホーム事業を買収して始められたんです。老人ホーム事業をやっている反面、格闘技のように殴ったり蹴ったりの事業をするのはどうかということになって、いったんスポンサーから外れたかたちになります。

——新事業との兼ね合いでスポンサーからは降りたということですか。

國保　そうですね。スポンサーと代表というかたちは外れたということですね。ただ、ワールドビクトリーロードの株主であることは変わりはないです。

——そういうことでしたか。では、國保さんはこれまでと変わらず肩書き的には広報でいいんですね。

國保　そうなりますね。

——了解しました。まずは先日会見で秋山成勲選手が正式にUFCと契

UFCを目指す選手が多いですが 僕個人としては理解できない

で秋山成勲選手が正式にUFCと契約を結んだことを発表したわけですが、秋山選手は、昨年リング上から吉田秀彦選手に対戦表明したこともあって、FEGとの契約が終わってからは『戦極』のリングに上がる可能性が高いんじゃないかと見ている人も多かったと思うんですよ。國保さん的には今回のUFC参戦についてどう思われますか？

國保 僕としては秋山選手に限らず、行きたいところで選手が活躍すればいいと思いますよ。

——秋山選手自ら、吉田選手の名前を挙げたというのもありますし、因縁の深い三崎（和雄）選手も『戦極』に上がっているというのもあって、『戦極』としてもほしい選手だったのではないでしょうか？

國保 最初からアメリカに行くという話を聞いていたので、具体的な話はとくにしてないんですよ。

——そうでしたか。ファンだけではなく、我々マスコミ関係者も『戦極』に上がるんだろうと思っている人が多かったんですけど。

國保 そうなんですか。まあでも、そこは秋山選手側が選ぶことですからね。本人が日本でやっていきたいっていうことであれば話をしようと思っていたんですが、初めからアメリカでやりたいという意思が強いのかなというふうには察してましたんで。

——秋山選手に限らず、今年1月の『戦極の乱』でマイクアピールを行なった石井慧選手や山本"KID"（徳郁）選手や宇野薫選手など、UFC参戦を希望するファイターが目立っていますけど、それについてはどう思われます？

國保 僕個人としては理解できないですね。

——理解できない？ やはり、一緒に日本のMMA業界を盛り上げていこうという思いが強いわけですか。

國保 いや、それもありますが、まだまだ難しいところが多々あると思うんです。

——具体的に言いますと？

國保 いま日本のファイターが向こうに行って活躍しても、なかなか日本のファンには響かないところがありますし、公平に扱ってもらえていない気がします。

——WOWOWで中継はされてはいますが、海の向こうの出来事ととらえている人がまだ多いですよね。

國保 そうですよね。その点、野球のメジャーリーグっていうのはかなり地上波で放送していますから、アメリカで活躍したことが日本でも話題になったり、いまの子どもたちにいい刺激になったりとか、今後、野球をやりたいと思っている人たちにとってもいい刺激にはなってると思うんですけど、総合は海の向こうの出来事になっていますね。

——それはありますよね。

國保 海外に行って頑張って活躍しても、なかなか公平に扱ってもらえないという部分もありますし。

——勝ち続けても、なかなかタイトルマッチに挑戦できない選手もいますし。

國保 そういうところはしょうがない部分もあるとは思うんですが、勝っても負けてもなかなか日本で響かないっていうところはちょっと寂しいなと思いますよね。

——DEEPの佐伯さんなんかが言ってたんですが、UFCは世界最高峰と特別視されている風潮があるけれども、ある程度の選手だったら誰でも上がれる、と。

國保 極端なこと言ったら、日本のイベントで活躍している選手で結果を残している選手なら誰でも上がれると思いますよ。それにUFCのこれまでのイベントのやり方を見ていると、「この日本人がどうしてもほしい」というのは少ないと思うんですよね。一部いるのかもしれないですけど、扱い方を見ると日本人は何人かいればいいというぐらいにしか思ってない気がしますし。

——それは何か具体例とかありますか？

國保 それこそ岡見（勇信）選手があれだけ勝っていてもなかなかチャンピオンシップが組まれない。LYOTO選手なんかも同じだと思いますし（取材後にタイトルマッチが決定）。そういう部分はちょっと寂しいですよね。頑張っている選手には頑張っているなりの試合をさせてあげればいいとは思いますけど。

——秋山選手に対しては、UFCを選択したなら、そこで頑張ってくださいという感じですか。

國保 もちろん自分が選んだところで頑張って結果を出せればいいと思うんですけど、UFCと契約したということはけっこう報道されていましたが、実際に試合をして、向こうでの結果がどれだけ日本で報道されるかですよね。

——そうですね。五味（隆典）選手なんかもたびたびUFCを観戦したり、ここ最近は『戦極』と提携した修斗に上がるんじゃないかという話も出てますけど、五味選手に関しても本人の意思を尊重してあげたいという感じですか。

國保 そうですね。まだ五味選手とそういった件に関して直接話していないので、いま現在UFCに行きたいという気持ちがあるのかどうかはわからないですけど、そこは話をしてみてからですね。

——今回、各イベントの代表全員に共通して聞いているのがドーピング問題なんです。アメリカのようにアスレチックコミッションのない日本ではドーピングの規制は緩いという認識をされることが多いんですが、國保さんはどう思われますか？

國保 『戦極』ではドーピングの検査っていうのはしっかりと行なっています。これからもプロの興行はもちろんですけど、アマチュアという部分でも、連盟を主体として行なっていく予定です。また、さらに厳しくドーピング検査というものをやっていかないといけないと思っています。

——アメリカはドーピング問題に関して厳しいという認識がありますが、州によっては杜撰なところもあるとはいいますね。

國保 それは杜撰ということではなくて、検査薬だったり、検査方法の問題だと思うんですね。オリンピック競技での検査薬というと一人何十万円もするような検査をしないといけない。そこまでは、現状のMMAの世界ではまだできていないと思っています。アスレチックコミッションでも、管理方法などかなり杜撰なものがありますからね。

——先ほどドーピング検査を行なっていると言っていましたが、『戦極』では具体的にどういったところまで

昨年9月の『DREAM.6』で吉田秀彦へ対戦表明をブチ上げた秋山だったが、結局選んだのはUFC。もう吉田戦はあきらめた？ 一方、柔道金メダリストの石井慧も1.4『戦極の乱』でリングイン。「いつか大きなお土産を持ってこのリングに立ちたい」とアピールしたが、はたして？

ドーピング検査をして問題がない選手しか『戦極』には上がれません

やれているんでしょうか?

國保　『戦極』の場合、ドーピング検査としては、尿の採取を試合前、試合後にやってもらっています。

――尿検査で、たとえばステロイド反応だったり、興奮剤の反応が出たりという部分をチェックしている、と。

國保　そうですね。

――もしそこで陽性反応が出たとして、アメリカなどと違い日本にはコミッションがあるわけではないので、公表する必要性はないわけですよね。

國保　必要性はないですけれども、ウチにはコミッションがありますので。コミッションが発表するかどうかというのは、これはコミッションの判断だと思っていますし、僕たち興行側が「発表しないでくれ」とか「発表してくれ」ということではないと思っています。

――ではコミッションサイドから、たとえばですけど、「このあいだの大会に出た選手からこういう反応がありました」という発表がされる可能性もあるわけですね。

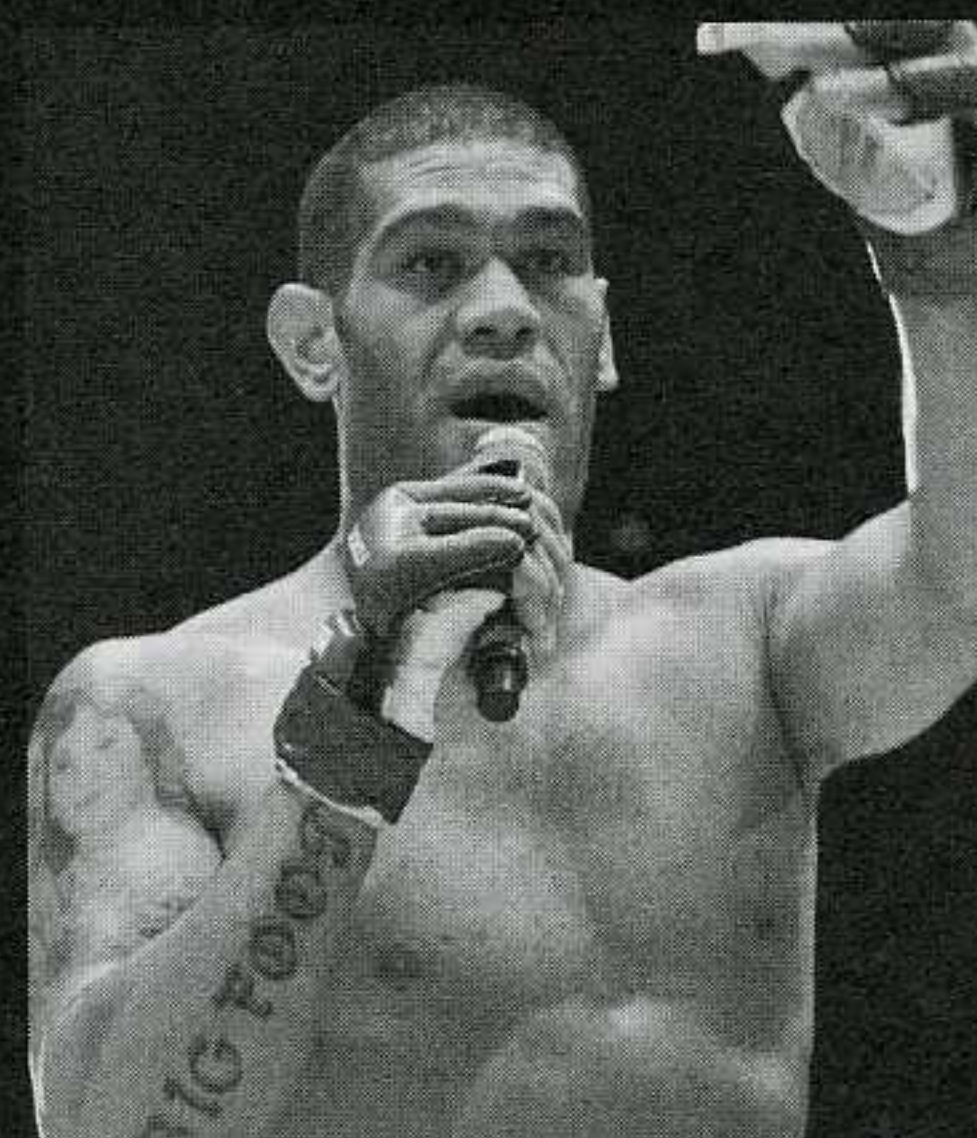
國保　あるでしょうね。そこは僕らの知る余地ではないというか、僕らがどうこうできるところではないですから。

――そういった問題が発覚した場合、ファイトマネーの没収だったりというペナルティは決まっているんでしょうか?

國保　それは契約書上にちゃんと盛り込んであります。これまで大会をやってきている中では、そういった選手は出ていないですが。

――『戦極』でいえば、1月大会に出場したアントニオ・シウバ選手はアメリカのアスレチックコミッションでのドーピングチェックで陽性反応が出たことがありますが、そういった選手に関してはどういう対応をしているんでしょうか。

國保　そういった選手にも日本でしっかりとチェックをして、問題ないというかたちが出ているのでリングに上がってもらっています。

――あ、そうなんですか。

國保　僕らはアメリカのアスレチックコミッションと直接的につながってはいないので、なんらかの情報を共有しているということではないんですね。なので、我々が独自に選手とのあいだでドーピングについての内容も当然明記した契約書を作成し、契約に従った検査を行ない、問題がなければというかたちで出場してもらっています。

――試合前になんらかのドーピングの使用が発覚したら試合には出さないと?

國保　そのチェックは試合の直前にやっていますので、試合前に結果が出るということは、なかなか難しいところですね。

――ほかのプロモーションの代表に聞くと、オリンピックなどで行なわれるような、しっかりとしたドーピングチェックをするには金額的な問題もあって日本では難しいという人がほとんどだったんですが。

國保　ほかのプロモーションのことはよくわからないですが、『戦極』では何十項目に渡ってのチェックをしています。もし仮に禁止薬物を使用している人がいたとしても、その検査自体もドンドン精度の高いものを選択するようにしていますから、なんらかの禁止薬物を使用している人がいるとするならば（反応が）出ると思いますね。

――國保さん的にはドーピングを使用するような選手に関してはどう思います?

國保　ウチは許さないですね。

――『戦極』は〝リアル〟を標榜してますけど、ドーピングを使用するような選手は認められない?

國保　認めないですね。ウチのイベントでは見て見ぬ振りはしません。

――ドーピングの使用は副作用などリスクもありますし、それをわかったうえで、プロとして結果を出すために使用するのはしょうがない部分もあるという認識の方もいるみたいですが。

國保　よい結果を出したいがために使用するというのはわからなくはないですよ。ただ、人体に影響を及ぼすというのが一番の問題ですし、世界のスポーツ界で禁止薬物排除という流れが明確にできていますから。

――『戦極』のドーピングに対するスタンスは理解しました。それと、ワールドビクトリーロードと修斗の提携についてもおうかがいしたいんですが、いまのところ修斗協会のホームページ上で発表されているだけで、会見等での発表は行なわれていないですよね。

國保　そうですね。これはお互いに話していく中で、発表しなければいけないことがあれば発表すると思います。

――簡単に説明するとなると、今回の提携というのはどういうものになるんでしょうか。

國保　簡単に言いますと、お互いに一緒にやっていけるものがあれば一緒にやっていこう、と。我々としては協力できることとしては、必要があるかないかは別として、たとえばスタッフの協力であったり、スポンサー営業の協力であったり、はたまた選手のことであったりとかですね、とにかく僕らとして協力できることはやっていこうというスタンスですね。

――『戦極』としてのメリットという部分では、修斗系の選手がこれまで以上に上がってもらいやすくなったというところはあるんでしょうか?

國保　いや、そういうことではないですね。そういった部分では、これはパンクラスさんにしても、DEEPさんにしても、ケージフォースさんにしてもそうだと思うんですけど、そういったプロモーションがあって、いま我々の大会はできていると思うんですよ。そういった大会がなけれ

戦極ポーズを披露するなど『戦極』のイメージの強いジョシュだが、昨年5月の『戦極～第二陣～』以降はMMAはアフリクション、プロレスではIGFを主戦場に。はたして、『戦極』再登場はいつになる?

1.4『戦極の乱』で菊田早苗に敗れ、引退も示唆していた吉田秀彦。8.2『戦極～第九陣～』さいたまスーパーアリーナ大会への参戦を望む声も多いが、首のヘルニアをはじめ満身創痍状態の吉田の判断はいかに?

08年7月にエリートXCヘビー級王者となるも試合後のドーピングチェックに引っかかり、1年間の出場停止処分が下されたアントニオ・シウバ。しかし『戦極』の検査は無事クリアし、今年1月大会に初参戦。

リアルな『戦極』の闘いを全世界に発進していければと思っています

ば選手というのは育っていかないですから。

——そこの部分ではこれまでと関係は変わらないと？

國保 そうですね。さまざまなプロモーションの大会で何試合もして育った選手たちが我々のリングに上がっていく、そういうパターンは変わらないと思います。たとえばパンクラスさんで勝ち続けてチャンピオンになりました、と。そうやって勝ち上がってきた選手たちだけが僕らのリングに上がっているという図式になっていますから。ある意味、いいところだけを取っているというか。

——まあ、そうですね（笑）。いま現在日本では『戦極』とDREAMが二大メジャーと言われている状況ですよね。

國保 そう思われている方も多いかと思いますが、ただやっぱり、DEEP、修斗、パンクラス、ケージフォース、こういう舞台がなかったら当然選手は育たないわけですから。僕らがそういうところに対してお手伝いできることがあれば、ぜひお手伝いしたいですし、協力できることがあればぜひ協力したいというスタンスです。そこは修斗さんに限らずの部分ですよね。

——2月にはトライアウトも実施しましたし、『戦極』では選手育成も含めて、長期的な計画もかなり行なっていますよね。

國保 そうですね。強い地盤を作るという意味では、先ほど言ったようにアマチュアという部分は非常に重要だと思っていますし、アマチュアがあって上が育つ、と。

国内外のさまざまなプロモーションのチャンピオンクラスが揃った戦極フェザー級GP。よほどの格闘技マニアでなければわからないようなファイターも多数登場するが、昨年のライト級GPで注目を集めた“S4”級の選手は登場するのか？　フェザー級の“北岡悟”は誰なんだ!?

——3月に開幕するフェザー級グランプリはDREAMでも同じ月に始まるのでどうしても比較されることはあると思うんですが、『戦極』の方向性という部分はどう考えていますか？

國保 僕らは設立当初からずっと言っているとおり、各階級のチャンピオンを早く作りたいと思っているので、今回はフェザー級のグランプリを行ないますが、そのあとも順序よく作っていこうと思っています。とくにDREAMさんは意識していないですね。

——DREAMは意識していないですか。この本が発売されるのが『戦極』のフェザー級GPの直後になるんですけど、開幕前のいま現在、フェザー級GPの手応えや評判はいかがでしょう？

國保 どの試合もおもしろい試合になると思いますよ。

——カード発表会見でも「全試合メイン級のカードが組めたと思う」という発言もありましたよね。

國保 そうですね。どの選手も各プロモーションだったりジムが自信を持って送り出す選手ですし、なかなか予想のしづらい試合が多いと思うんですよ。この中でどの8人が残ってくるのか、格闘技に詳しい人たちでもなかなか予想しづらいのかなと思いますし。

——僕レベルではまったく予想がつかないです（笑）。

國保 マニアックな人たちでもなかなかこれは……全試合当てるっていうのはホントに難しいと思いますよ（笑）。

——ただ、カード発表が遅くなったという部分では、あんまり比較されたくないんでしょうけど、DREAMと選手の取り合いだったり、駆け引きがあったんじゃないかと思うんですが。

國保 いや、そんなことないですね。体重も違いますしね。たとえば、日沖（発）選手なんか名古屋に住んでいたりしますから、何度も何度も呼ぶというわけにいかないですし、やはり8カード組むためには、選手や関係者一人一人に対戦相手のことを伝えてOKをもらったりする作業に予想以上に時間がかかったということですね。今回は世界各国から選手が参加するので、時差の問題もありましたし、口頭でOKをもらっても、なかなか契約書が届かないとか、そういった部分が大変でした（苦笑）。

——3月大会は初の代々木第二体育館ということで、これまでの『戦極』と比べると会場のキャパは小さくなりますよね。

國保 逆にそのぶん、熱のある大会が観られると思いますよ。そういった会場でもやりつつ、ビッグマッチはさいたま（スーパーアリーナ）でやっていくというスタンスは変わらないと思います。

——テレビ関係で言うと、テレビ東京系列の『戦極G!』も好調みたいですけど、海外の『HDNet』での放送も決まったんですよね。

國保 そうですね。韓国では放送されていましたが、アメリカでの本格中継は初めてとなります。まずは全米とカナダでの放送が決まっているんですが、ほかにも格闘技の地盤が強いヨーロッパだったり、ブラジルや中国への進出も狙っていますので、決まり次第、順次発表していきたいと思っています。

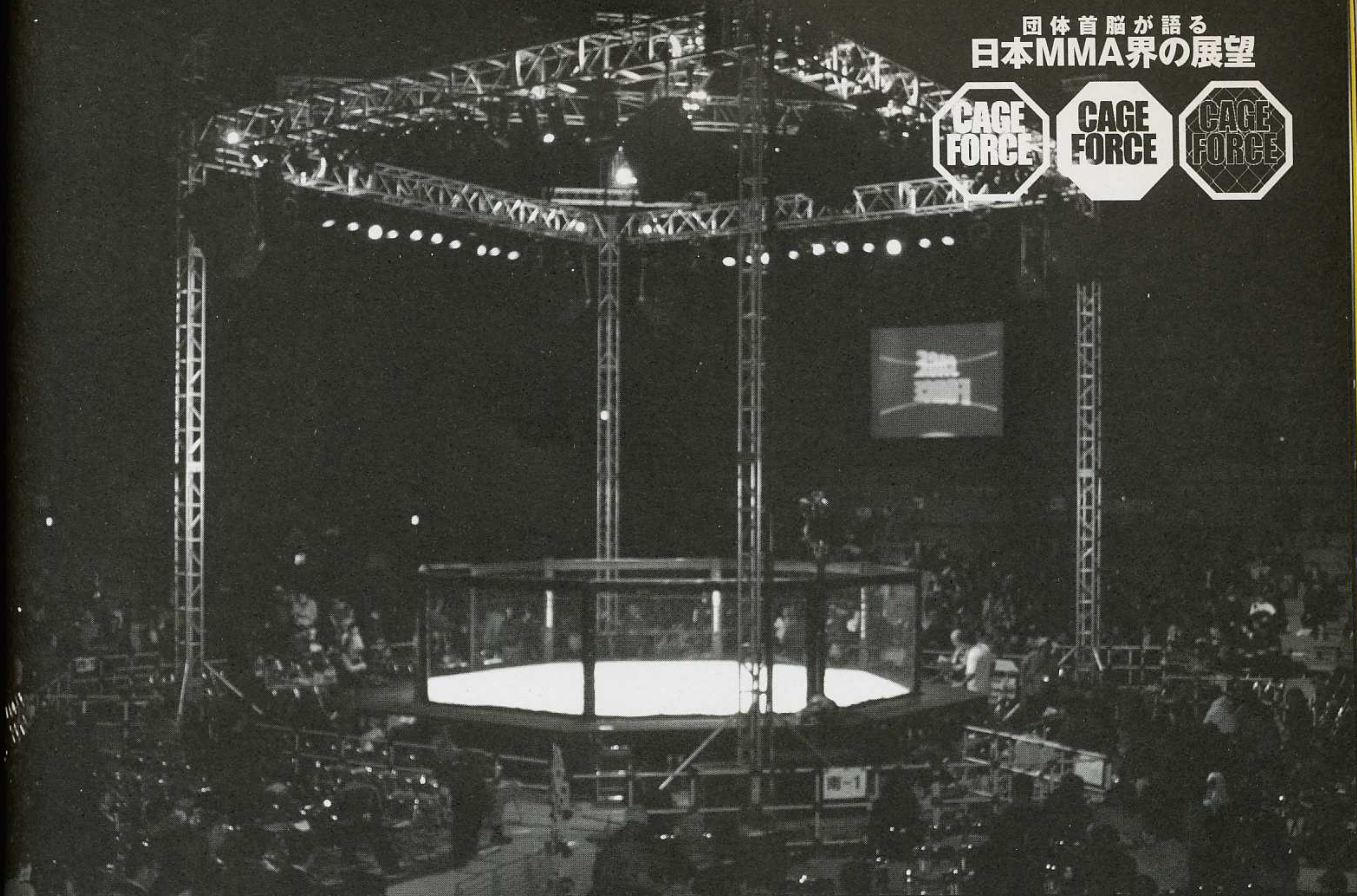
——これまでアメリカで中継されていなかったこともあって、UFCなどで選手に取材をしても、DREAMは知っていても『戦極』は知らないという人も多かったんですが、これからは海外にもドンドン『戦極』を広めていきたいという考えなんですね。

國保 もちろんです。リアルな『戦極』の闘いを全世界に発進していければと思っていますので、期待していてください。

——『戦極』普及のためには、やはり戦極ポーズ……。

國保 いや、それはもういいでしょう（笑）。

【09年3月7日／電話取材にて収録】

CAGE FORCE CAGE FORCE CAGE FORCE

日本のドーピングチェックはアメリカと比べるとザルのような感じです

GCMコミュニケーション代表
久保豊喜

日本で唯一ケージ（金網）を使用したイベント、ケージフォースを定期開催しているのがGCMコミュニケーションだ。岡見勇信や宇野薫など、これまで多くの所属選手をUFCをはじめとしたアメリカMMA界へ送り込み、ズッファからも信頼を得ているという久保豊喜社長に日本のMMA界の現状を本音で語ってもらいました。

聞き手／阿修羅チョロ　試合写真／乾晋也、Josh Hedges（UFC）

久保　今日はなんの話を聞きに来たの？

――え〜、本日も久保さんの天敵である佐伯さんの悪口を聞かせてもらえれば、と（笑）。

久保　もういいよ、あの人もホントはいい人だから。

――あ、そうなんですか（笑）。ちなみに久保さんもホントはいい人なんでしょうか？

久保　相手がどう思うかは僕にとってはあんまり関係ないなぁ。まあでも、僕は業界内の人気が低いんで。

――えっ、久保さんは業界内の人気が低いんですか？

久保　業界内で僕と仲よくしようって人は少ないから（笑）。

――とはいっても、DREAMや『戦極』から修斗やパンクラスといった各プロモーションとお付き合いされてるわけじゃないですか。

久保　そうだね。まあでも、それは選手のおかげじゃないですか。

――選手のおかげ……、どう受け取っていいのやら判断しづらいですけど。

久保　最近、専門誌とか露出が増えたら、ちょっといい人っぽくとられてるんで、嫌われキャラのほうがいいかなと思って、本来の嫌な人を出していこうかな、と（笑）。

――え〜、話題を変えます。つい先日、慧舟會さんでも練習をされていた秋山（成勲）選手が正式にUFC参戦を発表しましたけど、そのことに関してはどう思われます？

久保　書いてもらってもかまわない話をさせてもらうならば、宇野薫もそうだし、秋山成勲もそうなんだけども、ある程度の実力や実績を積ん

――ここ最近は日本の選手でも各種

世界最高峰と言われるUFCもすべてが整備されてるわけではない

で、年齢的にも一番充実しているだろう時期に、UFCに挑戦したいっていう選手がいても不思議じゃないでしょ。

——そうですね。たしか、宇野選手と秋山選手はどちらも33歳と同い年なんですよね。

久保 そう。いま自分が充実してるとか、現役として選手生命の集大成とか、いまやらなかったらいつやるんだとか、それぞれそれなりの理由があってUFCに出たいと思う人がいれば、逆に同じ年代の選手でも、日本のDREAMであったり、『戦極』であったりというプロモーションで強い選手と闘っていきたいという考え方をするのもいいんじゃないですかね。

——以前から久保さんは言っていますが、GCMさんでは選手の自主性を最優先しているわけですよね？

久保 僕の考えは昔からそうだから。みんな勝負をするのは一緒なわけだから、どっちがキツいとか、どっちが甘いとかっていう問題ではないと思うし、本人が進みたい方向に進めるっていうのは素晴らしいことでしょ。

——素晴らしいと思います。宇野選手も含めて、UFCをメジャーリーグと捉えてる選手が、その集大成をぶつけたいというんであればサポートしてあげると？

久保 できる範囲でね。たとえばだけど、WECの61キロとか65キロとかは、「本当にあそこの選手たちはどれぐらい強いんだろう？」っていうのはまだ判断は難しい。ただ、重い階級になっていけばいくほど強い選手が集中していて、そういった選手は完全にUFCというかズッファというところの契約の傘下になりつつあるっていうのがホントのところじゃないですか。

——よく言われますけど、いまのUFCには弱い選手はいない、と。

久保 いや、『TUF』っていう番組から出てきた選手なんて、弱い選手もいると思いますよ。ただ、番組で人気者になったからってことで、戦績とはまったく別のところで上のほうで使われることもあるしね。でも、UFCこそが最高峰でほかはインチキだなんて声も聞くけど、じゃあUFCはエンターテインメントから切り離された完全で純然たるスポーツなのかっていったら、そんなことはないからね。

——UFCもプロ興行ですからね。前号の『kamipro』でドーピングの特集をしたんですけど、アメリカと日本のMMAではドーピングに対する認識や厳しさの違いがかなりあると思うんですよ。

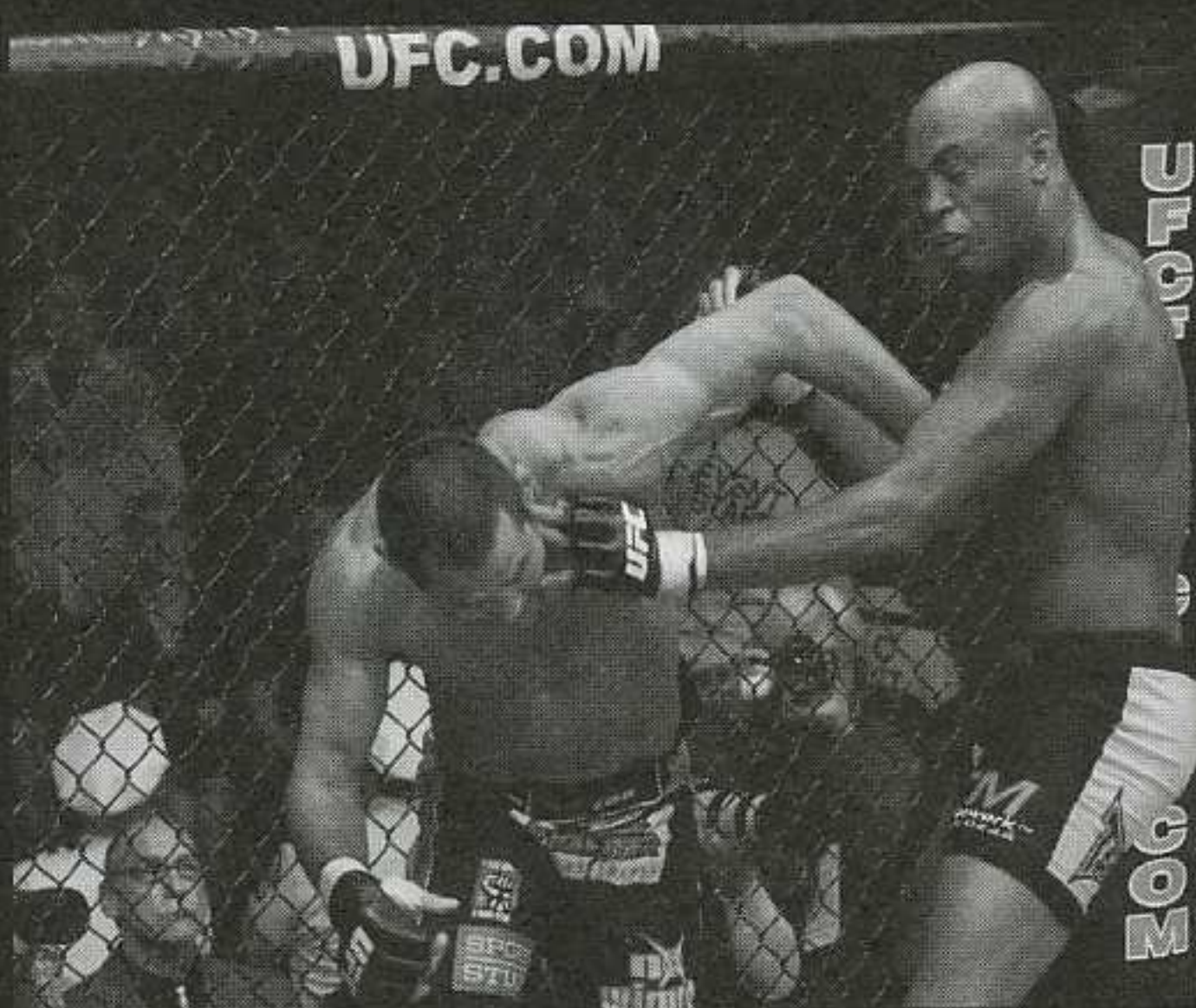
久保 いろいろな意味で日本は遅れてるだろうね。

——ドーピングに関して、日本の格闘技イベントは甘いという認識をされがちですが、プロモーターでもあり、指導者の顔も持つ久保さん的にこの問題はどう思います？

久保 やっぱり難しいよね。ぶっちゃけて言うと、現状ではドーピングチェックは無理だよな。金銭的に無理でしょ、日本では。

——たしか日本ではドーピングチェックをできる機関が一箇所しかなくて、金額もかなりかかると聞いたことがあります。

久保 そうだね。一般人の私たちがドーピング検査をしたら、一人頭のギャラを超えるような金額になってしまうわけだよ（笑）。

——ギャラもピンキリなんでしょうけども、それぐらいお金がかかるものなんですね。

現在のMMA界において“メジャーリーグ”と評され、トップファイターの多くが参戦を希望しているUFC。吉田善行や水垣偉弥などケージフォースで活躍した選手の多くがUFCやWECに参戦をはたしているが、久保社長によると、そんなUFCでさえも整備されていない点が多々あるという。

久保 高いですよ。だから、後楽園ホールやディファ有明でやってるレベルの興行の資金ではとてもじゃないけど払うことはできない。「ドーピング検査をやってます」って言ってるところも、だいたいが尿を採って検査をしてるだけでしょ。

——尿検査をしているところはけっこうあるみたいですけど、その検査でなんらかの陽性反応が出てもコミッションに管轄されているアメリカなんかとは違って日本では発表する義務はないわけですよね。

久保 そうだよね。ドーピング検査というものを尿を採ってリトマス試験紙みたいなのにつけて、「何か出ました」っていうのであれば、そんなのは誰でもできますよ。綱川（慎一郎リングドクター）さんの話によると、新薬が発明されても、すぐにいたちごっこになってるみたいだけど、そこを追いかけていくには医療技術の最先端のモノを持ってきてチェックしなきゃいけないわけですよ。

——そうでしょうね。

久保 だから、最先端のいたちごっこをやる部分でのチェックができてるかどうかがドーピングチェックというのであれば、たぶん日本のプロモーションはどこもできてないですよ。

——やはり、日本のプロモーションはどこもできていないんですか？

久保 そうとしか言いようがない。アメリカなんかは最先端のいたちごっこというところでドーピングチェックをしてるかもしれませんけど、日本の場合は麻薬だとか興奮剤の使用がわかるかどうかというレベル。比較すればザルのような感じですよ。

——ここ最近は日本の選手でも各種ドーピング薬を使用してるという人もいるみたいですし、知識も上がってはいる状況だと聞きますけど。

久保 ドーピングをすることによって、和田（良覚）さんなんかは「そういう薬をやってもトップにはなれない」と言ってたけど、やってる選手は凄く多いんじゃないですか？ 日本の選手だって多いと思いますよ。

——日本人選手も多いんですか⁉

久保 まあ、それなりにいると思われるかな。ギリギリここまでは平気なんじゃないっていうレベルでやってる選手もいるんじゃないですか。でもやっている、やっていないの境界線が曖昧なままだと、この質疑応答さえ破綻してるよね。

——立場上難しい部分もあるとは思いますが、久保さん的にはドーピングをやっている選手に対してはどう思われます？

久保 やっちゃいけないモノだと言えば、僕は取り締まらなきゃいけない。やってもいいモノだと言っても、海外の選手には通じないわけで（苦笑）。なんとも言えない問題だよね。これに関しては一つのルールというか線引きを日本のプロモーションとして決めない限りは何かを明言したところで、ある意味、きれいごとだと言われかねないので、やるべきじゃないとか、やってもいいじゃないかっていう意見を言うのは非常に難しいですね。

——難しい問題ですよねぇ。UFCをはじめアメリカはドーピングチェックが厳しいと思われがちですが、州によっては規制が緩いところもあ

日本の大会ではドクターも考えられないような金額でお願いしている

るみたいで。

久保 そうですね。UFCに関してはラスベガスのネバダ州のコミッションが一番慣れたかたちでやってますけど、先日のWECに大沢(ケンジ)が出たんですけど、試合をした場所はネバダではなくてテキサスだったんですけど、とにかく「ひどい」って言ってましたよ。

—どういった部分がひどかったんですか?

久保 ネバダではないコミッションからオーダーを受けてきたレフェリーたちというのは、やっぱり非常にクオリティが低いとかね。

—ドクターだけではなく、アメリカではコミッションから派遣されるレフェリーが試合を裁いたりするわけですよね。

久保 違う州でやると、そこの地元のコミッションから派遣されてきたレフェリーがやるわけですから。そうするとMMAを裁いた経験が少なかったりするレフェリーも平気で派遣されてくるわけです。そういう人たちは寝技は見れませんとか、ストップの基準がまちまちだったりっていうことも平気であったりするみたいですね。

—そのへんも全然統一されていないわけですね。

久保 されてないですね。そういうところではドーピングに関しても同じようなことが言えるだろうし。だから、MMAの本場と言われるアメリカでさえ、完全にMMAが浸透したと言われるまでにはまだまだ時間がかかるでしょうね。

—州によってはルールを変更せざるをえなかったりするみたいですからね。

久保 実際、UFCではニューヨークでなんとか大会をやりたいと思ってるだろうけど、まだできてないしね。まあ、MMAなんていうのはできあがってからまだ15年ぐらいしか歴史がないわけだから。

—UFCが始まったのは1993年ですからね。

久保 修斗はそれより長い20年の歴史があるし、パンクラスもUFCより長いかもしれないけども、世界的な意味でのMMAってことでいうと、やっぱりいまはUFCを抜きに語れないわけだし。たとえば相撲の起源は何千年だとかさ、もうぼやけちゃってるでしょ。実際問題、横綱っていうものが誕生したのは江戸時代の中期だったりするわけじゃない？ 歴史の認識だったり境界線問題だったり。

—MMAとは全然比べられないですよね。

久保 UFCですら、まだ15年ちょっとですよ。

—そんなUFCでもまだまだ未整備なところがたくさんあるのに、日本で完璧なモノを求めるのは現段階では難しいんでしょうね。

久保 難しいよね。だから何が大事かっていうと、プロモーターは、まあウチもそうだし、『戦極』さん、DREAMさん、修斗さん、パンクラスさん、ほかもたくさんあるけど、ここらへんの人たちが自覚を持って、みんなで一致して協力できる部分を作らなきゃいけないと思うよ。

—いろんな面でライバル関係ではあるでしょうし、全部が全部は協力できないでしょうしけど、ある部分では協力していかないといけない、と。レフェリーとかも同じ人がいろんな大会を裁いたりしている現状もあるわけですし。

久保 足りないよね。リングドクターだってそうだしね。ドクターなんてとくにそうだけど、格闘技の大会ではどこでもドクターを頼むわけだけど、それだって考えられないような金額でお願いしてるわけ。

—それは高いってことですか？ それとも安いってことですか？

久保 あきらかに安いですよぉ。

—だからこそ、中山(健児)リングドクターや綱川リングドクターみたいに格闘技が好きで理解がある人がやってくれてる感じですよね。

久保 そのとおりです。普通のドクターを一日拘束したらいくら払えばいいと思う？

—う〜ん、まったくわかりません。まあ、お医者さんですから、普通に考えたら安くはないでしょうけど。

久保 そうだよね。それをみんな安くやってもらってるわけよ。で、なおかつプロモーター側が意識を低く物事を運営していると、万が一、事件が起こってしまった場合「おいドクター、どうなってるんだ⁉」って呼びつけられて、聞かれるのは主催者とほぼ同じぐらいドクターだからね。

—どうしてもそうなりますよね。

久保 「おまえ、ホントにチェックしたのか⁉」とか、「どういうチェックをしたんだ⁉」って。今回のケージフォースでもあったけども、ある選手の血圧が高いってことで、ドクターのほうから「試合はやめさせたい」と。その後のチェックでゴーサインが出たのでやらせたんだけど。じつは前々回の大会のときもドクターからそう言われて、一個、試合を消してるんですよ。

—たしか、なくなった試合がありましたね。

久保 発表しておきながら「血圧が高いからやらせられません」と言われて「わかりました」と。格闘技の選手なんかは、こんなに練習してきたからどうしてもやらせてくれってなるけども、ドクターなんかは親御さんの応援があって、中学、高校、大学とず〜っと勉強してさ、その期待を背負ってきて、やっと得た医師免許なわけですよ。それが格闘技が好きだからって関わっていて、主催者側に「先生、この選手にやらせてやってくださいよ」って言われて、しょうがなくやらせて問題が起こったら、この人の医師免許に関わってくる話ですよ。

—まあ、ない話ではないですよね。

久保 そんなことに引きずり込んでいいわけがないでしょ。○〜○万ぐ

ここ数年は『HERO'S』やDREAMなど日本のイベントで活躍していた宇野薫は、6.13『UFC99』ドイツ大会で約6年ぶりのオクタゴン再登場が濃厚だ。かつてタイトルマッチにも2度登場した宇野の狙いは?

これまでUFCに参戦したどの日本人選手よりも結果を残しているのが岡見勇信。昨年はアンデウソンが保持する王座挑戦の話もあったがケガのため消滅。はたして今年中にタイトルマッチのチャンスは巡ってくるのか?

WK高谷軍団として『HERO'S』やケージフォースにも参戦。昨年はWECに参戦するも連敗を喫した高谷裕之は次なる舞台としてDREAMフェザー級GPを選択。以前から対戦を望んでいたKID戦は実現するか?

日本でUFCをやるのは難しいと思う
邪魔してやろうって人が多すぎるから

らいから、多く払ったって○○万ですよ。

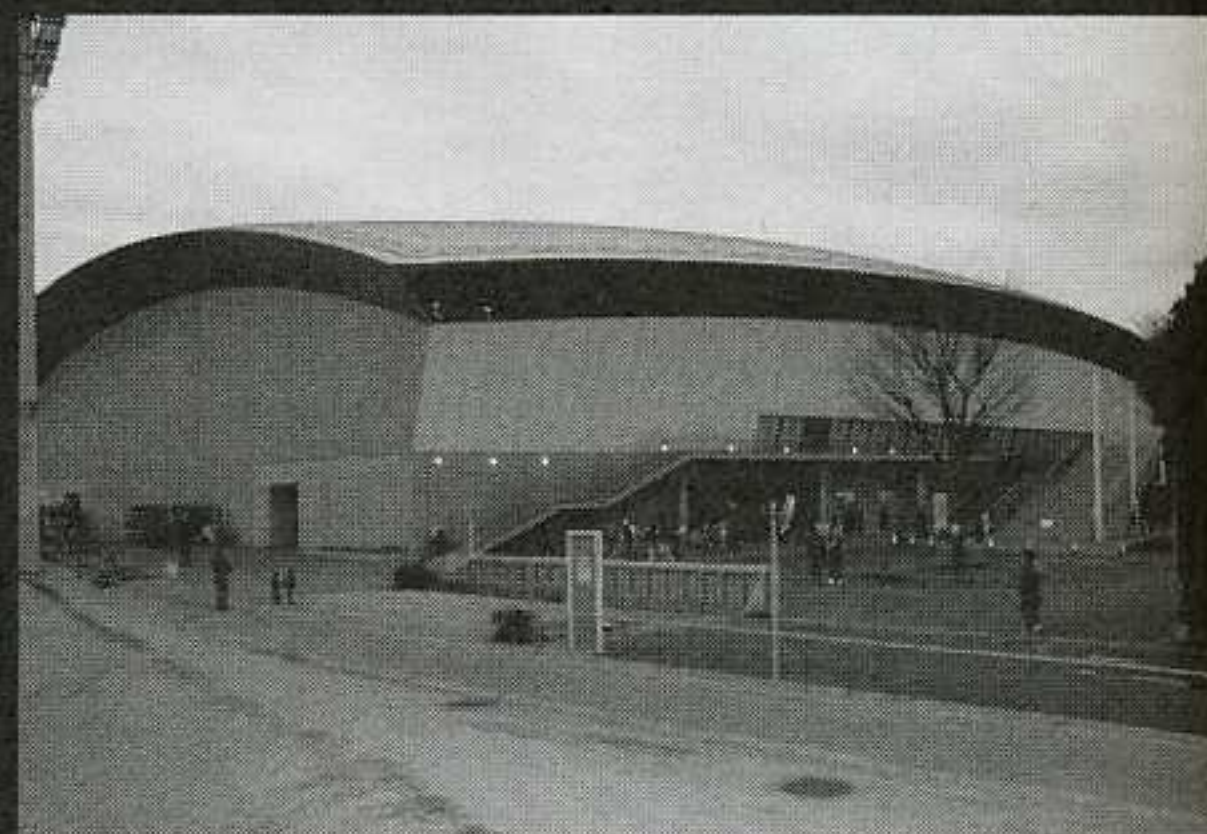
——へぇ〜、それぐらいの金額で一大会のリングドクターをやってもらっているわけですね。

久保 そんな金額で協力してくれる人の人生を潰していいのかっていう話になっちゃうわけよ。

——ドクターの診断にかかわらず、主催者の意向で試合が行なわれることもあるわけですね。

久保 あるかもしれませんね。ウチではドクターが「やらせられない」って言ったらやらせません。レフェリーもそうですけど、格闘技のイベントっていうのは、いろんな人の協力で成り立ってるわけです。レフェリーだってドクターと一緒で安い金額でやってもらってるわけです。もう交通費と一回メシを食ったら終わっちゃうんじゃないかっていう金額だと思いますよ。

——ドクターはともかく、レフェリーの適正価格は何と比較したらいいのかっていうのは難しいでしょうけどね。レフェリー業だけで食べていけてる人はほとんどいないでしょうし。

久保 いないよね。選手だけじゃなくて、そういった人たちみんなの協力があって格闘技の大会はできあがってるわけだから、主催者っていうのはもうちょっと謙虚になってやらなきゃいけないし、主催者同士ももうちょっとしっかりとした話し合いをしていかなきゃいけないと思う。それこそマスコミさんだって、業界の問題として捉えて、業界をよくするためにみんなで一致して協力できる部分を最低一つ二つ見つけて、話し合いをしてやっていくべきだと思いますね。

——はぁ〜、頭に入れておきます。そういえば、最近どこかのインタビューで読んだんですが、久保さんは「プロモーターの言いなりにならない」と言ってましたね。

久保 それはそう思ってますよ。

——ここ最近はプロモーターの言いなりにならない選手も増えてるような感じもするんですが、いかがでしょう?

久保 増えてるんじゃないですか。まあ、ウチなんかは前も言ったように最初から本人の意思を最優先してるんでとくに問題はないですけど。

——久保さんのほうから「今回はこっちのイベントに出てくれないか」みたいな話をすることはないですか?

久保 ないですね。「選手も交えて話し合いをしましょう」とプロモーターさんからお願いされるケースもあるので、三者で話し合いをすることはありますよ。だからといって「主催者がこう言ってるんだから、今回はお付き合いして出なさいよ」なんて口説くことはないです。

——久保さんに限らず、そういった駆け引きのようなものはあたりまえにあるものだと思ってました。

久保 もしかしたらほかのところはあたりまえなのかもしれないけど、ウチは一切ないですね。

——そうでしたか。最後にケージフォースの今後の展望を聞かせてもらえればと思うんですが、このあいだの所沢大会のようなビッグマッチは次回はいつぐらいを予定してるんですか?

久保 一応ディファ（有明）さんは4月、6月、9月、10月と今年4回押さえてるんですけど、何かしらの変革があったときに、また所沢だったり、JCBホールとか代々木第二クラスの会場でやろうとは思ってますよ。

——ディファよりも大きい会場でやれるだけのマッチメイクの可能性もいろいろと企んでいる、と?

久保 もちろん！（ニヤリ）。ウチにしかできないようなマッチメイクを組んでいきたいね。僕らとしては、せっかく金網でやってるので、郷野（聡寛）くんとかにも出てもらいたいなっていう気持ちはありますよ。UFCとの契約次第ではあるけどね。

——UFCとうまく話ができている日本で唯一のプロモーションと豪語されていたこともある久保さんにお聞きしたいんですが、近い将来UFCの日本再上陸の可能性はあるんでしょうか?

久保 まだ日本はないでしょう。韓国はあるかもしれないけど。

——やはり、日本で大会を開催するにはさまざまな障害がある、と?

久保 日本でUFCという大会をやる、もしくはやろうみたいな話があると、それに関わりたいという人とか、邪魔してやろうっていう人たちが多すぎる！

——ダナ・ホワイトも同じようなことをよく言ってますね。久保さんは「関わりたい人」ではないんですか?

久保 もちろん「協力してくれ」って言われたらするよ。そんだけ。でも、「自分たちにやらせてください」って話はないからね。

——以前はUFC—Jという大会がありましたけど、いまのUFCはそういうかたちでは大会をやってないですからね

久保 そうだね。僕らがヘルプできる部分っていうのは凄く少ないじゃない。まあ、難しよなぁ。ホントはいろいろ言いたいこともあるんだけど、書けない話ばっかりだからさ（苦笑）。

——へぇ〜、それは気になるなぁ。

久保 やっぱり、日本にはブローカーさんがいっぱいいるじゃない? 格闘技とかに関わりたいっていう人たちが。君たちと同じように出版とかマスコミ関係にも何人かいるみたいだしさ（笑）。

——思い当たる人の顔が何人か浮かびましたが、誌面の都合もあるので、今日はこのへんで失礼します！

【09年3月4日／都内・GCM事務所にて収録】

2.28所沢大会のメインでは『戦極』でプチブレイクをはたしたケージフォースライト級王者の廣田瑞人がパンクラスライト級王者の井上克也相手に防衛戦を敢行。しかし、廣田はドロー防衛に不満顔。

GCMでは2.28ケージフォースにて格闘技興行では初となる所沢市民体育館に進出。最大約1万人収容（今大会は約3000人バージョン）できるというこの会場が格闘技の新たな聖地になるのか?

団体首脳が語る
日本MMA界の展望

UFCなんか俺でも上がれるよ!

DEEP代表
佐伯繁

首脳特集のトリを飾るのはDEEPの佐伯代表！　あの長南亮をして「あの人がいないと日本の格闘技界は大変なことになる」とまで言わしめた佐伯代表が、糖尿病もなんのその、チョコをかじりながら日本MMA界の展望について激語り！格闘技LOVEあふれる佐伯節に耳を傾けろ、ウッシッシッ！

聞き手／阿修羅チョロ

――佐伯さん、今回は各団体の首脳に日本MMA界を取り巻く環境や展望について語ってもらう企画でして、ドーピング問題とか語りづらい話題とかにも答えていただければと思います。

佐伯　ふ～ん、じゃあ久保さんも出るんだ？

――もちろん、佐伯さんと同じ日本MMA界のキーマンですから（笑）。

佐伯　ま～たあの人はわけわからんことばっか言ってんじゃないの？

――いやいや、久保さんの取材は明日なんですよ。

佐伯　俺が先なの？　じゃあ、あんまりとやかく言わんほうがいいわな。

――あ、大人の対応ですね（笑）。で、佐伯さん、まず主催者として大会に欠かせないレフェリーやリングドクターについてどのように考えているのか聞きたいんですが。

佐伯　結局、レフェリーにしろドクターにしろ、どこまで主催者側の意向をわかってくれてるかってことが重要だと思うよ。レフェリーでいうと、よくあそこの団体はジャッジがどうとか言うじゃん？　でも、だいたいどこのイベントでもレフェリーの顔ぶれはそんなに変わらないんだよね。

――同じレフェリーがいろんなイベントを裁いてるかたちになってますよね。

佐伯　そうなると、レフェリーもいろんなタイプがいるから、そのイベントに合う合わないが出てくるんだよ。ちなみにウチはレフェリーのジャッジに対して俺はまったく関与してない……というか関与できないシ

レフェリーもドクターも重要なのは主催者の意向をわかってくれるかどうか

ステム。

——判定に関しては完全にレフェリーに委ねている、と。

佐伯 そうだね。でも、試合結果に選手側から異議があったら、俺は主催者としてレフェリーを守らなくちゃいけない立場だから、こっちが納得するものであればその申し立ては受けるよ。ただ、それを一回受けちゃうとみんな言ってくるからな。俺から言わせたら、試合の結果に文句言ってくるんだったら、「おまえたち一本取ってみろ」っていうのはあるけどね。

——判定で文句をつけてくる前に一本かKOで勝て、と(笑)。

佐伯 そうそう。それに俺なんかは他のイベントにウチから選手を出しても、よっぽどのことがなければ判定に対しては何も言わないから。

——団体によっては、その団体の所属選手寄りの判定をしてるなんてツッコミも受けたりしますよね。

佐伯 そういう意味では、ハッキリ言えば、いまの日本のMMAで試合の流れを壊してるのは●●さんだと思うよ!(鼻息荒く)。

——ほう。それはどういう理由でですか?

佐伯 なぜかというと、試合で膠着してもなかなかブレイクしないからな。あれは選手がかわいそうだと思うわ。

——穏和な佐伯さんがあえて口に出して言うほどだ、と。

佐伯 選手たちも試合の展開を変えるためにブレイクを待ってるかもしれない、そこをどうにかするのはレフェリーの役目でしょ。そんな試合だとお客さんもまったく盛り上がらないもん。まあ、よそのイベントだと、そのイベントの方針もあるんだけど、やっぱり興行としてお客さんのことは考えてやらなきゃダメでしょ。

——そのレフェリーは競技性を重視してという考え方なのかもしれないですけど、プロ興行としてはお客さんの目を意識しないといけないというのが佐伯さんのスタンスなんですよね。

佐伯 そうだね。そういう意味では、いまはケージの見方も難しい部分があると思うよ。

——日本でケージの大会といえば、どうしても佐伯さんの天敵のあの方がやってるイベントを想像してしまいますけども(笑)。

佐伯 (無視して)いやね、俺もちょっと前まではケージの大会もやりたいなと凄く思って、実際に動いていた時期もあったんだけど、最近は逆になってきたわ。

——いまは具体的にケージの大会をやることは考えていない?

佐伯 そうだね。ひと言で言うと、ケージは観づらい!

——あ、そういう理由ですか(笑)。

佐伯 それに比べると、リングはロープ際のブレイクのタイミングとか、駆け引きがあっておもしろいなって最近はとくに思うようになってきた。

——いまはケージよりもリングだ、と。

佐伯 いまはね。まぁ、俺としては、ルールやレフェリングとかも、揉めごとになりそうな原因はなるべく作りたくない。それには主催者としてどういうスタンスをとるかが重要。たとえば、ZSTみたいに判定をなくしてドローにするっていうのも一つのスタンス。ウチもフューチャーファイトはどれだけ攻めてようが一本取らないとドローだから。本戦出たいなら一本取りなさいよって。そこで、そういう試合の流れを作るのはレフェリーの役目なんですよ。選手が動かないならブレイクして動かすしかない。だから俺と●●さんの考えはまったく反対なんだよ。「これでいいんです」って言うのかもしれないけど、実際に●●さんがレフェリーをした試合はお客さんが沸いてないのが答えだって俺は思うし。

DEEPのリングドクターである中川先生は記者会見にも登場、格闘技経験もないのに三島☆ド根性ノ助のスパーリングパートナーを務めたことも。もはや完全にDEEPワールドの住人であり、そこからも主催者である佐伯代表との信頼関係がうかがえるのだ。

——レフェリーもある程度は観客の目を意識して裁かないといけないというのが佐伯さんのスタンスなわけですね。

佐伯 そうだね。それと、選手と関係が近いレフェリーっていうのも問題。同じジムだったり、一緒に練習したりして、気持ちが入りすぎちゃってるっていうのもよくないと思うんだわ。

——思い当たるレフェリーもいますね。

佐伯 あとは、レフェリーだったりジャッジをしてる人間がセコンドつくのもおかしい。ウチではそういうのは認めないけど、それってよそのイベントとかではけっこうあるでしょ。本来ならニュートラルな立場でやらなきゃいけない人間が「効いてない、効いてない!」とか声上げたりとかはまずいよな。

——総合に限らずキックのイベントとかでもよくありますよね(笑)。佐伯さんとしては、そういった他人からツッコミを受けそうなところはイベントから排除していきたい、と?

佐伯 そうだね。あと、試合後に選手は本部席にいる俺に「ありがとうございました」って挨拶に来たりするじゃない? でも、そこで主催者としては素直には喜べないんだよね。どうしても対戦相手のことも考えちゃうから……。意外とメチャクチャやってるように見えて、俺はそういう部分を考えてるんだよな(自信満々に)。

——なるほど。DEEPのリングドクターは佐伯さんの主治医の方がやってるんですよね?

佐伯 そうだね。やっぱりドクターの中には全権は自分にあるって考えがちの人もいるけど、そのあたりも主催者側の意向を汲んで判断してくれる人のほうが、正直なところ大会の運営はやりやすいわな。

——そういう意味ではいまは信頼関係が成立している、と。

佐伯 たとえばウチなんかは出場する全選手のカルテを作ってる。ドクターチェックの記録や、前の試合でここを打たれたっていう詳細まで全部記入して、それを試合のときにちゃんと用意して、通常なら止めないときでも、この選手はここが弱いって判断して普通より早く試合をストップさせたりもしてるから。そういうシステムを導入したのは他の団体に比べたらウチは全然早いんじゃない?

——そういうこともしっかりやってるわけですね。

佐伯 ただね、さすがにギャラが数万の選手には、CTスキャンとかそういうのはできないけど、やれる範囲として血液検査とかは実施してるし。でも、前の試合でKOされてる選手にはCTを必ず撮るように義務づけてるよ。でもこれも難しいんだよね。KOじゃなくても前の試合で打たれすぎた選手にはCTを撮るように指示する場合もあるし。まあ、その線引きは凄く微妙なんだけど。

——ドクターの話でいうと、ドーピングチェックの話も聞きたいんですよ。前号で特集したところ反響がありまして。

いま一つ問題なのはアメリカが日本の軽い階級の選手に手をつけ始めたこと

佐伯 う〜ん、心情としてはやれるに越したことはないけど、現状でいうと簡単じゃないよね。

——それはどういった理由で？

佐伯 だって、結局はお金の問題になってくるから。

——しっかりとしたドーピングチェックをするには、かなりのお金がかかるというのはよく言われてますよね。

佐伯 そうなんだよな。まあ、そういう話になるとMMA自体にいろんなイベントがあって、体重の表記方法や階級からルールから、みんな違うわけじゃない？

——統一ルールがあるわけではないですからね。

佐伯 まずそういうとこから整備していかないと無理なんじゃないかな。MMAってある意味、スポーツなのかもしれないけど、やっぱり特殊でしょ。結局は〝興行〟だからな。

——純然たる競技ではないですからね。

佐伯 そうでしょ。だって、TBSで大会を放送して、それをフジテレビのニュースでは流せないんだから。それ自体おかしくない？

——普通のスポーツなら流れますもんね。

佐伯 結局はみんなエンターテインメントとして観てるわけでしょ。だから俺はいろんな試合があっていいんじゃないかなって思う。

——DEEPでは〝オモチャ箱を引っ繰り返したような大会〟というコンセプトもありましたからね。

佐伯 そういうこと。ウチの選手はどっちかっていうとマニアックな人たちが多いから難しい部分ではあるんだけど。一般メディアに伝わるものっていうとなると、長島☆自演乙☆雄一郎みたいな選手になるんだよね。それがマスメディアに乗ってブレイクするわけじゃん。

——そうですよね。そういう意味で、うまくやれたのが須藤元気さんだったりしますよね。

佐伯 一般層を取り入れようとすると、きっかけになるのは変わったことをする選手、キャラの立った選手がいいわけでさ。ボクシングだったら亀田兄弟とか。結局、格闘技をおもしろいと思ってもらうためには曙vsボブ・サップみたいなのが必要なんだよ。マニアックな試合やってもやっぱり伝わらない。そこが最終的に格闘技がブレイクしない理由だと思うよ。UFCなんかで、いくらPPVが凄いっていってもアメリカ全土で100万件とかの話でしょ。それより地上波で高い視聴率獲るほうが観る数は全然多いわけだしさ。

——アメリカの話題が出ましたけど、いま秋山選手や石井選手をはじめとしてMMAのメジャーリーグとしてUFCを目指すファイターが目立ってますけど、その現状を佐伯さんはどう考えてます？

佐伯 俺は選手が望むならUFCとかアメリカを目指すのは全然ありだと思うよ。

——選手本人の意向なら問題ない、と。

佐伯 結局、日本人は〝アメリカ〟の四文字に弱いんだよ。アメリカンドリームとかは憧れても、ベトナムドリームとは思わないっしょ？（笑）。

——ベトナムドリーム（笑）。まあ、アメリカに対する憧憬の念はあるかもしれないですよね。

佐伯 アメリカという国に負けてるよな。でもね、べつにUFCやWECに出るってのはそんな難しい話じゃないと思うんだよ。

——あ、そうですか？ 観る側からするとUFCのリングはよほど認められないと出場が難しいという、ちょっとした幻想みたいなものはありますけど。

佐伯 そうなん？ ハッキリ言うけど、（DEEPに出てた）キム・ドンヒョンなんかも出てるぐらいだからウチの長谷川（秀彦）だって出れるだろうし、もちろん今成（正和）だって余裕で出れちゃうだろうし。俺からしたらUFCとWECなんて誰でも出れると思うよ。

——まぁ、UFCもWECもよっぽどのトップどころ以外は、そんなにファイトマネーも高いわけじゃないみたいですしね。

佐伯 そうそう。お金が安ければ出やすいかもね。なんなら俺だって出れる！（鼻息荒く）。

——いやいや、さすがにそれは無理だと思います（笑）。

佐伯 ぶっちゃけ、いまDREAMや『戦極』に上がるような日本人ファイターなら出れますよ。70キロ以下だったら普通に日本人選手は通用すると思うしね。変わらないですよ、そんなもん。

——ちなみにDEEPは誰でも上がれるんですか？（笑）。

佐伯 ウチもすぐ出れるな（笑）。まあ、それはさておき、ウチのチャンピオンクラスならアメリカでも全然余裕ですよ。ウチだって外国人選手を呼ぶけど、実力で残る選手って少ないんだし。選手がアメリカで挑戦したいっていうのは野球と一緒だと思うよ。あとはイチローになるのか桑田真澄になるのかの違いだよな。

——あ〜、それはあるかもしれないですね。

佐伯 とにかくアメリカと日本の選手のレベルなんて、みんなが思うほどそんなに変わらない。それにUFCがほしがってる選手は日本でもほしがってる選手。実際に日本のトップファイターはUFCだってほしいわけ。ただ、いま一つ問題になってきてるのが、DREAMが軽い階級をスタートしたってこともあってか、アメリカもこっちの若いキャリアの浅い選手にまで手をつけ始めだしたってことかな。

——いまのうちに選手を押さえておくというか、青田買いというか。

佐伯 うんうん。結果的に「え〜、こんな選手まで声かけるの？」みたいな状況だから。

——そうなんですか⁉

佐伯 そうそう。だから、いままで以上に誰でも出れるような状態になっていくかもしれない。だからリングに立つのが夢じゃなくなってくるというか、そのあたりはちょっと危惧してるね。

——そこには警鐘を鳴らしたい、と。佐伯さんまでUFCに上がらないことを願って今回はお開きにしたいと思います（笑）。

【09年3月3日／都内・DEEPジムにて収録】

PRIDE武士道と並行して、佐伯代表とのつながりからDEEPにも参戦していた長南。ミドル級王者に君臨していたが、UFC参戦に伴なってタイトルを返上。オクタゴンにおいてDEEP王者が通用することを体現した長南もさすがだが、本文中にあるように快く選手を送り出した佐伯さんもさすが!

本誌認定順位

いますぐDREAMとか『戦極』で闘ってほしい格闘家1位

極真幻想爆発!! MMA専用カラテカ

菊野克紀

キミは菊野克紀の“三日月蹴り”を知っているか?
極真空手で培った人間離れしたフィジカルと、殺傷能力抜群の打撃。総合格闘技はあの髙阪剛を師と仰ぎ、
プロ戦績は6戦無敗。いま最もメジャーでのブレイクが期待されている総合格闘家である。
極真、髙阪剛、無敗、一撃必殺——。幻想好きの本誌にはたまらないキーワードが並ぶ並ぶっ!!
日本マット界は幻想不足が叫ばれて久しいが、こんな男を待っているのだ。

聞き手／ジャン斉藤　撮影／菊池茂夫

から俺はいろんな試合があっていい
とをする選手、キャラの立った選手
すけど。
本の選手のレベルなんて、みん

三日月蹴りは、青木選手と五味選手を倒すために研究した必殺技なんです

――2・20DEEP後楽園ホール大会で行なわれたチョン・ブギョン戦を観させていただいたんですが、凄まじい勝ちっぷりでした!!

菊野　ありがとうございます！

――とくにフィニッシュとなった極真仕込みの"三日月蹴り"！　なんですか、あの恐ろしい技は（笑）。

菊野　フフフフ。やっぱり一撃で倒せる技を持っているのは、相手にとっては恐ろしいですよね。

――また淡々と言いますね（笑）。ちょっと読者に簡単に説明してほしいんですけど、アレって前蹴りとは違うんですよね？

菊野　前蹴りというのは直線で蹴る技ですね。三日月蹴りは、回し蹴りと前蹴りのあいだの軌道で、指の付け根の部分を相手の脇腹に突き刺すんです。

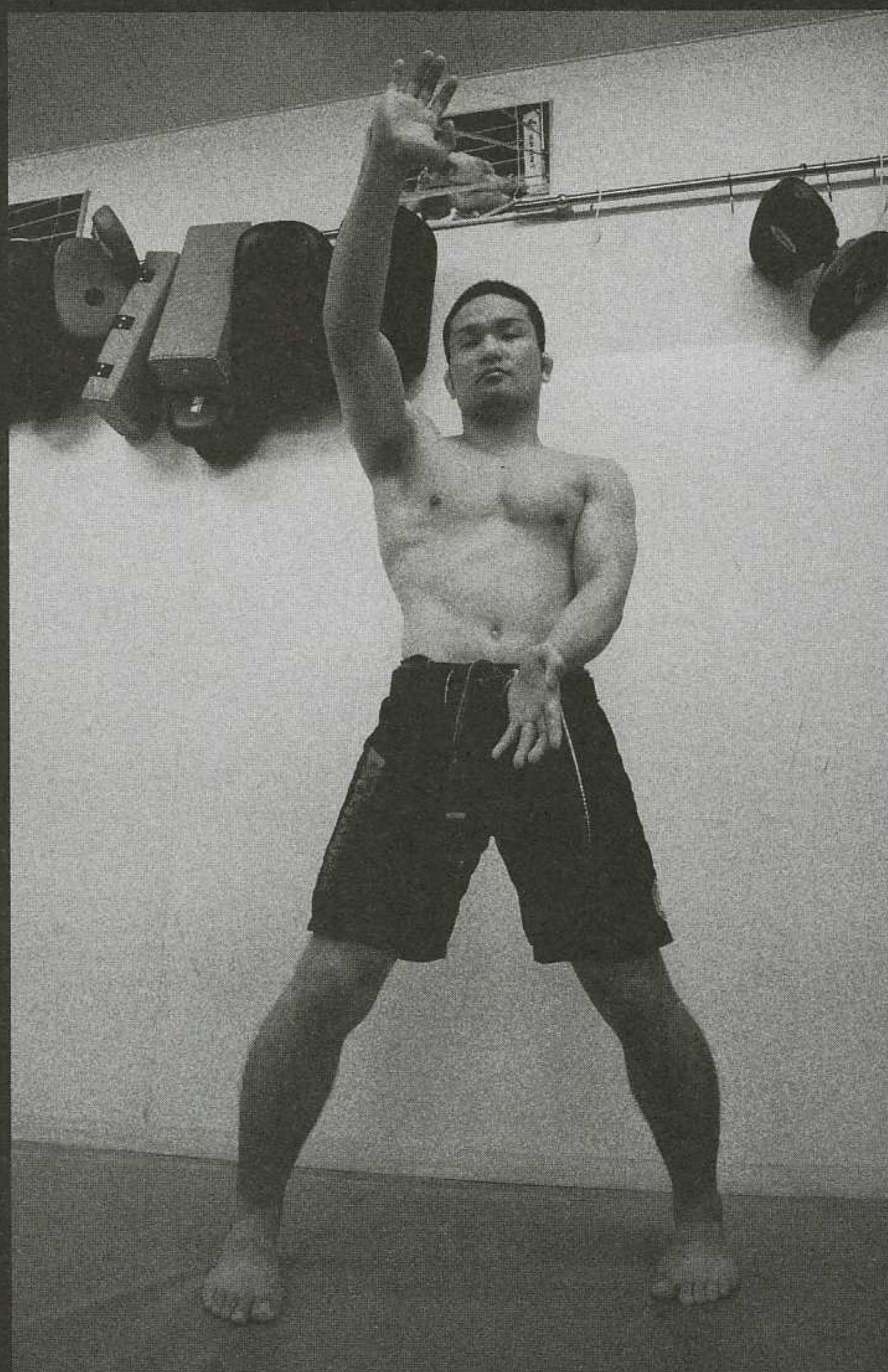
――……え〜っと、聞いてるだけでイヤになりますね（笑）。

菊野　要は"面"で蹴るより、"点"で蹴ったほうが威力があるんですよ。ピンポイントで内臓を壊せますから。

――はあ（苦笑）。ブギョンも悶絶してましたしねぇ。

菊野　たとえば山本"KID"徳郁選手なんかも一発で倒せるパンチを持ってるじゃないですか。あれって相手からすれば一瞬でも気を抜くことが命取りになるわけですよ。要するに、三日月蹴りがあるから、相手は常に脇を意識しないといけない。そうなるとハイキックのガードがおろそかになる。で、ガードを上げたら、また三日月蹴りの餌食になるわけです。ホントにもう恐怖だと思いますよ。

――しかし、よくMMAであんな技を出せますね。

菊野　やっぱり極真と総合は違うものですからね、実用のレベルまで研ぎ澄ますのは大変でしたよ。もともとは青木真也選手や五味隆典選手を倒すために研究した必殺技なんですけどね（ニヤリ）。

――打倒・青木真也のために！　なんだがいちいち幻想あふれる発言ですね（笑）。

その話はおいおい聞くとして、まずは菊野さんの格闘技人生を振り返りたいんですが、もともと格闘技を始めたのは柔道なんですよね。

菊野　柔道です。中学、高校と柔道部でした。高校2年生のときに初めて県大会で優勝して、3年生のときにインターハイ予選に臨んだんです。もちろん第1シードの優勝候補ですよ。ところが、2回戦で1年生の選手に負けちゃったんです。ホントに泣きました。自信を持ってましたから。

――それは油断しちゃったんですか？

菊野　それもあったと思うんですが、ボクは進学校に通ってたので、練習時間はせいぜい1時間ぐらいだったんですね。

――え、そんなもんだったんですか？

菊野　そういう学校だったんですよ。それでやっぱり最終的には練習量がものをいうことが身に染みて。その中で進路を考えたときに「自分はどうしたいんだろう。自分の幸せってなんだろう？」って哲学したわけですよ（笑）。やっぱりこのままじゃ後悔するって思ったんですよね。「自分が100パーセント、格闘技に費やしたらどこまでいけるんだろう？」っていう可能性を知りたくなったんです。で、ほとんどの生徒が進学する中、ボクは格闘技の道へ進むことを決めました。

――へえ〜、両親には反対されなかったんですか？

菊野　泣いてましたよ。そらもうやっぱり先生にも「おまえはバカか！」って言われました。でも、ボクは大学受験から逃げたくはなかったので、大学に行くつもりはなかったけど、ちゃんと勉強して受験だけはしたんですよ。

――そこは筋を通したんですね

菊野　できればホントに合格してそれを捨てたかったんですけど、大学受験には失敗しましたね（苦笑）。

――それで卒業と同時に極真空手を始めるわけですか？

菊野　そうですね。当時PRIDEが始まった頃で、最初は「総合をやりたい！」って思ったんですね。

――でも当時、総合格闘家の道ってもの凄くボンヤリしてるわけじゃないですか。

菊野　なので、まずは東京で（格闘技の）ジムに行こうって思ったんですよ。それにはお金がいるじゃないですか。お金を貯めるために1年間、土木作業員をやることにしたんですよ。そのあいだ何か鹿児島でできる格闘技はないかなって探した

極真って凄いんですよ。フィジカルだって

ら、実家の近くに極真会館の道場があった。そこにたまたま木山（仁）先輩がいたんですよ。

――世界チャンピオンの！

菊野 それって凄いチャンスじゃないですか、世界チャンピオンから学べるなんて。それで極真に通うことになって、木山先輩から「内弟子にならないか？」と誘っていただいたんですけど、とりあえずケジメのために1年間は土木作業員をやりました。

――じゃあ空手と仕事の毎日って感じだったんですね。

菊野 そうですね。一時間半かけて現場に通って、穴を掘って帰って道場に行く。夜間作業が多かったので、練習ができない日がけっこう続きましたね。

――よく心が折れませんでしたね。

菊野 1年間は絶対に辞めないって心に誓ってましたから。あと、社会経験は絶対にしておきたかったんです。社会を知らずに格闘家になるのと、知ってからなるのは全然違ってくると思ってましたから。

――それで晴れて極真の内弟子になられるわけですね。どんな生活だったんですか？

菊野 午前中は内弟子の稽古があります。筋トレ、ミット稽古、スパーリングなど基本的なことを延々と繰り返すんですよ。つまり試合に勝つための練習をするわけです。そして昼は極真会館の事務の仕事があるんですよ。たとえば入会手続きや試合の準備など。極真にはいろんな行事がありますから。そして夕方からは少年部の指導、夜は一般部の指導って感じです。ボクは内弟子でしたし、ある程度成績も残せていたので飛び級をさせていただいて、2年足らずで黒帯をいただきました。

――結局、極真には何年いたんですか？

菊野 6年いました。内弟子で5年ですね。

――内弟子をしながらも、東京行きの夢は忘れてなかったんですよね？

菊野 はい。ですから「どこでケジメをつけるか？」っていうことはずっと考えていました。内弟子に強い先輩がいて、その方に僕は3連敗していたんですよ。悔しくて悔しくて……、その先輩に負けたまま次に進んだらボクはダメになると思ったので勝つまで絶対に辞めないと決めていました。最後に2勝して自分なりにケジメがつけられるまで5年かかりました。

――極真をやられながらも、総合のことはずっと考えられていたんですか？

菊野 ずっと考えていました。でも最近の極真空手の選手は、極真のルールしか意識してない人がけっこう多いと思うんです。たとえば「顔面は打っちゃいけないものだ」と。これってちょっと弊害ですよね。競技としてはいいですけど、本来の空手の姿ってそうじゃないはずです。顔面も打っていいんです。ただ、ルールの中で打たないだけなんですよ。もうキン○マも蹴っていいんですから！

極真って凄いんですよ。フィジカルだって極真の選手と比べたらアメリカなんて……

――やっちゃっていいですか（笑）。

菊野 もちろんルールの中で一生懸命努力して結果を出すというのはとても大切なことだと思いますが、空手である以上そこだけになっちゃうとまずいと思うんです。でも、いまはルールしか意識しない選手が多い。ボクは最終的に総合を見ていましたし、相手がナイフでこようが複数でこようが自分の身を守れなくてはいけない、大切な人を守れなくてはいけないという意識で稽古してました。

――へえ～。そういう意識を持っている空手家は周りにいました？

菊野 少なかったと思います。昔はそれがあたりまえだったと思うんですけど、競技化が進んじゃって。それは柔道もそうだと思うんですよ。競技化が進んで裾野が広がると、本質は薄まっていっちゃうっていうことはあると思うんですよ。せめて黒帯の方はそういう意識をしっかり持ったほうがいいんじゃないかなと思います。

――そういう意味でも、MMAで空手が有効っていう話は当時はあまり聞きませんでしたね？

菊野 そうですね。でもやっぱり、極真の選手って凄いんですよ。ホンット凄いんです!! 身体も強いですし、根性もありますし、スタミナもありますし、フィジカルの平均値を計ったら極真ってもの凄く高いと思います。

――日本はアメリカにフィジカル面で遅れをとっているなんて言われてますけど、

MMA専用カラテカ
菊野克紀

DEEPライト級王者決定トーナメントの1回戦。菊野は鋭い左ハイキックを炸裂させると、チョン・ブギョンの左目付近は無残にも腫れあがる!! 最後はハイキックを警戒させたうえで、ブギョンの脇腹に三日月蹴り！ 悶絶するブギョンを踏みつけレフェリーストップ。決勝戦は4月16日、松本晃市郎と。

「極真に比べたらアメリカなんて……」って思います?

菊野　思いますねぇ。ホントに凄いですよ。スクワット1000回とか、昔のプロレスラーがやってたようなことを平気でやりますし。あと極真ってローキックを凄く使うじゃないですか。歩けなくなるまで蹴り合ったりするんですよ。ボクが入った当初は、そのせいでトイレの便器にすら座れませんでしたから。

——そこまで(笑)。

菊野　そういう世界ですね。もう、とにかく怪物だらけなんですよ。ボクも身体が強いなんて言われますけど、もっと凄い人がいっぱい極真にはいますから。ボクの蹴りがうまいって言いますけど、極真の中では屁みたいなもんですよ(笑)。ただ、それを総合で活かせるかっていったら、みんながみんなできるとはかぎらないですけど。

——まあ、総合を夢見ながら5年間、内弟子をやられたっていうのを聞くだけで、相当な精神力だなって思いますけど(笑)。

菊野　ハッハッハッ!　ホンットに鍛えられました。極真の内弟子はもう軍隊みたいなもんですから。

——じゃあ、あのまま土木作業員を辞めて東京に来なくてよかったんですね。

菊野　本当によかったと思いますね。極真で学んだものは本当にボクの軸になってて、技術よりも、やっぱり精神的なものが一番強いですね。それに木山仁先輩をずっと見ていられたことも大きいんですよ。ボクが入ったとき木山先輩は中量級の世界チャンピオンでした。そこから無差別の世界チャンピオンになるまでの過程をずっと見られたんです。要は、世界チャンピオンになる方法を一番近くで見れたんです。

木山仁先輩をずっと見ていられたのは財産です
極真の王者になる過程を見られたんですから

こんな練習をして、こんな考え方で、こんな精神力で、こんな身体をしてて……っていう。

——それってもの凄く貴重な財産ですよね。

菊野　はい。練習を一生懸命するのはもうあたりまえですよ。あとは勝負に対する姿勢というか、覚悟というか。ボクは最近"覚悟"という言葉をよく使うんですけど。とくに木山先輩の負けは日本の負けですよね。そういうプレッシャーを一身に背負って、しかもあのとき木山先輩は身体もけっこう壊れてました。それでも勝つ。ケガしようがなんだろうが、関係ねぇ。絶対勝つ!　と。そういう覚悟を持てるかどうかですね。

——ある意味、人間の可能性を間近で見られたところがあるわけですね。

菊野　そうですね。人間力っていうんですかね。最後は技とかなんとかじゃないっていうことですね。そういう精神がボクの中に確実に生きてます。

——その極真の内弟子を経て、高校時代から夢見てた生活が実現するわけですね。

菊野　そうですね。18歳から志して、23歳でやっと総合格闘技にたどり着きました。

——長いですねぇ。

菊野　ただ、この貯金というか、人生の厚みというのはとてつもないと思うんです。だから焦りはないですし、過去があったからいまがあるわけで。

——総合を本格的にやられてみてどうでした?

菊野　難しいですよねぇ。すべてが違うわけですよ。距離も違いますし、タイミングも違いますし、すべてが違う。何もわからない。何がわからないのかもわからない(笑)。

——ショックはありませんでした?

菊野　すべてが初めてのことなんで、逆におもしろかったですね。毎日毎日、学ぶことがあるわけですよ。

——極真の技術を総合に合わせていくわけじゃないですか。それってあまり見られないスタイルですよね。

菊野　そうですね。見本がいないんですよ。極真の技の何が活かせて何が活かせないのかっていうのがわからないですし。スパーリングで試しながら、試合で実験しながら、試行錯誤して。だから、もう何周も何周もしてますよ。「これはダメだな」って思っていた技術が、じつは使えたりすることもありますし。もちろん、逆の場合もあります。何度も何度も繰り返して、考えて考えて考え抜いてやってますね。

——師匠の髙阪さんはどういったアドバイスをされるんですか?

菊野　髙阪さんの指導方針というのは、基本的に型にハメないんですよ。良いところを伸ばして、何か行き詰まったときやこちらから求めたときに的確なヒントや答えを出してくれるんです。やっぱり人って、ただ教えられても覚えないですよね。「どうすればいいのか?」って自分で考えつくしてやっと自分の身になるんだと思います。

——何かベースがある人が総合格闘技に慣れ始めると、どんどんベースが削れていってしまう傾向があると思うんですけど、菊野さんの場合はまったく極真という色が薄れてないですよね。

菊野　それもけっこう大変でしたね。ボクが初めて負けた試合って、顔面パンチがまったくできなかったからなんです。そ

のあと1年間キックボクシングのジムに

菊野　そうですね。青木選手が組んだら

——ダハハハハ!

菊野　青木選手は一撃必殺の寝技を持っ

のあと1年間キックボクシングのジムに通いました。まずはキックボクシングで基礎を学ぼう、と。そのうえでまた極真空手のスタイルに戻していく。やっぱりボクはキックボクサーじゃないんですよ。自分の極真のスタイルからすると、キックボクシングの蹴り方は凄く違和感があって。でも、脇を締めて顎を引いてっていうようなキックボクシングの基本的な技術は必要なんです。そこをうまく組み合わせて活かしていくっていう。

——試行錯誤されてきたんですねぇ。いま総合格闘家で空手がベースの選手といえば……。

菊野 アンドリュース・ナカハラ選手とGSP選手ですね。ナカハラ選手は極真でははるかに格上ですし、身体能力も凄いと思います。

——そういえば、菊野さんは〝和製GSP〟って言われてるそうですね。

菊野 らしいですね……。恐縮ですけど(笑)。GSP選手はなんでもできるじゃないですか。打撃もできる、タックルも強い、寝技も強い。できすぎちゃうから参考にならないんですけど。あとはリョート(・マチダ)選手。伝統派の空手らしいですけど、あの間合いのつかみ方は見事ですよね。

——いまの総合には空手ベースの選手があまりいないから、けっこう攻略しづらいところはあるんですかね。

菊野 それはあると思います。何年かしたらひっくり返される可能性はありますけどね。どんどん歴史は巡るというか。

——いま打撃全盛の時代って言われてますが、だからこそ青木さんや北岡さんみたいな特殊なグラップラーになかなか対応できていないと思うんですよ。

菊野 そうですね。青木選手が組んだら絶対に極めちゃうじゃないですか。組まれたらおしまい！ みたいな。

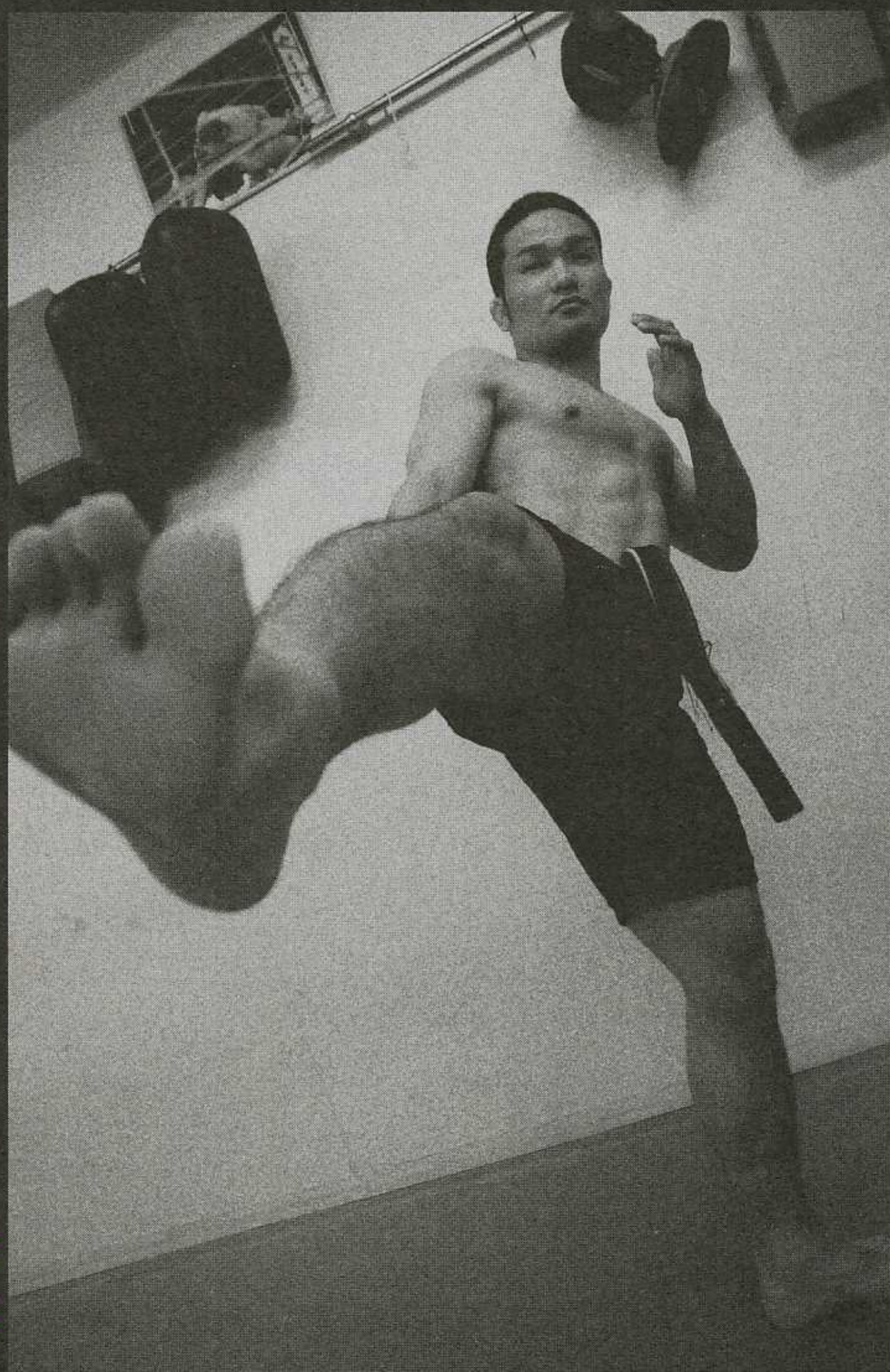
——それに青木選手って、打撃の間合いを取るのがうまいって言われてますよね。

菊野 寝技にもっていくための打撃っていう意味で、もの凄く高いレベルですね。それに凄く頭がいい。判断力や決断力も凄いですね。打撃の選手にうまく組みつくために嫌がらせの打撃をして、組んで倒して極める。ホントに賢いと思いますよ。そしてそれを実行できる精神力がある。尊敬します。

——闘ってみたいですか?

菊野 じつは頭の中では闘ってるんですよ、もう何年も！

MMA専用カラテカ

菊野克紀

——ダハハハハ！

菊野 五味選手や青木選手とは頭の中で何回も闘ってます。五味選手はいまちょっと元気がなくなっちゃいましたけど。「この選手に勝つにはどうすればいいんだろう!?」っていうので三日月蹴りもできたんです。

——冒頭に出たお話ですね。

きくの・かつのり■1981年10月30日、鹿児島県鹿児島市出身。中学・高校は柔道部に所属。卒業後、極真会館(松井派)鹿児島県支部に入門。上京後、高阪剛主宰のA-SQUAREに所属。DEEPでの実績が認められ、DEEPライト級王座決定トーナメントに抜擢され、決勝戦に進出。174cm、70kg。

菊野 青木選手は一撃必殺の寝技を持ってるわけですよ。であるならば、簡単に寝技にいかせないようにこっちも一撃必殺の武器を持たないといけない。武士の斬り合い、真剣の斬り合いみたいな感じです。

——そのための三日月蹴りですか。

菊野 この技の痛さは身をもって知ってますから。木山先輩にやられてアバラを折ってますから(笑)。

——うわ〜!!(笑)。

菊野 で、五味選手の場合は、相打ち狙いでくるわけじゃないですか。打たれ強い身体に強いパンチを持っている。そういう相手にボクがパンチで打ち合っても、やられる可能性のほうが高い。だったら五味選手が前にガンガンこられないような武器が必要だ、と。その対策の一つとしての三日月蹴りですね。……まだまだ〝秘策〟はありますけど。

——あ、ほかにもあるんですか?

菊野 ありますよ(ニヤリ)。

——仮にハッタリだったとしても、充分プレッシャーになりますね(笑)。

菊野 あるかもしれないし、ないかもしれない(笑)。どっちでもいいんです。どっちにしろ相手は警戒しますから。

——で、次の4・16DEEPは松本晃市郎選手とのタイトルマッチですね。

菊野 絶対に勝ちます！ そして上にいきます！ ボクの夢はヒーローになることです。困っている人を助けるかっこいいヒーローになりたい。そのためにもしっかり結果がほしい。武道家としての誇りを持ち、すべてに感謝し、夢を信じて前に前に進んでいきます！

——わかりました！ 次回もあの三日月蹴りを期待してます(笑)。

【09年3月5日／ALLIANCE SQUAREにて収録】

kamipro SHOPPING

Back Number

[kamipre特選劇場]

「日本ってなんだっけ?」世界最高の格闘技国家を再生せよ!!

No.132 足関特集

海外総力取材を敢行した132号では、世界から日本を再検証する「世界の中の日本」を大特集!! 日本が現在でも最高の技術を誇る"足関特集"では、東洋の神秘の中枢・NTTへの潜入レポート、船木誠勝が語る足関の歴史、ジョシュ・バーネットの関節技論を掲載!

“足関”とは何か!?

マーティ・フリードマンインタビュー

さらに「世界へ日本文化の素晴らしさ」を語るべく、世界的カリスマ・ギタリストにして大の親日家マーティ・フリードマンが本誌初登場!! 流暢な日本語で"J-POP的日米比較論"を展開! さらに山本KIDxヴァンダレイ、ヒョードルx佐藤大輔など、豪華な対談も収録!!

132号の特集は“世界の中の日本”!!

日本を再発見せよ!!

(注) No.92 以降の「kamipro」は http://www.enterbrain.co.jp でお買い求めください。

元祖! 紙のプロレス Back Number

すべて50%OFF!!

No.14 ~~780yen~~ ⇨ 390yen
特集 **神秘とは何か?**
佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます!/遠藤幸吉インタビュー

No.15 ~~780yen~~ ⇨ 390yen
特集 **インディペンデントの逆襲**
あんた誰? 山口昇試練のインディー・レスラー10番勝負!/K-1とは何か? 石井館長・ターザン山本・サダハルンバ

No.17 ~~780yen~~ ⇨ 390yen
特集 **実況パワフル北朝鮮**
あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる! アントニオ猪木&長島勝司・村松友視・破壊王・ブル中野

パンクラス公式読本「矛」「盾」 ~~1260yen~~ ⇨ 630yen
97年当時のパンクラシストが勢ぞろい!! ゴッチさん、佐山聡、なぜか馬場さんも登場するパンクラス公式読本二部作!!

紙のプロレス RADICAL Back Number No.16→No.87

「紙のプロレスRADICAL」のバックナンバーは電話で注文できます!
03-5368-1797 [販売元] ㈱ダブルクロス (平日13:00〜19:00)

No.16 1999.03 | 780yen
格闘ノストラダムス!
[表紙:前田日明]前田道場新エース・金原弘光/怪物か!? それとも……藤田和之座談会/壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.32 2000.10 | 840yen
“新”プロレスとは何か?
[表紙:小川直也]田村潔司に快勝! A・ホドリゴ・ノゲイラ/ドラゴンの大爆笑10 藤波語録/ラッシャー木村

No.34 2001.01 | 840yen
『猪木祭り』いよいよ開幕ーッ!
[表紙:小川直也]田村潔司に快勝! ノゲイラインタビュー/ドラゴンの大爆笑10 藤波語録/ボブ&オバチャンチン

No.35 2001.02 | 840yen
純プロレスを徹底検証!
[表紙:サクマシン(イラスト)]ZERO-ONE本格始動 橋本真也/プロレススーパースター列伝 ジョー樋口/杉浦貴

No.36 2001.02 | 840yen
燃えよ、闘魂の火種!!
[表紙:橋本真也(イラスト)]ノアから独立! 高山善廣を確認せよ!!/ヴォルク・ハン――ノゲイラに狼の伝言

No.38 2001.05 | 840yen
小川直也は是か非か?
[表紙:髙田延彦(イラスト)]忘れ物の正体は。髙田延彦/ヴォルク・ハンの最強の遺伝子 E・ヒョードル

No.39 2001.06 | 840yen
前田日明は是か非か?
[表紙:前田日明]前田道場新エース・金原弘光/怪物か!? それとも……藤田和之座談会/壮絶なる格闘人生・藤原敏男

No.40 2001.07 | 880yen
地上最強のプロレスとは?
[表紙:アントニオ猪木]蘇れ! Uインター&キングダム伝説! 高山善廣×金原弘光/熱いこの叫びを聞け! 大谷晋二郎

No.41 2001.08 | 880yen
“最後の黒船”WWF来襲!!
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア]リングス10周年! ヴォルク・ハンが振り返る/真樹日佐夫×三池崇史

No.42 2001.09 | 880yen
アントンパワー大爆発!!
[表紙:アントニオ猪木]ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談/“ヒャッホーの真実”辻よしなり/高山×宮戸×金原

No.43 2001.10 | 880yen
聖戦『PRIDE.17』迫る!!
[表紙:桜庭和志]ブラジリアン・トップチーム3大柱インタビュー/金原弘光×サスケの新日本プロレス学校同窓会

No.44 20001.11 | 880yen
サク連敗と『PRIDE』の未来
[表紙:桜庭和志、ヴァンダレイ・シウバ]その修羅場の数々! シーザー武志/怪物伝承対談! 高山善廣&杉浦貴

No.45 2001.12 | 880yen
一寸先はハプニング!!
[表紙:アントニオ猪木(ホームレス姿)]悪魔の書、現る! ミスター高橋/ジェラルド・ゴルドー人生相談

No.47 2002.02 | 880yen
WWE日本侵攻、5秒前!
[表紙:ビンス・マクマホン・ジュニア]“天才”武藤敬司が『紙プロ』驚愕の初登場!/噂の馳浩がミスター高橋本を語る!

No.48 2002.03 | 880yen
桜庭、満開の日は近い!
[表紙:桜庭和志]奇跡のメガトン対談! 小川直也vsノゲイラ&スペーヒー/和田最強伝説が遂に現実に! 金原弘光

No.49 2002.04 | 880yen
究極の格闘技大戦争勃発!
[表紙:ミルコ、ヒクソン、小川、桜庭]和田さん快勝記念鼎談! 高山&金原&和田/菊田早苗とは何者か!?

No.50 2002.05 | 880yen
50号記念企画てんこ盛り号
[表紙:桜庭和志]「地方発世界」開始! 小川&橋本/リングスロシア軍団の軌跡/パンクラス取材解禁!

No.51 2002.06 | 880yen
揺るぎなきプロレスの確立
[表紙:橋本真也]両国国技館だよ、全員集合! 橋本真也/『PRIDE』の魅力をマン開! 小池栄子/武藤敬司人生相談

No.52 2002.07 | 880yen
戦慄の『LEGEND』前夜!!
[表紙:橋本真也、小川直也]全身プロレスラー・高山善廣/USAの渡世人ドン・フライ/ロシアン・トップチーム

No.53 2002.08 | 880yen
『Dynamite!』ド直前号!
[表紙:桜庭和志] ノーフィアー×無謀美・対談!! 高山善廣×箕輪輪育久/独占肉弾スクープ! マック・ガファリ

No.54 2002.09 | 880yen
『Dynamite!』を大総括!
[表紙:アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ]“首の皮一枚”ホイス&エリオグレイシー/ジョシュ・バーネット

No.55 2002.10 | 880yen
髙田vs田村、夢限大の真剣勝負!
[表紙:髙田延彦]「真剣勝負」発言から7年、田村潔司が激白!/金原が『PRIDE』参戦!/メガトン級の男、ボブ・サップ!

No.57 2002.11 | 840yen
驚ガクの6周年記念号
[表紙:高山善廣]サップとタイマン勝負!! 高山善廣/新たなる“U”が始動!! 田村/ミスター高橋×大槻ケンヂ

No.58 2003.01 | 880yen
夢の対談、大連発号!
[表紙:武藤敬司&船木誠勝]夢幻のファンタジー対談 武藤×船木/Uスタイル対談 田村×髙阪/宮戸×安生×鈴木健

No.59 1999.03 | 840yen
最後の皇帝、『PRIDE』上陸
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル]いざノゲイラ戦!! E・ヒョードル/アメリカン・ドリーム ダスティ・ローデス

No.60 2003.02 | 880yen
『PRIDE』は変貌&再生する!
[表紙:エメリヤーエンコ・ヒョードル]ノゲイラ撃破!! E・ヒョードル/驚愕の格闘芸術対談!! 武藤敬司×須藤元気

No.61 2003.04 | 880yen
ゼロワンvs新日5.2戦争!
[表紙:橋本真也&小川直也]裏番組をブッ飛ばせ! 橋本真也×小川直也/1年間の沈黙を破った!! ヴォルク・ハン

No.62 2003.05 | 880yen
ミルコの首をカッ斬ってみろ!
[表紙:ミルコ・クロコップ]ヴァーと登場! 佐々木健介/現役復帰? 船木誠勝/ヒョードルが藤田を一刀両断!

No.63 2003.06 | 880yen
マット界、超絶リボーン!!
[表紙:橋本真也&小川直也(イラスト)]「お前は男だ」劇場炸裂! 髙田延彦/『PRIDE』REBORNを大総括!!

No.64 2003.07 | 900yen
PRIDEミドル級GP直前!!
[表紙:桜庭和志]“異次元格闘技戦戦”田村潔司×吉田秀彦を大展望!!/『PRIDEミドル級GP』出場全選手インタビュー

No.65 2003.08 | 880yen
皇帝vsミルコ闘争本能決定戦!
[表紙:ミルコ・クロコップ]最後の皇帝大炎上! ヒョードル/ミルコついに皇帝戦へ/闘魂ストーカー、イズマイウ

No.66 2003.09 | 880yen
ミルコ『武士道』電撃出陣!
[表紙:ミルコ・クロコップ]ミルコ緊急インタビュー/マッハを破った男、長南亮登場!/『東スポとは何か?』

No.67 2003.10 | 880yen
ミルコvsノゲイラ、迫る!!
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ]ノゲイラ戦緊急インタビュー! ミルコ/『PRIDEミドル級GP』決勝戦インタビュー

No.68 2003.11 | 880yen
大晦日・格闘技大戦決定!!
[表紙:髙田延彦PRIDE統括本部長]大晦日三つ巴決戦に出撃宣言! 髙田延彦/曙とは何者か!?/桜庭和志

No.69 2003.12 | 900yen
『ハッスル1』開催ド直前!
[表紙:橋本&小川]出てこい! 泣き虫! 橋本&小川/『泣き虫』著者、金子達仁登場!/田村潔司/美濃輪育久

No.70 2004.01 | 880yen
04年末の格闘戦争を大総括!
[表紙:ミルコ・クロコップ]シウバに近藤有己が宣戦布告!/健介&北斗WJの真実を語る!/紙プロ大賞&語録発表

No.71 2004.02 | 880yen
『ハッスル2』で大フィーバー!
[表紙:ハッスルイラスト]『PRIDE GP』優勝宣言! ミルコ&ノゲイラ/川田利明初登場!/猪木vsアミン戦の真実

No.72 2004.03 | 840yen
『PRIDE』に格闘ロマンを見よ!
[表紙:ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ]GPの大本命をオランダでキャッチ!! エメリヤーエンコ・ヒョードル/山本KID徳郁

No.73 2004.04 | 880yen
最も過酷な道を行く男!!
[表紙:小川直也]GP出場決定、緊急インタビュー! 小川直也/PRIDE・GP出場全選手 パーフェクトガイド

No.74 2004.05 | 880yen
感じろ、ハッスル魂!!
[表紙:小川直也]PRIDE・GPでハッスル成功! 小川直也/リベンジロード発進!! 桜庭和志/ミック・フォーリー

No.75 2004.06 | 880yen
英雄誕生の気運高まる!!
[表紙:小川直也、桜庭和志、吉田秀彦]シルバ戦直前に大ハッスル宣言! 小川直也/奇蹟の独占インタビュー! 髙田総統

No.76 2004.07 | 880yen
プロレス爆発へ最後の挑戦!
[表紙:桜庭和志]小川の“盟友”と“宿敵”が奇蹟の対談!! 破壊王×ノゲイラ/厳しくも、飄々と戦路を進む! 桜庭和志

No.77 2004.08 | 880yen
小川vsヒョードル決定!!
[表紙:小川直也]「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」小川直也/狙うは皇帝の首ひとつ! ミルコ

No.78 2004.09 | 840yen
PRIDE GP徹底総括号
[表紙:小川直也]衝撃の敗戦直後、独占インタビュー! 小川直也/小川の敗戦をどう見る!? 髙田延彦/谷川貞治

No.79 2004.09 | 840yen
髙田総統がビターンと降臨
[表紙:髙田総統]キャプテンに休息無し! 小川直也/特別付録・髙田総統ポスター/谷川さんも推薦『曙は是か否か?』

No.80 2004.10 | 880yen
守護神ミルコが外敵狩り!
[表紙:ミルコ・クロコップ]ミルコ独占インタビュー/ハッスルお家騒動、小川直也/「袋とじ企画」グリズリー岩本

No.81 2004.10 | 880yen
究極のSADAME、迫る!!
[表紙:桜庭和志]ヒョードルの弱点を発見!? ノゲイラ&ノゲイラママ/新日本でハッスル成功! 小川直也/草野仁

No.83 2005.01 | 880yen
ミルコ激白! 打倒皇帝!
[表紙:ミルコ・クロコップ]04年『PRIDE男祭り』を大総括/05年ハッスル大進撃発表! 小川直也/橋本×船木対談

No.84 2005.02 | 880yen
RTTが皇帝に宣戦布告!!
[表紙:セルゲイ・ハリトーノフ]“殺人落下傘”が3強越え宣言!! セルゲイ・ハリトーノフ/田村潔司がPRIDE GPを語る

No.85 2005.04 | 860yen
『PRIDE』vs『HERO'S』開戦!
[表紙:前田日明&髙田総統]PRIDE GP2005特集 桜庭、田村、髙田/パンクラス2大王者対談 髙坂剛×近藤有己

No.86 2005.04 | 860yen
PRIDE GP直前大解剖号
[表紙:ヴァンダレイ・シウバ]大物再会! 超U級対談が実現!! 船木誠勝×田村潔司/ダンプ松本が全女解散を語る!!

No.87 2005.05 | 860yen
PRIDE GP開幕&大総括!
[表紙:吉田秀彦]敗れてなお咲く花あり! 吉田秀彦/船木誠勝×宇野薫/金原弘光×池田大輔

通販方法 No.91までのバックナンバーは書店で扱っておりません。下記の通信販売をご利用ください。❶電話注文⇨03-5368-1797(平日13:00〜20:00) ❷メール注文⇨kapra@kamipro.com

※通信方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です(代引き金額によって異なります)。※送料は一律500円(何冊でも可。離島山間部は除く)となります。※郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

ザワ
ザワ
あ〜〜〜っと黒い紙マスクが引き上げて行きます〜〜っ!
ザワ

KAMIPRO COLUMN

イラスト◎師岡とおる

第40回

あれにはビックリした

花くまゆうさく

豆リングの汁

こないだのDEEP、菊野選手の、腹に足の指のつけ根をぶち込む蹴りが凄い&美しくて唸った。ぶち込まれ悶絶したチョン・ブギョンですが、なんとなく顔が戸井田選手に似てるし、腕十字得意な共通点があるので、vs戸井田戦おもしろいかも。

池本選手のダブルパンチもビックリ。今後、ほかの選手もやりだしてバックブローのように奇襲技のスタンダードになるかしら。

ビックリといえば、秋山のUFC入り。サングラスのセンス以外で初めて秋山の行動に好感が持てた。想像すると、けっこうワクワクする。

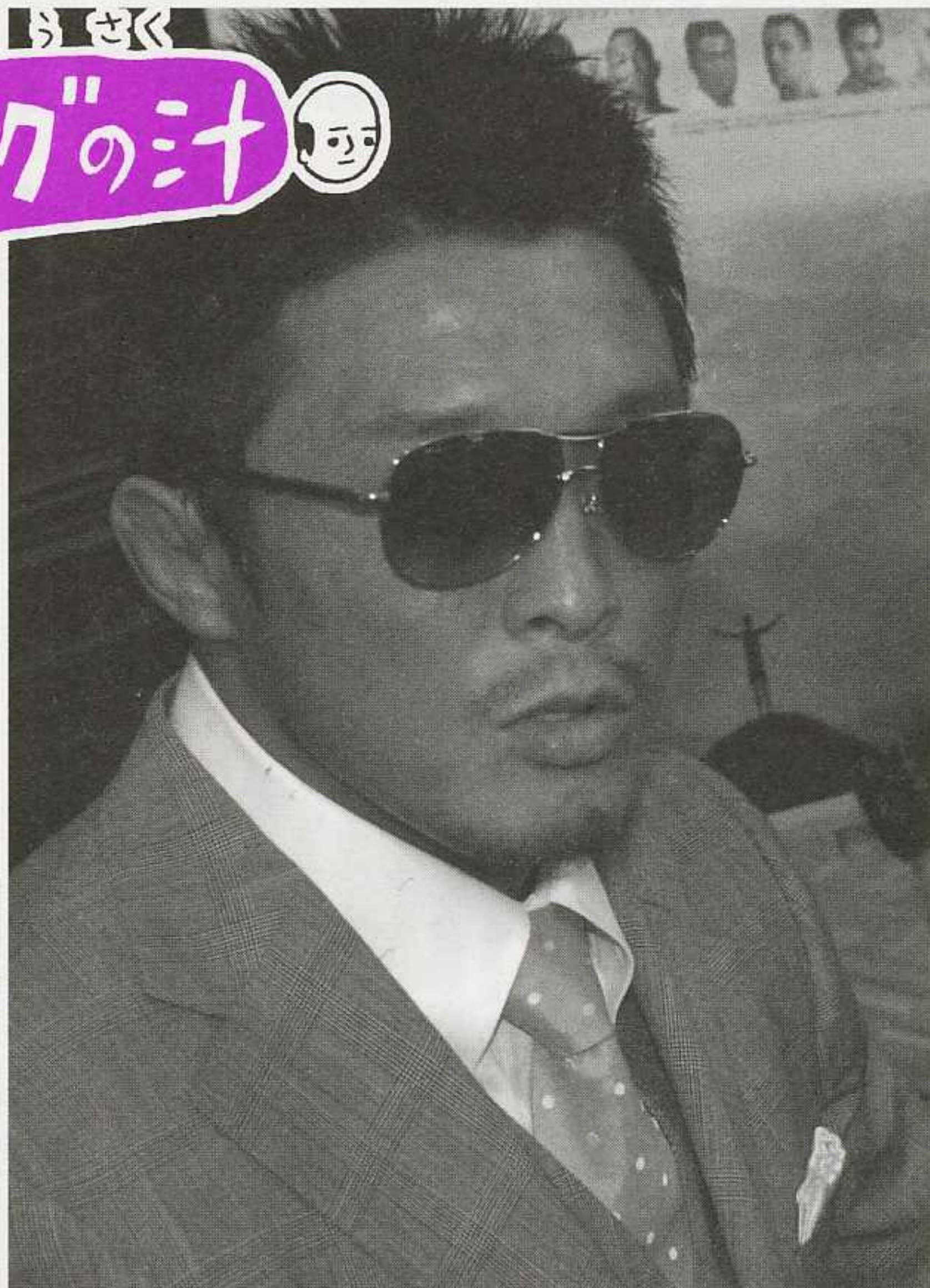
DREAMをPPV。ビビアーノへのイエローカード、山本篤へ一票入った判定など不思議にもほどがある。勝ったと思って満足気だった山本篤には心底ビックリした。いつもあんな戦法で満足気なのでうんざりする。今回もvs大塚戦などタフマン同士で潰し合いが組まれたほうがいいのに、と思っていた。

ミカ・ミラーの長い脚は極めがいありそうなので、次の2回戦に十段vsKID組まれないなら、vsミラーがいいなと思ったけど、ミラーは負けたんだっけ。

UFC 95
デミアン・マイア
最高!

Hanakuma Yusaku
◎『グラントリノ』早く観たい。

ブッカーKの ぶっかけ!

格闘裏情報

第36回

私だけが知っている 泥酔ボブチャンチン

Booker K ◎本名、川崎浩市。シュートボクセをはじめ世界各地の強豪外人を招致する敏腕ブッカー。

今回はイゴール・ボブチャンチンの秘蔵エピソードを紹介しようと思います。

旧ソビエト連邦圏の人間はウォッカが大好きです。ウォッカを飲み合うことで友情を深め、ときにはそれがビジネスに発展したりします。

ロシアントップチームのパコージンさんもそうでした。日本とロシアはウォッカで結ばれていたと言っても過言ではありません。ちなみにヒョードルも試合後は必ずウォッカで乾杯しているそうです。ジョシュ・バーネットが彼の控室に呼ばれて一緒に飲んだというエピソードを皆さんも耳にしたことがあるのではないでしょうか。

ところがボブチャンチンはロシア圏のウクライナ出身であるにもかかわらず、まったく飲まないのです。彼とは長い付き合いで、彼の母国であるウクライナまで行ったこともありますが、酒を飲んでいる姿を見たことがありませんでした。ボブチャンチンはなぜ飲まなかったのか。

答えは、飲むと人が変わるからです。皆さんはPRIDEのマリオ・スペーヒー戦を覚えているでしょうか。マリオが打撃を恐れていきなりタックルでテイクダウンしてきました。ボブチャンチンは、グラウンドでの軽いパンチで頭から出血。最後は肩固めで敗れた試合でした。でも、あの出血はマリオのパンチが原因でもありませんでしたし、肩固めが極まったわけではありません。

じつは! ウクライナから日本に来る途中、乗り換えのためボブチャンチンはモスクワに一泊しました。そしてモスクワのバーに繰り出し、酔った勢いで十数人の客と乱闘してしまったのです。もちろん全員をブッ倒したものの、多勢に無勢、彼はウォッカのビンで頭を殴られてしまい、18針も縫わなければならない大怪我を負って来日したのでした。

過去にも何度も同様なことがあったそうです。しかも彼が施した応急処置とは、テーピングで頭を固めただけ。試合までの数日間もおかまいなし状態で、試合当日のドクターチェックで頭部の負傷が発覚し、18針を縫ったというわけです。

急な事態だったため、試合を中止するわけにもいかず、ドクターは試合中に頭部から出血があった場合、即座に試合を中止すると通告しました。その結果、ボブチャンチンサイドは「とにかく頭から血が出ないように闘うしかない」と、頭のケガだけに気を取られていたのです。

ですから、マリオがパウンドをしてきたときは、エスケープすることよりも、頭部の出血ばかりを本人もセコンドも気にしていました。

結局、肩固めでギブアップしてしまいましたが、どのみち頭から血が出た時点でボブチャンチンの負けだったのです。

数年後、私はボブチャンチンの知り合いからこの話を知らされました。ボブチャンチンからすればプロとしての誇りもありますし、ファイターとしてのイメージもあります。引退したからこそ私もずっと隠していたこんな話ができるのです。

それにしても一度でいいから酔ったボブチャンチンを見てみたかったなあ。

---

kamiproMoveで好評連載中!

ニュース特選! ★kamiの1週間

傑作編

DREAM フェザー級GPのMVPとは?

(3.12更新分より)

◎『kamipro Move』で毎週火曜日更新の人気連載「ニュース特選! Kamiの1週間」。このコーナーではプロレス&格闘技好きなカントリーロックバンド「アニーラッズ」のボーカルの松さんとギターの竹内さんが、1週間のマット界で起こった気になる出来事を語りまくり! 興味を持った方は『kamipro Move』にレッツ・加入!!

松 DREAMフェザー級GPがついに開幕したね!

竹内 DREAMの最軽量、最速が売りの階級だね。

松 今成、所、高谷、前田、ビービなど、その名に恥じないメンバーが揃った。

竹内 でも、3月8日の開幕戦は、選手のウェートは軽いけど、会場の雰囲気は重苦しかったですね。

松 べつに重苦しくはないよ! ただ、判定決着が続いたため、確かに会場が爆発する瞬間がなかったのが残念だった。

竹内 そんな中、命懸けの一発ギャグ「ハロー・ジャパン」で笑いを取ったデイビッド・ガードナーが今大会のMVPだよ!

松 あれはべつに一発ギャグじゃないよ! 余裕こいたアピールしてるあいだに青木にチョーク取られただけだよ!

竹内 あの「ハロー・ジャパン」は道衣を脱いでるあいだにシウバのパンチ食らってKO負けした中村カズ以来のギャグだよ。カズも悔しがってるだろうな。

松 悔しがらないよ!

竹内 でも、ガードナーはなんで「ハロー・ジャパン!」なんて言ったのかな? 髙田本部長の「ヘロウ! アッメ～リカ!」へのオマージュかな。もしくは、柏原芳恵のファンか?

松 それは『ハロー・グッバイ』。ボケが古いんだよ!

竹内 ガードナーはあの一試合で「♪春なのにお別れですか～」。

松 やかましい! 柏原芳恵から離れろ!

竹内 ガードナー以外でよかったのは、川尻達也かな。

松 〝BJペンからの刺客〟に完勝。昨年末の大晦日、K-1ルールで武田幸三に勝ってから乗りに乗っている感じだ。

竹内 川尻は5月大会でカルバンとの対戦も希望。これに勝ってヨアキムの持つDREAMライト級王座に挑戦したいというから頼もしい。

竹内 川尻は修斗時代、ヨアキムに金玉を潰された因縁があるからな。フィアンセからハンセン抹殺指令が出たんだろう。

松 ローブローで反則勝ちしたことはあるけど、べつに金玉潰されてないよ!

竹内 DREAMはこのフェザー級と4月からのウェルター級GP以外にも大きな〝仕掛け〟を用意してるんだろ?

松 そうみたいだな。大会終了後、笹原イベントプロデューサーが「『東スポ』さん向けかもしれない」という企画を考えていると話していた。

竹内 『東スポ』向けというと……もしかして「テレビ東京の大橋アナが生足で参戦」とかじゃないだろうな!

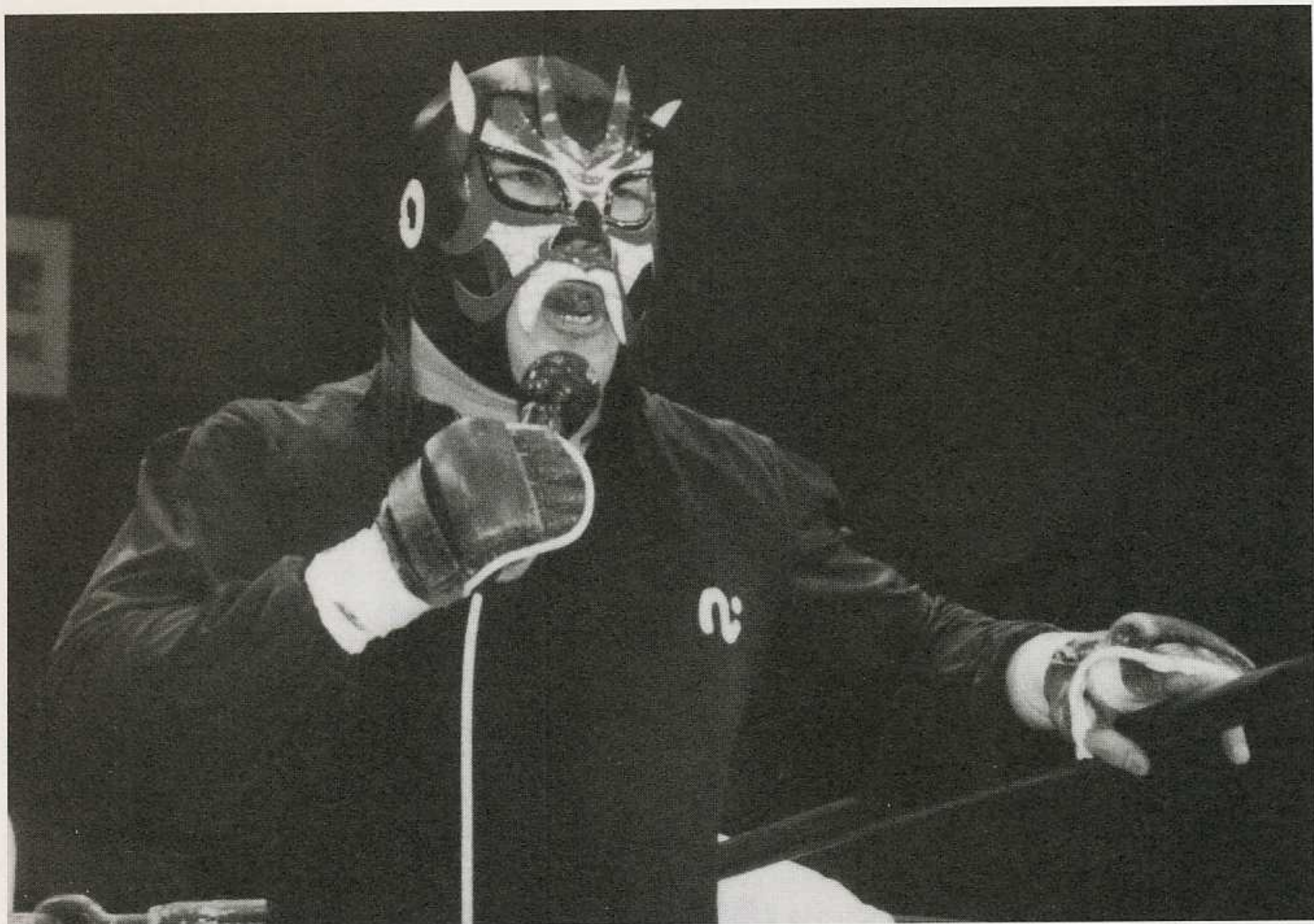
松 それは単に『東スポ』の一面というだけだろ!

竹内 もしくはヒマラヤのビッグフットや河童が参戦とか、「じつは生きていたプレスリーがDREAMのリングで熱唱」とかかな?

松 ビッグフットや河童はIWAだし、「プレスリー生きていた」も『東スポ』の持ちネタだけど、そんなわけないだろ!

竹内 じゃあ、漫画が得意なヒョードルとヨアキム・ハンセンが、DREAMパンフで『みこすり半劇場』連載開始とか?

松 まったく興行と関係ないだろ! いいかげんにしろ!!

椎名基樹のサムライ三昧

第35回

『我が心の最強の男』

こちらの写真はサスケの「プロレスラーにはプライベートなんてねえんだよ!」との名言が飛び出した99年1月の後楽園大会。ちなみに、この日はSASUKE組のセコンドとしてSASUKE組構成員の三田佐代子キャスターや“ヤマモ”こと山本雅俊氏もリングイン。

我が心の最強の男、ザ・グレートサスケが逮捕された。

警視庁の調べによると、サスケ容疑者は2月19日夜、JR常磐線の中で男性に携帯電話で写真を撮られたことに腹を立て、携帯電話を取り上げて床に投げ捨てたうえ、男性の胸ぐらをつかんでドアに押しつけ、足を蹴った疑いがあるという。

残念である。サスケは自ら叫んだあの名言を忘れてしまったのか？

「プロレスラーは芸人なんだよ！　芸人にプライベートはないんだよ！」

心底しびれたよ。この言葉には。まさに全身プロレスラー（文字どおり頭の先から足の先まで黒づくめの）、ザ・グレート・サスケの面目躍如だ。

MMA誌と呼ばれて久しい本誌だから、この発言の顛末を知らない読者も多いだろうから説明しよう。

1999年、スペル・デルフィン、愚乱浪花、薬師寺正人、星川尚弘は、サスケ社長時代のみちのくプロレスを脱退（脱北？）したのだが、その動きを察知したサスケは、縁取りの模様がノーマルバージョンとは異なるマスクの「ワルサスケ（SASUKE）」に変身する。

そして、デルフィンらが最後の参戦となったシリーズ中ずっと、ワルサスケは、試合後ちゃぶ台を持ち出し、デルフィンに向けて裏切りに対する抗議と怨嗟（えんさ）の言葉を吠えてから、そのちゃぶ台をひっくり返すというパフォーマンスを繰り返していた。そして、その発言内容は、次第に裏切りへの非難を逸脱し、誹謗中傷となることも多かった。

その中で、ワルサスケは、公には秘密にしていたデルフィンの結婚を暴露。それに対してデルフィンは「プライベートは関係ないやろ！」と猛然と怒った。そこで飛び出たのが前出の名台詞である。

そのコミカルなパフォーマンスとは裏腹の、あまりに生々しい団体内部を暴露するサスケ発言は、虚実が入り交じる、プロレスがプロレスたる所以の迫力があり、筆者を釘づけにした。

さらにこの名台詞が筆者の心に強く残っているのには訳がある。

東北をツアーしたこのシリーズの最終戦は後楽園ホールであった。もちろん行かないわけにはいかなかった。確実に事件が起こるプロレス会場だ。筆者は趣味を同じくする友人と駆けつけた。

全試合終了後、デルフィンら脱退する選手たちがリングに立ち、マイクを持ち順番に言葉を発する。サスケはすでに控室に消えている。

そして、星川選手が「これから、自分のプロレスを追求していきたいと思います」と語ったときだ。それを「眠たいこと言ってんじゃねえ」と感じた筆者こと椎名基樹・30歳（当時）は、何を思ったかでっかい声で「で、オメーは辞めんのか、辞めねーのかどっちなんだー！」と絶叫。それをきっかけに会場の四方八方から「どっちなんだー!?　ドッチナンダー!?　どっちなんだー!?」と怒号が飛び交い暴動寸前に。友人の「何を言い出す?」という驚きの視線で我に返った筆者だったが、もう後の祭り。

それを鎮めるために、新崎人生がリングに上がり、何を言ったか忘れたが、マイクを取った。その当時、人生はまったくしゃべらないキャラクターを貫いており、ファンの前に肉声を晒したのはそれが初めてだった。「人生がしゃべった!?」というインパクトでその場はなんとか無事収拾した。星川選手、人生選手、本当にごめんなさい。

その後、デルティンたちはみちのくプロレス離脱の記者会見を開く。そこにもサスケは乗り込む。給料の未払いを主張するデルフィンに、「遅れたことはあっても払っただろ」と譲らないサスケ。ついに、デルフィンにそれを認めさせるなど、人前ですべきでない金にまつわるエグイ話を繰り広げるサスケ。それを直立不動で立ちつくしながら「やめてください。人前です。やめてください」と止めるレフェリーのテッド田辺。

業を煮やしたデルフィンたちはサスケを無視して退席する。それを見て、サスケはテッド田辺に駆け寄り抱きしめ「ごめんなあ」と泣き崩れる。すると田辺も「いいんだよ。おまえが作った会社じゃないか」と言いながら号泣。

抱き合って号泣する、肥満した中年男と覆面男。シリアスな滑稽なのか滑稽なシリアスなのか。これ以上ないシュールな光景。まさに底が丸見えの底なし沼。しかし、これがなぜだかわからぬが妙に感動するのだ。

その数年後、筆者はあるエロ本の仕事で、サスケにインタビューするために岩手まで行く機会を得た。

実際に会ったサスケは想像どおり、じつにグレートな男だった。当時、ネット上で〝ネオ麦茶〟を名乗る少年がバスジャックした事件があり、サスケはそれに非常に憤っていて、「オレが乗っていたら跳び蹴りを食らわせてやったのに」と悔しがっていたのが印象に残っている。もしかしたらこの男、縦長の乗り物に乗るとエキサイトするクセがあるのかもしれない。

プロレスラーは芸人だ、芸人にプライベートはない。サスケは盗み撮りに気づいたらファイティングポーズをとってやるべきだった。

しかし、今回サスケは警察に逮捕されても、本名は名乗らなかったという。さすがだ。やっぱりヤツは全身プロレスラーだ。完全に狂っていやがるぜ。さらに、乗っていた電車が常磐線というところも最高だ。

DDT外伝 by高木三四郎社長
リングを捨て町へ出よう!?
“両国ピーターパン”タイトル秘話 第10回

8月23日、DDT両国大会のタイトルが『両国ピーターパン～大人になんてなれないよ～』に決定いたしました！……てゆうか、このご時世にナメたタイトルですみません（笑）。

じつはこの両国大会なんですが、自分の中では昨年の10月の時点で両国大会をやろうと決意したときに考えていたタイトル案があったんです。それは……『D−DAY～両国国技館上陸作戦～』というタイトルでした。

『D−DAY』とは第二次世界大戦における連合軍のノルマンディー上陸作戦の作戦名です。何気に戦史ヲタク（爆）でもある俺様にとってDDTが両国国技館で興行を打つということはプロレス業界や世間に対しての反撃作戦でもあるという位置づけで考えてました。

最初それをマッスル坂井とか男色ディーノに話したら全然ピンときてなくて「ヤバイ、俺様ズレてるのかな?」と不安になったのですが、とりあえずこれで押しきろうと思って12月28日のDDT後楽園ホール大会で両国国技館進出の発表をしたときにタイトルも同時にお伝えしようと思っていました。

しかし、何か発表直前になって自分の中でもピンとこなくなって、大会名はあえて言わなかったのですが、たぶん正解だったと思います（爆）。不況に対してリミッターを外して立ち向かっていこうという大会コンセプトと戦争は結びつかないような気がしてきたのです。

そんなわけでイチから練り直しでした。とりあえず首脳陣で集まって興行タイトルを考えました。

『ドラマチックメ～ニア』。即、却下です。

『ドラマチックドリーマーズ』。却下。

『両国闘始』。自分はよかったんですが、即、却下されました。

そのあとも、あーだ、こーだウダウダやってたのですが、とりあえず『両国』の文字はタイトルに入れようということで一致しました。あとは前後につける文字を考えるだけです。これもウダウダやってるうちにみんな疲れてきて「もうピーターパンでよくね? 俺らピーターパンだし。両国ピーターパンどうよ?」と誰かが言った言葉がヒットしてこれに決まりました（笑）。

「適当に決まったんじゃねーか!」と思うかもしれませんが、深い意味が込められてるタイトルだと思います。いや、深いんです。どう深いかって? それは皆さんでお考えください。謎かけです！

2月13日、所属選手はもちろん、フリーや外国人ユニットなど主要選手全員が参加して行なわれた8.23両国大会記者会見。両国国技館前で開催されたこの会見では大会名が『両国ピーターパン～大人になんてなれないよ～』に決定したことが発表されたが、「深い意味が込められてる」という三四郎社長の謎かけの答えとは? も、もしかして……!?

Sanshiro Takagi ◎DDTプロレスリングの社長兼レスラー。1970年1月13日、大阪府出身。趣味は高級時計収集。更新頻度もかなり多めで好評の高木三四郎の「新宿御苑ではたらく社長レスラーのブログ」アドレスは→http://blog.livedoor.jp/t346/

金ちゃんのどこまでやるの?
第33回 憧れのタイガーマスクの巻

このあいだリアルジャパンプロレスの3・1後楽園ホール大会を観に行ってきたよ。

これは去年IGFに出場したとき、佐山（サトル）さんと一緒に写真を撮らせてもらったのがきっかけで。

今回、リアルジャパンに招待していただいたんだよね。

俺にとってタイガーマスクとダイナマイト・キッドは子どもの頃の憧れだからね。一緒に写真を撮らせてもらったときは凄く嬉しかったよ。

タイガーマスクを目の前にしたら、ファンに戻っちゃったね。

ダイナマイト・キッドとはUインターの若手時代に一回会ってるんだよね。ある日、ゲーリー（・オブライト）に「スティーブ・ウィリアムスと会いたいから、全日本のレスラーが泊まってるホテルに連れていってくれ」って言われて、俺が車でゲーリーをホテルまで届けたんだよね。そしたらそこにダイナマイト・キッドがいてさ、「うわ～、キッドだ～!」って思って、握手してもらって、凄く嬉しかったのを覚えてるよ。

俺らの世代でこの世界に入ってる選手って、ほとんど全員が子どもの頃、タイガーマスクやダイナマイト・キッドに憧れてプロレスラーを目指した人ばっかりだもんね。

俺はUインターに入門する前、新日本プロレスのプロレス学校にいたけど、当時、周りはみんなタイガーマスクとダイナマイト・キッドに憧れたヤツばかりだったから。それに子どもの頃、よくローリングソバットのマネをしたよな～。

放課後とか友だちに立ってもらって、ローリングソバットとかやるんだけど、なかなかうまく蹴れなくてね。校舎の壁に向かって練習したり、そんなことみんなやってたもんね。

今回、リアルジャパンで観たいまのタイガーマスクはちょっと太りすぎてるかな、とは思うけど（笑）、いまでもちゃんと動けてるから凄いよ。あれがもうちょっとシェイプしてくれたら、どんなに凄いんだろうとか思っちゃうよね。年齢だって50歳超えてるわけでしょ? やっぱり若いうちにみっちりと基礎練習とかやってるから、身体は丈夫だし、ブリッジなんていまだにきれいだもんね。あんなに見事なタイガースープレックスができるんだから、びっくりしたよ。

タイガーマスク以外にもグラン浜田さんなんて、いまだにトップロープからフランケンシュタイナーとかやってるし、タイガーマスクとタッグで闘った長州さんも迫力あったし、昭和のレスラーはすげえなって、あらためて思ったよね。

あとリアルジャパンには二代目スーパータイガーが出てるんだよね。これは○○選手がマスク被ってるんだけど、スーパータイガーだったら空中殺法はやらずにキックが中心のUWFスタイルだから、いまから俺が三代目スーパータイガーになりたいって思っちゃったよ（笑）。

タイガーマスクとキッドには、いろいろ夢を見させてもらったから。あなたたちのおかげでいまの自分があるって感じだよね。

だって佐山さんがいなかったら、UWFもシューティングもなかったと思うからね。UWFとシューティングがなければ、いまの総合格闘技なんて絶対になかったと思うし。やっぱりタイガーマスクは偉大ですよ。

そのタイガーマスクがいまだに頑張ってるんだから、俺もまだまだ頑張らないとね。これを書いている時点ではまだ相手は決まってないけど、4月に試合をする予定なんで、応援よろしくお願いします！

Hiromitsu Kanehara
◎本音炸裂コラムほぼ毎日更新中!
金原弘光オフィシャルHP
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

GO FOR BROKE! 獄門記

No.1 Commentator MASA RU-CHA

マサさんが見た80年代全日本プロレス

第10回

マサさんといえば、60年代末から80年代なかばまで、一匹狼として全米を腕一本で渡り歩き、その合間に上がっていた日本のリングは新日本プロレスだった。しかし、85年に長州力率いるジャパンプロレス（維新軍）勢が新日本プロレスを離脱し、主戦場を全日本プロレスに移すと、〝維新軍の首領〟と呼ばれたマサさんも、1シリーズだけ全日本のリングに上がっているのだ。

全米のあらゆるテリトリーで闘ってきたマサさんから見た全日本プロレスとはいったいどういったものだったのか？

——今日はマサさんに、かつて一度だけ参戦した全日本プロレスについて聞かせてもらいたいんですよ。

マサ あんまり覚えてないけどね。

——覚えてませんか（笑）。全日本プロレスに参戦したのは、85年の1シリーズだけですよね？

マサ そう。

——あの頃は、長州力率いるジャパンプロレス勢が全日本に参戦してきたばかりでしたけど、マサさんもやっぱり長州さんからの誘いだったんですか？

マサ 俺はあの頃フリーだったし、自由に動けたからね。長州たちが来てほしいって言うから行ったんだよ。で、そのときの忘れられない試合は天龍とジャンボ鶴田が組んで、俺と長州でやった東京体育館の試合（昭和60年2月5日）だね。

——全日本vsジャパンの頂上タッグ対決と言われた試合ですね。鶴龍コンビの印象はいかがですか？

マサ 天龍とはその前から手が合ったんだよ。フロリダやジョージアとか、サウス（アメリカ南部）で一緒だったからね。

——そうなんですか！　天龍さんのアメリカ修業時代に一緒にサーキットしていた、と。

マサ その頃、気が合ってよく一緒に飲みにも行ったしね。

——マサさんと天龍さんが一緒に飲むって、想像しただけで凄そうですけどね（笑）。

マサ ジャンボ鶴田はあんまり付き合いはなかったけど、試合やってみてビックリしたよ。スタミナが無限に近いほどあって、試合もうまいし、正直こっちは苦戦したよな。

——へぇ、マサさんが「苦戦した」と言うほどですか。

マサ だって、こっちは身体がちっちゃいじゃない。俺も長州も（身長）1メートル80あるかないかなのに、向こうは1メートル90以上あって、あんなにデカいのにジャンプ力はあるし、動けるしね。あと、器用なんだよな。レスリングもうまいし。

——じゃぁ、かなりいいレスラーだな、と思ったわけですか。

マサ いいレスラーだね。全日本はうまいレスラーが多かったよ。天龍もうまいし、タイガーマスクやってたノアの社長（三沢光晴）も良かった。あと、馬場さんが凄くうまくてビックリしたね。

——へえ、そうなんですか。

これが全日本プロレス参戦当時、ジャパンプロレスのTシャツを着たマサさんと長州力。全日本に乗り込んだ長州にとって、マサさんはじつに頼りがいのある兄貴分だったのだ。

マサ 6人タッグで一度か二度やっただけだと思うけど、こっちが思ってる馬場さんと違ったよ。センスがいいなって。

——それはどのへんで感じました？

マサ こっちが追い込んでも力を逃すっていうか、うまくかわすんだよね。

——さすが世界の馬場だ、と。

マサ そう思ったよ。さすがにうまいなって。その前にもアメリカでやったことはあったんだけどね。ロサンゼルスのオリンピック・オーディトリアムってところで、俺とキンジ渋谷が組んで、馬場さんとジョン・トーレスっていうのがやってるんだよ。そのときは、俺はロサンゼルスをホームにしていて、馬場さんは日本からサーキットで来ていて、ちょっと当たっただけだからなんとも思わなかったけど、日本でやったときは「うまいな」って思ったね。

——馬場さんはアメリカでもビッグネームだったんですよね？

マサ 俺がアメリカに行く前にニューヨークで成功したんだよね。あの頃（60年代前半）、あんな大きい日本人なんかいないじゃん。

——いまでもいませんけどね（笑）。

マサ 当時のニューヨークはブルーノ・サンマルチノとか、ゴリラ・モンスーンとか大きなレスラーが売れてたんだけど、それよりはるかにデカいんだから、そりゃアメリカ人は驚くよな。

——まだ、アンドレ・ザ・ジャイアントがアメリカに来る前ですしね。

マサ あと馬場さんは70年代はプロモーターとして信頼されてたよ。アメリカのレスラーのあいだで評判良かった。商売うまかったんだよな。

——商売がうまい（笑）。

マサ ドリー・ファンクJr.とかハーリー・レイスとか、NWAのチャンピオンを日本に何度も呼んでるんだから、あれは凄いことだよ。

——だからこそ、豪華外国人が呼べない新日本は「ストロングスタイル」を確立したんでしょうね。

マサ そうね。

——マサさんが全日本に上がったとき、新日本とのスタイルの違いは感じましたか？

マサ あの頃の全日本は、アメリカに近い試合をやってたよね。馬場さんが大きいレスラーが好きだったから、新日本より大きい選手が多かったし。

——練習内容も違ったらしいですよね。新日本出身のジャパン勢は試合前に基礎運動をガッチリやって、全日本はリング上でハイスパートの練習をしていたっていう。

マサ やっぱり、会社によってトレーニングの方針は違うよな。でも、全日本にも練習熱心なヤツはいたよ。川田（利明）なんてよくやってたし、走っても小林邦昭より速かったしね。

——でも、団体によって特色があるっていうのはいいですよね。

マサ アメリカだってテリトリーによってプロレスが違うからね。だから、団体はちゃんと自分の特色を出さなきゃダメよ。

——当時の新日本と全日本は流派が違うような感じがありましたよね。

マサ そうだよ。いまいいこと言ったね。プロレス団体はちゃんと自分の流派を作らなきゃ。そしたら、そこにファンがつくんだし、違う団体同士の対抗戦なんかもおもしろくなるんだから。みんな同じようなスタイルじゃつまらないよ。

——プロレス団体はかつての新日本や全日本のような、しっかりとした流派を作れってことですね。今回もありがとうございました！

Masa Saito ◎60年代末～80年代前半、アメリカンプロレス黄金期を腕一本で渡り歩いたプロレスラー。男の中の男。カルピスが大好きだが、いまは甘いものを控えている。

掟ポルシェの萌え萌え女々苑

イラスト◎ゴローちゃん

昭和ッ！（新宿駅でおばあさんの財布をつかんで）。コシティを見るとなぜか切ない気持ちになる女子プロ極太親父こと掟ポルシェの『萌え萌え女々苑』。今回のゲストは伊藤道場の小林華子選手！

掟 初の総合格闘技挑戦となった『ジュエルス』での石岡沙織戦は残念ながら敗れて、試合後リング上で大泣きだったみたいですね。

小林 はい。悔しかったですし。

掟 でも、最初のローキック一発で相手の表情が変わって、お客さんもビックリしてたみたいですね。小林選手のキックが想像以上に重かったようで。お客さんはプロレスラーをナメてたと思うんですよ。

小林 あ～、それはわかります。

掟 「総合の練習してないだろ」みたいな。でも、プロレスラーから言わせれば、プロレスが一番強いっていう思いはやっぱりあるわけですよね？

小林 はい。だから、すぐは無理だと思うんですけど、いつか絶対にやり返したいです！（キッパリ）。

掟 いいですねぇ。プロレスラーの強さを証明しに出ていくのが伊藤道場というか。「あそこは〝昭和〟だ」って聞きますよ。

小林 あ～、それはよく言われますね。

掟 トレーニングでも、基礎練習や受け身を山ほどやるっていう。

小林 基礎の受け身だけで1時間以上やってますね。でも私、プロレスに入るまで運動とか何もしたことがなくって、最初っから伊藤道場だったので、これがつらいとか、周りから「昭和」とか言われるのが全然わかんなくて。練習とかがつらいのはあたりまえだろうし。

掟 学生時代は、意外なことに体育が大の苦手だったんですよね？

小林 あ、そうです（笑）。体育の授業になるとホントに気持ち悪くなっちゃって。もう前日から「イヤだなぁ～」と思って。

掟 そんな体育の授業ってハードなんですか？

小林 いま思えばそうでもなかったと思うんですけど、もう私にとってはホント苦痛でした。

掟 とくに身体が弱かったとかじゃないですよね？

小林 弱くはなかったですね（笑）。

掟 単に運動神経がないだけ？

小林 はい。だからホント恥ずかしくって。跳び箱も跳べなかったんで。

掟 3段跳んだだけでクラス中、拍手喝采だったんですよね（笑）。

小林 ホントそうなんですよ（笑）。マラソンとかも時間内に走れなかったり。水泳とかも泳げないんで、「ふざけてんのか」とか怒られて、補習を受けたり。

掟 よくプロレスラーになれましたね（笑）。でも、国語は好きだったから、本はよく読むんですよね？

小林 そうですね。赤川次郎とか好きで。

掟 おっ、三毛猫ホームズですね！ それは誰の影響で読み始めたんですか？

小林 え～、よく覚えてないんですけど。あっ、たしか『ふたり』っていうドラマを観て、原作が読みたいなって思ったのがきっかけで。

掟 それで推理モノや探偵モノを読むようになったと。なんかご自身でもケータイ小説を書かれてるとか？

小林 あ、そうです。公開はしないんですけど。

掟 内容的には、周りの人がドンドン殺されていくみたいな？

小林 殺人もあります。

掟 実在の気に入らない人物を次から次へと殺していくとか（笑）。

小林 そんなんじゃないですけど（笑）。

掟 誰にも見せてないんですか？

小林 はい。自分で書いててだんだんわかんなくなってきちゃって。いくつもあるんですよ、書いてるモノが。で、まだ完結してるのは一個もなくって。どれかできたら公開したいんですけど（笑）。

掟 原案の段階で止まってる感じ？

小林 はい（笑）。もういろいろ手をつけすぎちゃってて。

掟 具体的にはどんなテーマで書いてたりするんですか？

小林 なんか不思議な話が多くて。死んだはずの人が生きてる、みたいな話とか。あとは『世にも奇妙な物語』とか好きなので、パクリになっちゃうんじゃないかと思って公開しないんですけど。

掟 実際パクってるんですか？

小林 パクってるつもりはまったくないんですけど、でも「なんか似てるね」って言われたら、たぶんパクリだと思うんで。だから、怖いので公開しないんです。

掟 テーマはべつにパクっていいんですよ。うまい人のをパクって自分のスタイルを見つけていくっていうのは誰だってやってますし。プロレスと一緒です。小林選手はいま20歳ですけど、いくつまでに結婚したいとかあります？

小林 いや、結婚願望とかまったくなくって。

掟 じゃあ、好みのタイプとかは？

小林 年上でちょっとクールな感じの人。あんまり束縛しない人がいいです。私はプロレスをやってるし、ほかにも好きなことがいっぱいあるので、自分の時間を邪魔しない人が好きです。

掟 やりたいことがたくさんあるから男は不要？

小林 いまはいらないです。一応、伊藤道場は三禁なんで。

掟 いまでも三禁！ さすが昭和！

小林 たまにお酒とかはお付き合いとかで飲んだりはしますけど。

掟 多少ユルめの三禁で（笑）。ちなみに好きなタイプを芸能人でいうと？

小林 あ、高橋克典が好きです。

掟 なんか、お父さんが高橋克典さんと同い年みたいで。

小林 はい。44歳なんですけど。でも、高橋克典っていうか、只野係長ですね。

掟 はいはい、特命係長ですね。

小林 只野さんみたいな人が好きなんですけど、あんまいないですよね（笑）。

掟 あれぐらい身体を鍛えてるほうがいい？

小林 身体を鍛えてるというか、スーツにサングラスみたいな（笑）。

掟 ヤクザじゃないですか、それ！（笑）。ちなみに男になったら何をしてみたいですか？

小林 ナンパしてみたいです。

掟 ナンパ!? ナンパはされます？

小林 されないです（笑）。なんか楽しそうですよね。海とかで声をかけて。

掟 普通に海とか行けばナンパされそうですけどね。

小林 されないです。まったく！

掟 水着の背中に「三禁」とか書いてるんじゃないですか？

小林 書いてないですよ！（笑）。

第33回
小林華子
（伊藤道場）
の巻

こばやし・はなこ■1988年12月1日、神奈川県川崎市出身。伊藤薫プロレス教室の無料体験日に顔を出し、そのまま通い詰め、06年7月に『息吹』での松本浩代戦でプロデビュー。得意技は小林だけに（?）フィッシャーマン・スープレックスホールド。入場曲は大ファンであり公認もされている犬神サーカス団の『最後のアイドル』。コスチュームは尊敬する井上貴子から譲られたフリフリコスチュームを愛用中。リングを降りるとホームヘルパーの顔も持つ。158cm、58kg。

MMA初挑戦となった2.4ジュエルス新宿大会のメインで石岡沙織と対戦した小林は健闘するも無念のTKO負け。小林が所属する伊藤道場次回大会は正午開始の4.19新宿FACE大会。大会情報や伊藤薫の日記も読めるHPアドレスはコチラをチェック→ http://www.w-footstamp.com/

Okite Porsche◎掟ポルシェおもしろい顔でDJ予定、3・27（金）深夜～@渋谷THE GAME（03-3409-1336）、3・28（土）深夜～@渋谷DESEO（03-5457-0303）。ロマンポルシェ。おもしろい顔でのライブ予定は5・30（土）渋谷LUSH（03-5467-3071）、7・3（金）渋谷club asia（03-5458-2551）。対バンなどは掟ポルシェブログを見ればわかるから見ろ。【http://blog.excite.co.jp/porsche/】

佐藤譲の

入場曲五十三次

イラスト◎エロコエロオ

第13回

『星間飛行』から読み解く 長島☆自演乙☆雄一郎のクレバーな格闘家像

Yuzuru Sato ◎1976年、静岡県生まれ。千葉県育ち。クラブミュージックなど音楽の解説を書いたり放送作家やったりしています。ちなみに筆者がオススメする菅野よう子作品は『ブレンパワード』のED曲『愛の輪郭』。

先日TBSで放送された『K−1 WORLD MAX』を観ました。入場、ド派手な試合ぶり、流血TKOのハプニング、とどめは廊下で号泣と、どう見てもただの「長島☆自演乙☆雄一郎劇場」でした。もうお腹がいっぱいです。

それにしても、1試合目に『星間飛行』、2試合目に『娘々飯店』から『トライアングラー』と、入場曲を人気アニメ『マクロスFRONTIER』で固め、コスプレも『星間飛行』を歌う同作のヒロイン、ランカ・リーで統一。1試合目の入場前にはランカ・リーの声優も務める中島愛さん自らが『マクロスF』第12話の名台詞「みんな、抱きしめて！ 銀河の果てまで！」を自演乙仕様でコール。

さらにはヲタドル・ユニット、中野腐女子シスターズの浦えりかさんの協力によるコスプレダンサーたちとともに、ランカ・リーと同じ振りつけのダンスを完コピする徹底ぶり。しょこたんをして「ランカ踊り完璧wwwww」と言わしめるディテールの緻密さからは、アニヲタという裏に隠れたクレバーでスキのない自演乙さんの素顔やプロフェッショナルな姿勢がうかがえます。本人は選曲に関して「2009年2月はマクロスの進宙式だから」と言っていますが、おそらく同アニメがTBSで放映されていたことも意識しているはず。末恐ろしい子です。

さて、『星間飛行』はそんな自演乙さんの外と内とのギャップをよく表わしています。というのも同曲はただのアニソンにあらず。その中身は、元はっぴいえんどのドラマーで、松田聖子や斉藤由貴など、80年代アイドルの全盛期を支えた作詞家・松本隆さんと、映画『下妻物語』やアニメ『攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX』などを手掛け、パット・メセニーなど、世界のトップアーティストからも賞賛される職業作曲家・菅野よう子さんという、いまの音楽界における最高峰の才能が制作した、究極の80年代アイドルポップスなのです。ちなみにあまりのクオリティの高さに『マクロスF』製作陣は、劇中に挿入される曲を引き立てるため、第12話のシナリオや演出を変更しました。「アニメなんて」という色眼鏡を外すと見えてくる高い品質。まさに自演乙さんにぴったりです。

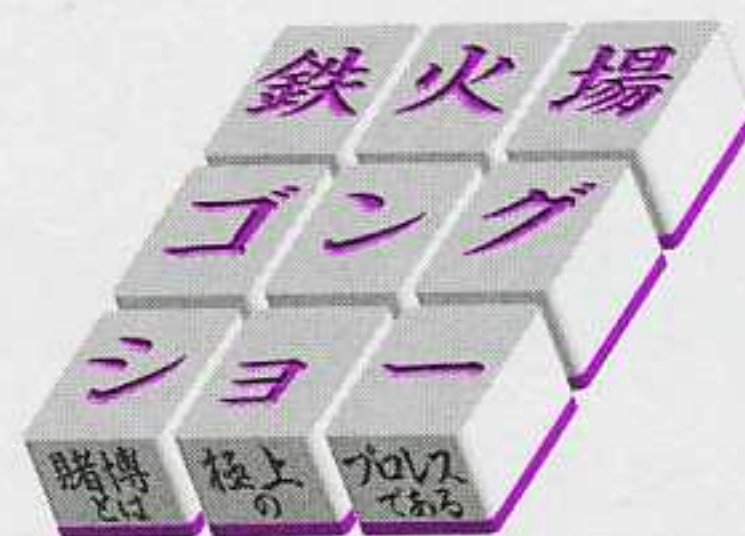
ちなみに菅野さんは元々てつ100%というバンドのキーボードからキャリアをスタートして以降、『カウボーイビバップ』でジャズ、『攻殻機動隊』で打ち込み、映画音楽ではシンフォニックな協奏曲や室内楽など、あらゆるジャンルに精通することで、それぞれの良さを引き出す柔軟性を身につけ、最強のハイブリッド職業作曲家の地位にたどり着いています。その特異な立ち位置は、小学校時代の柔道、プロレスラーを志して高校時代に始めたフルコンタクト空手、プロ格闘技を目指して大学入学前後に始めた日本拳法と様々な格闘技を学び、総合、キック、K−1と闘う舞台や状況に合わせ、縦拳と横拳、波動拳とストレートなど、日拳とボクシング、キックの特性を巧みにアレンジする自演乙さんのクレバーな独自性とどこかダブるのです。

ちなみに自演乙さんのキックの経験はまだ1年半。ほとんどパンチだけでNJKF日本王座に輝いただけに、これにキックが加わるだけでどんな進化をはたすのかワクワクしてきます。総合経験もあるだけに『DREAM』対抗要員としても期待大。入場よし、ファイトよし、自己プロデュース力よし。ハイブリッドなアニヲタファイターはK−1にひさしぶりに現われた救世主なのかもしれません。

鉄火場ゴングショー
賭博とは極上のプロレスである

田中太陽の十三本場

秋山成勲の賭け

Taiyou Tanaka ◎日本プロ麻雀協会所属のフリープロ。"観戦記の鬼"として一部の麻雀ファンのあいだで根強い人気を誇る。

「弱い相手と闘いたいのなら、日本の団体と契約しただろう。自分はいつでも強い選手と闘いたいと考えている」

つい先日、UFCとの電撃契約を発表した〝魔王〟こと秋山成勲が、韓国にてこのような強気発言をしたことは周知のとおり。真意はいかようにも解釈できるが、とにかく秋山はこの発言およびUFC参戦により、逃げ場のない戦地に立たされた。

目立った結果を残せなければ、韓国におけるタレント的人気は下火となるだろう。そうなれば本来の所属国であり、一生離れられない国でもある日本からの嘲笑や罵倒が飛ぶことも明白だ。しかしながら結果を残せば、いままで悪意をぶつけてきた人間すべてを見返すことができる。

これをギャンブルと言わずに、また当稿で扱わずになんとするか！

真剣勝負は常にギャンブルであるとはいえ、今回の場合はとくにギャンブル性が高いと言えるだろう。せっかく韓国で得た人気も名誉も、UFCでみっともない姿をさらせば一瞬にして消え去ってしまうからだ。

MMAの第一線から離れ、韓国で芸能人として生きてゆく道があったにもかかわらず、このような大勝負に出た秋山の真意はなんなのか？ やはり安定よりも闘いを選び、最強の格闘家を目指さんとする想いが〝魔王〟にもあったということなのか？ それとも何かしらの計算に基づいた〝黒い狙い〟が存在するのだろうか……？

とりあえず現在の答えとしては「SHIHOさんとのご結婚おめでとうございます！」としか言えない筆者ではあるが、そんなサプライズ・ガイ秋山の心理を探るうえで、過去や背景といったものは相当に重要だ。我々は彼のことを、もっとよく知らねばならない。

そうした探究活動の一環というわけでもないのですが、じつは最近、秋山の過去に関するドキュメンタリー本を手がけさせていただきました。タイトルは『魔王 秋山成勲 二つの祖国を持つ男』、発売は4月2日です。

クリーム塗布事件からUFC参戦にいたるまでの記録的記述はもちろんのこと、韓国における活動内容の詳細や、そこで秋山を襲った悲劇や事件など、貴重な情報が満載！ 当時をよく知る関係者の談話などもふんだんに盛り込みつつ、秋山成勲が〝魔王〟となるに至った軌跡が非常によくわかる一冊となっております。

そもそも日本と韓国において、こんなにも秋山の評価が食い違ってしまったのはなぜなのか？

本当に単なる民族感情や、人種差別のみが原因なのか？

本書ではそうした疑問をはっきりさせるため、韓国での現地取材を敢行。より明確な答えをつかむために尽力いたしました。

秋山が韓国へと渡ったきっかけや、そこで残した実績そして当時の評価。また韓国柔道界の英雄が語った〝学閥差別〟の正体、韓国のMMAファンから見た〝クリーム塗布事件〟や〝三崎説教事件〟の感想など、ほかでは読めない内容が盛りだくさんのできになりそうです！ 現代MMA界の異端児を紐解くためには、きわめて重要な書物であると言えましょう。

秋山がUFCに飛び、アジアでもとくに注目される選手となったいまこそ、我々は〝魔王〟についてもっとよく知らねばなりません。その手助けができれば、私としては最高なのでございます。というわけで今回は番外編というか、単なる宣伝でした。とりあえず『魔王』買ってください！ 言いたいことはそれだけだ！

out!!

“ジ”

ャクソン

ウバのスペシャル対談がよかった。二人のコラボが新鮮でよかった。英語が得意なKIDの話がおもしろい。
【埼玉県・星喜幸さん・大学生・22歳】

みすぎ、
れ。
意味が
たぜ!

さあ、いよいよチェリーブロッサムの季節だぜ! こう見えてもオレは四季にはうるさいんだ。春は花見、夏は海、秋は読書、そして冬は冬眠だ。え? 冬眠してなかったじゃないかって? そのとおり! でも、そんな細かいこと言ってると、あっという間に桜が散っちゃうぜ! よし、じゃあ、とっととこのペイジを終わらせて、花見にでもレッツ・ゴー!

132号へのお便り紹介

「アメリカで50人に聞きました」の記事がおもしろかったです。いままで日本人が世界を意識したコメントはほかの雑誌でも見かけますが、世界での日本人への評価はなく、とても新鮮でよかったです。そして、DREAMと『戦極』のフェザー級選手分析もナイスで、試合を二倍楽しめそうです(誰がどのような試合を行なってきたか、ひとめでわかりました)。
【埼玉県・佐藤竜彦さん・会社員・32歳】

D オレは昔、『クイズ100人に聞きました』ってのが大好きだった! ユーのハガキのおかげで思い出したぜ! たしか、小学生100人に聞く「カレーの材料で思い浮かぶもの」の1位は「水」だったはずだ。その回を観た人はご一報くれよな!

追悼エリオ・グレイシーがよかった。本当の勇気とは、ウソをつかずに真実を述べる勇気。それがあれば、怖いものは何もない。言うことなし。勉強になります。
【神奈川県・佐々木学さん・会社員・43歳】

D そうか。オレはウソをついてばっかりだ……。まず、オレの存在からしてウソっぽいからな。……あ、いまのは聞かなかったことにしてくれよ!

132号のおもしろかった記事は郷野聡寛選手のUFCインタビューです。圧倒的な強さのGSPとフルラウンド闘ったことのあるジョン・フィッチと渡り合えるとは、郷野選手も凄いじゃないですか。試合も英会話もバチバチやってください。
【兵庫県・春名義行さん・会社員・42歳】

D 最近、ゴーノはオレの知らない英語で攻めてくるときがある。え? ユーの母国語はイングリッシュじゃないかって? それでもわからないときがあるんだよ!(充血)。

今成正和のインタビューがよかった。世界のSA(シンヤ・アオキ)が一目置く十段のDREAM初登場はいまから楽しみです。十段といえばPRIDE武士道でのヨアキム戦ぐらいしか観ていなく、小川直也以来の幻想を持つ男だと思います。一回戦では山本選手に勝利し、二回戦でぜひKID戦を実現してほしいと思います。十段がUFO練習生だったとは、衝撃でした。
【福島県・草野真悟さん・自営業・31歳】

D 「SA」ってなんだよ、オイ。シンヤだけズルいぜ。だったらオレのことも「DJ」って呼んでくれよお。ん? DJ・taikiとおもいっきりかぶってるって? ……確かにユーの言い分も一理あるな。

ダナ・ホワイトのインタビュー記事がよかった。青木の発言に対する反応がおもしろかった。青木もダナ・ホワイトにとってのヒョードルみたいな存在になりそうで、今後の発言が楽しみになってきた!!
【香川県・横山太郎さん・会社員・37歳】

D おいおい、ダナはどこまで高慢ちきなんだい。え? 意外と人気が高いって? ……そうか。

「マーティ・フリードマンのJ-POP的日米比較論」がよかった。メタリカ、スレイヤー、アンスラックスとともにスラッシュメタル四天王のメガデスの元メンバーがまさか『kamipro』に登場するとは! マーティの演歌好きは若かりし頃の『ヤング・ギター』読者としてギターキッズとして古くから存じておりましたが……。それにしても最近めっきり日本に馴染んでますね。かつてのメタル好き、そして現在のMMA好き、どちらも楽しめる内容に大大満足!
【東京都・渡辺信祥さん・会社員・36歳】

D おっと大満足している場合じゃないぜ。なぜなら、メタル好きでオレのベストフレンドでもあるヨアキム・ハンセンのコメントがないじゃないか。しかし、ヨアキムは最近いったい何をしてるんだい? オレのケータイ番号だと電話に出てくれないんだ……。誰か近況のわかるボーイズ&ガールズはこのジャクソンに教えてくれよな!

132号 おもしろかった記事 RANKING

- NO.1 山本“KID”徳郁×ヴァンダレイ・シウバ
- NO.2 エメリヤーエンコ・ヒョードル
- NO.3 ダナ・ホワイト
- NO.4 足関特集
- NO.5 青木真也

おっと、KIDというボーイはいきなり1位かよ! オレは毎月出続けてるのに、一発で1位になるなんて……。『kamipro』を読んでるボーイズ&ガールズはいったいオレのことをなんだと思ってるんだい!? え? なんとも思ってないし、なんだかわからない? オイオイ、それはちょっと冷たすぎやしないかい!? オレに寂しい思いをさせないでくれよぉ。

目撃情報が止まらない!

★先日、『DREAM.5』の帰りに電車内で加藤会長を発見しました! 会長はエメラルドグリーンのダウンジャケットに、さわやかなグリーンのチェックのパンツスタイルで凄くアグレッシブな格好でした。しかも、車内をウロウロウロウロしていて、いろんな人に話しかけてました。たぶん、知り合いが分散して座ってたからだと思うのですが……。ちっとも落ち着かない小学生みたいな感じでしたが、南浦和の駅で大人しく降りていらっしゃいました。
【東京都・坂津さん】

★このあいだ、突然の引退発表をした松尾永遠を、後楽園大会の夜に高円寺の松屋で発見しました。【東京都・マニアックさん】

★さいたまスーパーアリーナで『DREAM,5』を見た帰りに、ユン・ドンシクとチョン・ブギョンを電車の中で発見しました。日本人の女の子と仲良く話しながら帰ってました。一方、同じ車両に大塚選手も乗ってて、一緒にいた友だちか先輩に、「オレ、もっと強くなるっす!」と言ってました。
【東京都・巨泉さん】

大阪府・剣洋人さん／やっぱり、ヒロトのイラストは漫画太郎にしか見えないぜ! だってそうだろ? こりゃ、呪われてる絵だよ。

東京都・サカモトカズヤさん／噂によると、サトルのブログは更新頻度が凄まじいらしいじゃないか。たまにはオレのことも書いてくれよな!

ファンキーでクレイジーなアイツが
読者のメッセージを
Check it out!!

"読者ペイジ" ジャクソン

「谷川貞治が〝世界最高峰〟UFCに大ダメ出し！」の記事にガッカリした。せっかく、今週日曜日にタメにタメたWOWOWのUFCを観戦するのを楽しみにしていたのに……。

【石川県・浅井清治さん・会社員・36歳】

D サダハルンバの言うことは気にすんなって！（キッパリ）。

石井慧選手の記事がよかったです。強くなるため、純粋に頑張ってる熱い想いが凄く伝わってきました。〝人生はドラクエ〟とありましたが、実際のドラクエのように〝発売延期〟にならないよう、マジで頑張ってほしいです!!

【愛知県・久保田太さん・会社員・37歳】

D オレは『ドラクエ3』と『ドラクエ5』がフェイバリットだ。そして、レベルも99まで上げたクチだ。え？ ユーもかい？ アッハッハッハ！（爆笑）。

青木真也の「UFCはたいしたことない」の記事が青木のDREAMへの愛を感じることができ、一番おもしろかったです。「青木がいればまだまだ日本の格闘技はおもしろくなる！ まだまだ全然イケる！」と思える記事でした。

【兵庫県・長岡宏樹さん・会社員・24歳】

D ユーはシンヤ・アオキにノッてるクチだな。そいつは困った。ユーのようなボーイがいるからアイツは調子に乗るんだ。そしてセーラー服のコスプレまでやっちまった。しかし、一番問題なのはマサカズ・イマナリの体操服コスプレだよ！ あれは勘弁しろ!!

「サンボと足関」「ジョシカクと足関」などいろんな角度から足関の実態を知れるところに魅力を感じ楽しめました。これからは、いままで以上に足関に注目、意識して試合を観ようと思います。あと個人的にしなしサンのウ○コ発言はインパクトがありビックリさせられました。

【兵庫県・田丸仁志さん・会社員・24歳】

D ユーはウ○コに反応しすぎだ。ジェントルマンならもっと違う部分に感動を覚えろ！

「佐藤大輔が〝60億分の1〟ヒョードルを直撃」がよかった。PRIDEが大好きだった私は、アフリクションがPRIDEに憧れを持ち、海外の人たちの手でPRIDEに似た世界観を作っているのは嬉しいですね。また、大輔さんの口から出た「俺たちのヒョードル」という言葉はいいフレーズですね。

【福島県・紺野春樹さん・会社員・29歳】

D 「俺たちのヒョードル」か……。確かにいいフレーズだ。オレも「俺たちのジャクソン」って呼ばれたいぜ。ダイスケ・サトウ、お願いだ。ユーがそう呼んでくれたら、きっとユーの信者はオレのことをそう呼んでくれるはずだ！

山本〝KID〟徳郁×ヴァンダレイ・シウバのスペシャル対談がよかった。二人のコラボが新鮮でよかった。英語が得意なKIDの話がおもしろい。

【埼玉県・星喜幸さん・大学生・22歳】

D ワッツ？ KIDというボーイはイングリッシュが得意なのかい？ ほう。オレとどっちがうまいか勝負するかい？ え？ ミーのはインチキ英語だって!? それは名誉毀損というものだ！ ブログ発信で訴えてやる!!

マッスル坂井と須藤元気の対談がおもしろかった。マッスル坂井は本当に頭がいいと思います。

【埼玉県・シャキーンさん・千石・22歳】

D 頭の良さをわかるのも頭が良くないとできない仕事だ。ユーはそれを自慢してるのかい？ チキショー!!（怒）。

長南亮のドーピング事情についてのコメントは非常に衝撃的でした。日本で行われているイベントなのに、あらゆる面で日本人が不利な状況に追い込まれている現状ってどうなんでしょう？

【神奈川県・廣木和宜さん・会社員・44歳】

D そうか。しかし、ジャパニーズのハートの強さには世界中が感心してるぜ！ 並大抵の精神力じゃないと戦極ポーズにGOサインなんて出せやしないぜ！

「〝闘魂ストーカー〟イズマイウがひさびさに出没！」の記事がよかった。UFCやWECの映像でときどきイズを探している自分自身に気づく。イズが登場するメディアは『kamipro』しかないのでうれしい。今後はイズの人生相談にも期待したい。

【山口県・松江巧さん・自衛官・30歳】

D そんなにイズが好きならイズと結婚しろ！（怒）。……なーんつって、オレがそんな意地悪なことを言うと思ったかい？ ちょっとからかってみたかっただけさ。アッハッハッハ！

今号の特別賞

"読者ペイジ" ジャクソンのコメントが最初はスベってると思っていたけど、最近は味が出てきて高田純次級の発言になってきたと思う。【埼玉県・本間徹哉さん・フリーター・26歳】

ユーはなんてグレイトなんだい!!!!! よくわかってるじゃないか、オレのことを！ オレはこういうレターを待ってたんだよ。テツヤ・ホンマは26歳にして、早くも悟りを開いたな。ほかのボーイズ&ガールズも見習ってほしいぜ！ え？ 実際、スベってるんじゃないかって？ オー・マイ・ゴッド！ 最近はスベり芸ってのもあるんだぜ！ まったく、ユーたちは遅れてるぜ！ 何も言わずにオレについてこいって！

神奈川県・亜衣さん／おっと、これはチーム・茨城だって？ ちょちょちょっと、これは『DEAR BOYS』の世界だな。え？ 古いって言うなよお。

食べすぎ、飲みすぎ、
胃のもたれ。
最近、その意味が
わかってきたぜ！

長野県・市川学さん・作家・30歳／ユーは作家なのかい？ 以前は、漫画家の原哲夫氏の下で漫画を描くと聞いていたぜ。オレの記憶違いかい？

おハガキ募集!!

おハガキ、どんどん送ってくれよ！
ケータイからでもOKだぜ!!
どんな意見、感想、苦情、抗議、
お悩み、ダメだしでも、ぜーんぜんキャッチするから安心しろって！ 待ってるぜ！

こんな情報も24時間どんとこい！
ってヤツだ。

- 譲ってほしいもの
- タレコミ情報
- 選手に対するコメント、試合の感想
- その他、オールOKだ!!

以上、すべてのあて先お便り・
イラストのあて先&メールアドレスは
radical@kamipro.com
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス kamipro編集部
「老衰」係まで。

携帯サイト『kamipro Move』からの投稿もできるぜ。

マット界の周辺情報をお届け!!

kamipro Info

PPV

どっちを観る? 4.5興行戦争もスカパー!がPPV中継!!

スカパー!が4.5『DREAM.8』新日本両国大会をそれぞれ中継!!

プロレス&格闘技をはじめ、さまざまなイベントのPPV中継を行なうことでおなじみのスカパー!が、4月5日に開催される『DREAM.8』愛知・日本ガイシホール大会、新日本プロレス両国国技館大会をともにPPVで完全生中継!! 同日開催のイベントだが、再放送のあるスカパー!なら両大会の視聴も可能!! 地方の人、忙しくて会場に行けない人、両方の大会を観たい人はスカパー!で!

★4.5『DREAM.8』名古屋大会16:00～ ★視聴料金／3,150円（税込）

★4.5新日本プロレス両国大会17:00～ ★視聴料金／2,100円（税込）

EVENT

格闘技界のカリスマと映画界の鬼才がトークショー

前田日明が三池崇史とトークショーを実施!!

"格闘技界のカリスマ"、そして現在は『ジ・アウトサイダー』のプロデューサーとして活躍中の前田日明がトークショーに登場!! 対談相手はかつて米『TIME』誌上で「活躍が期待される非英語圏の監督」としてジョン・ウーと並び10位に選出された"映画界の鬼才"三池崇史! 4月28日（火）恵比寿ガーデンプレイス（開始19：00）にて開催されるトークショーを見逃すな!!

★『第195回コーセーアンニュアージュトーク 前田日明×三池崇史』

★定価／2,200円（税込 当日2,600円）発売中 ★問／03-3464-0761

TOUR

ゴールデンウィークは博多で新日本プロレス!!

5.3『レスリングどんたく』大会観戦プランが発売!!

新日本プロレスが7年ぶりに復活させた博多でのビッグマッチ、5.3『レスリングどんたく』福岡国際センター大会の観戦プランを発売!! ホテルや交通手段の予約が難しいゴールデンウィークでの大会だが、新日本がお得な観戦プランをコースや人数に合わせて3パターン用意!! 詳しい情報は公式HPか、西武トラベルに問い合わせよう。締切は3月31日。予約希望者は急げ!!

★「新日本プロレスレスリングどんたく観戦プラン」

★問／西武トラベル 03-3251-8186（営業時間9:30～18:00）

DVD

08年の激闘の数々を大挙収録!!

全日本プロレス、08年の名勝負がDVDでリリース!!

08年のプロレス大賞でMVP、ベストバウト、最優秀タッグチーム賞で受賞者を出し、団体としての存在感を示した全日本プロレスの08年の激闘がDVDで登場!! 世界タッグ、IWGPヘビー級、ムタとなって三冠王座を獲得した"日本プロレス界の至宝"武藤敬司の活躍、佐々木健介、諏訪魔らの三冠王者の変遷、他団体との抗争劇など、名勝負を多数収録!! 老舗団体の底力を見よ!!

★『全日本プロレスコンプリートファイル2008 DVD-BOX』（ポニーキャニオン）

★定価／10,290円（税込）発売中 ★収録時間／480分（二枚組）

DVD

もちろん大晦日の『ハッスル・マニア』も収録!!

泰葉参戦で話題を集めた『ハッスル』年末5大会を収録!!

08年度、『ハッスル』のDVD第3弾が発売!! このDVDには春風亭小朝との離婚騒動以来、「金髪豚野郎」などの過激な暴言、奇怪な行動で話題となった泰葉が参戦した大晦日の『ハッスル・マニア』を完全収録!! 11.20『ハッスル・ツアー』後楽園大会を含む5大会を収録!! 歌あり、笑いあり、涙あり、闘いありのファイティング・オペラを観て、キミもハッスルせよ!!

★『ハッスル・ツアー2008 DVD 3』（エンターブレイン）

★定価／5,040円（税込）3月25日発売 ★収録時間／180分

BOOK

パンクラス、日本の総合格闘技の舞台裏!!

尾崎社長が団体旗揚げからの舞台裏を綴った回顧録を出版!!

パンクラスを旗揚げした尾崎社長が15年間の団体運営の回顧録を出版! ライバル団体であったリングスとのトラブル、幻に終わった修斗との交流戦プランや団体のエース・船木誠勝の退団など、これまで明かされなかった団体の舞台裏を公開!! 93年に旗揚げしたパンクラスの歴史は、日本の近代総合格闘技の歴史そのもの。この一冊で日本格闘技の歴史を振り返れ!

★『パンクラス15年の真実 総合格闘技の舞台裏回顧録』尾崎允実著

★定価／1,680円（税込）3月26日発売（エンターブレイン）

DVD

10年間の名勝負をDVDに完全収録!!

WWEのトップレスラーエッジのすべてがここにある!

現在WWEで最も勢いのあるトップレスラー、エッジの10年間の激闘を収録したDVDが登場!! カート・アングルとの髪切りマッチ、いまは亡きエディ・ゲレロと熱戦を展開した初期の試合、ヒールとして頭角を現わし始めてからのリタとの恋愛関係やミック・フォーリーとの死闘、さらには記憶に新しいアンダーテイカーとの激闘など、珠玉の名勝負を堪能せよ!

★『WWE エッジ ディケイド・オブ・デカダンス』（東宝）

★定価／9,240円（税込）発売中 ★収録時間／550分（三枚組）

団体INDEX

※50音順及びアルファベット順

■アパッチプロレス軍
☎03-5610-2609
〒130-0013 東京都墨田区
錦糸2-6-11第2赤木ビル303
http://www.apache-pro.com

■大阪プロレス
☎06-6636-6672
〒556-0002 大阪府浪速区
恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■沖縄プロレス
☎098-861-9779
〒900-0014 沖縄県那覇市松尾1-3-1
エスプリコートビル5階
http://okinawa-prowres.jp/

■キングダム・エルガイツ
☎042-376-1639
〒206-8585 東京都多摩市
関戸4-8-18 TOHO聖蹟桜ヶ丘ビル
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

■健介オフィス
☎048-982-0960
〒342-0041 埼玉県吉川市保1-4-12

■新日本プロレス
☎03-6407-3111
〒153-0042 東京都目黒区
青葉台4丁目4番5号
渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp

■シュートボクシング（SB）協会
☎03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区
花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org

■掣圏真陰流 興義館
☎050-3599-7872
〒113-0033 東京都文京区
本郷3-6-13 太平ビル2F
http://homepage2.nifty.com/seikendo/

■仙台ガールズ・プロレスリング
みちのくプロレスと同じ
http://plaza.rakuten.co.jp/sendaigirls

■全日本プロレス
☎03-3288-0610
〒102-0073 東京都千代田区
九段北1-5-10 岳南九段ビル6F
http://all-japan.co.jp

■大日本プロレス
☎045-321-1598
〒220-0073 神奈川県横浜市西区
岡野1-13-5 横浜西口サンエースビル7F
http://www.bjw.co.jp

■髙田道場
☎03-5749-5030
〒142-0062 東京都品川区小山3-6-6
ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com

■日本修斗協会
☎03-5984-3209
〒176-0012 東京都練馬区
豊玉北1-6-13 カエサル江古田B1-101
http://www.alles.or.jp/sshooto/

■ハッスルエンターテインメント
☎03-3221-2431
〒102-0075 千代田区三番町6-1
渡辺ビル2階
http://www.hustlehustle.com/

■バトラーツ
☎048-963-0005
〒343-0046 埼玉県越谷市弥生町9-8
http://www.bat-com8000v.jp

■パンクラス
☎03-5986-2260
〒171-0021 東京都豊島区
西池袋5-26-13 パラスト池袋702号室
http://www.pancrase.co.jp

■ビッグマウス・ラウド
☎03-3888-3375
〒120-0024 東京都足立区
千住関屋町20-16-703
http://www.bigmouthloud.com

■CHICK FIGHT SUN
ZERO1-MAXと同じ

■プロレスリング・ノア
☎03-3527-5311
〒135-0063 東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■みちのくプロレス
☎022-785-7755
〒984-0065 宮城県仙台市
若林区土樋236
愛宕橋マンションファラオ E-08
http://www.michipro.jp

■DRADITION
☎03-3402-2474
〒107-0062 東京都港区
南青山4-2-4
シャトー青山第3-204号室
http://www.muga-world.jp/

■ユニオンプロレス
☎03-5360-6653
〒160-0022東京都新宿区
新宿1-12-3 藤田ビル1F
http://union.ne07.jp

■ワールドビクトリーロード
☎03-3369-2211
〒160-0023 東京都新宿区
西新宿2-6-1 新宿住友ビル35階
http://www.sengoku-official.com/pc/

■DDT
☎03-5360-6653
〒160-0022東京都新宿区
新宿1-12-3 藤田ビル1F
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
☎052-339-0303
〒460-0071 愛知県名古屋市
中区松原1-2-23 第3栄ビル3F
http://www.deep2001.com

■DREAM（DREAM事務局）
☎03-5775-5065
http://www.dreamofficial.com/

■DRAGON GATE
☎078-333-9797
〒650-0012 兵庫県神戸市中央区
北最狭通7-1-4 サンクチュアリビル
http://www.gaora.co.jp/dragongate

■El Dorado
☎03-5683-5022
〒136-0074 東京都江東区東砂6-13-2
http://sports.livedoor.com/battle/eldorado

■FEG（K-1事務局）
☎03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区
神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/feg/

■GCM COMMUNICATION
☎03-3556-6201
〒102-0093 東京都千代田区
平河町1-4-3伏見ビル4F
http://www.g-c-m.net

■IGF
☎03-5159-3380
〒104-0061 東京都中央区
銀座1-15-2 銀座スイムビル3F
http://www.igf.jp/

■IWAジャパン
☎03-3352-3366
〒160-0022 東京都新宿区
新宿2-15-13 第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp

■JEWELS
☎03-5458-2536
〒150-0042 東京都渋谷区
宇田川町12-3-1103
株式会社マーヴェラスジャパン

■JWP
☎03-5849-2341
〒121-0052 東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com

■KAIENTAI DOJO
☎043-214-6960
〒260-0001 千葉県千葉市
中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp

■LLPW
☎048-297-9587
〒333-0832 埼玉県川口市
大字神戸162

■NEO
☎044-422-8344
〒222-0002 神奈川県横浜市
港北区師岡町879
http://www.neoladies.com

■RIKIPRO
☎03-3754-6340
〒146-0085 東京都大田区
久が原3-31-1（RIKIPRO道場内）
http://www.rikipro.com

■U-FILE CAMP
☎044-932-0282
〒214-0014 神奈川県川崎市
多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com

■U.K.R
☎044-833-7042
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

■U.W.F.スネークピットジャパン
☎03-3337-1889
〒166-0002 東京都杉並区
高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■VALKYRIE
☎03-3556-6201
〒102-0093 東京都千代田区
平河町1-4-3伏見ビル4F
http://valkyrie.livedoor.biz

■ZERO1- MAX
☎03-5730-3966
〒105-0014 東京都港区芝2-8-13-2F
（株）ファースト オン ステージ
http://www.zero-one-max.com/

■ZST
☎03-5388-0808
〒151-0053 東京都渋谷区
代々木2-23-1
ニューステイトメナー833号室
http://www.zst.jp

ζ！ζ！ζ！

しょこたんも大絶賛(^∀^)

自演乙劇場炸裂!!

K-1 WORLD MAX

中学高校では
主に“自宅警備”
専門でした

“最強のコスプレ野郎”が語りまくるお(^ω^)

長島☆自演乙☆雄一郎の“超オタク道”

乙! 乙! 乙! オタクが戦車でやってきた!
2.23 K-1 MAXを超台風の目としてひっかき回したコスプレ野郎・長島☆自演乙☆裕一郎は、予想をくつがえす大奮戦ぶりで一気にブレイク。大注目の自演乙がそのオタクライフを語った!!

聞き手/真下義之、坂井ノブ　撮影/梅木麗子　試合写真/乾普也　写真協力/FEG

——自演乙さん、昨日のK―1 MAXは素晴らしい大活躍でしたね。

自演乙　ありがとうございます～。

——なんと、あのしょこたん（中川翔子）もブログで「コスプレファイターさんすげえぇwwww」「踊り完ペキwwwww」と大絶賛されたみたいで。

自演乙　そうみたいですねぇ（満面の笑顔で）。自分は試合のあと、2ちゃんで知ったんですけど（笑）。

——そこは2ちゃんで（笑）。

自演乙　ええ。2ちゃんで（笑）。しょこたんはブログにたくさん記事をアップしてるんで探せてないんですけど、家に帰ったらパソコンでゆっくり検索しようかな～って。フフフフ!

——ごゆっくり探してください（笑）。あとK―1のオフィシャルサイトの大会MVPアンケートではブッチギリで16万票くらい入ってましたね。

自演乙　それは携帯で見ました! ファンの方には感謝しかないですけど、「凄いことになってんなぁ～」と。

——で、今回は2回もコスプレで入場し、決勝用のコスチュームは表彰式でお披露目しましたから。「コスプレが本業、格闘技は趣味」の自演乙さん的には一応「野望は達成」ですか?

自演乙　いやいや、まだ全然でしょ! 70パーセントくらいじゃないですか?

——でも、試合の反響とかハンパないんじゃないですか?

自演乙　ええ。ブログのほうは……もうエグいっすね（笑）。

——エグいほど凄いですか（笑）。

自演乙　もの凄い数のレスがついてますし。昨日だけで、アクセスは90万かな?

——き、90万アクセス!? それって過去最多ですか?

ん!」みたいな書き方ばっかりだったんで

し。プロのリングでやる以上、お客さんが

ないですって! それに、こういうのは周

最多ですか？
自演乙　ですね。もう〝祭り〟状態は超えました。前の祭りのとき（2ちゃんねるがきっかけで7万件以上のコメントがついた）では70万アクセスやったんで。
――でも、ここまで異様な反響のデカさにビビらないですか？
自演乙　自分がやってたことは変わらないんですけど、周りがドンドン変わるのには驚いてますね。しかも、今回負けちゃったじゃないですか？
――2回戦の山本戦で、惜しくもドクターストップになりましたね。
自演乙　自分のブランドである「無敗」っていう部分がなくなったから、「評価は下がるやろな」と思ったんですけど、予想外に評価が高かったし。コメント欄でも「また観たい！」「感動した！」とかぎょうさん書いてあったじゃないですか。
――しかも、K-1ファンまで絶賛してますよね。「オタクだと思ってバカにしてたけど、凄いじゃないか！」とか。
自演乙　あ、そういう声は素直に嬉しいですよ！
――あと、一夜明けの『みのもんたの朝ズバッ！』（TBS系）のスポーツニュースでも一番目にピックアップされてました。
自演乙　みのさんがコメントしてくれたみたいですね（笑）。あれで「話題的にはコヒ（小比類巻太信）さんを食ったかな？」って。
――そこは完全に食ってます。ただ、これまではキャラ的に話題先行感はあったんですけど、今回は試合内容が評価されたことに凄く意味があったかな、と。
自演乙　ええ。ネット上……とくに2ちゃんねんかで、いままで「（自演乙が）やってきた選手は弱いねん！」とか「いままでの相手は弱いからKO勝ちできてんねん！」みたいな書き方ばっかりだったんですよ。ただ、僕がイジられるのはかまわないですけど、僕が闘ってきた選手までのしるのはヤメてほしいし、実際にみんなホンマに強かったですから！
――強豪揃いでしたか。
自演乙　そういう選手相手にたまたま勝ってこれただけなんで。あの人たちもK-1に出ても通じるファイターやと思ってますから。
――1回戦はHAYATO選手でしたが、試合前は「コスプレの人には負けられない」という舌戦もありましたね。自演乙さんも「僕もこういう格好してるからこそ、負けられないんですよ！」と言い返して、「意外と真面目だな」と思ったんですけど。
自演乙　でもホンマそうですよ！　オタクの代表を名乗ってるわけですし、サポートしてくれる人も、「負けるんやったら、試合に集中しろ！」と言いたくなるじゃないですか？　あくまで試合は趣味ですけど、趣味とはいえ自分は負けず嫌いですし。プロのリングでやる以上、お客さんが興奮する試合をするのがプロだと思うんでね……（真剣な表情で）。

コスプレ仕様ではなかった今回の取材だが、取材先には当然のように「秋葉原」を指定してきたあたりが、さすがの自演乙。大会翌々日ということで取材先や路上でも続々と声をかけまくられる異常人気ぶり!

一日で90万アクセス。ブログはエグいことになってます

（ここで、メイドさんが自演乙選手にオリジナルドリンクを持って登場）
メイド　は〜い。ご注文のピヨピヨとろぴかるでございま〜す♪
――ピヨピヨとろぴかる……（笑）。
メイド　上に浮かんでるパイナップルの星が〝夢〟と〝希望〟になりま〜す♪
自演乙　うおおお！　マジっすか！（喜色満面で）。
メイド　ハイ。〝夢〟と〝希望〟を入れておきましたので、よ〜くかきまぜてお召し上がりくださいね（ニッコリ）。
自演乙　ワ〜イ！　夢と希望をゲットしたでぇ〜♪　コレ、食ったら4月の世界トーナメントに選ばれないっすかね？（笑）。
――実際、そういうウワサはありますし、世論的にも「自演乙に出てほしい」って声が圧倒的じゃないですか。谷川（貞治FEG代表）さんもよく「格闘技は人としておもしろい人が、ドラマを見せられないとダメだ」と言ってますけど、そういう意味ではまさに最適の人材だな、と。
自演乙　まぁ、僕の物語はまだまだ続いていきますから。しかも僕には〝あ〜やとの競演〟という究極の目標がありますんで。
――えっ？　あやや（松浦亜弥）じゃなく、あ〜や？
自演乙　平野綾さんですよ！　知らないんすか？（あきれた表情で）。
――あ、自演乙さんの大好きなアニメ『涼宮ハルヒの憂鬱』の涼宮ハルヒ役で知られるカリスマ的人気の声優さんですね。……でも、そういう話とかすぐ来るんじゃないですか？
自演乙　いやいや、まだ全然カスってもいないですって！　それに、こういうのは周囲から自然と「ぜひ、どうぞ」とならないと意味がないかなって。
――そこもドラマにしていきたい、と。
自演乙　はい。今年の自分の物語の最大のクライマックスは平野綾さんと競演すること！　その野望を達成するために趣味（試合）も頑張りたいな、と。
――ちなみに今回の入場では声優の……。
自演乙　中島愛（めぐみ）さん！　通称・まめぐさんですね!!
――あれは会場がどよめいてましたね。いきなりかわいい声優さんの「会場のみんな〜！」って声から入ったんで観客も度肝を抜かれた感じで。
自演乙　あのセリフは自分で考えたんですよ。「ハイパー自演タイムを表現したい」とTBSさんに相談したら、ああいう演出を考えてくれまして。でも、あのまめぐさんとコラボできたのは、もう感動を超えてますよ！　ホンマ凄いですよ！
――そのコスプレもじつはオタク的に深い意味があったみたいですね。
自演乙　そうなんです。あれは『マクロスF（フロンティア）』のコスプレだったんですけど、この中に出てくるマクロスって戦艦はそもそも2009年2月に地球から飛び立ったんですよね（真剣な表情で）。
――あ、マクロスの記念日とひっかけた感じで。
自演乙　で、僕がK-1の計量をしていた日に、秋葉原でマクロスの宇宙進宙式っていう記念イベントもやってるんです。なんで、「僕も一日遅れで、旅立ちたい！」という気持ちがあのコスプレには詰まってたんですね。ただ、その日の記者会見のコメント時間があまりにも少なくてそのことが言えなかったんです。そのために『マ

クロスF』を選んだわけですから。ショボ～～ンですよ……（沈んだ表情で）。

——そこまで入れ込んでましたか。

自演乙　ええ。だって、2009年の2月に試合がある、となったらこれはもう『マクロスF』しかないでしょ？

——詳しいことはわかりませんが……、そういうオタク的なツボのつき方は見事ですね。

自演乙　自分はいちコスプレイヤーであり、いちアーティストなんで、観ている人を総合的に満足させたいな、と思ってますから。

——ただ、格闘技って自己プロデュースがあまりうまくいかない世界なんで自演乙さんの存在は凄く貴重だと思いますね。

自演乙　どうでしょう？　プロデュースしてるっちゃあ、してますけど、元が元なんで（笑）。無理に自分のキャラを作ってるわけじゃないですし、そういう（オタク的な）才能があるからじゃないですかね。

——素の自分を無理なくデフォルメさせているというか。

自演乙　どっちかというと「隠したら？」と言われがちな趣味をおおっぴらにしてるだけなんで（笑）。そこに「お客を満足させたい」というプロ根性が合体してうまくいっているのかな、と。

——その「隠したら？」って部分も水増ししてる感もないですし。「自分を開けっぴろげにする」って意味で、あの入場シーンは感動的ですらありましたから。

自演乙　ありがとうございます！　ホンマに素ですね。逆に素じゃなかったら、すぐバレると思うんですよ。「ニワカか？」とかすぐ言われちゃいますから。

——そういう意味でメイド服やネコ耳を着けて入場している佐藤光留選手とかはどう思われます？

自演乙　僕は佐藤さんのプライベートは存じ上げないんでなんとも言えないんですけど……。誌面上だけでは、変態キャラ的なイメージを目指してられるのかな、と。

——オタクというよりは変態的なアプローチで。

自演乙　なんで、「僕とはまったく畑が違うのかな」と思いますね。

——入場のプロデュースの先駆者である須藤元気さんはどう思われます？

自演乙　単純に尊敬してますね。須藤さんのことを凄く詳しく知ってるわけじゃないですけど、須藤さんはアートの勉強をされてパフォーマンスを考えられてましたよね。それって自分で作り上げるものじゃないですか？　でも、僕のほうは単純に自分の趣味を見せつけてるだけなんで（笑）。

今回、取材したお店は自演乙のホームグラウンド・秋葉原にあるメイド喫茶「MaidStationCafe」（千代田区外神田3-10-12 日加石油ビル4F TEL. 03-3253-0033）！ キュートすぎるメイドさんに萌えまくること確実

須藤元気さんと違って、僕の入場は自分の趣味を見せつけているだけ

——趣味を勝手に見せつけてるだけ（笑）。

自演乙　須藤さんはお客さんが求めるものを考えてたと思いますけど、自分は「俺の好きなものを観てくれよ！」「おまいらアニメ観ろよ！」と発信したいだけなんです。おもしろいアニメを自分だけが知ってたら、「頼むわ！　この番組観て！」ってなるじゃないですか？

——そういう意味で、「理解されなくてもかまわない」「ドン引きされてもかまわない」という覚悟すら見えましたね。

自演乙　全然、かまいませんよ！　ただ、何人かが「あのアニメの名前、なんやったっけ？」と思ってくれたら、僕の仕事は成功です！

——ただ、よく知らない人には、「戦略的にオタクイメージを作っているんじゃないか？」とか言われると思うんですが。

自演乙　あります、あります！　でも、自分から「（オタクとして）認めろよ」とも言わないし、どう思われようが、僕の広めたい作品やアニメがちょっとでも観た人の頭に残ればいいな、と。

——なるほど。今日はどうして自演乙さんが、オタ道に入っていったのか聞きたいんですけど。

自演乙　きっかけ自体はよくわからないんです。だって子どものときとかはアニメとかは誰でも普通に観るじゃないですか？

——ええ。『ドラえもん』なり『ドラゴンボール』なり。

自演乙　それが、いまも延々とつながっている感じで。ただ、あえて言うなら中学か高校かに『サクラ大戦』っていうゲームがありまして。

——一世風靡したセガの大人気アドベンチャーゲームシリーズですね。

自演乙　メチャクチャかわいい女の子が出てきて、声もかわいかったりして。「こういう世界は楽しいな～♪」って目覚めましたね。

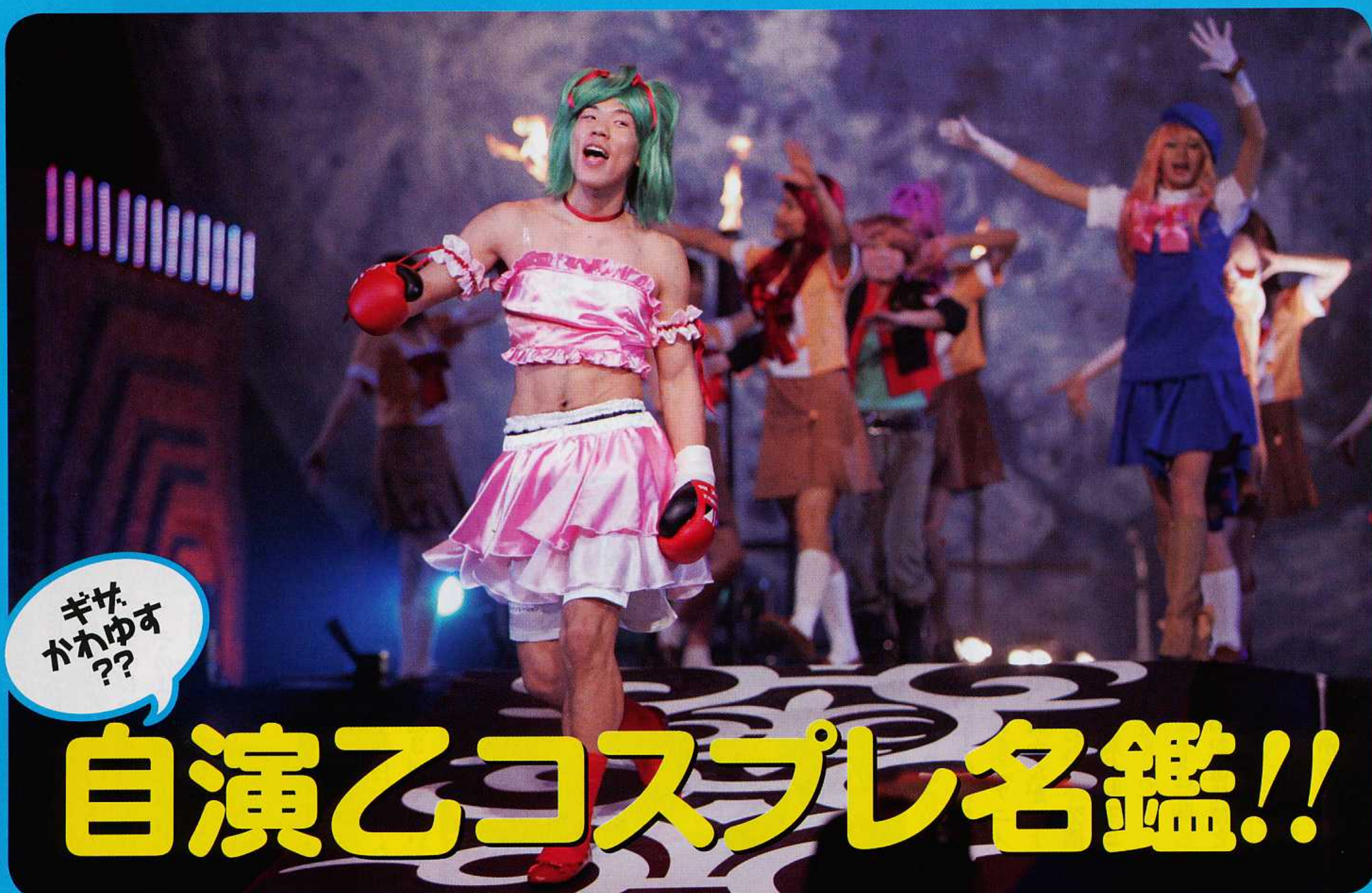
——そういう世界が好きな人も、高校とかで異性を意識し始めると思うんですけど、そこで「こういう趣味は卒業しよう」とか思わなかったですか？

自演乙　いや、自分はそういう方面にうとかったですし。あと、都合がよかったのは男子校だったから、学校の中では女子のことは気にせんといられたし。どっちかと言うと引きこもりというか。毎日、"自宅警備"が主な仕事やったんで……。

——主に自宅警備担当でしたか（笑）。

自演乙　学校でゲームの攻略本を読んだりして気持ち悪がられたりもしましたけど、メインは自宅やったんで（笑）。あと、高校のときは『スレイヤーズ』ってアニメも好きでしたね。声優をやってた林原めぐみさんって方が凄い好きやったんで。

——『新世紀エヴァンゲリオン』の綾波レイ役で知られる超人気声優ですね。

自演乙　それに、高校時代ってみんなCDとか買い始める時期じゃないですか？　で、「始めて買ったCDなんなん？」とか友だちに聞かれたときに「林原めぐみのベスト！」とか言ったら、「はぁ？」って言われてしまって。

ギザかわゆす??

自演乙コスプレ名鑑!!

乙! 1月29日、K-1デビュー前に念願の声優デビュー!! 現場にはアフレコを行なうアニメ『地獄少女 三鼎』主人公"閻魔あい"のコスで登場も、声優の難しさを実感。共演の加藤夏希は「このコスで試合して」と仰天エール!

乙! K-1 MAX2回戦の入場ではランカ・リーのピンクのコスで登場（写真最上段）するも、試合は無念のドクターストップ。めげずに表彰式ではランカ・リーの『マクロスF』最終回時のワンピース衣装で出現! 3パターンをシッカリ披露した。

乙! 「やっちゃっていいんだね?」と2月23日のK-1 MAX1回戦に『マクロスF』のランカ・リーのコスでヲタアイドルの中野腐女子シスターズと入場! 入場前は「私と一緒に乙くんを応援して!」とランカ・リー役の声優・中島愛がイントロデュース!

乙! 08年11月には、ボーカロイドソフト・初音ミクのコスで両手にネギを持ち、ネギ踊りしながら登場! だが試合では、NJKFスーパーウェルター級王者になったのだからさすがだ。

乙! 08年12月DEEPでは、ニコニコ動画ネタの『パラライカ』の替え歌『やらないか』で入場。元ネタのゲイマンガキャラ"阿部さん"のお面で登場、会場にもお面応援団が大増殖!

乙! 1月14日のK-1 MAXカード抽選会では『魔法少女リリカルなのは』のヴィータ副隊長のコスで出現し異彩を放ちまくり、サダハルンバも「決勝まで行っちゃうかも」と期待感爆発!

乙! K-1デビュー前の公開練習では、十八番の涼宮ハルヒコスで登場した自演乙。ジムには大勢のコスプレイヤーが集結、最後はダンス&歌で異様な盛り上がりとなった。

──ワハハハハ！　みんながGLAYやミスチルを聴いてる中、一人だけ林原めぐみさんをチョイス。

自演乙　ええ。迷わずめぐのベストを買ったら、「誰やねん？」と。

──その林原さんが参加されてる『エヴァンゲリオン』はいまのアニメ市場を作ったビッグバンだと思いますけど、自演乙さん的に『エヴァ』はデカくなかったですか？

自演乙　いやいや、だって『エヴァ』って僕、小学生ですよ！

──まだ小学生でしたか（笑）。

自演乙　当時、リアルタイムで観てましたけどね。放送時間が夕方6時半くらいですから、小学生は普通に観るじゃないですか？　ただし、まったく意味はわかりませんでしたけど（笑）。

──小学生では理解できないでしょうね。むしろトラウマになるようなアニメで。

自演乙　オープニングの「『残酷な天使のテーゼ』がカッコいい！」ということだけはわかりましたけど（笑）。ただ中学、高校でも『エヴァ』ブームは続いてたんです。それで再放送で観返したりして、かなりハマりましたね。

──ただ、格闘技を始めた時期とオタク活動ってどう両立してたんですか？

自演乙　格闘技は小学5年くらいから、週に2回程度の柔道をやってたんですけど真面目にやってたわけでもなく。その流れで中学校でも柔道部に入ったんですけど、部活にいそしむ時間はなかったですね。やっぱり自宅警備に忙しくて（笑）。

──引きこもりの柔道部ってのも凄いですけど（笑）。

自演乙　ええ。見るに見かねた部活の先生が「卒業できへんぞ！」と車で朝、家まで迎えに来てくれて無理矢理学校に連れていかれたりもしましたし……。

──超問題児じゃないですか！

自演乙　こっちも迎えに来られるのがイヤやから、あえて学校の先生が来そうな時間に家を出て、そのまま公園に直行してましたね。で、公園でポカ～ンとしたり（笑）。

──はぁ～。よくそんなんで中学を卒業できましたね。

自演乙　そのへんは義務教育ですし。いろいろ協力してもらって、でもホントに出席的にはギリでした。で、高校になったら、フルコンタクト空手を週3回くらいやってたんです。ただ、その頃も深夜アニメを録画したり、深夜のアニラジ（アニメラジオ）を録音したり。で、おかんがパートに行ったタイミングを見計らって、公園から帰ってきてまた家で聴いたりしてましたね……（遠い目で）。

──高校時代も自宅でアニメ三昧。じゃあ、同級生は自演乙さんの記憶はほとんどないでしょうね。

自演乙　あ、ホントにないと思いますよ。きっと、テレビで観てもわからないんじゃないですか？

©FEG Inc.

2.23 K-1MAX前々日の個別会見でのK-1公式フォト。コスは『とある魔術の禁書目録』のヒロイン"インデックス"らしいのだが、ファイティングポーズが常識の世界も自演乙劇場には通用しない。

──なるほど。ちなみに"オタクの祭典"コミケ（コミックマーケット、年に2回開催される世界最大の同人誌即売会）とかは行かれたりするんですか？

自演乙　あ、去年は冬コミに行きました!!　それなりにお金も持っていけるようになったんで。

──やはり行ってましたか（笑）。

自演乙　コスプレ広場に行って、普通にビータ（アニメ『リリカルなのは』のキャラ）になったりしましたし。同人誌も、「どの作者がいい」というところまでは詳しくないですけど。パッケージを見せてもらって、「絵がかわいかったら買おう」って感じで。まだまだ日々勉強中です。

──ちなみにアニメって一日どのくらい観てるんですか？

自演乙　数えられないですよ！　ヒマな時間があれば、ひっきりなしに観てますから。

──まるで息をするように（笑）。

自演乙　ええ。観てなくてもアニメは常に流れてますし。空気と同じですよね、生活の一部というか。

──でも今後、有名人になってモテてきたりするとオタク道に支障をきたすこともあると思うんですけど。

自演乙　ええっ！　そんなことあるんですか？

──ええ。オタク系の有名人にはよくあるパターンみたいですけど。

自演乙　そうか。自分はモテたいとかは、考えずにいたんで……そんなことがありますか（唖然として）。

──そこは考えてませんでした？

自演乙　考えてたら人前でこんな格好できないですって！　でも女の子は好きなんで、結果的にモテたらそれはそれでうれしいですけど（笑）。

自演乙が選ぶアニメベスト3!!

1位　『CLANNAD ～AFTER STORY～』（ポニーキャニオン）

「オープニングが素晴らしすぎる。何回泣いたことか!」と自演乙大絶賛!　学園恋愛アドベンチャーゲームのアニメ化。第2期作品で、主人公たちの卒業以降のストーリーを描く。

2位　『バトルアスリーテス大運動会』（ジェネオン エンタテインメント）

「ズバリ、かわいい子たちの運動会!」と自演乙が薦める2位は、50世紀の未来を舞台に世界最高のスポーツの祭典『大運動会』をめざす少女たちを描いた壮大なSFスポ根だ。

3位　『きんぎょ注意報！』（フロンティアワークス）

「子どものとき、熱中して観てました」という第3位は、異色の少女ギャグマンガのアニメ化作品。都会育ちのお嬢様と、田舎の中学生たちとの意識のズレを描いた人気作品。

自演乙"殿堂入り"作品

殿堂入り！

『涼宮ハルヒの憂鬱』（角川書店）

一言「神！」とコメントをくれた自演乙の"殿堂入り"作品。女子高生の涼宮ハルヒが結成したSOS団を中心にトンデモない事件が勃発するライトノベル発の超人気学園もの。

──ちなみに2次元の女性と3次元の女

自演乙　まぁ、できないでしょうね。

好きな女性のタイプですか？

——ちなみに2次元の女性と3次元の女性ではどっちが好きですか？

自演乙　（即答で）メインは2次元です！

——やっぱりメインは2次元（笑）。

自演乙　いまのところプライベートで2次元に勝てる3次元の方がまだ見当たらないんで……基本的には2次元ですね（真剣な表情で）。

——あと、オタクからの目はどうなんでしょう？「コスプレがヌルい」とか言われるのが一番ツラいと思うんですが。

自演乙　いや、そこは自覚してますよ。自分はヌルヲタです（キッパリ）。普通の格闘家だったら、目標は「K-1で優勝したい」とかなんでしょうけど、僕の目的は「ヌルヲタから立派なガチヲタになりたい！」ということですね。その過程を見てもらいたいし、コスプレで稼いだお金で、アニメのDVDやマンガを買ってどんどんオタク知識を覚えていければな、と。

——あと、テレビの解説席って解説しなきゃいけないんですけど、自演乙さんの入場シーンは誰も解説できてないですよね。

自演乙　まぁ、できないでしょうね。

——これからは、オタク解説が必要なのかなって。

自演乙　僕のときだけ、しょこたんに解説をお願いしたいですよ。「このコスプレはあのアニメのあのシーンですね！」とか的確な解説をしてくれると思うんで。

——ええ、入場でネギを振り回されても（08年11月、初音ミクのコスプレでネギを振り回しながら入場）一般人はまったく意味がわからないですから（笑）。

〈ここで自演乙選手のマネージメントを手がける佐伯繁DEEP代表が登場〉

佐伯　あれはさ、ネギを投げたのがマズかったんだよなぁ～。

ながしま☆じえんおつ☆ゆういちろう■1984P年7月2日、兵庫県出身。現NJKFスーパーウェルター級王者。大阪市の魁塾に所属。「コスプレが本業、試合は趣味」を公言するコスプレキックボクサー。2月23日のK-1 MAX日本代表トーナメントに参戦し2回戦進出、コスプレと同時に卓越した実力者ぶりも披露。175cm、70kg。

好きな女性のタイプですか？基本的にメインは2次元ですね！

——ワハハハハハ！

自演乙　ええ。失敗しましたね（笑）。

佐伯　でもさ、俺なんか自演乙の話は何を言ってるのか、ホントに全然わからんよ！

——そりゃそうでしょうね（笑）。ちなみに今後、やってみたいコスプレは？

自演乙　今期のアニメだと『まりあ†ほりっく』だとか。あと、『我が家のお稲荷さま。』でしたっけ？

——すみません。僕も何をおっしゃってるか全然わかりません（笑）。

自演乙　（聞かずに）あとは『もえたん』とかかなぁ～。でもコスプレだけで入場するんなら誰でもできるじゃないですか？　だから、レイヤーとしてお客さんを満足させるためにダンス以外も考えてることはいっぱいあるんですよ！　今後はそのへんもうまいこと折り合いをつけながら、好きなキャラでコスプレも選びたいな、と。

——あと、テレビではバックステージで号泣してるシーンが流れてましたね。あれも評判がよかったみたいですが。

自演乙　いやいや、あれはキャラ的には営業妨害ですよ！　僕は基本的にツンデレというか。ツンツンしていたいんで。ただ負けたのはやっぱり悔しいですし、まめぐさんのセリフも決勝用のものがあったんで残念なんですよ!!

——その悔しさを次戦にブツけてください！　最後に自演乙さんのアニメのベスト3を教えてほしいんですけど。

自演乙　え？　ベスト3ですか？　そうやななぁ～。なんやろうなぁ～。『ハルヒ』って言ったら、また「ニワカ」とかバカにされそうやしなぁ……（困った表情で）。

——ワハハハハ！　そのへんのセンスの闘いは厳しそうですね。

自演乙　どうしようかなぁ～。難しいなぁ。佐伯さん、なんかいいのないですか？

佐伯　はぁ？　俺に聞くなよ!!

——ワハハハハハ！

佐伯　ま、俺が一番好きなのは『（ハイスクール！）奇面組』だけどな！（自信マンマンで）。

——ワハハハ！　佐伯さんのベストは『奇面組』（笑）。

佐伯　知らんやろ？

自演乙　いやいや、知ってますって！　主題歌はうしろ指さされ組でしょ？　「うっしろ指～♪　さっされ組～♪」（歌いだして）。

——え～。キリがないので今日はこのへんでお開きにしたいと思います。今日はありがとうございました！

【09年2月23日／都内・秋葉原『Maid Station Cafe』にて収録】

金原　青木くん、手でかいねえ！

青木　そうっすか？　よく「でかい」って言われますね。

――桜庭選手も手が大きいって言われますけど、それくらいありますか？

金原　いや、サクよりでかいでしょ。高田（延彦）さんと同じぐらいあるんじゃないかな。グラップリング強いわけだね。身長も俺より高いし、うらやましいよ。

――もし青木さんが金原さんの時代にいたら、ヘビー級でやらされてたんじゃないですか（笑）。

金原　そりゃそうでしょ。軽量級なんかなかったからね。俺だって一番増やしたとき、97キロあったんだよ。でも、いま俺ぐらいの身長だったらみんな70キロとかでやってるもんね。

――ホントはライト級がベストウェートなのに、ヘビー級でやってたわけですからね。凄い時代ですよ。で、今日は青木選手がそんなかつての〝U〟の環境や技術に興味がおありだ、ということでこの対談を組んだんですよ。

青木　真面目に思いますからね、すげえなって。

金原　どこに興味持ったの？

青木　まずは技術ですよね。桜庭さんがバック取らせてアームロックを凄くうまく極めるじゃないですか。UWFってバック取らせてのアームロックと足関節だと思うんですよ。柔術が入ってくる前で、ポジショニングの概念がない中でサブミッションだけが異常に長けてるっていうか、それが凄いなって。

金原　俺たちUWFの技術って、もともとサブミッションがあるレスリングだから、背中をマットに着いちゃいけないっていうのがあるんだよね。だから、俺たちにとっての〝ガードポジション〟って〝亀〟になることで、ガードポジションから極めるバリエーションがあるのと同じで、亀から極める動きっていろいろあるんだよね。その一つがバック取らせてのアームロックなんだけど。

ワオ木さん格闘技探求シリーズ

MMAの源流をたどる！

青木真也×金原弘光

“U”ってロマンありますよ！

「いま“U”の技術に興味があるんですよ」自他ともに認める格闘技オタク、ワオ木さんから編集部にこんなメッセージが届いた。「柔術のポジションという概念がないことで、極めが発達したところがおもしろい。中でもカカレコ極めちゃう金原さんって凄いですよ！」というわけで、早速、ワオ木さんと金ちゃんの対談を組んじゃいました！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／タイコウクニヨシ

青木　金原さんも（アレッシャンドリ・）カカレコ極めてましたよね。あれ観て、「カカレコを極めるってすげえな」って思いましたよ。

金原　あ、そう？　WOWOWで放送されたビデオかなんかで観たの？

青木　中井（祐樹）先生に「観ろ」って言われて、ネットに落ちてたの観たんですよ。「あのアームロックはいい」って。

金原　そうなんだ。前にも「金原さん、カカレコを極めるなんて凄いですね」って言われたことあるんだけど、どれくらい凄い選手なのか、よく知らないんだよね（笑）。

青木　ボクの中でカカレコっていうのは、凄い選手ですよ。

――『アブダビ』のベスト3常連ですよね。

青木　05年にホジャー（・グレイシー）と決勝でやったときも極めさせませんでしたからね。練習でも（アントニオ・ホドリゴ・）ノゲイラをパスできるのはカカレコだけだっていいますから。

金原　当時、試合前に前田（日明）さんに「今度の相手は日本じゃあまり知られてないけど、ブラジルじゃトップの強豪らしいから、こいつに勝ったらロレックス買ってやるからな」って言われてね（笑）。

青木　それでロレックス買ってもらったんですか？

金原　買ってもらった。でもね、田村（潔司）さんがヘンゾ・グレイシーに買ったときは金無垢のロレックスだったけど、俺のときはコンビだった（笑）。

――ガハハハハ！　金無垢まではいかない（笑）。

金原　前田さんと一緒に買いに行って「金無垢はダメやで」って言われたからね（笑）。

青木　でも凄い！　景気よかったんスね。

――青木さんも佐伯さんに「ウェルター級GP優勝したらロレックス買ってくれ」とか言ったほうがいいんじゃないですか（笑）。

青木　佐伯さんは逆に「賞金でロレックス買ってくれ！」って言うでしょ（笑）。でも、ヘンゾとかカカレコに勝ったらロレックスって超いいですよ。やる気になりますよね。

金原　前田さんって、そういうハッパのかけ方してくれるんだよね。その代わりキツいのばっかり当てられたけどね。ダンヘンが初めて来たときも「アメリカじゃ有名なヤツらしいから、金原いけ！」っていきなりやらされてさ（笑）。

青木　門番的な。UFCのクリス・ライトル的でカッコいいですよ。それはリングスのときですか？

金原　そうだね。グローブ着けてやってたから、リングスの後期。

青木　その前はどこにいたんですか？

金原　その前がキングダムで、最初に新弟子で入ったのがUWFインターだね。

青木　その「新弟子で入門」っていうのがいいですね。僕らって内弟子制度じゃないんで、ちょっと憧れてるんですよ。

金原　憧れるようなもんじゃないよ（笑）。

青木　みんなで練習して、食事して、合宿所で一緒に生活してるんですよね。それがカッコいいな、と思って。

金原　あの団体ってシステムは、選手としてデビューして、ある程度経ったあとはいいんだよ。でも、ペーペーの練習生時代は地獄のような毎日だからさ（苦笑）。

青木　でも、みんなで暮らしてて楽しいだろうなって思うんですけど。

金原　楽しいこともあるけど、それはちょっとだね（笑）。練習以外にも、ちゃんこ番とかやって、みんなの飯作らないといけないし、先輩の洗濯とかもしなきゃいけないし、自分の時間はほとんどないんだよ。風呂も先輩が入らない限りは入れないし、外出するにも許可がいるから言えないしね。

青木　許可ッスか！　それは誰に許可を得るんですか？

BAKA-SURVIVOR×BOYA-KING

カカレコから一本極めた映像を観て「金原さんすげえ」って思いましたよ

金原　若手の中で絶対的な権限を持ってたのが寮長だから、その寮長だよね。

――有名な赤いパンツの頑固な寮長ですよね（笑）。

青木　田村さんのほうが先輩なんですか。

金原　2年ぐらい先輩かな。

――田村さんは新生UWFからやってて、金原さんが入ったUインターではもうけっこう上のほうの人だったんですよ。

青木　そういう上下関係があったから、桜庭さんとかがいつも言ってるんですね。

――そういうことです。桜庭さんと田村さんは同い年ですけど、田村さんのほうが何年か先輩だから、団体内では絶対的な上下関係があるという。

金原　もう入った順だからね。

青木　入社順みたいな。

金原　そうそう、年齢は関係ない。

青木　桜庭さんがこれだけの地位を確立してるんだから、気にしなくていいのにって思いますけど、やっぱりあるんですね。

金原　当時、先輩には一切口答えできなかったんだよ。で、普段の生活がそうだから、練習とか試合で先輩とやると、どっかで遠慮しちゃう部分があるんだよね。「ここで極められるんだけど、まあいっか」って、どうしてもなっちゃう。

青木　柔道とかもそうッスよ。高校1年でインターハイの静岡県の決勝戦で3年生の人と当たったんですけど、それが中学時代にずっと僕がイジメられてた人で、決勝やる前に「もう今日はいいかな」って思いましたからね。

金原　そこでおもいきって「日頃の恨みだ！」ってやれるヤツは凄いと思うけど、なんかやっぱりね、どっかで引いてる自分がいるんだよね。

青木　難しいですよね。ヤバいなあ、UWF。金原さんの後輩って誰がいるんですか？

金原　高山（善廣）くんとか、あとサク、ヤマケン（山本喧一）、松井（大二郎）かな。

青木　松井さん、いい味出してますよね！

金原　リングスでは滑川（康仁）だよね。

青木　滑川さんも味ありますよね。

――滑川さんはリングスに新弟子が一人しかいなくて、雑用に追われすぎてデビューが遅れたっていう伝説がありますからね（笑）。

青木　マジですか！

金原　しかもさ、前田さんって翌日デビューを控えたヤツに、試合前日テストとか言って、受け身何回とかスクワット何回とか全部やらせるんだよ。次の日試合なのに（笑）。で、試合後に「おまえの試合、ボロボロじゃねえか」って言ったら「いや、デビュー前テストがありまして。前田さんにやれって言われました」とか言ってて。

青木　すげえなあ！

金原　そのシステムは俺も知らなくてさ。リングス入って衝撃を受けたの。

――デビュー前の最後の難関が試合前日にあるんですね（笑）。

金原　そうそう。滑川のデビュー戦はシュートなのに、試合前日にスクワット2000回とかやってるからね。

撃能力

青木　それ、心折れるどころじゃないですね。滑川さんのほうが松井さんより先輩

よ。だから、大きなケガにならずにすんで、あれは凄くよかったね。

1996年3月1日、日本武道館。金原はプロレスラーながら、完全なキックルールでムエタイの大物チャンプア・ゲッソンリットと対戦。僅差の判定で敗れたものの、タイ人相手に互角の闘いを見せ、その打撃能力の高さを証明した。

青木　それ、心折れるどころじゃないですね。滑川さんのほうが松井さんより先輩になるんですか？

金原　松井はUインター時代の後輩だから、業界的には滑川よりちょっと先輩になるのかな。松井なんかたぶんいまでも「おまえ、スクワット1000回やれ」って言ったらやるよ（笑）。そういう教育を受けてるから。

青木　松井さんは凄いなあ。

金原　ただ、あいつの場合はね……結局ね、UWFっていうのは後輩が入ってきて、ようやく極める練習を始められる感じなんだよね。後輩が入るまでは、ずっと先輩の実験台みたいなもんだからさ。で、松井の場合は後輩がいなくて、先輩から極められるばっかりだから、逃げるのだけはうまくなったの。でも自分が極めることは知らないでしょ。だからPRIDEとか出た頃も、極められはしないけど、自分も極めることができなくて判定までいっちゃうんだよね。でも、Uインターの新弟子やってただけあって、根性は凄いから、絶対にあきらめないよね。

青木　凄いッスよね。ボコボコになってもグワーッて向かっていきますもんね。

金原　だってUインター時代は、しょっぱい試合やったりしたら、高山くんとかに試合後、控室で「なんだよおまえ、その試合」って、顔面蹴られたりしてたからね。

青木　怖いなあ……。そういう環境にいたら、強くなれますよね。心も身体も。

金原　あと、練習環境が凄くよかったよね。道場で飯も食えるし、昼寝もできるし。ムエタイのコーチがいて、フィジカルのコーチがいて、リングスではマッサージのトレーナーもいたから、練習中にケガしても、すぐにその場で応急処置してくれるのよ。だから、大きなケガにならずにすんで、あれは凄くよかったね。

青木　道場にムエタイのコーチがいたから、金原さんはミドル（キック）がすっごいきれいなんですね。

金原　ボーウィー・チョーワイクンっていう、強いタイ人がいたから、さんざん教えてもらったからね。タイにも何度か練習に行ってるしね。

――金原さんは、プロレスラーなのにタイで3回もムエタイの試合やってるんですよね（笑）。

金原　ヒジありで、ムチャクチャ減量してやったよね。

――青木選手も去年、タイに行ってますよね。

金原　チョーワッタナジム？

青木　いや、僕はピーナンジムっていうジムなんですけど。ムチャクチャ汚くて。

金原　タイのジムは汚いよね。でも、たぶん俺が行った頃よりはきれいなんだよ。

青木　ホントッスか？

金原　うん。3～4年前にひさびさにタイに練習しに行ったんだけど、凄くきれいになってたから。それでも日本と比べたら、信じられないくらい汚いけど（笑）。

青木　自分も一日だけ行ったんですよ、チョーワッタナ。きれいでしたよ。

金原　でも、初めて行ったときは2階の合宿所に泊まったんだけど、人間の住むところじゃねえなって思ったよね。全員でザコ寝するんだけど、布団が汚くて、一日寝たらダニかなんかに食われて、身体中が虫刺されの跡だらけになったから。

――それも力試ししたいがために、タイへ渡ってムエタイの試合に出たんですよね？

金原　そうだね。

青木　ああ、ガチンコがやりたくて。

金原　やっぱり、まだ総合格闘技っていうのがない時代だったからさ。でも、道場ではガチガチの練習をしてるわけじゃん。

青木　要はモデルガンを手にして人を撃ちたい人の気持ちですかね。「ヤバい、試してみたい、このライフル」みたいな。もしくは、ずっと刀を研いで研いで、でもそれが使えないってことですからね。

金原　やっぱり若いし、自分の力が試したかったんだよね。だから、キックの試合とか日本でも出たかったんだけど、もし俺が負けたらプロレスラーの看板に傷がつくから、マスコミとかには一切告げず、タイに渡って3試合やったんだよね。

青木　ロマンあるっスねえ！

金原　そのあと、キングダムになってからは、ほとんどいまの総合と同じルールでやってたんだけどね。総合格闘技を興行として成り立たせるための過渡期だったからね。

青木　真剣勝負が特別だったっていう感じがまたいいですよね。UWFの寝技の練習はどうだったんですか？

金原　昔のスパーリングはね、ホントに「よーい、スタート」でやったら1時間ぐらいずっとやってた。

青木　で、押さえて一本取ってもまたそこからなんですよね？

金原　そうそう、そこから（笑）。

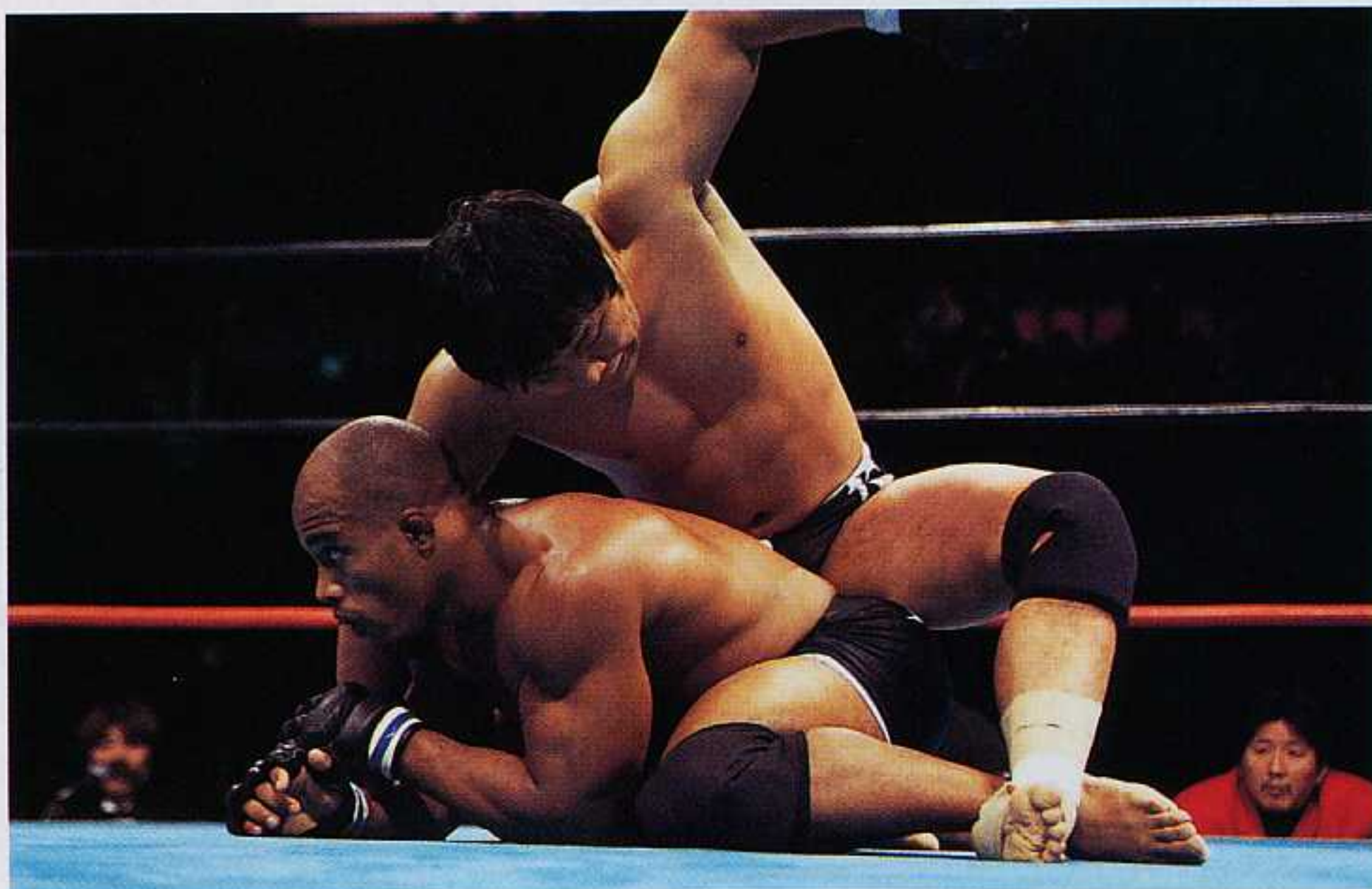
青木　それ練習じゃないんじゃないかって思ったんスけど（笑）。

金原　とにかく、最悪の状況から逃げることを覚えるって感じだよね。

青木　若手はそれで体力がついてくるんですよね、やられ続けることによって。

金原　そうそうそう。そうすると、1時間ぐらい経っても極まらなくなるわけよ。そのうち逃げるのがうまくなって。ただ、そういうシステムは俺とか桜庭の世代から変えていって、じゃあ5分1ラウンドでやって、みんなで回そうとか。いまみたいなスパーリングに変わってきたよね。

青木　当時、エンセン（井上）さんが練習に来られてたんですよね？

金原　そうそう。当時、シューティング（修斗）の人たちは、俺らU系に対して偏見があったみたいなんだけど、エンセンは俺らの試合を観て「こいつら絶対に強いはずだ」ってことで、練習に来たんだよね。

2000年12月22日、大阪。第2回リングスKOKトーナメントの1回戦で、金原はブラジルの強豪カカレコと対戦し、ダブルリストロックで一本勝ち。Uの寝技の強さをここでも証明。

BAKA-SURVIVOR×BOYA-KING

青木　中井さんが言ってたんですけど、中井さんたち、当時の修斗の人たちは、要は自分たちがアングラだっていう意識が強くて。Uインターやリングスといった、その当時のマスリングの人たちに凄いやっかみがあったらしいんですよ。だから「あいつらに会ったら、いつでも路上でぶっ殺してやる」とか真剣に思ってたらしいんですよ（笑）。

——そういう時代ですよね（笑）。

青木　当時、中井さんはエンセンさんに柔術を教えてもらってたんですけど、そのエンセンさんが金原さんたちのとこに練習に行って、「中井、あいつら強かったヨ」って言ったから、中井さんも、「UWFってホントは意外と強いのかな」って思い始めたって聞いたんですよ。

金原　エンセンも最初、佐山（サトル）さんに「あんなとこ行っても練習にならないから行かないほうがいいよ」とか、さんざん言われたらしいんだよね。でも、エンセンが練習に来たとき、お互い極めたり極められたりして。そしたらエンセンが帰って「ワタシもやられたヨ」みたいなことを言ったら、「ああ、そうなんだ」ってなったみたいだけど。

青木　中井さんが言ってました、凄い目を輝かせて。

——偉大なる文化交流ですよね。

金原　そう、俺らはガードポジションをまだ知らなくて、エンセンもUWFのサブミッションを知らないから、お互い知らない者同士で、「え、こんな技あるんだ！」とか、そういう感じで、いい交流だったよね。

青木　エンセンさんはヘウソン（・グレイシー）の弟子で、ホントに凄く強いらしいんですよ。試合では熱くなりすぎちゃいますけど。

金原　そうそう。練習強いんだよ。

青木　柔術がメチャクチャ強いって聞いて。

金原　だからね、試合観て、「エンセンもっと勝てるのに」っていつも思う。

青木　中井先生が「10分の1も出してない」って言ってましたよ。

——熱くなりすぎて、実力が出しきれてないんですか（笑）。

金原　ホントにそう。本番になるとあれグチャグチャになっちゃうんだよね。相手を殺したくてしょうがなくなるんだって（笑）。

青木　MMAじゃなくて、バーリ・トゥードとして考えてるんですね。

——完全に決闘、ケンカモードに。

青木　そうなんですよ。で、その強いエンセンさんが「あいつら強い」って言って、Uインターでアームロックとか学んできたわけじゃないですか。だから、中井先生はいまでもクラスでアームロックとか教えるとき、「これはUWFの技術だ」って言うんですよ。単純に中井さんも憧れてたと思うんですよね。

金原　でも佐山さんがもともとU系だから、修斗にもちょっとは伝わってるんじゃない？

青木　中井さんが言うには、シューティングは最初、寝技はそんなに強くなかったって言ってました。まだまだ柔道にちょっと毛が生えたぐらいだったって。

——佐山さん自身、ホントはそんなに寝技好きじゃなかったらしいですからね。

金原　あ、そうなんだ。

——キックボクシングが大好きで。でも、プロレスの天才だから、スーパータイガーの試合を観ると、関節技の達人に見えると

いう（笑）。

青木　とにかく昔のシューティングジム

内蔵も強くなきゃいけないからね。

青木　格闘技と肝臓は関係ないじゃない

——青木選手も3月、4月と連戦になりますけど。

いう（笑）。
青木　とにかく昔のシューティングジムは、ミドルを死ぬほど蹴らせて、死ぬほどキツいミットをやらされたって言ってましたね。超おもしろいですよ。
――総合の創成期はホントにおもしろいですよね。
青木　金原さんはいま、どんな感じで練習されてるんですか？
金原　いまは日体大のレスリング部に行ったりとか。あとキックボクシングジムに行ったり、スパーリングはTKのところでやったりしてるね。
青木　キックは誰とやってるんですか？
金原　伊原ジムの稲城支部っていうところがあって、そこにタイ人がいるから、そのタイ人と。あと新日本キックの選手とスパーリングやったり。
青木　現役として全然大丈夫ですね。
金原　身体は動くんだよね、なんか。
青木　デビューして何年になるんですか？
金原　18年かな。
青木　すげえ！　それでパンクラスとかで、普通にバーリ・トゥードやってるんだから、すげえなって思いますよ。
金原　たぶんね、UWFのときに基礎練習を目一杯やってたでしょ、それがあるからだと思う。プロレスラーって、新人時代がキツいから、身体がもともと丈夫なヤツしか生き残れないんだよね。だからみんな息が長いんだと思う。
――入門テストをクリアして、地獄のような新弟子生活に耐えられる心と身体がないと、デビューすらできないわけですもんね。
金原　タフじゃないと、練習生の時点で脱落してるでしょ。酒もたらふく飲むから、内蔵も強くなきゃいけないからね。
青木　格闘技と肝臓は関係ないじゃないですか（笑）。
金原　でも、ホントに「俺もう酒飲めないから」って辞めたヤツいたからね。あと、当時は毎月試合があって、ケガしても試合はやらなきゃいけなかったから、俺なんかヒザが痛くてランニングもできない状態になっても試合したりとか、そんなのしょっちゅうだったよね。

青木くんは若いから30歳ぐらいまでは年間12試合できるよ！

中井先生が俺に言うんですよ。アームロックはUWFの技術だって

かねはら・ひろみつ■1970年10月5日、愛知県出身。91年12月、Uインターでデビュー。その後、キングダム、リングスを渡り歩き、"リングス最後のエース"と呼ばれる。リングス活動休止後は、PRIDE、パンクラス等で活躍する大ベテラン。178cm、83kg。

あおき・しんや■1983年5月9日、静岡県出身。学生時代は柔道で全日本ジュニア強化選手に選ばれ、03年11月DEEPでデビュー。06年には菊地昭を破り修斗世界ミドル級王座を奪取。06年8月からPRIDEに参戦。現在は自称DREAMの大黒柱。180cm、75kg。

青木　それはガチンコですか？
金原　うん。リングスのときなんか、前田さんに「ちょっとヒビ入ってるんですけど」って言っても「ああ、ヒビだったらいいだろ」って言われて、それでやったりとか。無差別でKOKもその状態でけっこうやってたよね。
青木　やっぱりUWFはヤバいっスね！
――青木選手も3月、4月と連戦になりますけど。
青木　はい。
金原　ケガさえしなきゃ大丈夫だよね？
青木　大丈夫です。
金原　若い頃は、逆に試合をしてたほうがコンディションいいんだよね。
青木　そうなんですよね。
金原　俺なんかも毎月一回ぐらいがちょうどいいペースだったもん。
青木　いまのボクもそうですね。
金原　ただ歳とってくるとね、ちょっと億劫になってくるから。若いときはなんの問題もないでしょ。いまいくつ？
青木　今年26歳になります。
金原　それなら全然問題ないよね。年12試合やれるよ。
青木　押忍！（笑）。
金原　30歳ぐらいまで月イチでいけるんじゃない？
青木　金原さん、いまおいくつですか？
金原　38歳。28歳の頃は毎月できたもん。KOKになっても年8試合とかやってたから。それで2カ月に1試合になったけど、トーナメントばっかり出てたから、一回勝つと1日2試合とかで。
青木　キツッ！
金原　だから28歳ぐらいになったら2カ月に一回ぐらいにしたらちょうどいいかもね。
青木　押忍！　青木真也、今年はフル回転で頑張ります！
金原　俺もたくさん試合したいな～（苦笑）。
――では、青木選手の今年の活躍と、金原さんの試合がたくさん決まること祈ってお開きにしたいと思います（笑）。
【09年2月24日／都内・DEEPジムIMPACTにて収録】

DREAM名古屋初上陸!!

DREAM.8

WELTER WEIGHT GRANDPRIX 2009 1st ROUND

見るのは〝渾沌の夢〟か!?

Welter Dream

DREAM、名古屋初上陸！ 4・5『DREAM・8』愛知・日本ガイシホール大会では笹原圭一イベントプロデューサー（以下EP）が「今年のDREAMの核」と位置づけるウェルター級GPの開幕戦が開催される。3・8『DREAM・7』のフェザー級GP開幕戦がいま一つ爆発しきれなかっただけに、ここはしっかりと夢のある大会に仕上げたいところ。しかし、大会3週間前である3月13日現在、対戦カードはミドル級のゼルグ〝弁慶〟ガレシック vs アンドリュース・ナカハラ、ミノワマン vs 柴田勝頼（88キロ契約）とフェザー級GP1回戦の所英男 vs DJ．taikiの3つしか決まっていない。年頭に笹原EPも自信マンマンに「今年のDREAMはカードを早めに発表していきます！」と話していたのだが……。

その『DREAM・8』の中心はもちろんウェルター級GPだ。すでに桜井〝マッハ〟速人、青木真也、池本誠知、3・14『club DEEP東京』新木場大会で行なわれる白井祐矢 vs キム・ヨンヤンの勝者が出場することが決定。残り4人は外国人となることが有力だが、海外MMAニュースサイトなどでは、アブダビコンバット77キロ未満級を3連覇した柔術界の〝神童〟マルセロ・ガッシア、同じく柔術世界選手権優勝の常連アンドレ・ガウバォンらとの交渉が噂されている。また関係者筋の情報によると、崩壊したエリートXCのウェルター級王者のジェイク・シールズとも交渉中だという。シールズは〝非UFCのウェルター級最強の戦士〟と言われており、DREAMのウェルター級GPへの参戦が決定すれば、UFCが〝神の階級〟として最高峰を謳うウェルター級の勢力図に〝渾沌（ウェルター）〟をもたらす……と期待されていたが、締め切り直前になってエリートXCの資産を買収したストライクフォースが会見を開き、4月11日に米国カリフォルニア州で開かれる大会で元エリートXCミドル級王者ロビー・ローラーとジェイク・シールズによる階級を超えた王者対決を発表したとの情報が飛び込んできた。

『DREAM・8』の6日後の大会ということもあって、事実上シールズの参戦は難しくなってしまった。笹原EPも「外国人の核となる選手だけに、シールズはぜひ呼びたい」と語っていたのだが……。はたして代わりにウェルター級GPに参戦してくるのはどんな選手なのか？

ほかにも笹原EPは参戦候補選手としてホナウド・ジャカレイ、ジェイソン・〝メイヘム〟・ミラーといった元気でプロ意識の高いファイターの名前を挙げた。『DREAM・8』で新たに発足するウェルター級GPでは『DREAM・7』の悪夢を払拭することができるのか？

OLIMPIA presents

DREAM.8
ウェルター級GP
2009開幕戦

愛知・日本ガイシホール
4月5日（日）15:00開場／16:00開始

対戦カード

［ワンマッチ88キロ級契約］
ミノワマン vs 柴田勝頼

［ミドル級ワンマッチ］
ゼルグ“弁慶”ガレシック vs アンドリュース・ナカハラ

［フェザー級GP1回戦］
所英男 vs DJ.taiki

ウェルター級GP出場予定選手

桜井“マッハ”速人／青木真也／池本誠知
白井祐矢 vs キム・ヨンヤンの勝者

チケット料金

※全席指定・消費税込み
VIP 100,000円（特典:専用入場ゲート・グッズ付）
RRS 30,000円／スタンドS 17,000円
スタンドA 7,000円 ※1歳から入場券が必要。

お問い合わせ

DREAM事務局 TEL.03-5775-5065
http://www.dreamofficial.com/

おさわがせ男が大マジメに告白！

“暴行逮捕”騒動の真実

手錠をかけられたマスクマン

ザ・グレート・サスケ

皆さんもご存知のとおり、マット界で一、二を争う“おさわがせ男”ザ・グレート・サスケが暴行事件を起こし逮捕されてしまった。すでにサスケは処分保留として2月21日に釈放され自由の身となっているが、はたして今回の騒動の裏側には何があったのか？　いまだ報道されていない驚ガクの真実をサスケが『kamipro』読者にこっそり明かしてくれました！

聞き手／阿修羅チョロ　撮影／山口比佐夫　試合写真／平工幸雄

――サスケさん、今日はいろいろとお聞きしたいんですけど、何から聞

サスケ「なんで南千住なんだ？」っていろんな人に言われたり、都内在

その日は何をされてたんですか？

サスケ　その日はね、おもしろい商

よ。ほかの人たちに不快感を与えないよう、ビックリさせないよう、なるべく隅っこにいるようにしてて。

すから」って言うわけですよ。俺も次で降りるしちょうどいいやと思ってるうちに駅に着いた、と。そのとき

インリン様とハッスルの問題を私が身をもって鎮火させたのかなって（笑）

——サスケさん、今日はいろいろとお聞きしたいんですけど、何から聞いていいものか（笑）。

サスケ いやいや、遠慮せずになんでも聞いてください！ でも、その前に今回の件でまず言っておきたいことがあるんですよ。

——ほう、なんでしょうか？

サスケ インリン様が『ハッスル』を訴えた事件を、まさに私が身をもって鎮火させたのかなっていうね。

——残念ながら鎮火はしてないと思いますけど、先延ばしにはなったかもしれませんね（笑）。

サスケ まあでも、絶妙なタイミングでしたよね（笑）。

——確かに（笑）。ちなみに、今回の取材場所はサスケさんのアジトってことですけど、いったいなんのアジトなんでしょう？

サスケ ここはね、簡単に言うとスポンサーの方が借りてるマンションなんですよ。その方は沖縄で会社をやられている社長さんなんですけど、東京で新たに事業を立ち上げるってことで借りているところで、「俺がいるときは空いてる部屋を使っていいよ」って言っていただいてまして、タイミングが合えばお言葉に甘えて使わせてもらってる感じなんですよ。

——そういった理由もあって、今回の事件の現場もアジトのある南千住に帰る途中で起こってしまった、と。

サスケ 「なんで南千住なんだ？」っていろんな人に言われたり、都内在住のファンからは、「南千住にいること自体がショック」って言われたりね。

——ガハハハハハ！

サスケ 「いやいや、ちょっと待て。それは失礼だよ」と。もう昔の山谷じゃないんだからね、差別すんな、と。少し前に、石原都知事がね、「あのへんは2000~3000円で泊まれるところがあるんだ」なんて言って物議を醸したんだけど、そんなとこないですから。……ないとはいえ、2000~3000円では泊まれますけどね、いまだに（笑）。

——そうなんですか（笑）。ちなみにその日は何をされてたんですか？

サスケ その日はね、おもしろい商談があってですね。私をCMのキャラクターに使おうという話があって、浅草駅からタクシーでワンメーターぐらいのところで、建設会社の会長さんと、墓石販売の社長さんと話をしてたんですよ。

——建設会社の会長と墓石販売の社長ですか。

サスケ 「いずれお願いしますね」ってことで、まずは顔合わせ第一弾として、これから詰めていきましょうってことでね。で、その夜はそこで別れて、常磐線の北千住—南千住間の一区間内で事件は起きたという流れです。

——北千住—南千住間って3分ぐらいですよね。

サスケ それぐらいですね。で、私はいつも電車に乗るとなるべく外を見て目立たないようにしてるんですよ。ほかの人たちに不快感を与えないよう、ビックリさせないよう、なるべく隅っこにいるようにしてて。

——どうやっても目立っちゃうでしょうけどね。

サスケ そうなんだけどね（笑）。ところが、そのときは夜なので外を見てると窓ガラスが鏡のように映るわけ。で、うしろから妙に視線を感じて、なんか嫌だなと思ってチラッと見ると、ある種、悪意を持ったような目つきでニヤニヤ見られてね。ちょっと嫌な感じはしたんですけど、早く着けばいいなと思いながら、もう一回見たら、堂々と携帯のカメラを向けて撮ろうとしてるんですよ。

——背後から撮ろうとしたわけですね？

サスケ 背後というか、斜め45度左後方から撮ろうとしてたんです。しかもなんの断りもなく黙ってニヤニヤしたままで。ハッキリ言って、それは隠し撮りでしょう、と。いや、隠してもいないから、堂々とした盗み撮りをされたわけです！

——隠し撮りではなくて盗み撮りだ、と。

サスケ そういうことです。これはさすがに私もカチンときて、振り返って「やめろよ」って言いながら携帯電話取り上げて放り投げたんです。で、そのあとに胸ぐらをつかんで電車の出入口のところに追い詰めてっていう感じでしたね。

——乗客はけっこう乗っていたんですか？

サスケ もうガラ空きですよ。乗ってた車輌に5人いるかいないかぐらいで。で、被害者の方は「次で降りますから」って言うわけですよ。俺も次で降りるしちょうどいいやと思ってるうちに駅に着いた、と。そのときに、「もしかしたら、俺が気づく前から写真を撮ってて、メモリーカードでも隠してるんじゃないか」と思って、南千住の駅で降りてからカバンの中をチェックしたわけです。

——持ち物検査をされたわけですか。

サスケ そう、全部調べたんです。あとから冷静に考えると、ちょっとやりすぎたかなっていうのはあるんだけど、そこまで調べさせてもらったっていうのは、過去にも似たようなことがあったからなんですよ。

——似たようなことといいますと？

サスケ これまでも何度か無断で撮影されたことはあってね。そのたびに悔しい思いをしてるのは、私の待受画像とか、ちゃんとビジネスとしてオフィシャルでやってる人たちもいるんですよ。いまだとGAORAでもやってるはずだし、ちょっと前だとauのオフィシャルでもあったし、所属事務所のアルファ・ジャパンのラインでもあったし。だからそういうのを守らなきゃいけないっていうのが第一にあって。カメラつき携帯電話に関してはとくに厳しく、撮られそうになったときは「ちょっと待って。一緒に記念撮影ならいいけど、単体はごめんね」と。そういうのが積もり積もって爆発しちゃったっていうのもあるんですけどね。

——釈放後に「倫理観が暴走してしまった」と言ってましたよね。

サスケ そういうことですね。積もり積もってというのもあるんですけど、その人の態度に頭にきたっってい

サスケが逮捕された南千住駅近郊にあるアジト（関係者が借りているマンション）にて行なった今回の取材。都内近郊で仕事がある際にはこのアジトを頻繁に利用しているというだけあって、サスケがマスク姿で商店街も歩いていてもさほど驚く人はいませんでしたYO! YO!!

うのも正直ありましたけどね。かつてないぐらいのニヤけた態度で、しかも堂々と隠し撮りみたいな。それはさすがに過去になかったんでね。

――で、今回の取材場所のアジトまで戻る途中で警官に声をかけられたわけですね。

サスケ　その方と別れて、商店街を歩いてたら、「サスケさん、ちょっと待ってください！」と。

――そこでもう「サスケさん」なんですね。

サスケ　まあどっから見てもサスケですから（笑）。で、声をかけてきたのが自転車に乗った二人の若い警官だったわけ。ここからがじつは本チャンなんだよ。

――ここからが本チャン？

サスケ　厳密に言うとね、今回の一件は現行犯でもなんでもないんだよ。一般的に言う現行犯なら、その名のとおりじゃないですか。ヘタすりゃ電車内で捕まったとか、降りた瞬間捕まったぐらいの感じですよ、イメージで言うと。

――まあ、そうですよね。

サスケ　ところがそうじゃないんですよ。ここからが本題なんです。ほかでは語られない真実ですよ！

――よろしくお願いします！

サスケ　その若い警官は「ちょっとお話聞かせてください」って言うんですよ。私にしてみれば「いや、話すことは何もない。私は早く帰って寝たいんだ」と。そのときに私はふと議員時代を思い出したんですね。

――議員時代に何か似たような経験でも？

サスケ　いや、議員時代に私はですね……、これはもうハッキリ書いていいですから。警察の裏金問題を追及しようとしてたんですよ。

今回の逮捕の裏側には、議員時代に警察の裏金問題を追及して……

処分保留で釈放されたサスケはプロレス活動はしばらく自粛となったものの、イベント出演や出所祝い（？）で大忙しの様子。ちなみにこちらの写真は手錠をかけられ護送車に乗った場面の再現。う〜ん、スキャンダラス！

――前に『kamipro』のインタビューでチラっと語ったことがありましたね。

サスケ　そうそう。どんな裏金なのかっていうのは、もうこれ以上は言いません。ただ裏金問題っていうのは実際ずっとマスコミを賑わしてる永遠のテーマでもあるし、それぐらいは言っちゃっていいと思うんですけど、そういった問題を追及してた議員時代を思い出したわけです。

――警察官に声をかけられて、議員時代を思い出してしまった、と。

サスケ　うん。私は議員時代に、その問題を県議会の予算委員会、あるいは決算委員会の場で質問しようとしたわけです。ただ、その場合、あらかじめ質問の内容というのは県当局、警察当局にも提出しなきゃいけないわけです。

――そういうシステムなわけですね。

サスケ　そうです。そしたら当然、彼らは泡を食うわけですよ。で、裏から手を回してきて「引っ込めてくれ」と。これは言ってみれば圧力ですよね。私は議員になる前から常々申し上げてたんですけど、国家に陰謀はあるんだ、と。いやいや、国家どころか県にも陰謀はある。

――国家どころか県レベルでも陰謀がありますか!?

サスケ　うん。都道府県レベルでも陰謀はあるんです。まあ、このままいったら私も第二のＪＦＫかな、と。暗殺されるんじゃないかな、と。

――だ、第二のＪＦＫの可能性もあったと!?

サスケ　あった、あった。でも、それはそれで男としての生き方としては悪くもないなと思いつつ、でもその反面……、まあいろんな原因はあるとはいえ多くの国会議員の先生方が自殺だったり他殺だったり、あるいは原因不明の死だったり、まったくなんの脈絡もない人に刺されて死んだりとか、いろんな事件があるじゃないですか。

――いろいろと不審な死は多いですよね。

サスケ　まあ、私もその一人になるのかなと思いつつ、そんなことで命を落として職務をまっとうできないのも有権者の方々への裏切りにもなるんじゃないか、と。つまり立候補時に掲げた公約を当時は75パーセント達成してましたんで、残りの25パーセントをまだ達成してないところで、志半ばで倒れるのは、これもまた公約違反でもあると凄く葛藤して悩んだんですよ。

――悩んだあげく、どういう決断を？

サスケ　「じゃあ、いったんは取り下げよう」と苦渋の決断をしたわけです。世渡り上手になろうと。ただ、私は警察に対してどっかで「コノヤロー！」っていう思いはいまでもあるわけですよ。それがなぜかそのとき爆発しちゃったんでしょうね。

――盗み撮りをした個人というよりも、対警察という部分も大きかったわけですね。

サスケ　そうそう。「おまえら若造

毎度おさわがせします！サスケ逮捕から釈放、プロレス復帰までの流れ

2月19日（木）

☆23時45分
都内・浅草近郊での商談を終えたサスケは浅草から東武鉄道で北千住駅まで行き、アジトのある南千住駅に向かうためＪＲ常磐線に乗り換える。

☆23時50分頃
電車内で背後から携帯カメラで無断で撮影しようとしている男性の存在をサスケが確認。口頭で注意したものの、男性は撮影をやめようとしなかったため激怒したサスケは携帯を取り上げ床に放り投げる。それを取ろうとした男性の胸ぐらをつかみ、電車のドアに押しつけもみ合いとなる。

2月20日（金）

☆24時すぎ
サスケと男性の二人は南千住駅で下車。サスケはほかにも写真を撮影したデータ等が残ってるかどうかを確かめるため男性のカバンの中身をチェック。その後、男性と別れたサスケは南千住駅から徒歩5分のところにあるアジトへと向かい歩きだす。

☆24時15分頃
サスケと男性のもみ合いを目撃した乗客が駅付近を巡回中の署員に通報。数分後、駆けつけた二人の警官が駅近くの商店街を歩くサスケを発見し、事情聴取。その後、南千住警察署へと任意同行。

☆25時頃
南千住署で取り調べを受けたサスケが胸ぐらをつかんだことを認めたため、現行犯逮捕。取り調べ当初、サスケは自身が「ザ・グレート・サスケ」であることは認めたものの本名や年齢は黙秘。25時すぎ、サスケは規則によりマスクを外され留置所へ。

に話すことは何もない。話すんだったら上の人間を呼んでこい！」って言ったわけですよ。そしたらホントにパトカーが来ちゃってね。

——あららら。

サスケ　しかもそのパトカーもね、サイレンまでは鳴らしてないけども赤色灯は点けてるわけですよ。そこからは警察への悪態オンパレードですよ。「人権侵害だ。こんな赤い回転灯回してるのに俺が乗るのを誰かに見られたらどうすんだ！」って感じで消させて。「5分だけだったら話してやるよ」って署までパトカーに乗っかってね。

——5分だけの約束でしたか（笑）。

サスケ　まあ、その時点では任意の事情聴取ということで任意同行なんですね。で、南千住警察署に着いたときはもう夜中だったんだけど、何人かいるわけですよ。で、私の姿を見て、「誰だ、アイツは！」って言ったヤツがいたんですよね。

——それは警官ですか？

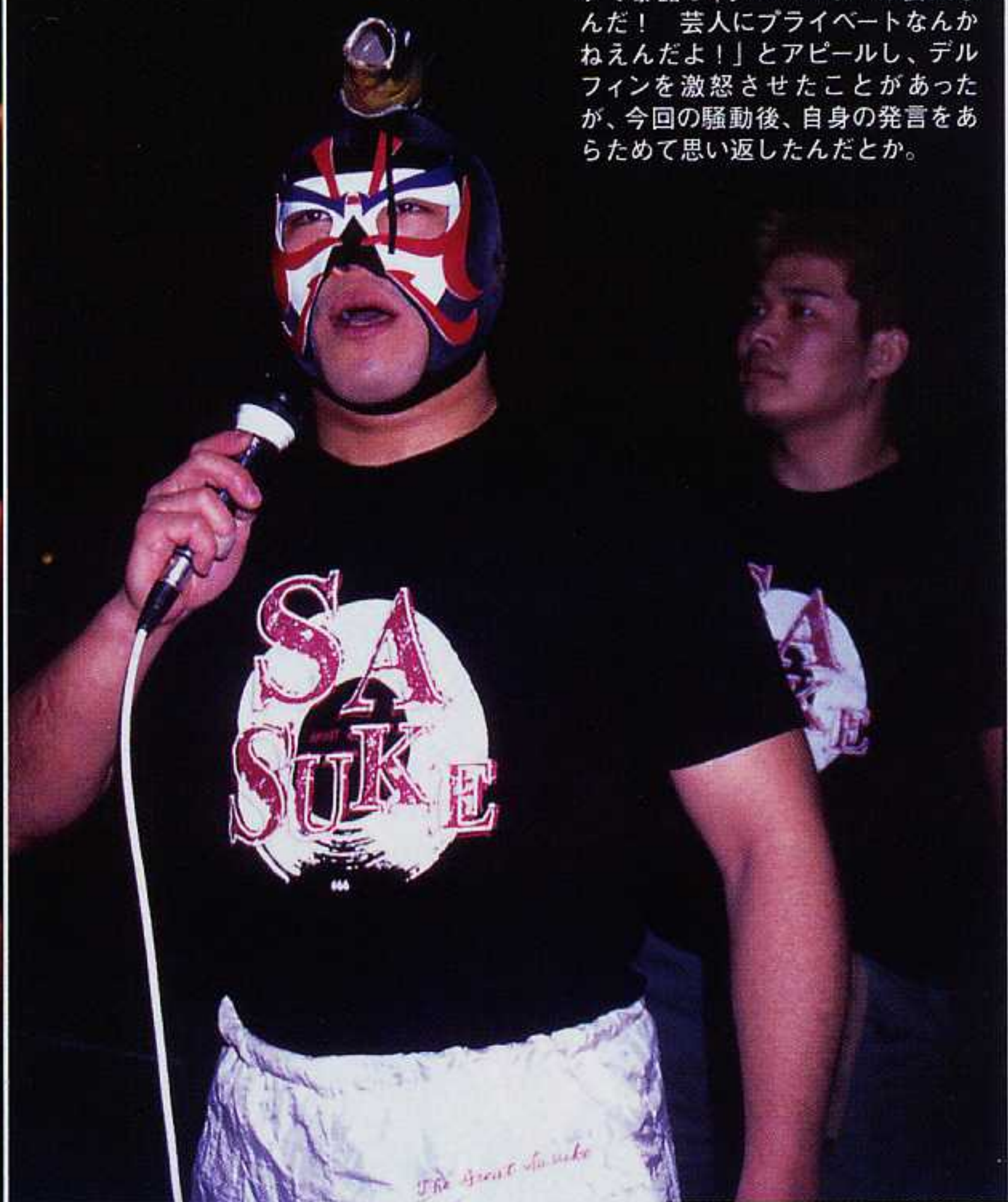
サスケ　そうそう。私はさらにカチンときてね。「『誰だ、アイツは』って言ったのは誰だ、コノヤロー！」って（笑）。そこからもう悪態つきまくりでね。もうホント頭きちゃって。

——もちろん、覆面姿でですよね？

サスケ　そうですよ。それで「まあまあ、サスケさん落ち着いてください」って来た人がちょうど取り調べも担当した刑事の人でね。「とにかく上に行きましょう」と、いわゆる取調室に向かったわけです。

——いよいよ、取り調べが始まった、と。

取り調べ担当の刑事は嵐さんの担当もしてた人だったんですよ

サスケといえば、かつて因縁深いデルフィンのプライベート情報をマイクで暴露し「プロレスラーは芸人なんだ！　芸人にプライベートなんかねえんだよ！」とアピールし、デルフィンを激怒させたことがあったが、今回の騒動後、自身の発言をあらためて思い返したんだとか。

サスケ　で、その取り調べ担当の刑事が、「じつは私、プロレスが好きで、しかもプロレスとは縁があって、こないだも嵐さんの取り調べを担当したんですよ」と（笑）。

——それはまた奇遇ですね（笑）。

サスケ　「あのときは武藤社長にだいぶお手数をかけたんですけど、武藤さんのサインがほしかったぐらいで」みたいな刑事でね。こういういい人もいるんだって心の中で思いながらも、でも私はその時点では対警察モードになっちゃってるんで、とにかくもう「だからなんだよ！」って感じで悪態つきまくりで。で、「名前はなんていうんですか？」って言われたから、「見てのとおり、ザ・グレート・サスケ以外の何者でもない」と。

——それは報道もされてましたけど、本名は名乗らずサスケで通したみたいですね。

サスケ　そうそう。べつにね、私は本名を隠してるわけでもないですしね。インターネットでもプロレス名鑑でも全部出てるんで。だけどもなんちゅうか、ホントに対決モードになっちゃってるんで。

——そこはプロレスラー、ザ・グレート・サスケvs国家権力のゴングが鳴っているわけですよね。

サスケ　そうそうそう！　自分の中ではそういうモードになっちゃってるの、もう。こうなったらとことん闘ってやろうって感じで。で、何人かの警官が隣の取調室とこっちの取調室を行ったり来たりして双方の事情を聞きながらっていう流れの中でね、「サスケさん、胸ぐらはつかんだんですか？」って言うわけですよ。私はそういう部分では嘘はつきたくない人間なんで、「ああ、つかんだよ」って言ったんですよ。そしたら「はいっ！　現行犯逮捕！」。ストライク、バッターアウトじゃないんだからね。

——ズバリ、アウトだったと。

サスケ　「現行犯逮捕って、おまえら見てねえじゃねえか」って思いながらも、「胸ぐらつかんだだけでも暴行です！」って言われてね。まあ、そう言われればそうだなと思ってね。こうなったらちょっと私も分が悪くなったなと思ってね（笑）。で、この状況を引っくり返すのは、あのロス疑惑の弘中弁護士しかいないだろうと思ってね。「もう弁護士を通さなきゃ俺はしゃべんねえぞ」って頑なに拒否したわけです。

——取り調べのときはマスクは外されたんですよね？

サスケ　ううん、全然取らなかったよ。逆にね、やっぱり取り調べ担当の刑事さんもプロレスファンだっていうのもあるし、部課長さんクラスもそのへんは尊重してくれたっていうか。ザ・グレート・サスケっていうものを尊重してくれましたよね。ただ、私もちょっと心配になったのは「これマスコミにバレないよね？」って若干弱気になって。

——翌日の昼に所属事務所の荒井社長が面会に来たみたいですけど、そのときも「内緒にしてくれ」とお願いしたみたいですけど。

サスケ　そうそう（笑）。「今回の件は内緒にしてもらえませんか？」って言ったら「何言ってんだ、バカ！　もうとっくに報道されてるよ」「え

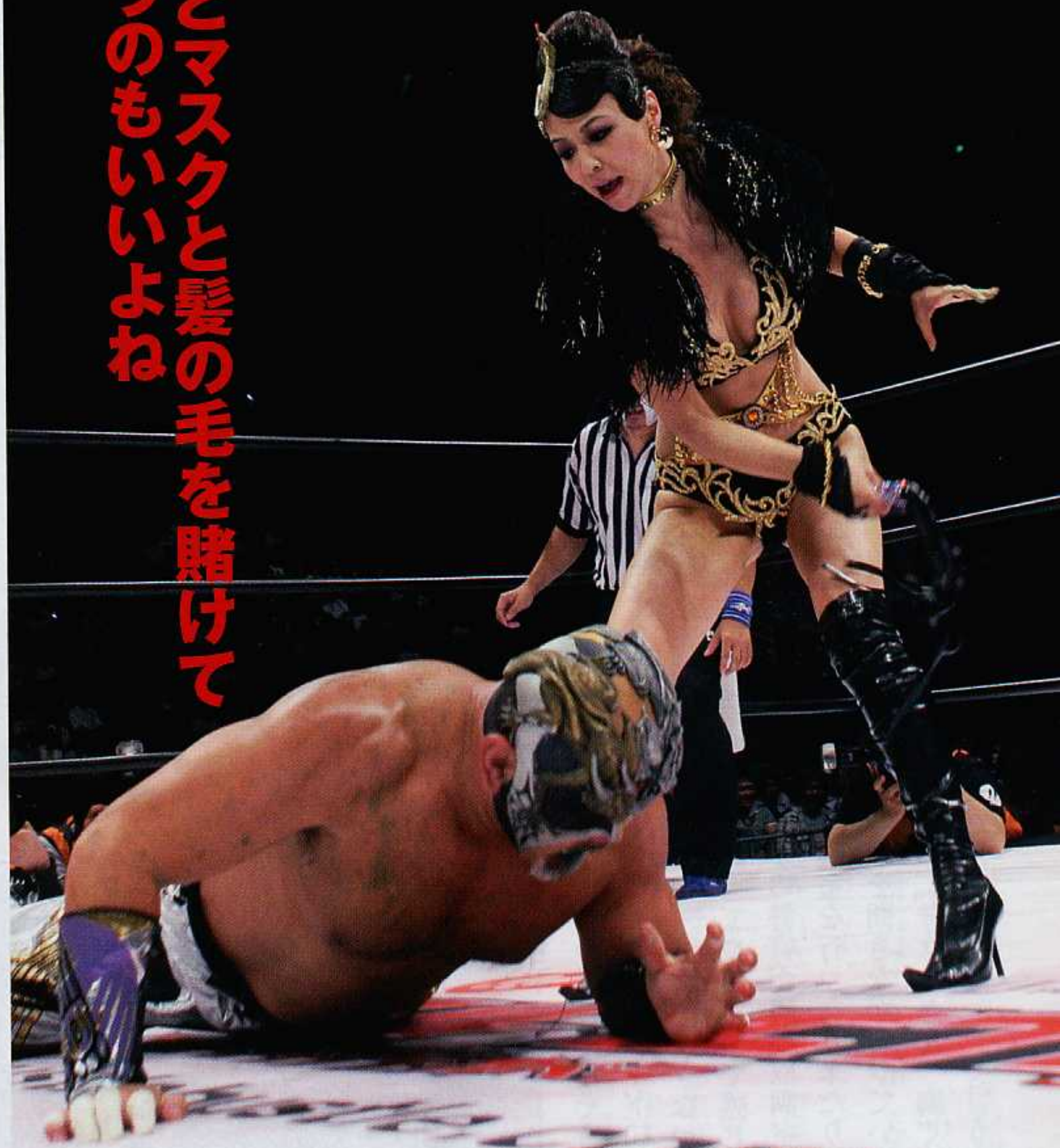
2月21日（土）
午前中に東京地検に身柄を送られたサスケだったが13時すぎ、処分保留で南千住署にUターン。その後、釈放されたサスケは所属事務所のアルファ・ジャパンプロモーションの荒井英夫社長とともに集まった報道陣に対し事情説明。サスケは「倫理観が暴走してしまった。被害者の方に直接会って謝罪したい」と深々と頭を下げた。

2月24日（火）
サスケが所属するみちのくプロレスの新崎人生社長が、サスケのみちプロへの参戦に関して、しばらくのあいだ出場を自粛する旨の発表を行なう。

3月7日（土）
サスケはミステル・カカオ主催の『覆面MANIA』新木場1stRING大会でプロレス復帰。試合後、因縁深い藤田ミノルにサスケだましを食らいダウンさせられると無断でケータイカメラで撮影されまくり。その後、観客にあらためて謝罪したサスケは「皆さんがいるかぎり、覆面マニアは永遠に不滅です！」と得意の決めゼリフで大会を締めると、バックステージでは「マスコミの皆さんも、これからはうしろから前から斜めからバンバン撮ってもらってかまいません。そして撮った写真はインターネット等でドンドン流出させてください！」とアピール。

3月14日の地元・岩手の矢巾町大会ではファンへ向けて謝罪の挨拶を行なったサスケ。この号の発売時には本格復帰となっているのか？　今後の動向にも注目！

©アルファ・ジャパンプロモーション

釈放後、サスケが公の場に登場したのは3月3日、旧知の間柄の高須基仁氏が主催する新宿ロフトプラスワンでの『熟女クイーンコンテスト』なるエロイベントだった。やくみつる氏らとともに審査員を務めたサスケは観客からのカメラ攻勢にも笑顔でピースサイン！

インリン様とマスクと髪の毛を賭けてやるっていうのもいいよね

今回のサスケ逮捕騒動の直前に報じられたのがインリンと『ハッスル』の未払い騒動。サスケの『ハッスル』参戦時には直接的な絡みはなかった二人だが、サスケの希望どおり、『ハッスル』でマスクと髪の毛を賭けて対戦なんてことになったら話題性抜群のスキャンダルマッチとなるが、はたして、やれんのか!?

ぇ〜っ！」なんてね、マンガみたいなやり取りがあって（笑）。

——外の状況はまったくわからないわけですからね。

サスケ　そうなんですよ。取り調べを受けてるときにも刑事さんに「これバレないよね？」って聞いたら「大丈夫です。絶対に我々はこの事件をマスコミにリークすることはありません！」なんて言うわけですよ。「わかった。じゃあ明日からは取り調べはちゃんと真面目に答えるよ」って、私も少しずつ歩み寄りながら協力したんだけどね。で、なんでこんなに情報が広がったかというと、結局、私が逮捕された情報っていうのが警視庁に提出されるわけです。

——まあ、当然そうなりますよね。

サスケ　で、警視庁に上がるときに、紙には「氏名（ザ・グレート・サスケ）」って書かれてるわけですよ。私が本名は黙秘したもんだから。だから、警視庁に張りついてる記者クラブの連中にしてみれば、逆にすぐわかっちゃったんでしょうね。「エッ、サスケが捕まったのか！」って。

——本名だったら気づかれなかったかもしれないわけですね。

サスケ　そうだね。それが大々的に報道された原因なのかなって。

——ちなみに電車の中で被ってた覆面っていうのはSASUKEのマスクではなかったんですか？

サスケ　違う違う（笑）。それだったらおもしろいけど、ネタじゃないんだから！

——失礼しました（笑）。

サスケ　まあ、なんちゅうか……警察にケンカを売ってしまったっていうのが大部分の真相ですよね、要は。彼らを怒らせてしまった、と。彼らにしてみれば、「クソ、こうなったら何がなんでもサスケを逮捕しちゃえ」というような感じになったんだと思いますよ。……まあ、南千住署の人たちとは最後にはうち解けて仲よくなっちゃってね。「サスケさん、また政界に立ってくださいよ」なんて言われて、「いやいや、もはや前科者の私なんか誰も支持してくれませんよ」って応えたら、「前科持ちの政治家なんかたくさんいますよ」なんて妙な励ましを受けちゃってね。

——どんなやり取りをしてるんですか！（笑）。留置所の中では自殺を考えたなんて報道もありましたけど、それは本当なんですか？

サスケ　いや、それも本当なんです。

——えっ、それこそネタだと思ってたんですけど。

サスケ　結局ね、荒井社長に「もうとっくに報道されてるよ」っていうのを聞いて、やっぱりショックで。これはもしかしたら、もうお天道様の下を歩けないんじゃないかなっていうぐらいの気持ちになっちゃって。ハメられたとまではいかないけども、だまされたっていう思いもあったし、いろいろと考えてねぇ……。

——そうですか。初の留置所はいかがでした？

サスケ　トレイがあるくらいで、とにかく何もない部屋でね。ただ、読書だけは許されるんですよ。

——どんな本が読めるんですか。

サスケ　いや、本棚に何冊か本があって、そこから選べるかたちになってるんだけど、あんまりおもしろい本はなくて。ただ、なぜか『キン肉マン』が全巻揃ってたんだよね（笑）。

——留置所に『キン肉マン』全巻揃い！（笑）。

サスケ　「いったい何をさせたいんだ？」っていう（笑）。こうなったらもう一回1巻から読んでやろうかと思ったけどね。牛丼一筋何十年のあの時代から読んでみようかなと思いつつもね、マンガ喫茶じゃねえんだからと冷静に思ったり。

——ちょっと違いますよね（笑）。

サスケ　一方では『別冊実話ナックルズ・極道の裏稼業』なんて本があって、「ここはどこなんだ？」って思いながらも、こうなったら俺も裏稼業に行くのかな、なんて丹念に読んじゃったりしてね。まあ、いろんなこと考えさせられましたよ。そんな中で思いを馳せたのは、やっぱり三浦（和義）さんのことで。

——三浦さんとは所属事務所が一緒で交流もありましたからね。

サスケ　そうそう。三浦さんの最後はやっぱり予期せぬ逮捕で、のちに首を吊ったっていうのも、同じような状況になったら、衝動的にそうなるのかなと思ってね。私もさっき言ったように、マスコミに報道されて、もう表を歩けないんじゃないかって思ったときに、ここで私の人生終わらせるのも一つの手かな、なんてね。一瞬衝動的に思ったんですよ。

——そうだったんですか……。三浦さんの死に関してはサスケさんは個人的な見解としてアメリカが殺したと言ってましたよね。

サスケ　うん。他殺だと思いつつも、そのときは三浦さんは自殺でもおかしくないなという感じを初めて持ちましたね。やっぱり、人の気持ちっていうのは、その人と同じ状況になってみないとホントにわからないっていうことを痛感しました。そういうのも含めて、非常に考えさせられた48時間でしたね。

——結局、処分保留ということで釈放されたわけですが、訴えられた方はまだ納得いかないと思っている部分もあるんですかね？

サスケ　いや、もう終わってるんで

す。処分保留っていうのは、それ以
んどん流してください。おおいにや
で、あらためて原点に戻りましたね。
サスケ　そうなると、やはり、いま
を越えてバーン・ガニアなんかも呼

これからは前からうしろから斜めからバンバン撮ってください!!

す。処分保留っていうのは、それ以前の問題って意味らしいです。事件にするまでもないので処分保留ってことで。だから、事件は終わったんです。もう自由の身なんです。

──それは何よりです。ただ、冒頭でインリン様の話もされてましたけど、同じぐらいの時期にノアの日本テレビでの放映終了が正式発表されたり、あんまりよろしくないプロレスの話題が続いてるんですよね。

サスケ 暴露本かなんかもあったんですって？

──あ〜、別冊宝島から出た『プロレス下流地帯』って本ですね。

サスケ そんな暗い話題が続く中、さらに輪をかけてマイナス行為をやってしまったのかなって。そういった意味でプロレス業界に対する申し訳ない気持ちっていうのはもの凄くありますね。

──そんな中、蒸し返すつもりはないんですけども、サスケさんは昔、「プロレスラーにプライベートなんてねえんだよ！」と言ってたこともありましたよね。

サスケ そうなんですよ！ 確かに私はそう言った。今回考える時間がいっぱいあったんで、そこに立ち返ったんですよ。「俺、自分でそんなこと言ってたじゃないか」って。だからこそ、これから私は変わります！

──どう変わるんですか？

サスケ いろんなところで言ってますけど、これからはおおいに撮ってください、と。携帯電話のカメラでも、どんなカメラでもかまいません。どうぞ待受画面にでもなんでも使ってください。インターネットにもどんどん流してください。おおいにやってください。むしろ私はVサインしますよ。これは勝利のVじゃない、平和のピースのサインだ、と。byジョン・レノン、みたいなね。ガハハハハハ！

──そこでジョン・レノンですか（笑）。

サスケ ジョン・レノンの心境はよくわかんないですけど（笑）、むしろ率先して「おう、撮ってくれ！」って言うのがサスケだったじゃないか、と。原点を忘れて、ある意味天狗になってたんだな、と。ひさびさに天狗の鼻を折られたなという気持ちで、あらためて原点に戻りましたね。

──そうですか。今回の報道であらためて、驚いた人も多いと思うんですけど、電車とかでもちゃんとマスクを被っているのが凄いな、と。ある意味、プロ意識が高いというか。

サスケ だからここ数年、そのジレンマに私もどうしたらいいかわかんない部分があったんですよね。じゃあこっそり脱ぎゃいいじゃないかって自分にツッコんでみたり、一方では24時間サスケでいるって言い張った以上は被り続けなきゃならないとも思ったりして……。

──いろいろと葛藤があるわけですね。

サスケ そうなんです。ただ今後に関しては、もう二つに一つだと思うんですよ。一つはとにかく早期に覆面を脱ぐことを前提とした試合、いわゆるマスカラ・コントラ・マスカラをやる、と。もう面倒くさいから脱いじゃおう、と。

──ちなみに相手は誰か考えてるんですか？

ざ・ぐれーと・さすけ■本名・非公表（※今回の逮捕で大々的に報道されたが……）。1969年7月18日、岩手県盛岡市出身。新日本プロレス学校を経て、90年3月にユニバーサル・プロレスでプロデビュー。現在はみちのくプロレスを中心に多方面で活躍中。180cm、88kg。
ザ・グレート・サスケブログアドレス→http://ameblo.jp/thegreatsasuke/

サスケ そうなると、やはり、いままで勝てなかった相手ということでドス・カラスしかいないんですよ！

──ドス・カラスとの対戦は何年も前から言い続けてますよね。

サスケ そうそう。やはりドス・カラスに負けるのなら、納得して脱げますからね。

──心のどこかで脱ぎたい願望も少なからずあるってことなんですか？

サスケ いや、それはないです。ただ世間を騒がせてしまっている事実を踏まえて、ぼちぼち潮時かなっていうのは感じてるんですよ。覆面レスラーの限界かな、と。

──以前は『ハッスル』でインリン様とマスカラ・コントラ・カベジェラをやったら東京ドーム大会も実現できたはず、なんて豪語してましたよね。

サスケ ホントにそうだよ！ 俺のぶん、ノーギャラでいいからやろう！ いや、ノーギャラというより、もし負けたら俺のギャラをインリン様に全部あげるから。

──なんでですか！（笑）。まあでも、そんなカードが実現したら世間を巻き込む非常にスキャンダラスな一戦になりますよね。

サスケ でもそれいいカードだよね？ 世間を賑わした二人、みたいな。

──いや、実現してほしいですよ！

サスケ 時は来たね。いよいよ着地点が見えてきたかな。グフフフフ。

──セコンドに金村キンタローさんとかもつけて。

サスケ いいねぇ、それはおもしろい！（笑）。こうなったらみんな来てもらおうか、嵐さんも剛竜馬も、海を越えてバーン・ガニアなんかも呼んでね（笑）。

──それはちょっとスキャンダラスすぎるような気が（笑）。

サスケ それが無理なら、あとはもう一つ！

──もう一つはどんなアイデアを？

サスケ 素顔とマスクをいかに使い分けるか。去年私が一番影響を受けた映画である『ダークナイト』、バットマンの世界ですよ。普段は大富豪……まあ私は大富豪じゃないけども、レアメタルやら何やらがそろそろ当たって大富豪になると思うんで。

──レアメタルで大富豪……。

サスケ 間違いないです。だから、そういう生き方もありかな、と。二つに一つ、どっちかでしょうね。

──どっちかですか……。では、今年の大晦日にでも、サスケvsインリン様戦を期待してます！

サスケ 私はいつでも受けて立ちますよ！ もう、こうなったら、このスキャンダルを逆に利用するしかない。それがプロレスですよ！ すべてのマイナスをプラスに転じさせなきゃいけない。……だから犯罪者サスケも使ってくれ、と（笑）。

──『ハッスル』をはじめ、各団体へのアピールですね。

サスケ そういうことです（笑）。最後に一つよろしいでしょうか？

──はい、なんでしょう？

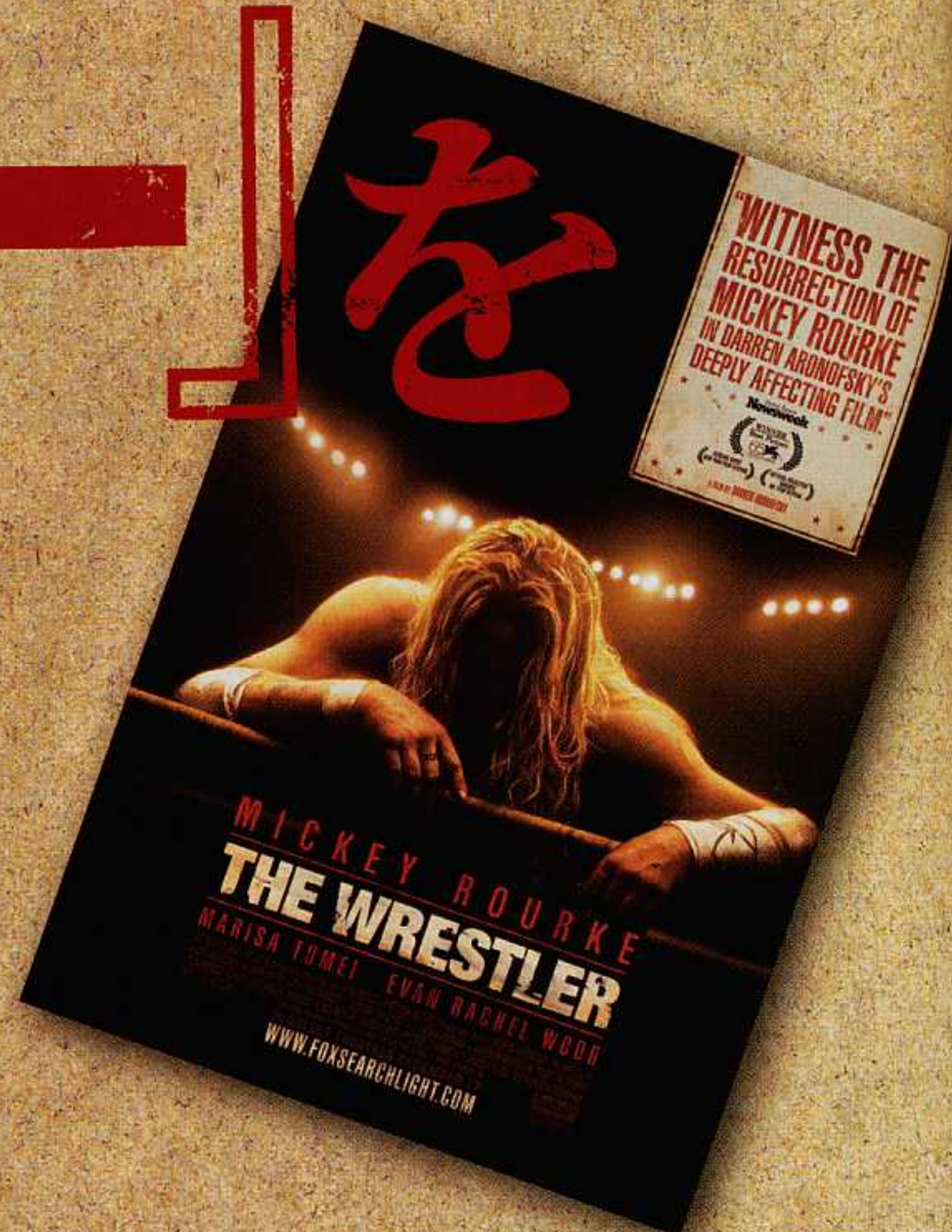
サスケ 『kamipro』読者の皆さん、今回の件に関してはお騒がせしました！ これからは、もう前からうしろから斜めからもバンバン撮ってください!!

【09年2月25日／都内・南千住のアジトにて収録】

アカデミー賞主演男優賞ノミネート!
“下流地帯”時代のプロレス映画最高傑作が日本上陸!!

映画『レスラー』を観た!!

究極のプロレス映画が09年初夏、ついに日本へ上陸する。そのタイトルは『レスラー』。
ミッキー・ローク主演でアカデミー賞主演男優賞にもノミネートされた超本格的作品だ。
カミングアウトを前提にレスラーの凄まじい生き様が活写されているこの映画、
初夏公開が待てない『kamipro』が一足先に先行特集ッ!

構成／真下義之　写真協力／P2

実在しそうなほどリアル……

壮絶で残酷で凄い映画です!!

元プロレスラー、現格闘家

船木誠勝

聞き手／ジャン斉藤

2009年初夏、プロレス映画史上の最高傑作がついに日本にやってくる！

08年のヴェネチア国際映画祭で金獅子賞を獲得し、主演のミッキー・ロークは全人生を投影したような迫真の演技で09年のアカデミー賞主演男優賞にノミネート！

そんな世界的評価を受けつつ、同時にプロレスの裏側もしっかり描いているこの映画はじつに現代的な作品でもあるが、いまやこうしたカミングアウト要素を組み入れた内容でなければ、もはやプロレスは世間に通用しなくなっているのかもしれない。

さらに、かつてスーパースターだった主人公が地方のインディー団体でドサ回りをし、アルバイトをしながら食いつなぐ様子がドキュメントタッチで描かれている様は現代のプロレス不況時代においてあまりにリアル。だが、そこまで描ききったことでプロレスという職業の壮絶さも浮き彫りになっている。

いままで、日本でも近い内容のプロレスドキュメンタリー映画が単館上映はされたものの、本作は09年初夏に全国ロードショー展開される。

そんなプロレス映画の金字塔を、今回は元プロレスラーで俳優活動も行なうなど、映画にも造詣が深い船木誠勝に先行試写を観てもらい、映画終了後に感想を直撃した！

――今日は、元プロレスラーであり、俳優経験もある船木さんに映画『レスラー』を観ていただきました。

船木　いやぁ……リアルでしたね。

――まずは一言「リアル」ですか（笑）。

船木　ええ。これまでプロレスを題材にした映画はたくさんあったと思うんですけど、ここまで本格的な映画は初めてじゃないですか。

――おっしゃるとおりです！　つけ入るスキがないとはまさにこのことだなって。

船木　ミッキー・ローク主演なので「シリアスな感じだろう」とは思ったんですが、凄くドキュメントっぽいし。ホントにこういうレスラーがいて、その人の人生を見たような感覚というか。

――演技をしている感じはなかったですね。

船木　ホントにこういうレスラーっていますから（笑）。ビックリしたのは、呼吸の息づかいとかまでリアルでしたし。

――普段の生活から、なんだか息苦

しそうでしたね。

船木　僕も『力道山』って映画に出て

くなるというか。普通の仕事はちょ

船木　実際、プロレスを辞めて普通

ロレスの試合後に心臓発作で死にそ

しそうでしたね。

船木　だから「こういうガイジンレスラーいたなぁ。懐かしいなぁ」って（笑）。ミッキー・ロークは身体もホントにちゃんと作ってるんで、自然とああいう息づかいになっちゃったんでしょうね。

——そこも含めてリアルだった、と。

船木　僕も『力道山』って映画に出てますけど、どうしてもプロレスラーの生き様を描くとハチャメチャになっちゃうんです。でもこの映画は、プロレスラーっていう職業の残酷な面まで描いてましたよね。人気商売って全部一緒だと思うんですけど、いったんその世界に入ると抜け出せなくなるというか。普通の仕事はちょっと難しくなっちゃいますよね。

——よく「リングは麻薬」と言いますけど、この映画の主人公はかつてスーパースターで、いまはプロレスだけで食えなくてスーパーで働いている。どうしてもプロレスの成功体験から抜け出せないという設定で。

船木　実際、プロレスを辞めて普通に働いてる人は自分を殺して仕事をしている部分もあると思いますし。そのタガが外れると暴走してしまいますよね。そういう精神的な部分まで踏み込んでいたから、「凄い映画だな」って。

——元プロレスラーの方にはリアルすぎてツラいかもしれないですね。

船木　プロレスって長くやればやるほど、この映画みたいになっていくと思うんです。「どこで一線を引くのか？」と考える人と、「俺はこの映画のようにはならない」とずっと続ける人と二つに一つだと思いますね。ただ、この主人公は一度は頂点に立ったからこそ人生がこうならざるをえなかったのかな、と。

——過去の栄光にしがみつくように生きてしまう。元スーパースターが落ちぶれて、地方の団体でドサ回りしてる設定ですから。

船木　そこまで行かなかった人は、もっとラクに違う職業に就けると思いますね。

——ただ、90年代後半までは日本やアメリカでもプロレスは華やかなイメージがあったじゃないですか。これからはこの映画みたいに、「小さい体育館で、身体を削る職業というイメージが定着していくんじゃないか？」と思ってゾッとしたんですよ。

船木　あ、ゾッとしましたか（笑）。

——内容を楽しみながらも（苦笑）。世間のプロレスラーのイメージっていうと、リングで身体を痛めつけて普段はアルバイトしながら……みたいになっていくんじゃないかなって。

船木　ただですね。この主人公はプロレスの試合後に心臓発作で死にそうになりますけど、あきらかにクスリの打ちすぎですよ！　そこが一番危ないと思います。「そこまでやらなければいけないほどハードなのか？」っていうとそうでもない部分もありますし。おそらく「頂点のときの感覚や体型を維持したい」からクスリを使ってるんでしょうけど。命を縮める要因になりますから（真剣な表情で）。

——まるで実在の人物を語られているようですね（笑）。

船木　ハハハハハ！　そのぐらい実在しそうですし、身体つきがちょっとたるんでるのもリアルだし（笑）。こういうレスラーってアメリカに行けばいっぱいいますよ。頂点から落ちて、孤独で、リングにも上がれない選手はたくさんいると思うんです。この主人公はリングに上がれて声援をもらってますから、まだいいほうじゃないかなって。

——ただ、プロレスラーの魅力を裏舞台まで含めて、ここまであけっぴろげに描くのなんて船木さんが新日本プロレスにいた当時は……。

船木　考えられないです（キッパリ）。やはり、いまの時代だからこそ作れた映画でしょう。

——あそこまで控室の様子が克明に描かれるのも、初めてでしょうし。

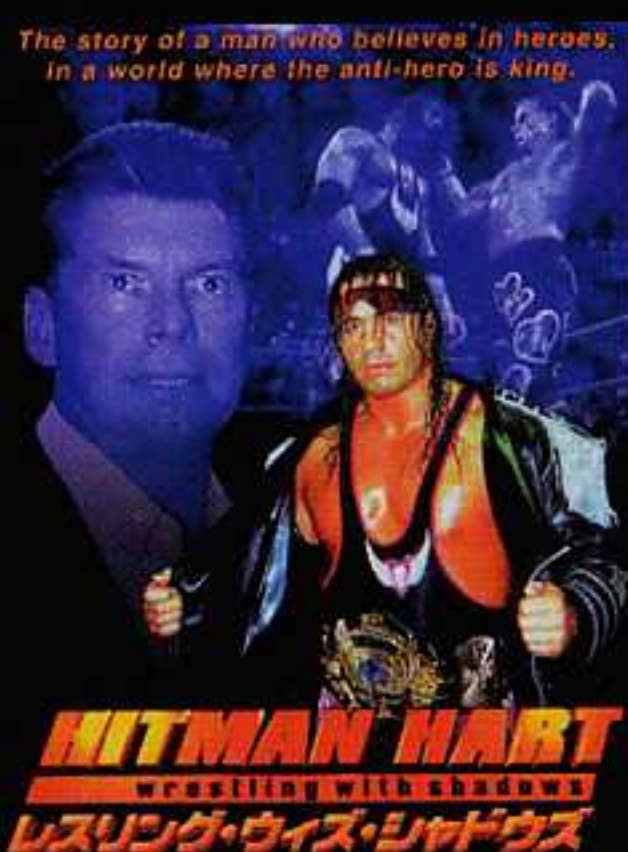
船木　ええ。WWE（当時WWF）のドキュメンタリー作品（『ビヨンド・ザ・マット』）とかはありましたけど。

——試合の打ち合わせ場面だったり、ああいうシーンをご覧になるとやはり複雑な気持ちになりますか？

船木　いや、自分は複雑な気持ちはないですね。「ああ、ここまで出すん

スーパーでバイトしながらドサ回りを続ける主人公を待ち受ける過酷な運命とは？　全プロレスファン必見な映画なのは間違いない！

「レスラー」がよくわかるプロレス映画

『ビヨンド・ザ・マット』
99年制作。プロレスの舞台裏を描いた傑作ドキュメンタリー。試合の打ち合わせ場面、ドラッグ中毒のレスラーなどが衝撃を与えた。

『レスリング・ウィズ・シャドウズ』
98年制作。WWF（現WWE）マットで、ブレット・ハートを襲った団体側の裏切りの実態をドキュメンタリーで描いた問題作。

『力道山』
04年制作。日韓共作の力道山の伝記的作品。在日朝鮮人としての苦悩も描かれた。船木は木村政彦がモデルの人物役で出演。

だな」とは思いますけど。……ホントは日本だとまだこういう映画は無理があると思うんですけど、こうして日本にきちゃってますから。ただ、プロレス界的に「どうなんだろう？」という気持ちはありますけど、「このぐらい肉体的にハードなことをやってますよ」ということは充分伝わりますよね。

――「こんなに壮絶な職業なのか？」とヒシヒシ伝わってきますから。

船木 でも、この映画を観ちゃったら、誰もプロレスラーになりたいとは思わないでしょうね。

――そうなんです！ ミッキー・ロークはメチャクチャ格好いいですけど、そこを含めてゾッとしてしまったんですよ。

船木 残念ながら職業として、夢の部分が描かれてないですから。

――ただ、ここまであけっぴろげにしたことで、逆に尊敬の念も生まれると思うんですけど。

船木 尊敬されるか、バカだと思われるか、どっちかでしょう。でも自分はバカを真剣にやっているところが「凄く格好いいな」と思いました。

――「格好悪いことは、なんて格好いいんだろう」って感じで。

船木 そう思う自分がバカなのかもしれないけど(笑)。ただ、一つのことをバカにされても信じてやることは重要なんじゃないかな、って。「何を言われてもやり遂げた人が死ぬ前に笑えるんじゃないかな」と。そこが人に感動を与えると思うんですよ。

――それこそ人気商売の肝というか。

船木 この映画はプロレスに限らず、人生そのものを考えさせられますよ。いつかはみんな仕事ができなくなるときがきますし、誰でも年はとりますから。人生の最後に「何を人生の宝物として息を引きとるか？」って問題を突きつけてるというか。

――主人公のように「リングを忘れられない」という意味で、船木さんもオーバーラップする部分は？

船木 だから、自分はもの凄く主人公の気持ちがわかりました。落ちぶれたダメなシーンも多かったけど、やっぱりプロレス会場で入場するシーンは凄く格好よく見えましたし(笑)。

JRの工事ですね その手伝いです

『DREAM.6』の煽りVで、「一時期は工事現場で働いていた」ことを告白した船木。実際は俳優の仕事の収入にバラつきがあるときのパートだったようで、逆に「労働の喜びを知った」というから立派だ。

――DREAMの煽りVでも、船木さんはリングを降りたあとに一時、工事現場で働いてたことを告白されましたけど、そういうときに悔しい思いはしました？

船木 いや、自分はリングに戻るつもりは一切なかったんで、「恥ずかしい」という気持ちはなかったですね。あえて言えば、ヒクソン(・グレイシー)に負けたことで一度リングとのつながりがブッと切れた、自分で切ってしまったというか。そこで引退という一線を引いたことで人生も変わりましたから。そのへんで映画と通じる部分はありましたけど。

――映画の主人公みたいにリングに未練があったわけじゃない、と。

船木 むしろ、『HERO'S』で柴田(勝頼)の総合デビューのときに現場に戻って、控室からリングから花道から全部選手と同じ行動をしたときにムラムラきた感じはありました。その前までそういう考えはなかったですし、まさか数カ月後に自分もリングに上がるとは思ってもみなかったです(笑)。ただ、プロレスや格闘技がやりたくても途中で辞めざるをえなかった人が普通の仕事をしてたら、絶対に悔しいとは思いますね。

――映画でもスーパーでアルバイトをしている主人公がスーパーの裏口を通るシーンで、会場の大歓声の幻聴が聴こえたりしますけど。

船木 自分は工事現場の仕事は一時しのぎというか、「この先に何かがあるだろう」と思って働いてましたから。だから、工事現場に入っていくときに頭の中で大歓声や入場テーマも鳴らなかったですし(笑)。でも元レスラーで鳴っている方はいっぱいいると思います。

――いるでしょうね……。

船木 今回はそういう痛い部分をあえて出してましたね。あと思ったのは、「人間の生き方ってそんなに格好よくない」ってことですね。格好よく見えるのは表に出てるときだけで、そうじゃない時間のほうが長いですし。普通の人の人生より、人気商売のほうがずっと悲惨だと思います。

――船木さんが新日本プロレスに入ったときは、そんなことまったく思わなかったでしょうね。

船木 自分が入門したときは、「これで人生がすべて変わる！」と思うほど希望の塊でしたから。だけど、毎日の厳しい練習や上下関係が続いて、ホントに楽しいと思えたのは海外遠征が決まった最後のシリーズとか、20代前半のUWFの頃に新しいものを作っていく過程は楽しかったというか。パンクラスになってからはつらい思い出しかないですから……。

――そういえば、映画の中でも「80年代は最高だけど、90年代は最低だった」ってセリフがありましたけど。

船木 まったくそのとおりですね(笑)。

――たとえば、プロレスが一人の人間だとすると、いまはかなりシブイ時期にきているじゃないですか。50代後半というか。

船木 ノアのテレビ中継がなくなるのも象徴的ですよね。

――大局的に見ると、力道山から始まったプロレスバブルが弾けてる時期で、その象徴がこの映画なのかもしれない。船木さんから見て、今後のプロレスというジャンルはどうなっていくと思いますか？

船木 なくなってほしくないですね。じつは「ノア中継がなくなる」と聞いて、自分も「どうしたらいいんだろう……？」って考えたんです。

――えっ？ 船木さんが真剣にプロレスの未来を？

船木 ええ。その結論としては、「全部ひっくるめちゃえばいいじゃないかな」と。もう、全部です！ 一つの固まりとして、力を結集させるしかない、と。それこそ猪木さんにも出てもらって。元レスラーも含めて、生きている全レスラーが結集すれば強いはずだし、生き残るきっかけになると思います。

――その中に船木さんは？

船木 もちろんそうなったら入りますよ！ でも、日テレの都合もあるんでしょうけどノアの件は残念ですね。そう考えるとこれから出てくる選手はつらいなって。自分なんかはまだバブルの時代も知ってますし。初代タイガーマスクが引退したタイミングで入門したんでホントに頂点だったんです。

――まさに黄金時代ですよね。

船木 ホテルや空港や駅、どこへ行っても歓迎されましたし。お店に入っても誰もがレスラーの顔を知ってますから。「ああいう体験ができてよかったな」と。あれこそゴールデンタイムの強さでしょう。

――選手もプロとしての立ち振る舞いが自然と身につくでしょうし。

船木 総合の世界も一緒ですね。自分や桜庭(和志)の年代はまだ世間に注目されてたんですけど、最近の選手はメディアに出るチャンスが減ってますから。

――そもそもいまの時代は、あえて自分をさらけ出そうとする選手がプロレスも格闘技も少ないですよね。

船木 自分からすると「かわいそうだな」って。さらけ出したほうがファンにのめり込んで見てもらえるじゃないですか。バカにされてもいいんです。逆にわかってくれる人は凄くわかってくれますから。

――いまはインターネットが発達し

ミッキー・ロークが全人生を投影した迫真の演技を見せる傑作『レスラー』。日本では初夏にシネマライズ、TOHOシネマズシャンテ、シネ・リーブル池袋ほかで全国ロードショー。

「人気商売は人生をさらけ出すしかない」という見本のような映画

て、若い選手は評判を気にしてしゃべらなくなる人が多くて。誤解をされるのを恐れすぎてるんですよね。

船木　べつに書かしときゃいいじゃないですかね？　そんなの気にしてたら人気商売なんてやっていけないですよ！（キッパリ）。そういう人は自分の人生でおもしろくないことがあるから、書くわけで。……でも、みんな最後は死にますから（サラリと）。

――ワハハハハ！

船木　生きてるうちにやりたいことをやればいいんじゃないですか？　隠してもいつかはどっかでバレますから、隠す必要はないと思いますね。そこも含めて人気商売だし。自分は、15歳から『東スポ』に密着されたりしてますから（笑）。

――15歳から『東スポ』密着（笑）。

船木　一度、表舞台に出たらもう隠れることはできないんですよ。だから自分も復帰してからは、最後まで人の目に触れて死んでいこうと思ってるんです。

――最後まで自分をさらけ出す、と。

船木　途中、「隠居して静かに」とも考えましたけど……無理だと思います。そういう場所に行ったら行ったで、誰かが見つけて必ずウワサが伝染しますから。自分はもうすぐ40歳ですし、少なくとも還暦までは隠れることはできないなって。

――そういう意味で、これは格闘家にも観てもらいたい映画ですね。

船木　ちっちゃくまとまっている選手が多いと思うんで、人生まるまるひっくるめてプロレスや格闘技をやる覚悟というか。そんな見本のような映画でしたね。あと、「自分がやってることを好きでいられるか」ってことですね。好きなことを仕事にできる喜びというか。その代わり負担もありますけど。ただ、ミッキー・ロークは「こんなにハマった役をやっちゃって、このあとどうするのかな？」と思いましたね。

――ミッキー・ロークはここ数年は仕事がなくて、映画のように落ちぶれて、今回で劇的に復活しましたけど、ここでピリオドを打つとちょうどいいですよね。

船木　これで身体を壊して死んだりしたら、ホントに伝説ですけど（笑）。ここからまた闘いが始まるわけですよ。次はもっと凄いことをやらないと評価されないんですから大変ですよ。でも、昔はこの人凄く格好よかったですけど、今回は凄い格好悪いとこがよかったですね。

――ミッキー・ロークの人生がむき出しになってますから。

船木　年をとるのは、格好悪いことですけど、そこで堂々としていられるかどうか。自分もミッキー・ロークに負けないよう、人生をさらけ出していきますよ（笑）。

【08年2月26日／都内・某喫茶店で収録】

ふなき・まさかつ■本名・優治（まさはる）。1969年3月13日、青森県出身。84年に新日本プロレス入門。15歳でデビュー。第二次UWF、藤原組を経て、93年にパンクラス旗揚げ。00年5月にヒクソンに敗れて引退するも、07年大晦日の桜庭戦で現役復帰。182センチ、90キロ。

ドン底から奇跡の復活!!『レッスルマニア25』にも参戦!?

ミッキー・ローク 数奇な人生

映画『レスラー』で見事に復活した、かつての人気スター、ミッキー・ローク。
そのプロレスラー顔負けの数奇な人生や運命、そして全米を巻き込んだWWE参戦問題に迫る!!

文／真下義之

プロレスラーの実態をリアルかつ現代的な視線から描いた映画『レスラー』。

もう一つの見どころは、アカデミー賞主演男優賞にノミネートされ、見事にカムバックした〝80年代の人気スター〟ミッキー・ロークの人生を剥き出しにした迫真の演技だろう。

83年にフランシス・コッポラ監督の『ランブルフィッシュ』でデビュー、映画『ナインハーフ』の大ヒットで80年代を代表するセクシー俳優として一時代を築いたミッキー・ローク。

だが、ワガママ三昧で、ハリウッドの問題児だったロークは、もともとボクサー志望だったことから、90年代に突如プロボクサーに転向！ これでハリウッドは完全に愛想をつかし、キャリアにケチがつき始めた。

92年6月に日本でも両国国技館でボクシングの試合を行ない、腰の引けた〝ネコパンチ〟と揶揄されたのは有名だが、結局ボクシングで大成できず、ボクサーを引退する頃には顔面も変形、整形を繰り返し、ハリウッドの評判もボロボロ。

映画評論家の町山智浩氏によると、「住むところもなくなり、5万円のアパートに住んでいた」ようで、「金がなくてロクなものが食べられないから、24時間営業のスーパーに夜中にこっそり行って顔を隠して買っていた」ほど、落ちぶれていたという。

まさにスターから転落した『レスラー』の主人公の生き様と異常なほどリンクするが、ここ数年は心機一転、真面目に俳優活動にとりくみ、今回はまさに起死回生の映画だった。

そんなロークは、『レスラー』が08年のヴェネツィア国際映画祭、金獅子賞を受賞したのを契機に再び世間の注目を浴び、かつての悪いクセが出たのか？ なんと今年4月5日に行なわれるWWEの『レッスルマニア25』参戦を宣言！ 全米メディアを巻き込む大騒動になった。

まず、1月25日の全米映画俳優組合賞の授賞式に登場した際、報道陣に「WWEから『出てほしい』と電話がかかってきて、俺も『やりたい』と答えた」とコメントし、対戦相手として日本でもおなじみのクリス・ジェリコを指名、リスペクトを表明しつつも「コンディションを整えて待ってろ！」とブチ上げた。

この報道を受け、クリス・ジェリコはCNNのトーク番組出演中のロークに「発言には気をつけたほうがいいぜ！」と生メッセージを発信。WWEの看板番組『RAW』でも「映画と本物のレスリングは、まったく違う！」と受けて立つ構えを見せた。

この展開、プロレスファンなら完全に「話はついている」と思うに違いない。また、プロレスの組み立てに定評のある〝職人〟ジェリコなら〝素人〟ロークとも名勝負をやってのけそうだし、ジャンルは違うものの「リングという麻薬」が忘れられないロークの参戦はじつに信憑性ある話。

また一部で、WWE社長のビンス・マクマホンは当初プロレスの内幕を描いたこの映画に関わることに難色を示したと言われてたが、アカデミー賞主演男優賞にノミネートされた話題性から方向転換したと言われている。もちろん大富豪のドラルド・トランプや、元ボクシング王者のフロイド・メイウェザーら超大物をリングに上げてきたWWEはこの種の仕掛けはお手のもの。だが、「アカデミー賞ノミネート俳優がリングに上がる」のは、前代未聞の大事件。「ロークの『レッスルマニア25』参戦は確定」とするニュースがさまざまな媒体でバンバン流れ始めた。

だが、1月28日には一転してロークの広報担当が「ロークは俳優業に専念し、『レッスルマニア25』には参加しない」と一連の報道を完全否定する声明を発表！

というのも、この時期はアカデミー会員によるアカデミー賞の投票期間の真っ最中。主演男優賞にノミネートされたロークサイドが「WWE参戦に話題が集中することで、賞レースの後退を恐れたのでは？」という危惧は当然だった。

残念ながら、アカデミー賞レースでは「大本命」と言われながら、映画『ミルク』のショーン・ペンに主演男優賞を奪われてしまったローク。

一部では、「アカデミー賞授賞式以降にロークがもう一度、『レッスルマニア25』参戦を表明するのでは？」という見方もあったが現在は、この流れは完全にペンディング状態となっている。

それでも、『レッスルマニア25』を控えたWWEでは、〝対戦相手候補〟ジェリコが、映画『レスラー』でロークのトレーニングに協力したロディ・パイパーやリック・フレアーをコキ下ろしたり、『レスラー』の原案に協力したジミー・スヌーカをボコボコにするなど、見ようによってはローク登場の伏線ともとれる行動を繰り返してはいるのだが……。

今年も8万人クラスの動員が予想されるテキサス州ヒューストン・リライアントスタジアムの『レッスルマニア25』。世界最大のプロレスイベントにミッキー・ロークは姿を現わすのか？

栄光からの転落、トレーラーハウスでの下流生活、実娘との不和など、痛い部分を容赦なく描いたこの映画は、ミッキー・ロークの実人生とリンクして破格の凄みを放っている。

祝・秋山成勲&SHIHO入籍!

kamipro PRESENTS

応募要項

ハガキに応募券を貼り、①～⑧の質問の答えをご明記の上、下記の宛先まで郵送してください。応募多数の場合はそれぞれ抽選で決定いたします。ただし、雑誌公正競争規約の定めにより、懸賞に当選された方は、この号の他の懸賞に当選できない場合がありますのでご了承ください。なお、当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます(商品は2009年4月24日(金)以降発送予定です)。

【質問事項】①郵便番号・住所・電話番号②氏名③年齢・職業④希望商品⑤おもしろかった記事&その理由⑥つまらなかった記事&その理由⑦秋山成勲と闘ってほしい選手は?⑧今後、読者プレゼントでほしい賞品は?

【宛先】〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス『kamipro』編集部
「ボクの愛情は伝わらない」係まで

※応募締切は2009年4月15日(水)当日消印有効

PRESENT*01

1名様

サイン入り

MANTO キャップ

[DEEP]

ポーランド生まれの格闘技ブランド「MANTO」。青木をサポートするこちらのブランドのキャップにサインを入りで!

PRESENT*02

1名様

MANTO Tシャツ

[DEEP]

こちらもMANTOのTシャツ。DEEPを協賛することになった同ブランドのTシャツです。サイズはSです。ヨーロッパらしくオシャレ!!

DEEP■http://www.deep2001.com/

PRESENT*03

2名様

BACK

DEEP×MANTOコラボTシャツ

[DEEP]

DEEPとMANTOのコラボTシャツを2名様にプレゼント。サイズはL or XLです。日本のものより大きめかもしれませんのであしからず。

PRESENT*04

1名様

MANTOウエストバッグ

[DEEP]

こちらはウエストバッグ。黒にワンポイントで入った闘ってる人たちのロゴがかっこいいですな。DEEPの会場などで買えます!

DEEP■http://www.deep2001.com/

PRESENT*05

1名様

単行本『ワールドプロレスリングの時代』

[朝日新聞出版/1,680円(税込)]

テレビ朝日『ワールドプロレスリング』元ディレクターの回想を元『週プロ』市瀬英俊氏がまとめた80年代秘話。

朝日新聞出版■http://publications.asahi.com/

PRESENT*06

1名様

BACK

DEEP CUT MESH CAP/LOGO(グリーン)

[リバーサル/6,090円(税込)]

ガッシリとした重厚な作りのメッシュCAP。サイズはFREE。このほかにもカラー展開(ブラック/ブラック×レッド)あり。リバーサルのサイトでチェック!

PRESENT*07

1名様

BACK

所英男KIDS Tシャツ イエロー

[リバーサル/3,150円(税込)]

"小さなヴォルク・ハン"所英男の原点回帰の意味を込めた「REBIRTH」の文字が入ったTシャツ。サイズは子ども用100cm。

PRESENT*08

1名様

BACK

所英男KIDS Tシャツ ピンク

[リバーサル/3,150円(税込)]

イエローと同じく「REBIRTH」の文字が入った"小さなヴォルク・ハン"所英男Tシャツ。サイズは子ども用で120cm。小さなお子さんにぜひ!!

リバーサル■http://www.rvddw.com/

PRESENT*09

1名様

BACK

KINNIKU MAN×rvddw "SUPER PHOENIX" Tシャツ

[リバーサル/5,040円(税込)]

キン肉マンとリバーサルのコラボTシャツ。これを着ればスーパーフェニックスに変身できる! 下のサイトで購入可能です。サイズはM。

PRESENT*10

1名様

BACK

KINNIKU MAN×rvddw "KINNIKU SUGURU" Tシャツ

[リバーサル/5,040円(税込)]

キン肉マンとリバーサルのコラボTシャツ。モノトーンで力強く描かれたキン肉マンがイカス! 別のカラー展開ではブラックもあり。サイズはM。

リバーサル■http://www.rvddw.com/

PRESENT*11

1名様

DVD『アイドリング!!! in 石垣島 ～アイドルっぽくないuRaの部分も見せちゃうング!!!～』

[ポニーキャニオン/5,040円(税込)]

いま最も旬なアイドルといえば……? アイドリング!!! in 石垣島のメイキングDVDです。絶賛発売中! ドッキリ企画などお楽しみ満載!!

ポニーキャニオン■http://www.ponycanyon.co.jp/idolingdvd/

kamipro133 応募券
私が私らしくいられる人

ちぎって持ってっちゃダメだぞ!!

こちらでも毎週プレゼント実施中!! http://kamipro.com/

kamipro 紙のプロレス
No.133
2009年4月6日 発行

発行人
浜村弘一
編集人
斉藤慎一
編集統括本部長
ジャン斉藤
編集スタッフ
坂井ノブ
堀江ガンツ
阿修羅チョロ
松下ミワ
真下義之
大川義之
スズキィ
八木賢太郎（カニ酢調達のため非番）
終身名誉バイザー
吉田 豪
助っ人
ジャイ子
能登"読者ペイジ"ジャクソン
編集次長（被害者の会）
松林 貴
デザイン大将
出田さん（TwoThree）
デザイン司令長官
金井ヒサくん（TwoThree）
デザイン
松坂マツくん
谷タニやん
廣田ブンちゃん
野口ノグッチー
白木みのる（以上、TwoThree）
トメさん
はなえちゃん（以上、さおとめの事務所）
カメラマン
乾 晋也
菊池茂夫
平工幸雄
山口比佐夫
吉場正和
平 専英
戸成嘉則
タイコウクニヨシ
梅木麗子
丸山剛史
お勘定
工藤ちゃん
業者メール
入江出会い系（TwoThree）
雑誌営業
堂前秀隆
中村宣忠
助っ人営業
上野宏樹
業務部
樽本"アドニスラブ"義之
編集庶務
原 正典
山内ユリコ
終身名誉編集庶務
高木由美子
編集チアガール
金川"水飲み"奈津子
宮沢美奈
編集チアマダム
廣橋"口水鶏"久美子
発行所
株式会社エンターブレイン
〒102-8431 東京都千代田区三番町6-1
☎0570-060-555（代表）
印刷
図書印刷株式会社
協力
BUSHIDO KOVOTOJO KELIAS
FightSport

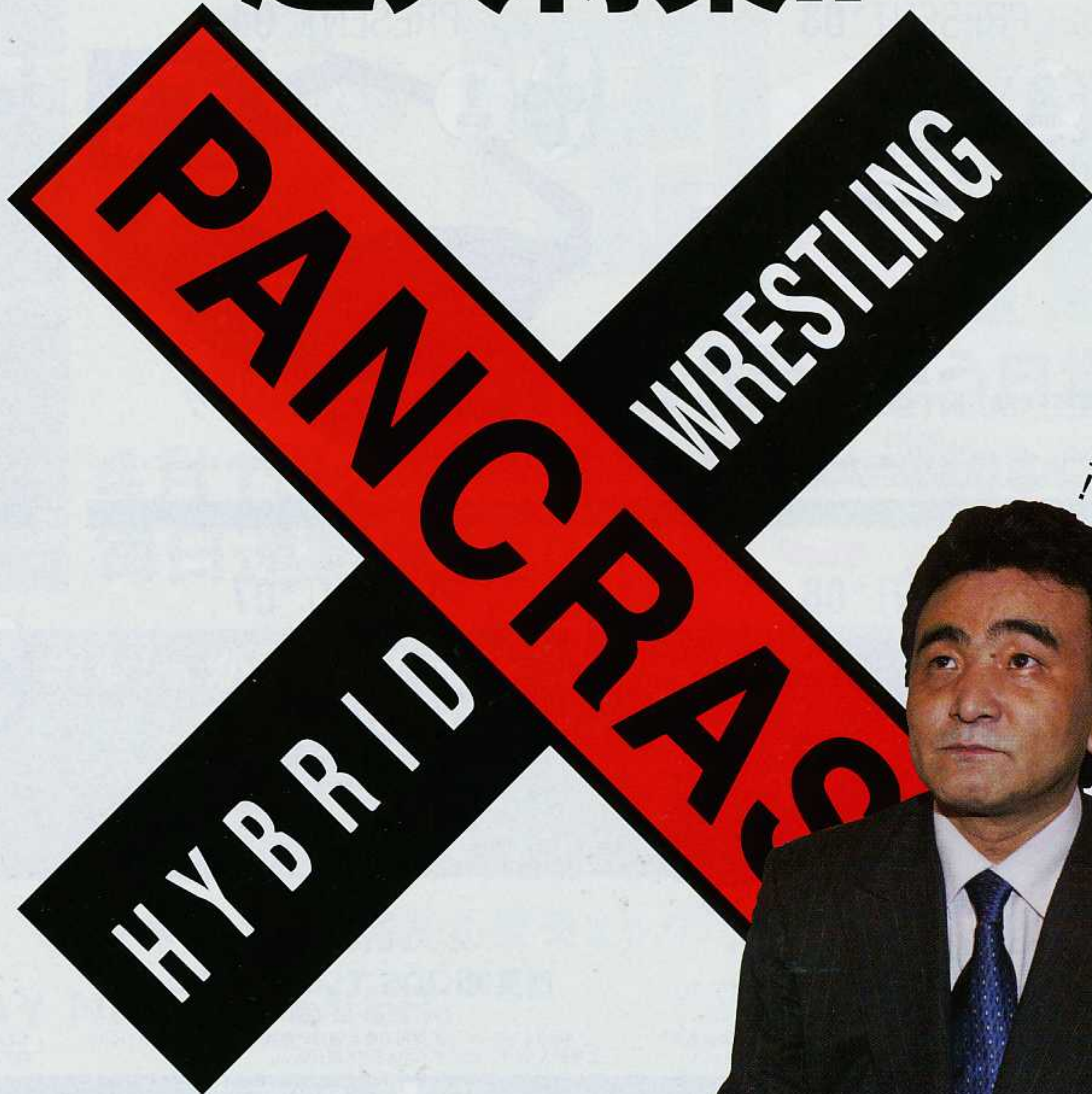
■広告掲載のお問い合わせは下記まで
株式会社エンターブレイン
スポーツ企画編集部 ☎03-3265-7166

本書の内容、不良品交換等についてのお問い合わせは下記の窓口までお願いいたします。なお、内容につきましては記載以上の詳細につきましてはお答えできませんので、あらかじめご了承ください。

［カスタマーサポート］
☎0570-060-555
（受付時間／土日祝祭日を除く 12:00〜17:00）
メールアドレス support@ml.enterbrain.co.jp

●個人情報の取り扱いについて
本書にお寄せいただいたハガキ、各種のお問い合わせに関連してご提供いただいた個人情報につきましては株式会社ダブルクロス、および株式会社エンターブレイン（URL: http://www.enterbrain.co.jp/）、それぞれのプライバシー・ポリシーの定めるところにより、取り扱わせていただきます。

衝撃!? Kamiproがあのパンクラスを超大特集!!

PANCRASE
HYBRID WRESTLING

尾崎社長も感無量!?

NEXT ISSUE

3.20『戦極』フェザー級GP開幕戦もリアルに速報!

kamipro Special 2009 MAYは3月31日（火）発売予定!

予価＝880円（本体838円＋税）

元パンクラスのミノワマンが柴田と激突!
ウェルター級GP開幕の4.5『DREAM.8』徹底詳報!!

No.134は4月22日（水）発売予定!

※地域によっては多少発売が遅れても、また明日生きるぞ!